



Acronis True Image Home 2011

ユーザーズ ガイド

Copyright © Acronis, Inc., 2000-2010. All rights reserved.

"Acronis"、"Acronis Compute with Confidence"、"Acronis Recovery Manager"、"Acronis Secure Zone"、Acronis Try&Decide、および Acronis のロゴは、Acronis, Inc の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態(紙媒体など)であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません(免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く)。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。 サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。 本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、<http://kb.acronis.com/content/7696> をご参照ください。

目次

1	はじめに.....	7
1.1	はじめに.....	7
1.1.1	Acronis® True Image Home 2011 とは.....	7
1.1.2	Acronis True Image Home 2011 Plus Pack とは.....	8
1.1.3	Acronis True Image Home 2011 の基本概念.....	8
1.1.4	Acronis True Image Home 2011 の新機能.....	12
1.1.5	システム要件とサポートされるメディア.....	13
1.1.6	サポートセンターのホームページ.....	15
1.1.7	試用版情報.....	15
1.2	Acronis True Image Home 2011 のインストールと起動.....	15
1.2.1	Acronis True Image Home 2011 のインストール.....	15
1.2.2	Acronis True Image Home 2011 の取り出し.....	16
1.2.3	Acronis True Image Home 2011 の実行.....	17
1.2.4	Acronis True Image Home 2011 のアップグレード.....	17
1.2.5	Acronis True Image Home 2011 の削除.....	18
1.3	Acronis True Image Home 2011 について.....	18
1.3.1	[ようこそ] 画面.....	18
1.3.2	メイン画面.....	22
1.3.3	[ツールとユーティリティ] 画面.....	26
1.3.4	ウィザードとタスク トレイのアイコン.....	26
1.3.5	Acronis バックアップ エクスプローラ.....	27
1.3.6	Windows 7 との統合.....	35
2	さまざまな処理.....	37
3	データのバックアップ.....	38
3.1	ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージの違い.....	38
3.2	完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ.....	39
3.3	パーティションとディスクのバックアップ.....	41
3.4	ファイルやフォルダのバックアップ.....	44
3.4.1	データ カテゴリ.....	45
3.4.2	zip 形式のサポート.....	46
3.5	電子メールのバックアップ.....	47
3.6	Acronis ノンストップ バックアップの使用.....	49
3.6.1	データの継続的な保護.....	50
3.6.2	システムの継続的な保護.....	51
3.6.3	Acronis ノンストップ バックアップのデータ ストレージ.....	53
3.7	バックアップの予備コピーの作成.....	54
3.8	バックアップの保存先の分散.....	55
3.9	既存のバックアップをリストに追加する.....	57
3.10	バックアップからの項目の除外.....	57
3.11	バックアップ オプション.....	59
3.11.1	バックアップ スキーム.....	60
3.11.2	イメージ作成モード.....	63
3.11.3	バックアップの保護.....	64

3.11.4	バックアップ処理前後に実行するコマンド	64
3.11.5	バックアップの分割	65
3.11.6	バックアップのベリファイ オプション	66
3.11.7	バックアップの予備コピー	66
3.11.8	リムーバブル メディアの設定	67
3.11.9	スクリーンショットの設定	68
3.11.10	エラー処理	68
3.11.11	コンピュータのシャットダウン	69
3.11.12	バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定	69
3.11.13	バックアップ処理のパフォーマンス	70
3.11.14	バックアップ処理の通知	71
3.12	バックアップのベリファイ	72
3.13	バックアップ バージョンの統合	73
3.13.1	アーカイブの統合保護	73
3.13.2	バックアップの選択	73
3.13.3	保存先	74
3.13.4	統合の概要	74
3.14	バックアップ設定のクローンの作成	74
4	データのリカバリ	76
4.1	クラッシュ後のシステムのリカバリ	76
4.1.1	クラッシュの原因を特定する	76
4.1.2	リカバリの準備	77
4.1.3	システムのリカバリ	77
4.2	パーティションとディスクのリカバリ	81
4.3	Acronis ノンストップ バックアップで保護されているパーティションのリカバリ	83
4.4	複数のパーティションを一度にリカバリする	84
4.5	レスキュー メディアを使ってディスク バックアップを異なるディスクへリカバリする	85
4.5.1	隠しパーティションを含まないディスクのリカバリ	86
4.5.2	隠しパーティションを含むディスクのリカバリ	87
4.6	ファイル レベルのバックアップからデータをリカバリする	89
4.7	ファイル バージョンのリカバリ	91
4.8	異なるハードウェアへのリカバリ	92
4.9	Acronis Universal Restore	96
4.9.1	Acronis Universal Restore の用途	96
4.9.2	Acronis Universal Restore の一般的な原理	97
4.10	Acronis スタートアップ リカバリ マネージャの使用方法	97
4.11	ダイナミック/GPT ディスクおよびボリュームのリカバリについて	98
4.12	[バックアップ保護] ダイアログボックス	100
4.13	BIOS での起動順の並び替え	100
4.14	リカバリ オプション	101
4.14.1	リカバリの前後に実行するコマンド	101
4.14.2	ベリファイ オプション	102
4.14.3	コンピュータの再起動	102
4.14.4	ファイル リカバリ オプション	102
4.14.5	ファイル上書きオプション	103
4.14.6	リカバリ処理のパフォーマンス	103

4.14.7	リカバリ処理の通知.....	104
5	使用領域.....	106
5.1	システムとデータの保護.....	106
5.2	バックアップの準備.....	109
5.2.1	バックアップの保存場所の決定.....	109
5.2.2	バックアップするデータの決定.....	111
5.2.3	バックアップの実行間隔の決定.....	112
5.3	ブータブル レスキュー メディアのテスト.....	113
5.3.1	レスキュー メディアからの起動時におけるビデオ モードの選択.....	114
5.4	バックアップのリカバリ テスト.....	116
5.5	安全なシステム変更の試行.....	117
5.5.1	Try&Decide とは.....	117
5.5.2	Try モードの開始.....	120
5.5.3	Try モードの停止.....	120
5.5.4	Try&Decide のオプションと通知.....	121
5.5.5	Try&Decide: 典型的な使用例.....	122
5.6	スケジュール設定.....	124
5.6.1	日単位の実行パラメータ.....	125
5.6.2	週単位の実行パラメータ.....	125
5.6.3	月単位の実行パラメータ.....	126
5.6.4	イベント発生時の実行パラメータ.....	126
5.7	バックアップとその内容の検索.....	126
5.7.1	検索.....	126
5.7.2	Windows Search と Google デスクトップの統合.....	128
5.8	ウィザードに表示する項目の選択.....	137
6	ツールとユーティリティ.....	138
6.1	Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ.....	139
6.1.1	動作.....	139
6.1.2	使用方法.....	139
6.2	ブータブル レスキュー メディアの作成.....	140
6.2.1	Acronis メディア ビルダ.....	140
6.2.2	Acronis True Image Home 2011 での BartPE ディスクの作成.....	145
6.2.3	WinPE ベースのレスキュー メディアの作成.....	148
6.3	Acronis セキュア ゾーン® の使用方法.....	151
6.3.1	Acronis セキュア ゾーン.....	152
6.3.2	Acronis セキュア ゾーンの場合.....	153
6.3.3	パーティションの選択.....	154
6.3.4	Acronis セキュア ゾーンのサイズ.....	155
6.3.5	Acronis セキュア ゾーンの管理.....	156
6.3.6	Acronis セキュア ゾーンの概要.....	158
6.4	ハードディスクのクローン作成.....	159
6.4.1	一般情報.....	159
6.4.2	セキュリティ.....	159
6.4.3	クローン作成モードの選択.....	160
6.4.4	ソース ディスクの選択.....	161
6.4.5	ターゲット ディスクの選択.....	162
6.4.6	移行方法.....	162

6.4.7	手動パーティション操作	163
6.4.8	クローン作成の概要	165
6.5	新しいハードディスクの追加	166
6.5.1	ハードディスクの選択	167
6.5.2	新しいパーティションの作成	167
6.5.3	新しいディスクの追加の概要	170
6.6	セキュリティとプライバシーのツール	171
6.6.1	Acronis DriveCleanser	171
6.6.2	ファイル シュレッダー	178
6.6.3	システムのクリーンアップ	180
6.6.4	ハードディスクの消去方法	186
6.7	イメージのマウント	188
6.8	イメージのアンマウント	191
6.9	vhd ファイルの使用方法	191
6.9.1	tib イメージと vhd 仮想ディスクの相互変換	192
6.9.2	Windows バックアップにより作成された vhd ファイルを使用したリカバリ	194
6.9.3	Windows 7 システム パーティションの TIB イメージからコンピュータを起動する	195
6.9.4	Acronis ブート シーケンス マネージャ	196
6.10	バックアップ設定のインポートとエクスポート	196
7	トラブルシューティング	198
7.1	一般的な推奨事項	198
7.2	Acronis システム レポート	199
7.3	Acronis スマート エラー レポート	199
7.4	カスタム レスキュー CD の作成	201
7.5	ログの表示	202
7.6	Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム	203
8	用語集	204

1 はじめに

1.1 はじめに

セクションの内容

Acronis® True Image Home 2011 とは.....	7
Acronis True Image Home 2011 Plus Pack とは.....	8
Acronis True Image Home 2011 の基本概念.....	8
Acronis True Image Home 2011 の新機能.....	12
システム要件とサポートされるメディア	13
サポートセンターのホームページ.....	15
試用版情報.....	15

1.1.1 Acronis® True Image Home 2011 とは

Acronis True Image Home 2011 は、コンピュータに保存されているすべての情報を安全に守るための統合ソフトウェア スイートです。オペレーティング システム、アプリケーション、設定、およびすべてのデータのバックアップや、不要になったあらゆる機密データを完全に消去することができます。このソフトウェアを使用すると、指定したファイルとフォルダ、Microsoft 電子メール クライアントの設定とメッセージ、さらにはハードディスク ドライブ全体や選択したパーティションをバックアップすることができます。Acronis ノンストップ バックアップはシステムとファイルの変更を 5 分ごとに継続して保存できるため、必要に応じて任意の時点まで容易にロールバックできます。

ディスク ドライブが破損したり、システムがウイルスやマルウェアによって攻撃された場合でも、迅速かつ簡単にバックアップ データをリカバリできるため、数時間または数日を費やしてディスク ドライブのデータおよびアプリケーションを最初から再構築する必要がなくなります。

Acronis True Image Home 2011 には、データの損失、重要なファイルまたはフォルダの誤削除、ハードディスク全体のクラッシュなどの障害や災害が発生した場合にコンピュータ システムをリカバリするのに必要なツールがすべて含まれています。障害や災害が発生して情報へのアクセスがブロックされたりシステムの処理が影響を受けている場合でも、簡単にシステムや消失したデータをリカバリできます。

Acronis True Image Home 2011 に実装されたアクロニス独自のテクノロジーによって、ディスクを、セクタ単位で正確にバックアップすることができます。このバックアップには、すべてのオペレーティング システム、アプリケーション、構成ファイル、個人設定、およびデータのバックアップが含まれます。

Acronis True Image Home 2011 は、ユーザーの個人情報保護にも役立ちます。通常、不要なデータを削除しても、コンピュータ上にその情報は残っています。Acronis True Image Home 2011 には、完全にファイルを破棄し、パーティションやディスク全体から個人情報を抹消する Acronis DriveCleanser、また Windows システムの使用履歴をすべて消去するシステム クリーンアップ ツールが統合されています。

ほとんどの PC ストレージ デバイスにバックアップを保存できます。

スケジュールされたバックアップが実行される際、Acronis True Image Home 2011 ではユーザーが設定したバックアップ スキームに従って、バックアップの種類(完全、増分、差分)が自動的に選択されます。

スケジュールされたバックアップが実行される際、Acronis True Image Home 2011 ではユーザーが設定したバックアップ スキームに従って、バックアップの種類(完全、増分、差分)が自動的に選択されます。

Windows スタイルのインターフェイスおよびウィザードであるため、操作が簡単です。簡単なステップをいくつか実行するだけで、あとはすべて Acronis True Image Home 2011 によって処理されます。システムに障害や災害が発生した場合は、ソフトウェアによりすぐにコンピュータを稼働できる状態に戻せます。

1.1.2 Acronis True Image Home 2011 Plus Pack とは

Acronis True Image Home 2011 Plus Pack は、Acronis True Image Home 2011 のアドオンです。別製品として販売され、ライセンスは別となっており、独自のセットアップ ファイルからインストールします。コンピュータに Acronis True Image Home 2011 をインストールしないと、Acronis True Image Home 2011 Plus Pack をインストールすることはできません。Acronis True Image Home 2011 Plus Pack をインストールすると、リカバリ中に使用される Acronis Universal Restore が追加されます。Acronis True Image Home 2011 Plus Pack では、Acronis WinPE ISO ビルダもインストールされ、ダイナミック/GPT ディスクがサポートされます。

Acronis True Image Home 2011 Plus Pack の機能の詳細を次に示します。

- **ダイナミック/GPT ディスクのサポート** - ダイナミック/GPT ディスクの処理が可能になり、Acronis True Image Home 2011 でサポートされるハード ドライブ構成の範囲がいちだんと広がりました。ダイナミック ディスクでは、ボリューム管理がより柔軟になり、複数のハードディスクを備えたコンピュータを使用する際に便利です。GUID パーティション テーブル(GPT)は、新しいハードディスク パーティション スキームで、今までの MBR パーティション スキームよりも優れています。これは、拡張可能ファームウェア インターフェイス(EFI)イニシアティブの一環として導入されました。
- Acronis True Image Home 2011 Plus Pack のユーザーは、Universal Restore 機能を使用できます。Acronis Universal Restore によって Windows オペレーティング システムのイメージを異なるハードウェア環境に復元できます。使用されているハードウェアに関係なく独立したコンピュータ上に情報を復元できます。たとえば、壊れたマザーボードを交換した後や、システムをデスクトップからラップトップに移行するときなどに役に立ちます。詳細については、「Acronis Universal Restore (96 ページ)」を参照してください。
- Acronis WinPE ISO ビルダ - WinPE 1.5、2.x、または 3.0 のいずれかのカーネルに基づいて、Acronis True Image Home 2011 プラグインが WinPE (Windows Preinstallation Environment) ディストリビューションに追加されます。PE 2.x および 3.0 イメージを作成または変更できるようにするには、Windows 自動インストール キット(AIK)がインストールされている必要があります。プレインストール環境では Windows ドライバが使用されているので、プレインストール環境で Acronis True Image Home 2011 を実行すると、コンピュータのハードウェアとの互換性が向上する場合があります。詳細については、「WinPE ベースのレスキュー メディアの作成 (148 ページ)」を参照してください。

1.1.3 Acronis True Image Home 2011 の基本概念

ここでは、プログラムの動作のしくみを理解するうえで役立つと思われる、基本的な概念について説明します。

バックアップとリカバリ

バックアップとは、元のデータが失われてもそのコピーからリカバリできるように、データのコピーを作成しておくことを指します。

バックアップの主な目的は 2 つあります。1 つは、障害または災害発生後に状態を復旧することで(「障害回復」という)、もう 1 つは、誤って削除されたか破損した少数のファイルをリカバリすることです。

Acronis True Image Home 2011 は、この最初の目的を達成するために、ディスク(またはパーティション)イメージの作成機能を備え、第 2 の目的のために、ファイル レベル バックアップ作成機能を備えています。

デフォルトでは、Acronis True Image Home 2011 によって保存されるのは、ハードディスクの、(サポート対象のファイル システムの)データが格納されている部分のイメージだけです。ただし、ハードディスクの全セクタのイメージを保存するオプション(セクタ単位のバックアップ)を選択することも可能です。ファイルおよびフォルダをバックアップする場合、データのみがフォルダ ツリーと共に圧縮され、保存されます。必要に応じて、システム ディスクの状態と個々のファイルの両方をリカバリできます。

バックアップ バージョン

バックアップ バージョンは、それぞれのバックアップ処理中に作成された単独または複数のファイルです。統合機能を使用しない場合、作成されるバージョンの数は、バックアップが実行された回数、または保存が実行された時点の数と常に同じになります。

つまり、バージョンはそれぞれ特定の時点を表しており、その時点の状態にシステムやデータをリカバリすることができます。言い換えれば、バックアップ バージョンは、完全バックアップ、増分バックアップ、および差分バックアップを表しています。「完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ (39 ページ)」を参照してください。

バックアップ バージョンは、ファイル バージョンと似ています。ファイル バージョンという考えは、「以前のバージョンのファイル」と呼ばれている Windows Vista や Windows 7 の機能を使用しているユーザーにはよく知られています。この機能を使用すると、ファイルを特定の日時における状態に復元できます。バックアップ バージョンを使用すると、同様の方法でデータをリカバリできます。

バックアップ バージョンは、破損したり削除されたりしたファイルを見つけようとする場合に便利です。目的のファイルが格納されたバックアップ バージョンが見つかるまで Acronis バックアップ エクスプローラ内の各バックアップ バージョンを参照するだけです。さらに、発見されたファイルの異なる保存済みバージョンをリカバリすることもできます。

ディスクのクローン作成

これは、1 つのディスク ドライブの内容全体を別のハードディスク ドライブに移行/コピーする処理です。たとえば、大容量のディスクを取り付ける場合などに、この機能が必要となる場合があります。この機能を使用すると、同じファイル構造を持つ 2 つのまったく同じドライブが作成されます。「ディスクのクローン作成」ツールを実行すると、1 つのハードディスク ドライブのすべての内容が別のハードディスク ドライブにコピーされます。この処理を利用すると、ハードディスク ドライブの内容が、オペレーティング システムやインストール済みプログラムも含めてすべて別のドライブに転送されるので、すべてのソフトウェアを再インストールして再設定する必要はなくなります。

クローン作成機能を使用するのが最も適している場面は、コンピュータの既存のドライブを取り外して、代わりに新しいドライブを取り付けるときです。新しいドライブの接続方法は、古いドライブと同一でなければなりません。

Acronis True Image Home 2011 では、特定のパーティションのみのクローン作成はできません。クローンを作成できるのは、ドライブ全体のみです。

ハードディスク ドライブの情報をすべて別のドライブに転送するには、他にも、古いハードディスク全体をバックアップしてから、そのバックアップを新しいディスクにリカバリするという方法があります。

スナップショット

Acronis True Image Home 2011 では「スナップショット」テクノロジーが使用されます。そのため、Windows の実行中で読み取りや書き込みのためにファイルが開いた状態であっても、システム パーティションのバックアップを作成できます。コンピュータを再起動する必要はありません。

パーティションのバックアップ処理が開始されると、そのパーティションに対するすべての処理が一時的に凍結されて、パーティションの「スナップショット」が作成されます。スナップショットの作成は通常、数秒で終わります。その後は、オペレーティング システムの動作が再開し、並行してイメージ作成処理が実行されます。

また、アクロニスのドライバには、パーティションの特定時点のビューが引き続き保持されます。そのパーティションへの書き込み指示を検出すると、ドライバは、書き込まれるセクタが既にバックアップされているかどうかを調べます。まだバックアップされていない場合は、上書きされるセクタのデータを専用のバッファに保存します。次に、書き込みを許可します。

特定の時点のすべてのパーティション セクタが、何の変更も加えられずにバックアップされ、パーティションの正確な「イメージ」が作成されます。

バックアップ ファイルの形式

Acronis True Image Home 2011 では、通常、バックアップ データは独自の TIB 形式で圧縮して保存されます。その結果、必要な保存領域を減らすことができます。さらに、以前のバージョンの Acronis True Image Home 2011 との下位互換性が維持されます。

TIB ファイルの作成時に、データ ブロックのチェックサム値が計算されて、バックアップ対象のデータに追加されます。このチェックサムの値を使用すると、データの整合性を検証できます。

Acronis True Image Home 2011 プログラムだけを使用して、チップ ファイルのバックアップのデータをリカバリできます。このリカバリは、Windows またはリカバリ環境で実行できます。

ただし、Acronis True Image Home 2011 では、よく知られた zip 形式でデータを保存することも可能です。zip 形式を使用すると、Acronis True Image Home 2011 を使用しなくても、任意の場所にあるバックアップからファイルを取り出すことができます。

たとえば、ファイルを USB スティックにバックアップし、Acronis True Image Home 2011 がインストールされていないノートパソコンで、その USB スティックからファイルを取り出すことができます。最も広範に利用されているオペレーティング システムである Microsoft Windows と Mac OS X には、zip ファイル形式のサポートが組み込まれているからです。

Acronis ノンストップ バックアップでは、データおよびメタデータ用に特殊な隠しストレージが使用されています。バックアップ データは圧縮され、約 1 GB の複数のファイルに分割されます。また、

ファイルには独自の形式が採用されており、保存されたデータは、Acronis True Image Home 2011 のみを使用してリカバリできます。

バックアップのベリファイ

バックアップのベリファイ機能を使用すれば、システムをリカバリできるかどうかを確認できます。前述のように、バックアップされるデータにはチェックサム値が追加されます。バックアップ ベリファイの実行時に、Acronis True Image Home 2011 はバックアップ ファイルを開いてチェックサム値を再計算し、保存されているチェックサム値と比較します。比較した値がすべて一致していれば、そのバックアップ ファイルは破損していないので、バックアップからのデータ リカバリはかなり高い確率で成功します。

システム パーティション バックアップのベリファイは、レスキュー メディアからの起動時に実行することをお勧めします。

Acronis True Image Home 2011 によって、Windows 7 Enterprise および Window 7 Ultimate のユーザーは、システム パーティションのリカバリ後に、コンピュータを確実に起動できます。Acronis True Image Home 2011 では、システム パーティション イメージが格納されている TIB ファイルからコンピュータを起動することが可能です。TIB ファイルは VHD ファイルに変換され、この VHD ファイルが実際の起動に使用されます。変換後の VHD ファイルからのコンピュータ起動が可能ならば、このバックアップをディスクにリカバリした後でコンピュータを起動することが可能です。

統合

統合を行うと、バックアップ チェーンから不要になったバックアップを削除することができます。

統合したチェーンは、完全バックアップ、および、1 つまたは複数の増分バックアップという構成になります。

必要に応じて、バックアップ チェーンからベースの完全バックアップを削除できます。プログラムによって、残っている最も古いバックアップの代わりに新しい完全バックアップが作成されます。統合では、選択されたバックアップが保持され、選択されなかったバックアップは削除されます。

統合には長い時間と、大量のシステム リソース(ディスク領域を含む)が必要になる可能性があるため、統合する場合は慎重に検討することをお勧めします。多くの場合、新しいバックアップ チェーンを開始してから古いバックアップ チェーンを削除するほうがよいでしょう。

Acronis ノンストップ バックアップでは、異なる統合メカニズムが使用されています。Acronis ノンストップ バックアップでは、バックアップ データを管理するために使用されるメタデータが統合されます。メタデータの情報はバックアップ データ量よりもはるかに少ないので、統合で必要になる時間とシステム リソースも大幅に少なくなります。

障害回復

障害や災害からの復旧には、通常、レスキュー メディアが必要です。

Acronis True Image Home 2011 は、システム データの破損、ウイルス、またはマルウェアを原因とする障害からの復旧を行います。

オペレーティング システムが起動できなかった場合、Acronis True Image Home 2011 によって、システム パーティションがリカバリされます。パッケージ版の製品には、レスキュー CD が同梱されています。それ以外の方法で購入された場合は、メディア ビルダ ツールを使用することによって、レスキュー メディアを作成できます。

スケジュール設定

作成したバックアップを実際に役立てるには、可能な限り「最新」のバックアップを作成しておく必要があります。つまり、バックアップは定期的に、たとえば 1 日に 1 回実行してください。Acronis True Image Home 2011 バックアップは簡単に作成できますが、バックアップを実行し忘れてしまうこともあります。

そのような作業はスケジューラに任せることができます。スケジューラを使用すれば、自動バックアップのスケジュールをあらかじめ設定できます。十分なディスク領域が存在する限り、データはバックアップされます。

このプログラムの機能を使用する場合、これらの用語と概念を理解しておく役立ちます。

1.1.4 Acronis True Image Home 2011 の新機能

- **新しいユーザー インターフェイス** – ユーザビリティ テストに基づくユーザー インターフェイスの再設計とユーザビリティの改善により、Acronis True Image Home 2011 が今まで以上に使いやすくなりました。
- **あらかじめ定義されたバックアップ スキーム** – Acronis True Image Home 2011 には、あらかじめ定義されたバックアップ スキームがあります。このスキームは、限られたバックアップ ストレージ容量しかないユーザー向けのディスク領域効率の良いスキームや、データおよびシステムの高いセキュリティを必要とするユーザー向けのスキームなど、あらゆるユーザーの特定のニーズに対応できるよう設計されています。バックアップ スキームは、ディスク バックアップとファイル バックアップで異なります。スキームを選択するだけで、バックアップが自動的に管理されます。また、ニーズに合わせてカスタム バックアップ スキームを作成することもできます。
- **チェック ポイント** – Acronis バックアップ エクスプローラのタイムラインには、Windows とソフトウェアのインストールおよび更新の日付が表示されます。マウスをチェック ポイント上に移動すると、更新やソフトウェアに関する情報を含むバルーンが表示されます。チェック ポイントを使用して、システムの変更をチェックし、システムのバックアップ時点の特定の状態にリカバリすることができます。
- **USB 3.0 のサポート** – Acronis True Image Home 2011 は、新しい USB 3.0 標準をサポートしています。ご利用のマザーボードで USB 3.0 のハードディスク ドライブが使用可能な場合は、この新標準のデータ転送速度で高速バックアップを実行できます。
- **Acronis ノンストップ バックアップの改善** – Acronis ノンストップ バックアップを使用して、パーティションと個々のファイルおよびフォルダの両方を保護できるようになりました。Acronis ノンストップ バックアップを使用して個々のフォルダを保護することで、通常はストレージ領域を大幅に節約できます。また、Acronis True Image Home 2011 の最新バージョンでは、Acronis セキュア ゾーンをノンストップ バックアップ ストレージとして使用できます。これは、ハードディスク ドライブが 1 つしかないノートパソコン ユーザーにとって朗報です。
- **自動更新通知** – Acronis True Image Home 2011 はデフォルトで、更新プログラムが使用可能であるかどうかについて、各プログラムの起動時に自動照会を行います。更新プログラムが使用可能な場合は、Acronis True Image Home 2011 でそのダウンロードとインストールが実行されます。更新プログラムが使用可能であるかどうかについて、ヘルプ メニューを使用して手動でチェックすることもできます。
- **新しいバックアップ エクスプローラ** – Acronis バックアップ エクスプローラのタイム ラインを使用して、Acronis ノンストップ バックアップだけでなく、その他のすべてのバックアップ コンテンツも参照できるようになりました。メイン ウィンドウで [マイ バックアップ] をクリックすると、タ

タイム ライン上にすべてのバックアップが表示されます。また、ディスクとパーティションのリカバリをタイム ラインから直接開始することもできます。

- **機能強化されたスケジューラ** - 全面的に設計し直されたスケジューラにより、簡単にスケジュール設定できます。また、スケジューラを使用して、スリープ/休止状態のコンピュータを起動してバックアップを実行できるようになりました。[システムのシャットダウン時] および [ユーザーのログオフ時] オプションが Windows Vista と Windows 7 で使用できるようになりました。
- **ドラッグ アンド ドロップ機能** - バックアップしたファイルを Acronis Time Explorer からデスクトップまたは目的のフォルダへドラッグして、それらのファイルをリカバリできます。また、メイン画面の [マイ バックアップ] 領域からバックアップのボックスをデスクトップにドラッグして、バックアップのショートカットを作成することもできます。これにより、ショートカットをダブルクリックするだけでバックアップを実行できるようになります。また、頻繁に使用する Acronis ツールのアイコンを [スタート] メニューからデスクトップにドラッグして、ツールのショートカットを作成することもできます。
- **Windows 7 のコントロール パネルと統合する場合:** [バックアップと復元] 項目の [Windows バックアップ] が Acronis True Image Home 2011 によって置き換えられることが挙げられます。[バックアップと復元] ウィンドウに、ノンストップ バックアップと、最も古いディスクまたはパーティションのバックアップが表示されます。[コントロール パネル] から直接バックアップしたデータをリカバリしたり、バックアップを更新したり、ノンストップ バックアップを一時停止/開始することができます。

1.1.5 システム要件とサポートされるメディア

最小システム要件

Acronis True Image Home 2011 のハードウェアの最小要件は、Acronis True Image Home 2011 を実行するコンピュータにインストールされているオペレーティング システムの要件に対応しています。さらに、Acronis True Image Home 2011 を実行するには次のハードウェアが必要です。

- ブータブル メディア作成用の CD-RW/DVD-RW ドライブ
- マウスまたはその他のポインティング デバイス(推奨)

1 GB 以上の RAM(Acronis ノンストップ バックアップ用)

Acronis True Image Home 2011 ブータブル メディアを作成するには、次のハードウェアが必要です。

- 256 MB の RAM
- 1 GHz 以上の Pentium プロセッサ

1280 x 1024 の画面解像度(推奨)

800 x 600 以上の画面解像度

サポートされるオペレーティング システム

Acronis True Image Home 2011 は、次のオペレーティング システム上でテスト済みです。

- Windows XP SP3
- Windows XP Professional x64 Edition SP2
- Windows Vista SP2(全エディション)
- Windows 7(全エディション)

Acronis True Image Home 2011 では、Intel または AMD ベースの PC オペレーティング システム (Linux® を含む)を実行するコンピュータ上のディスク/パーティションをバックアップしてリカバリするためのブータブル CD-R/DVD-R を作成することもできます。(インテル ベースの Apple Macintosh はサポートされていません。)

サポートされるファイル システム

- FAT16/32
- NTFS
- exFAT
- Ext2/Ext3/Ext4 *
- ReiserFS *
- Linux SWAP *

ファイル システムがサポート対象外または破損している場合も、Acronis True Image Home 2011 ではデータをセクタ単位でコピーできます。

* Ext2/Ext3/Ext4、ReiserFS、および Linux SWAP のファイル システムの場合は、ディスクまたはパーティションのバックアップ/リカバリ処理のみがサポートされます。Acronis True Image Home 2011 では、これらのファイル システムに対してはファイル レベルの処理(ファイルのバックアップ、リカバリ、検索だけでなく、イメージをマウントして、そのイメージからファイルをリカバリ)は実行できません。これらのファイル システムが採用されているディスクやパーティションへのバックアップを行うこともできません。

サポートされるストレージ メディア

- ハードディスク ドライブ*
- ネットワーク上のストレージ デバイス
- FTP サーバー**
- CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R(2 層ディスクの DVD+R を含む)、DVD+RW、DVD-RAM、BD-R、BD-RE***
- USB 1.1/2.0/3.0、FireWire (IEEE-1394)および PC カード ストレージ デバイス
- REV® およびその他のリムーバブル メディア

* Acronis True Image Home 2011 では、ダイナミック ボリュームのタイプのうち「ミラー」および「RAID-5」はサポートされません。ダイナミック ディスクおよび GPT ディスクの処理に関しては、他にも次のような制限があります。

- ダイナミックおよび GPT ディスクに対して処理を実行するには、別製品である Acronis True Image Home 2011 Plus Pack が必要です。
- Acronis セキュア ゾーンの作成はサポートされていません。
- ダイナミック ボリュームをダイナミック ボリュームとしてリカバリするときに、手動でサイズを変更することはできません。
- GPT ディスクをリカバリするときは、サイズが変更される可能性のない「ボリューム単位」のリカバリのみが可能です。
- Try&Decide を使用してダイナミック/GPT ディスクを保護することはできません。
- 「ディスクのクローン作成」処理は、ダイナミック/GPT ディスクではサポートされていません。

** FTP サーバー側がパッシブ モードのファイル転送を許可している必要があります。FTP サーバーから直接リカバリするデータの場合、バックアップはそれぞれが 2 GB 以下のファイルで構成される必要があります。

バックアップ元のコンピュータのファイアウォール設定では、ポート 20 および 21 が TPC プロトコルと UDP プロトコル用に開いており、機能するようになっておく必要があります。Windows のルーティングとリモート アクセス サービスは無効にする必要があります。

*** 作成された書き換え可能ディスクを Linux で読み込むには、カーネル パッチが必要です。

1.1.6 サポートセンターのホームページ

メンテナンスとサポート プログラム

アクロニス製品に関してご質問がある場合は、<http://www.acronis.co.jp/support/> をご覧ください。

製品の更新

アカウント(<https://www.acronis.co.jp/my>)にログインして製品を登録すると、登録されたすべてのアクロニス ソフトウェア製品の最新の更新をいつでも弊社の Web サイトからダウンロードできます。詳しくは、「Registering Acronis Products at the Web Site」(<http://kb.acronis.com/content/4834>)および「Acronis Web Site User Guide」(<http://kb.acronis.com/content/8128>)を参照してください。

1.1.7 試用版情報

Acronis True Image Home 2011 の試用版では、すべての機能をご利用いただけます。ただし、ご利用できるのは試用期間中のみです。

製品版を購入する場合は、<http://www.acronis.co.jp/buy/atih/> にアクセスしてください。

[アプリケーションを開始します] をクリックすると Acronis True Image Home 2011 の試用版が起動します。

[今すぐ購入] をクリックすると、アクロニスの公式オンライン ストアに移動します。

既に完全版を購入済みで、有効なプロダクトキーをお持ちの場合は、[アクティブ化] をクリックしてください。

1.2 Acronis True Image Home 2011 のインストールと起動

セクションの内容

Acronis True Image Home 2011 のインストール.....	15
Acronis True Image Home 2011 の取り出し.....	16
Acronis True Image Home 2011 の実行.....	17
Acronis True Image Home 2011 のアップグレード.....	17
Acronis True Image Home 2011 の削除.....	18

1.2.1 Acronis True Image Home 2011 のインストール

Acronis True Image Home 2011 をインストールする手順は、次のとおりです。

- Acronis True Image Home 2011 のセットアップ ファイルを実行します。
- インストールの前に、Acronis True Image Home 2011 の新しいビルドがアクロニスのウェブサイトにあるかどうかを調べることができます。新しいバージョンがある場合は、そのバージョンがインストールに使用されます。

- インストール メニューで、インストールするプログラムとして Acronis True Image Home 2011 を選択します。
- インストール ウィザードの画面に表示される指示に従います。



インストール方法は、[標準]、[カスタム]、[完全] から選択できます。[カスタム] を選択した場合は、**ブータブル メディア ビルダ**のインストールは任意です。

ブータブル メディア ビルダとは、ブータブル レスキュー ディスクを作成するためのツールです(詳細については、「ブータブル レスキュー メディアの作成 (140 ページ)」を参照してください)。ブータブル CD が含まれたパッケージ版の製品をご購入の場合は、このツールは必要ありません。**ブータブル メディア ビルダ**をインストールすると、ブータブル メディアやその ISO イメージの作成をいつでも、メイン プログラム ウィンドウから、または**ブータブル メディア ビルダ**を単独で実行して行うことができます。

Acronis True Image Home 2011 をインストールすると、新しいデバイスがデバイス マネージャのリストに追加されます([コントロール パネル] → [システム] → [ハードウェア] → [デバイス マネージャ] → [Acronis Devices] → [Acronis True Image Backup Archive Explorer])。このデバイスを無効にしたりアンインストールしたりしないでください。イメージ バックアップを仮想ディスクとして接続するときに、このデバイスが必要になります(「イメージのマウント (188 ページ)」を参照してください)。

1.2.2 Acronis True Image Home 2011 の取り出し

Acronis True Image Home 2011 のインストール時に、セットアップ(.msi)ファイルをローカル ドライブまたはネットワーク ドライブに保存できます。これは既存のコンポーネントのインストール内容を変更または修復する場合に便利です。

セットアップ ファイルを保存する手順は、次のとおりです。

- Acronis True Image Home 2011 のセットアップ ファイルを実行します。
- インストール メニューで、プログラム名を右クリックし、[取り出し] を選択します。
- セットアップ ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。

.msi ファイルを使用して既存の Acronis True Image Home 2011 実行環境をリカバリまたは更新するには、コマンドラインから次のように行います。

1. **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** を選択します。
2. 「cmd」と入力します。
3. コマンド プロンプト ウィンドウが開きますので、次のコマンドを入力します。
`msiexec /i path_to_msi_file\msi_file_name.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus`

インストール ウィザードのウィンドウが開いたら、**[標準]**、**[カスタム]**、**[完全]** のうち、どのインストールのプログラム コンポーネントを修復または変更するかを選択します。

1.2.3 Acronis True Image Home 2011 の実行

Windows で Acronis True Image Home 2011 を実行するには、**[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis True Image Home 2011]** → **[Acronis True Image Home 2011]** を選択するか、デスクトップにあるショートカットをダブルクリックします。

何らかの理由でオペレーティング システムが読み込まれなくなった場合は、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを起動してください。ただし、使用する前に有効化しておく必要があります。この手順の詳細については、「Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ」を参照してください。このプログラムを実行するには、コンピュータの電源を入れ、F11 キーを押すように指示するメッセージが表示されている間に F11 キーを押します。Acronis True Image Home 2011 がスタンドアロンモードで起動し、損傷しているパーティションをリカバリできるようになります。

ディスクのデータが完全に損傷しており、オペレーティング システムを起動できない場合（または Acronis スタートアップ リカバリ マネージャが有効化されていない場合）は、Acronis True Image Home 2011 のスタンドアロン版をブータブル メディアから読み込みます。このブータブル メディアはパッケージ版に付属していますが、ブータブル メディア ビルダを使用して作成することもできます。この起動ディスクを使用すると、作成済みのイメージからディスクをリカバリできます。

ユーザー アカウント制御 (UAC) が有効になっている Windows Vista および Windows 7 で Acronis True Image Home 2011 を実行する場合、UAC によって、特定の処理を実行するための許可を求めるプロンプトが表示される場合があります。処理を続行するには、プロンプトのポップアップウィンドで **[はい]** をクリックします。

1.2.4 Acronis True Image Home 2011 のアップグレード

Acronis True Image Home 2011 が既にインストールされている場合は、新しいバージョンによって古いバージョンが自動的に更新されます。新しいバージョンのインストール前に古いバージョンをアンインストールする必要はありません。

新しいバージョンのプログラムで作成されたバックアップが、前のバージョンのプログラムと互換性を持たない場合があります。そのため、Acronis True Image Home 2011 を古いバージョンに戻した場合は、その古いバージョンでバックアップを再度作成する必要があります。同じ理由により、Acronis True Image Home 2011 のアップグレード後は、新たにブータブル メディアを作成することを強くお勧めします。

1.2.5 Acronis True Image Home 2011 の削除

[スタート] → [設定] → [コントロール パネル] → [プログラムの追加と削除] → [Acronis True Image Home 2011] → [削除] を選択します。画面の指示に従って操作します。削除を完了するために、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、[スタート] → [コントロール パネル] → [プログラムと機能] → [Acronis True Image Home 2011] → [削除] を選択します。画面の指示に従って操作します。削除を完了するために、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

コンピュータに Acronis セキュア ゾーンをインストールしている場合は、プログラムを削除する前にセキュア ゾーンを削除してください。Acronis True Image Home 2011 を削除してもセキュア ゾーンは削除されません。

1.3 Acronis True Image Home 2011 について

セクションの内容

[ようこそ] 画面	18
メイン画面	22
[ツールとユーティリティ] 画面	26
ウィザードとタスクトレイのアイコン	26
Acronis バックアップ エクスプローラ	27
Windows 7 との統合	35

1.3.1 [ようこそ] 画面

インストール後に初めて Acronis True Image Home 2011 を開始すると、コンピュータ上の Acronis バックアップが検索されます。(現在または古いバージョンの Acronis True Image Home 2011 によって作成された)バックアップが見つかった場合、[ようこそ] 画面はスキップされます。見つかったバックアップはすべて、プログラム内のバックアップ リストに追加されます。

[ようこそ] 画面は、次の場合に表示されます。

- 検索でバックアップが見つからなかった場合。

- バックアップは見つかったが、そのバックアップに関する情報(バックアップ元、バックアップ先、バックアップ スケジュールなど)がない場合。たとえば、バックアップが別のコンピュータで作成された場合などに、このような状況が発生する可能性があります。Acronis True Image Home 2011 では、このようなバックアップの数が表示され、それらのバックアップをバックアップ リストに追加することができます。



[ようこそ] 画面では、次の項目を選択することができます。

- **ワンクリック バックアップ**

Acronis ワンクリック バックアップ ツールを利用すると、Acronis True Image Home 2011 のインストール直後からコンピュータを保護できるようになります。デフォルトの設定では、システムパーティションのバックアップが定期的に更新され、個人データにノンストップ プロテクションが適用されます。このツールを使用して、ストレージ デバイスを分析し、バックアップに最適な場所を選択することも可能です。

- **バックアップ アシスタントを使用します**

バックアップするデータ、バックアップの方法およびバックアップ場所の選択をプログラムの指示に従いながら行う場合、この項目を選択します。

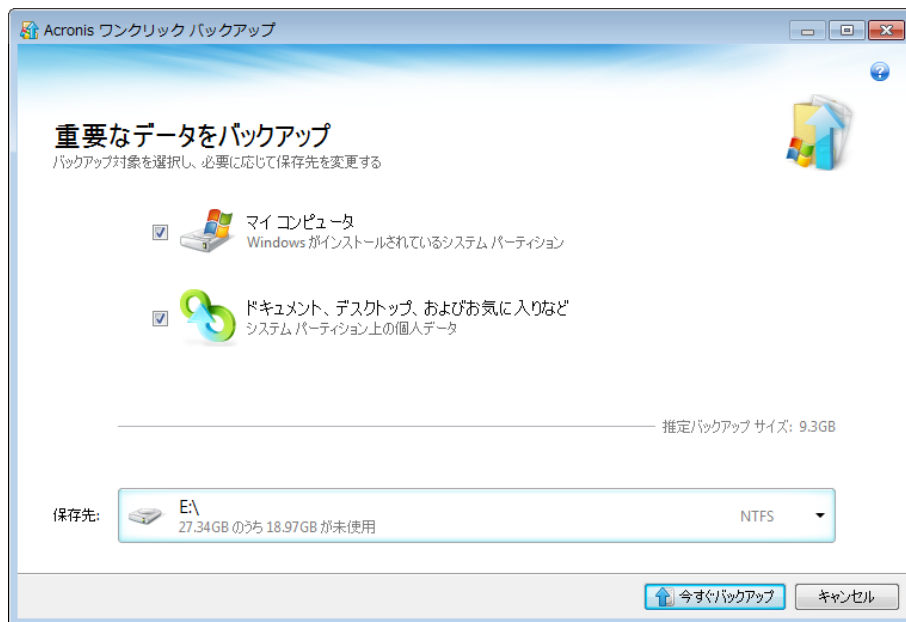
- **アプリケーションを開始します**

メイン プログラム ウィンドウに移動する場合、この項目を選択します。

Acronis ワンクリック バックアップ

Acronis ワンクリック バックアップ ツールを利用すると、Acronis True Image Home 2011 のインストール直後からコンピュータを保護することが可能になります。ワンクリック バックアップが設定されると(選択解除処理の後、数分かかります)、1 回クリックしただけで、常時保護がかかります。

インストール後に Acronis True Image Home 2011 を開始すると、ただちにシステム パーティション および個人データを、バックアップに最適な場所であるとみなされたバックアップ先にバックアップして、コンピュータを保護することができます。別のバックアップの保存先を選択するには、[保存先の選択] の右にある下矢印をクリックして保存先を探します。



デフォルトでは、Acronis True Image Home 2011 によって、次回以降のシステム パーティションの完全バックアップのスケジュールが月 1 回に設定されます。新しい完全バックアップが完了すると、ディスク領域の節約のために、古いバックアップが削除されます。

さらに、個人データを継続的に保護するためのオプションを有効にすることができます。個人データのデフォルトの内容については、「ワンクリック バックアップによって保護される個人データ (21 ページ)」を参照してください。

選択した項目がバックアップされた後は、マイ コンピュータのバックアップおよび個人データのバックアップのデフォルト設定を変更できます。これを行うには、メイン画面で適切なバックアップを選択してから、[処理] メニューで [バックアップ設定を編集する] をクリックします。

バックアップ先としてリムーバブル メディア (USB ハード ドライブなど) を選択した場合、デフォルトでそのリムーバブル メディアが起動可能になります。つまり、起動可能なリカバリ環境、スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011、およびバックアップ対象データが、リムーバブル メディアに書き込まれます。

このリムーバブル メディアを使用して、ベアメタル システムまたはクラッシュしたコンピュータから Acronis True Image Home 2011 を実行できるようになります。BIOS でリムーバブル メディア デバイスを最初のブート デバイスにし、Acronis True Image Home 2011 を起動して、システムや個人データをリカバリします。

ワンクリック バックアップを開始するには、[今すぐバックアップ] ボタンをクリックします。[キャンセル] をクリックすると、ワンクリック バックアップがキャンセルされます。後でこの機能を使用する場合は、メイン プログラム メニューの [ツールとユーティリティ] をクリックし、[Acronis ワンクリック バックアップ] を選択します。

保存先選択のアルゴリズム

ワンクリック バックアップ ツールによるバックアップ保存先選択のアルゴリズムは、次のとおりです。

1. 初めに、ワンクリック バックアップ ツールの処理に必要な領域が見積もられます。
2. 外付けのハード ドライブに十分な空き領域がある場合は、バックアップはそのドライブに保存されます。外付けのドライブは、コンピュータを保護するうえで有利であるためです。
3. 最初のオプションが使用できず、少なくとも 2 台の内蔵ハードディスク ドライブが設置されている場合は、システム用に使用されていないハードディスク ドライブにある、空き領域が最大のパーティションを使用してバックアップが行われます。
4. コンピュータのハード ドライブが 1 つだけで、複数のパーティションがある場合は(隠しパーティションは含まない)、システムに使用されていないパーティションのうち、空き領域が最大であるものが使用されます。

ワンクリック バックアップによって保護される個人データ

個人データの内容は、ご使用のオペレーティング システムによって異なります。

Windows 7 および Windows Vista の場合

C:\Users\%User フォルダの内容は以下のとおりです。

- ドキュメント
- デスクトップ
- 連絡先
- ダウンロード
- お気に入り
- リンク
- ミュージック
- ピクチャ
- 保存したゲーム

Windows XP の場合

C:\Documents and Settings\User フォルダの内容は以下のとおりです。

- ドキュメント
- デスクトップ
- ダウンロード
- お気に入り

ここでの「User」は、ログオンしたときに使用されているアカウントのユーザー名です。

バックアップ アシスタント

データ保護の対象とその方法についてよく分からない場合、バックアップ アシスタントを利用すれば最適な選択を行うことができます。いくつかの簡単な手順を実行するだけで、データのバックアップを作成できます。このバックアップを利用して、障害が発生した場合にデータを以前の正常な状態に戻すことが可能になります。それではバックアップ アシスタントの手順について見ていきましょう。

まず、[ようこそ] 画面の [バックアップ アシスタントを使用します] をクリックしてください。それ以降の手順については、以下の内容から参照する項目を選択してください。

バックアップする対象を選択する

- **[マイ コンピュータ]** - システム パーティションをバックアップするときに選択します。このバックアップ機能を使用すれば、システム パーティション上のデータをすべて保護し、必要に応じてシステムをリカバリできます。クラッシュに対するシステムの保護をさらに強化するには、ブータブル レスキュー メディアを作成するか、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャをアクティブ化する必要があります。これにより、Windows を開始できない場合でもシステムをリカバリできます。
- **[ファイルとフォルダ]** - 写真、動画、音楽、テキスト ファイル、およびその他のファイルならびにフォルダなどのドキュメントをバックアップするときに選択します。このバックアップ機能を使用すれば、ウィルス攻撃、誤った削除、および破損からドキュメントをリカバリできます。
- **[電子メール]** - 電子メールのメッセージ、アドレス帳、設定、およびアカウントをバックアップするときに選択します。このバックアップ機能を使用すれば、電子メール データの損失や破損が発生した場合に、データをリカバリできます。

バックアップするデータを決定したら、[次へ] をクリックしてください。次にバックアップ処理の手順について説明します。

コンピュータまたはデータの保護方法を選択する

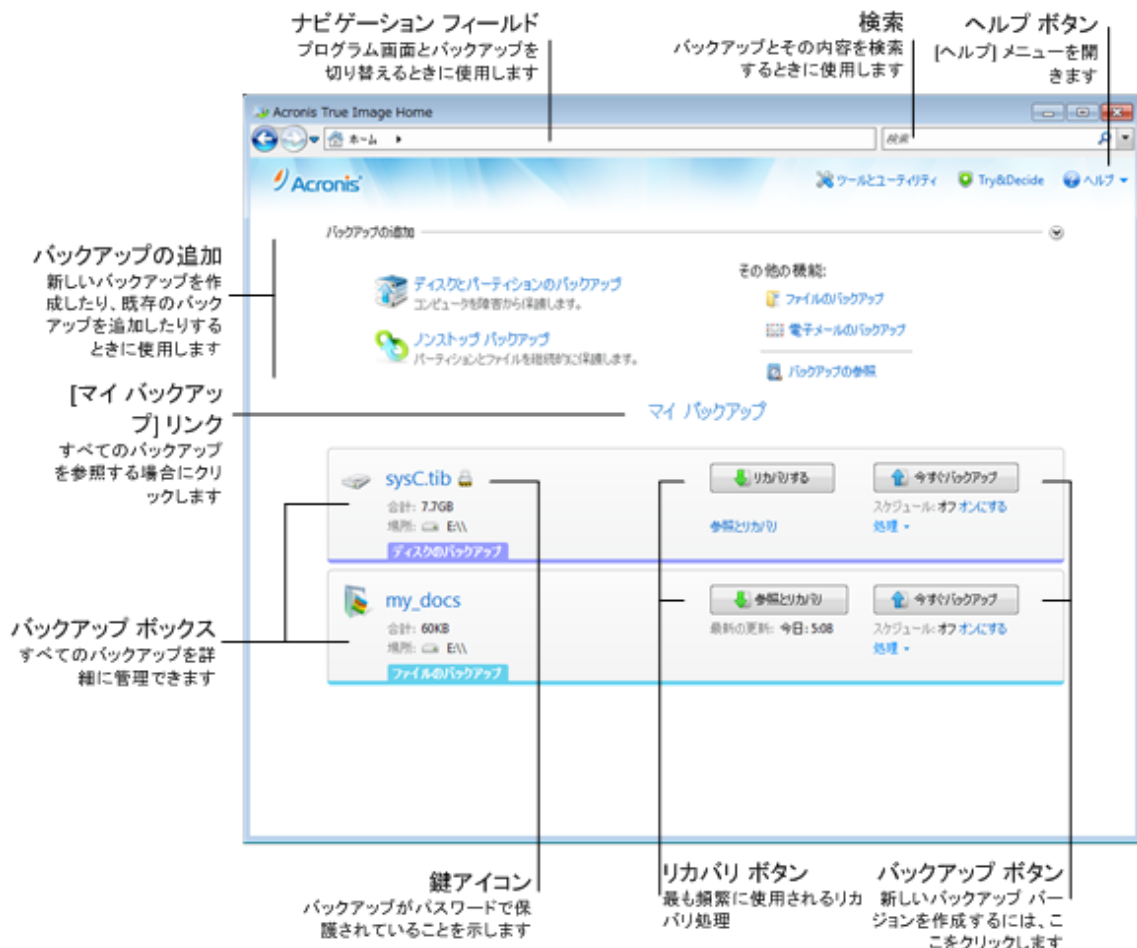
- **[スケジュールに従ってバックアップ]** - この方法を使用すれば、バックアップ処理に関する独自のスケジュールを指定することによって定期的にデータをバックアップすることができます。指定したスケジュールに従ってデータがバックアップされます。
- **[ノンストップ プロテクションを使う]** - この方法はスケジュールに従ったバックアップよりも簡単ですが、より多くのディスク領域が必要となります。データは、5 分ごとに自動的にバックアップされます。データが変更されるたびに保存されるので、任意の日時の状態にデータをリカバリすることができます。

バックアップ対象のデータと最適なデータ保護方法を選択すると、バックアップ処理に関するウィンドウが表示され、ここで処理を開始します。このウィンドウには、バックアップのすべての設定が表示されます。これらの設定は、選択された内容に従って自動的に設定されたものです。これらの設定は必要に応じて変更し、その他のオプションを設定できます。すべての設定が正しいことを確認した後、[今すぐバックアップ] ボタン(ノンストップ プロテクションを選択した場合、[開始])をクリックして、バックアップの保護を開始します。その後、[マイ バックアップ] リストに新しいバックアップボックスが表示され、バックアップの進行状況が表示されます。処理が完了すると、バックアップが作成されます。これでデータは保護され、障害が発生した場合にリカバリ可能となります。

1.3.2 メイン画面

Acronis True Image Home 2011 を起動すると、メイン画面が表示されます。この画面からは、ほぼすべての機能にすばやくアクセスできます。

バックアップをまだ作成していない場合、新しいバックアップを Acronis ワンクリック バックアップ ツールで作成するか、手動で作成するかをたずねる画面が表示されます。1 つでもバックアップが存在していれば、画面にバックアップのリストが表示されます。



[バックアップの追加] 領域

新しいバックアップを作成する、またはバックアップ リストに既存のバックアップを追加するには、[バックアップの追加] 領域を使用します。この領域には、次の項目が表示されます。

- ディスクとパーティションのバックアップ
- ノンストップ バックアップ

バックアップ リストにノンストップ バックアップが既に含まれている場合、この項目は [ノンストップ バックアップ設定の編集] と表示されます。ノンストップ バックアップは一度に 1 つだけしか実行することができないためです。

- ファイルのバックアップ
- メールバックアップ
- バックアップの参照

コンピュータ上のバックアップを参照し、そのバックアップをバックアップ リストに追加する場合には、この項目をクリックします。この項目は、バックアップリストには表示されない、旧バージョンの Acronis True Image Home 2011 で作成したバックアップが存在する場合に便利です。

追加したバックアップが、旧バージョンで Acronis True Image Home 2011 で作成したもののか、別のコンピュータからコピーしたものである場合、一部の処理は実行できません。具体的には、[今すぐ

バックアップ] をクリックしてバックアップを更新することはできません。また、バックアップの設定およびスケジュールを編集したり、それらのクローンを作成することもできません。

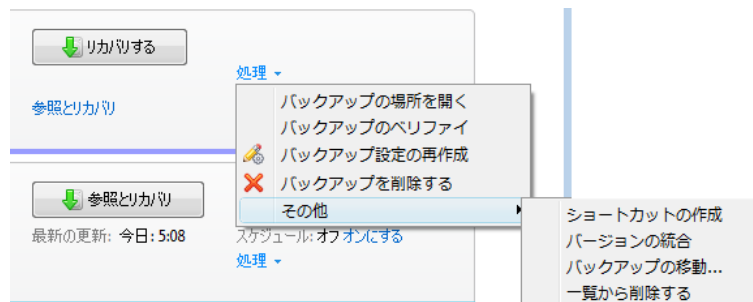
[マイ バックアップ] 領域

この領域には、既存のバックアップが表示されます。既存のバックアップに対するすべての動作を実行でき、データのリカバリを開始することができます。

最新のバックアップのリカバリを開始するには、リカバリする必要があるデータが格納されているバックアップを選択してから、**[リカバリする]** をクリックします。1 つのイメージ バックアップに複数のバックアップ バージョンが格納されている場合、**[リカバリする]** ボタンの下の **[すべてのバージョンを参照する]** リンクをクリックします。これにより、Acronis バックアップ エクスプローラが開き、**[ディスクとパーティション]** タブが選択されます。Acronis バックアップ エクスプローラは、バックアップ名をクリックして開くこともできます。

バックアップ リスト内の既存のバックアップは、そのバックアップを選択し、**[今すぐバックアップ]** をクリックすることによっていつでも更新できます。

[処理] メニュー



選択したバックアップのボックス内で **[処理]** をクリックすると、**[処理]** メニューが開き、次の項目が表示されます。

- **[バックアップの場所を開く]** - バックアップ ファイルが格納されているフォルダを開きます。
- **[バックアップ設定を編集する]** - 現在のバックアップ設定を編集できます。
- **[バックアップのベリファイ]** - バックアップのベリファイを開始します。
- **[バックアップ設定のクローンを作成する]** - 類似のバックアップを複数作成する必要がある場合に現在のバックアップのクローンを作成します。バックアップ設定のクローンを作成してから、必要な変更を行います。
- **[バックアップの移動...]** - バックアップ ファイルを別の場所に移動できます。
- **[一覧から削除する]** - **[マイ バックアップ]** 領域に表示されているバックアップ リストから現在のバックアップを削除します。この操作によって、削除されたバックアップのスケジュール設定が無効になります (スケジュールが設定されていた場合) が、バックアップ ファイルは削除されません。
- **[古いバージョンを削除する...]** (ノンストップ バックアップの場合にのみ使用可能) - **[クリーンアップ]** ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスで、不要になったバックアップ バージョンを削除できます。バックアップ チェーンが破損することはありません。
- **[バックアップを削除する]** - 現在のバックアップをその場所で削除します。削除すると元に戻せないご注意ください。

- **[ショートカットの作成]** - デスクトップのショートカットを作成します。このショートカットによって、Acronis True Image Home 2011 を起動することなくバックアップを実行できます。
- **[バージョンを統合する]** - バックアップの一貫性を維持しながら不要になったバックアップ バージョンを削除できます。

ノンストップ バックアップの場合、[処理] メニューに表示される項目は少なくなります。

展開しているバックアップ ボックスを折りたたんで狭い領域で表示するには、ボックスの空いている領域を右クリックして、ショートカット メニューで **[折りたたむ]** を選択します。展開しているバックアップ ボックスは、ダブルクリックして折りたたむこともできます。

折りたたんだボックスを展開するには、ボックスの空いている領域を右クリックして、ショートカット メニューで **[展開する]** を選択するか、ボックスをダブルクリックします。

バックアップ ボックスが折りたたまれている場合、[処理] メニューには、そのバックアップで使用できるバックアップとリカバリの処理に関連する以下の項目も表示されます。

- **[今すぐバックアップ]** - 新しいバックアップ バージョンを既存のバックアップに追加するか、既存のバックアップ バージョンを置き換えます(使用されているバックアップ スキームによって異なります)。
- **[参照とリカバリ]** - **[バックアップの参照]** ウィンドウを開きます。
- **[開始]**(ノンストップ バックアップの場合のみ使用可能)- ノンストップ バックアップ プロテクションを開始します。
- **[一時停止]**(ノンストップ バックアップの場合のみ使用可能)- ノンストップ バックアップ プロテクションを一時停止します。

選択したバックアップのスケジュールを有効にするか変更するには、**[スケジュール:]** の右側にあるリンクをクリックします。詳細については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。ノンストップ バックアップのノンストップ プロテクションを有効または無効にすることもできます。

検索

リカバリする必要があるバックアップ ファイルを検索するには、メイン メニュー バーの **[検索]** フィールドで、ファイル名、またはファイル名の一部を入力します。検索が終了したら、Acronis バックアップ エクスプローラが開き、見つかったファイルと、そのファイルが格納されているバックアップが表示されます。

メニュー バー

メイン画面のメニュー バーから、複数の主要な機能を選択できます。

メニュー バーには、次の項目が表示されます。

ツールとユーティリティ

[ツールとユーティリティ] 画面を開いて、選択可能なすべての Acronis True Image Home 2011 ツールとユーティリティを表示するには、このメニュー項目を選択します。

Try&Decide

Acronis Try&Decide 機能を有効および無効にしたり、Try&Decide 設定を変更したりするには、このメニュー項目を選択します。

ヘルプ

ヘルプや[ようこそ] 画面へのアクセス、システム レポートの生成、ログの表示、カスタマ サポートへのアクセス、更新の確認を行うには、この項目を選択します。

1.3.3 [ツールとユーティリティ] 画面

この画面では、Acronis True Image Home 2011 のツールとユーティリティを選択できます。この画面に移動するには、メイン メニューで [ツールとユーティリティ] をクリックします。適切なリンクをクリックして、目的のツールまたはユーティリティを起動します。詳細については、「ツールとユーティリティ (138 ページ)」を参照してください。

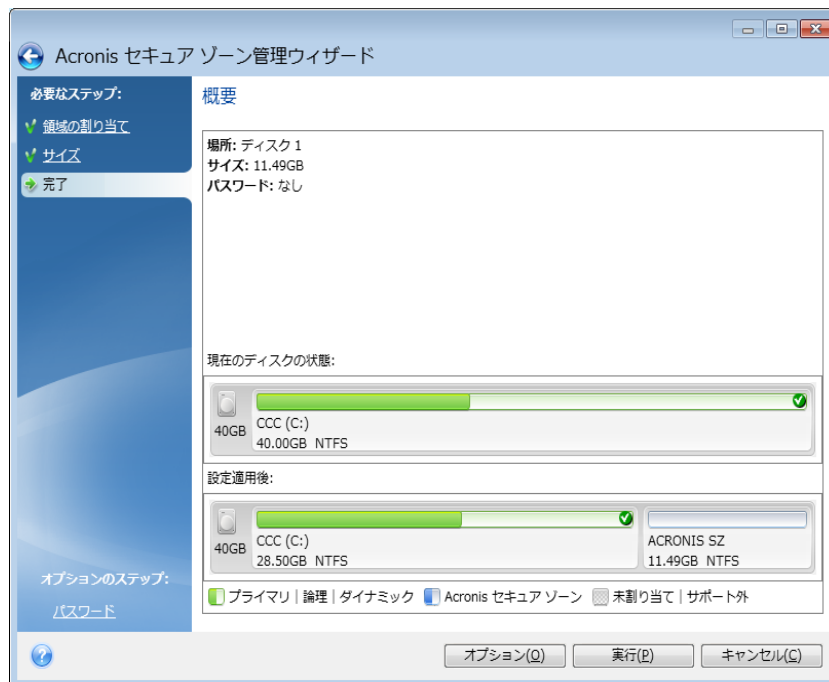


メイン画面に戻るには、画面の上部にあるナビゲーションで戻るボタンをクリックするか、同ナビゲーションで [ホーム] をクリックします。

1.3.4 ウィザードとタスクトレイのアイコン

利用可能な Acronis True Image Home 2011 ツールおよびユーティリティを使用する際、ほとんどの場合ウィザードが表示されるので、指示に従って処理を進めることが可能です。

ウィザードのサイドバーには、処理を完了するうえで必要なすべての手順（必須および任意の両方）が一覧表示されます。たとえば、Acronis セキュア ゾーンの管理ウィザードのスクリーンショットは次のように表示されます。



完了したステップには緑のチェックマークが付きます。緑の矢印は現在処理中の手順を示します。必要な手順をすべて完了した後の [完了] では、[概要] 画面が表示されます。実行される処理の概要を確認してから、[実行] をクリックして処理を開始します。

タスク トレイのアイコン

ほとんどの処理の実行中には、特別なインジケータ アイコンが Windows のタスク トレイ(ステータス バーの右側にある時計が配置されている箇所)に表示されます。アイコンの上にマウスを置くと、処理の進行状況または状態を示すツールのヒントが表示されます。アイコンを右クリックすると、ショートカット メニューが開き、処理の状態を変更したり必要に応じて処理をキャンセルしたりすることができます。このアイコンは、メイン プログラム ウィンドウが開いていなくても表示されます。スケジュールされたバックアップがバックグラウンドで実行されているときにも表示されます。

1.3.5 Acronis バックアップ エクスプローラ

Acronis バックアップ エクスプローラを使用すれば、バックアップの種類、バックアップ バージョン番号、日付、内容、バックアップの結果など、バックアップに関するさまざまな情報を取得できます。さらに、バックアップ エクスプローラによって、バックアップされたデータ(パーティションと個々のファイルの両方、およびファイル バージョン)を参照してリカバリできます。バックアップに対する各種処理も実行できます。たとえば、バックアップのベリファイ、Windows バックアップへの変換(ディスク バックアップのみ)、イメージのディスクとしてのマウント、および不要になったバックアップ バージョンの削除などです。

Acronis バックアップ エクスプローラについて、詳しく見てみましょう。バックアップの表示用に 2 つのタブ [ディスクとパーティション] (ディスク バックアップの場合にのみ使用可能)と [ファイルとフォルダ] があります。

[ディスクとパーティション] タブ

[ディスクとパーティション] タブには、選択したバックアップ バージョンに含まれるバックアップされたディスクおよびパーティションが表示されます。

このタブには、最新のバックアップ バージョンが作成されたときのディスクおよびパーティションの状態も表示されます。

画面の下部にあるタイム ラインを使用することによって、各バックアップ バージョン間を切り替えることができます。詳細については、「タイム ライン (31 ページ)」を参照してください。

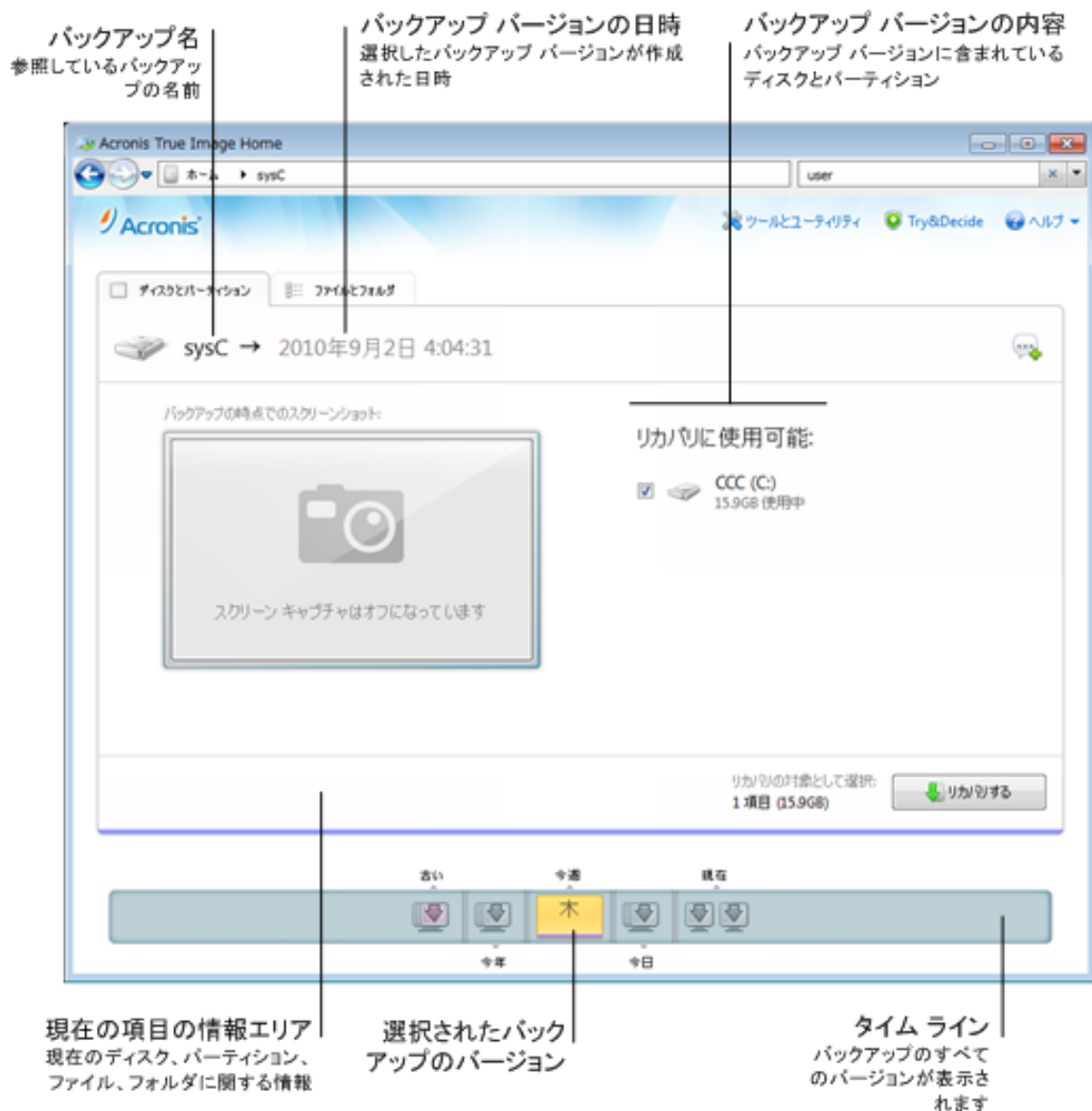
ディスクやパーティションをリカバリするには、次の手順を実行します。

1. タイム ライン上で、ディスクやパーティションをリカバリするバックアップ バージョンを選択します。
バックアップ名の近くにバージョンの正確な日時が表示されます。データは、その時点における状態にリカバリされます。
2. リカバリするディスクまたはパーティションに対応するチェックボックスを選択します。
3. [リカバリする] ボタンをクリックします。

ディスクやパーティションのバックアップから特定のファイルおよびフォルダをリカバリするには、次の手順を実行します。

1. [ファイルとフォルダを参照] をクリックします。[ファイルとフォルダ] タブが開きます。
2. リカバリするファイルとフォルダを選択してください。
3. [リカバリする] ボタンをクリックします。

ファイルとフォルダのリカバリの詳細については、「[ファイルとフォルダ] タブ (30 ページ)」を参照してください。



バックアップ バージョンを右クリックすると、ショートカット メニューが開き、実行できるその他の処理が表示されます。

- [リカバリする] - 現在のバックアップ バージョンをリカバリするときに選択します。
- [ベリファイ] - バックアップ バージョン データの整合性を確認するときに選択します。
- [Windows バックアップに変換] (イメージ バックアップ用) - バックアップ バージョンの TIB ファイルを VHD ファイルに変換するとき選択します。
- [マウント] (イメージ バックアップ用) - バックアップ バージョンをディスクとしてマウントするとき選択します。
- [バージョンの削除] - バックアップ バージョンを削除するとき選択します (バックアップ チェーンは破損しません)。
- [表示] - タイムラインに追加情報を表示させるときに選択します。

リカバリする必要があるファイルまたはフォルダを検索するには、[検索] フィールドにファイルまたはフォルダの名前を入力します。

両方のタブにはバックアップのコメントも表示され、選択したバックアップ バージョンに対するコメントを追加、編集、および削除することができます。バックアップ バージョンにコメントがない場合、**[コメントを追加]** アイコンをクリックしてから、コメント領域にコメントを入力して、**[保存]** アイコンをクリックします。コメントがある場合、**[編集]** アイコンをクリックすると、そのコメントを編集できます。編集が終了したら、**[保存]** アイコンをクリックして変更したコメントを保存するか、**[キャンセル]** アイコンをクリックして変更をキャンセルします。コメントを削除するには、**[削除]** アイコンをクリックします。

[ファイルとフォルダ] タブ

[ファイルとフォルダ] タブには、選択したバックアップ バージョンに格納されているバックアップ ファイルおよびフォルダが表示されます。このタブの左側の領域にはディレクトリ ツリー、右側の領域には選択したディレクトリ ツリー項目の内容が表示されます。

このタブには、現在のバックアップ バージョンが作成された時点でのファイルおよびフォルダの状態が表示されます。各バックアップ バージョン間を切り替えるには、画面下部のタイム ラインを使用します。タイム ラインの使用の詳細については、「タイム ライン (31 ページ)」を参照してください。

ファイルやフォルダをリカバリする手順は、次のとおりです。

1. タイム ラインで、ファイルやフォルダをリカバリするバックアップ バージョンを選択します。
バックアップ名の近くにバージョンの正確な日時が表示されます。データは、この時点の状態にリカバリされます。
2. リカバリするファイルおよびフォルダに対応するチェックボックスをオンにします(以下の選択ルールを参照してください)。**[リカバリする]** ボタンの近くに、選択した項目に関する簡単な説明(項目の数と合計サイズ)が表示されます。
3. **[リカバリする]** ボタンをクリックします。

ファイルおよびフォルダのリカバリは、ファイルやフォルダをデスクトップにドラッグするか、Windows エクスプローラ内の選択したフォルダにドラッグすることによっても行うことができます。

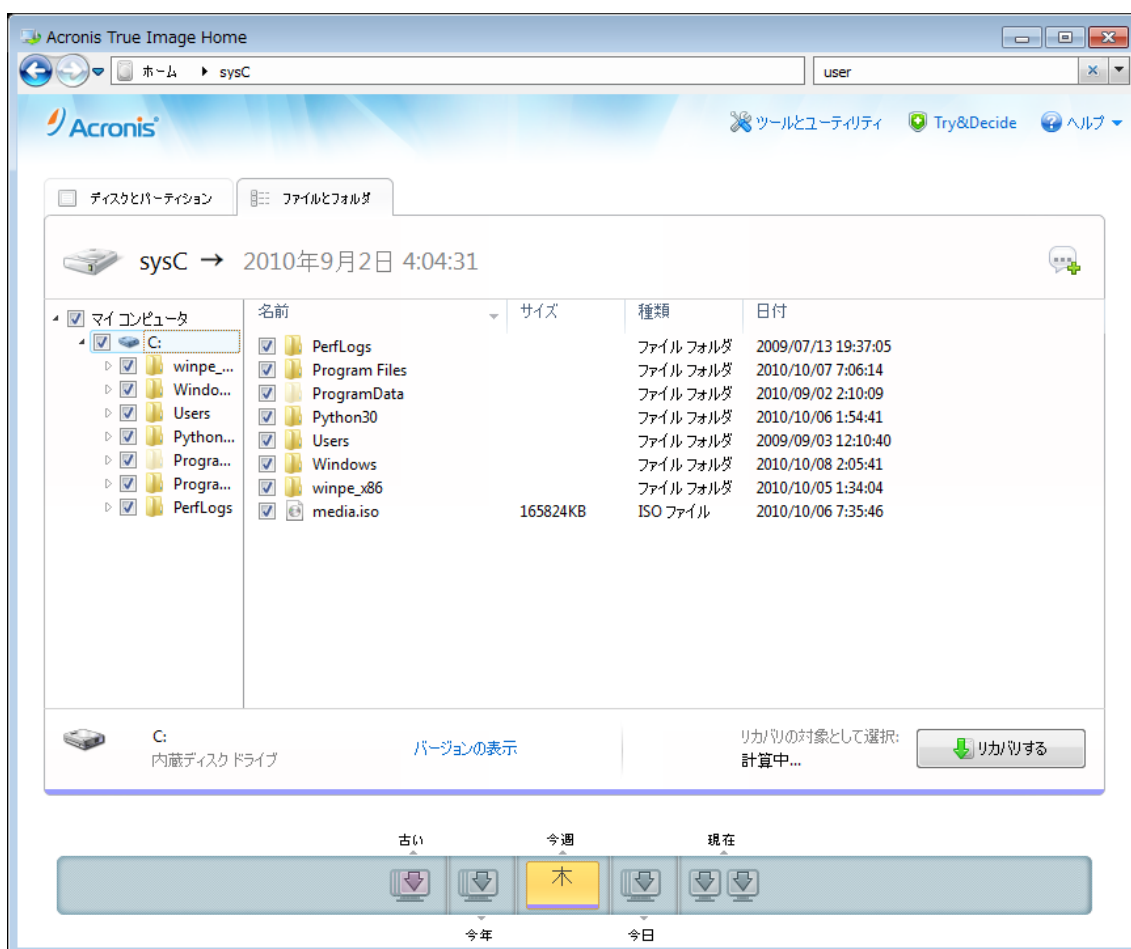
ファイルを FTP、書き込み可能な CD/DVD などの光学メディア、およびマウント済みの ISO ファイルにドラッグしてファイルをリカバリすることはできません。

選択ルール

各項目に対応するチェックボックスは、次のいずれかの状態で表示されています。

- **オン**(四角にチェック マークが付きます)- この状態は、その項目がリカバリ対象として選択されていることを示します。フォルダが選択されている場合は、そのフォルダ内のすべての項目が選択されていることを意味します。
- **オフ**(四角には何も表示されません)- この状態は、その項目が選択されていないことを示します。
- **混在**(四角が塗りつぶされます)- これはフォルダ内に選択された項目と選択されていない項目があることを示します。チェックボックスをクリックしてこの状態に設定することはできませんが、オフまたはオンの状態に変更することは可能です。

リスト内でディスク、パーティション、ファイル、またはフォルダを選択しただけでは、リカバリ対象とはならないのでご注意ください。



このタブにあるユーザー インターフェイス要素の大部分は、「[ディスクとパーティション] タブ (28 ページ参照)」セクションで説明されています。次に、このタブ固有の項目について説明します。

項目をクリックすると、この項目に関する簡単な説明がブラウザ領域の下に表示されます。表示されるパラメータの組み合わせは、項目の種類によって異なります。[バージョンの表示] リンクをクリックすると、[バージョンの表示] ウィンドウが開き、バックアップ内のファイル バージョンすべての一覧が表示されます。目的のバージョンを、そのバックアップ時間に基づいてリカバリできます。

右側の領域にあるファイルをダブルクリックすると、そのファイルが一時フォルダにリカバリされます。リカバリされたファイルは、Windows エクスプローラなど、関連付けられたアプリケーションを使用して開くことができます。

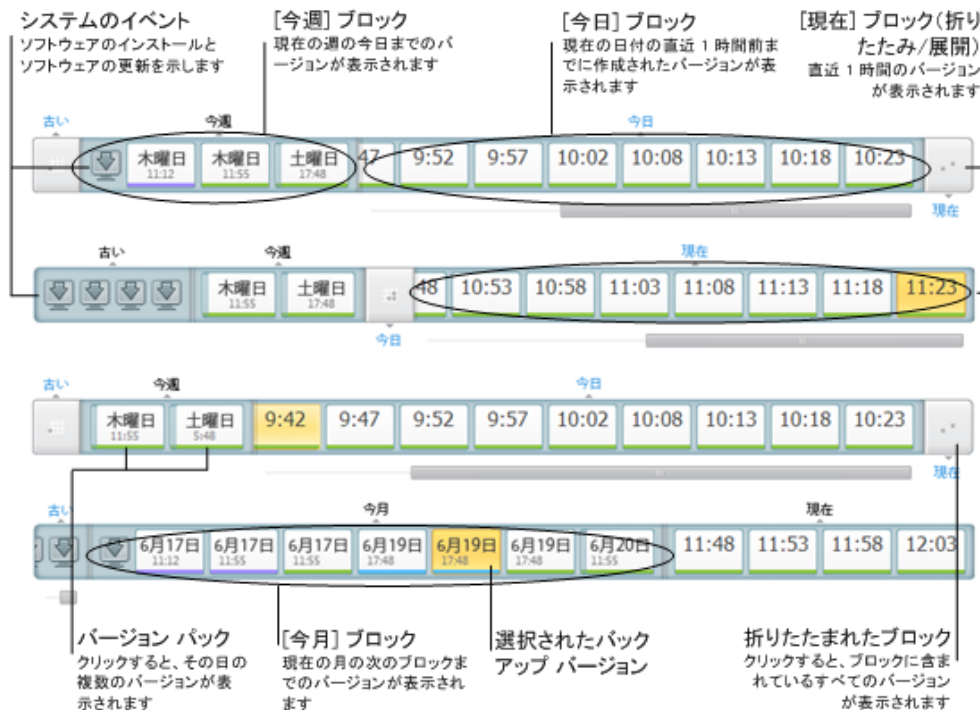
タイム ライン

通常、Acronis バックアップ エクスプローラの画面の下部にあるタイム ラインには、選択したバックアップに保存されているバックアップ バージョンに関する情報が表示されます。タイム ラインを利用すれば、各バックアップ バージョンを簡単に参照でき、データを特定の日時における状態にリカバリできます。

メイン ウィンドウで [マイ バックアップ] リンクをクリックすると、タイム ラインに、存在しているすべてのバックアップが表示されます。また、[ナビゲーション] フィールドのドロップ ダウン リストから [マイ バックアップ] 項目を選択して、すべてのバックアップを表示することもできます。リストを開くには、[ナビゲーション] フィールドの [ホーム] の右側にある矢印アイコンをクリックします。

バックアップ バージョンを示す四角形の下部には、色付きのストライプが表示されます。ストライプの色は、バックアップの種類によって異なります(ディスクのバックアップ: 紫色、ファイルのバックアップ: 青緑色、ノンストップ バックアップ: 緑色、その他のバックアップ(以前のバージョンの Acronis True Image Home 2011 で作成したバックアップなど): 茶色)。

次の図には、タイム ラインの各状態が示されています。タイム ラインの状態は、バックアップの数と、参照する時間間隔によって変化します。



時間間隔 [現在] には、直近 1 時間の間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。ノンストップ バックアップを使用しているときは、バックアップ バージョンが、5 分間隔で作成される場合があります。

時間間隔 [今日] には、現在の日付の開始から直近 1 時間までに作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

時間間隔「週」の表示は [1 週間前] または [今週] のどちらかになります。

今日が月曜日、火曜日、または水曜日の場合、時間間隔「週」の表示は、[1 週間前] となります。その場合、タイム ラインには、前の週に作成されたバックアップ バージョンと、現在の週の開始から今日の開始までの間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

現在の日付が木曜日、金曜日、土曜日、または日曜日の場合、時間間隔「週」の表示は、[今週] となります。その場合、タイム ラインには、現在の週の開始から今日の開始までの間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

時間間隔「月」の表示は、[1 カ月前] または [今月] のどちらかになります。

現在の日付がその月の 1 日から 15 日までの日付の場合、時間間隔「月」の表示名は、[1 カ月前] となります。その場合、タイム ラインには、前の月に作成されたバックアップ バージョンと、現在の月の開始から時間間隔「週」までの間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

今日が月の 16 日から 31 日までの日付の場合、時間間隔「月」の表示は、[今月] となります。その場合、タイム ラインには、現在の月の開始から時間間隔「週」までの間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

時間間隔 [今年] には、現在の年の開始から時間間隔「月」までの間に作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

時間間隔 [古い] では、現在の年の開始より前から作成されたバックアップ バージョンが表示されます。

時間間隔とバックアップ バージョンの操作

時間間隔は、展開されている(バックアップ バージョンの数がタイム ラインに収まる場合)場合と、四角いブロックに折りたたまれている場合があります。時間間隔が展開されている場合、バックアップ バージョンを表す各四角の中に、警告アイコンまたはエラー アイコンが表示されている場合があります。このアイコンは、バージョンの作成中に警告またはエラーがログに書き込まれたことを示しています。

時間間隔「週」、「月」、「年」、または「過去」の間の、ある 1 日に、複数のバックアップ バージョンが作成された場合、そのような日付はバージョン パック アイコンによってタイム ライン上に表示されます。

折りたたまれたブロックにマウスを 0.5 秒以上のせると、時間間隔の開始、終了、およびその時間間隔の中に含まれるバックアップの数に関する情報が、バルーンに表示されます。

展開されたバックアップ バージョンにマウスを 0.5 以上のせると、バックアップ バージョンの詳細がバルーンに表示されます。

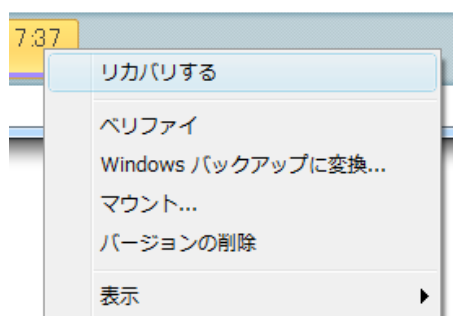
折りたたまれたブロック、またはタイム ラインの上または下に表示されているブロックの名前をクリックすると、対応する時間間隔が展開されます。時間間隔内のバックアップ バージョンの数が多すぎてタイム ラインに収まらない場合、水平スクロール行を使用して、その時間間隔内のバックアップ バージョンを参照できます。

別の折りたたまれたブロックを選択し、新たに展開したブロックのすべてのバックアップ バージョンを表示する領域が足りない場合は、現在展開されているブロックが折りたたまれます。

バックアップ エクスプローラで、バックアップ バージョンをクリックして選択します。

ショートカット メニュー

タイム ラインを右クリックすると、ショートカット メニューが開きます。メニューの内容は、選択した項目によって変わります。



ディスク バックアップ バージョン

- リカバリする
- ベリファイ
- Windows バックアップに変換...
- マウント...
- バージョンの削除

ファイル バックアップ バージョン

- ベリファイ
- バージョンの削除

ノンストップ バックアップ バージョンの場合

- 参照とリカバリ
- バージョンの削除

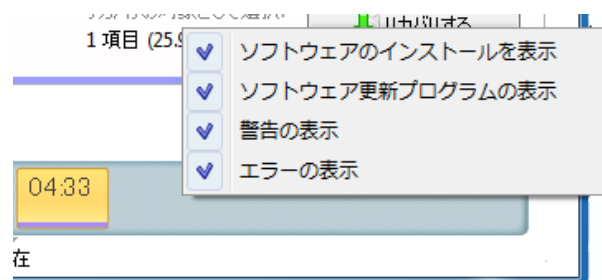
バックアップ バージョン パックとタイム ブロック

折りたたまれたバージョン パックまたは時間間隔内のブロックを右クリックすると、項目が 1 つのショートカット メニューが開きます。

- 展開

タイム ラインに関する追加情報の表示

タイム ラインを設定して、追加情報を表示することも可能です。対応するコマンドは、**[表示]** サブメニューから実行できます。**[表示]** サブメニューを開くには、バックアップ バージョンを右クリックするか、タイム ラインの空き領域を右クリックします。



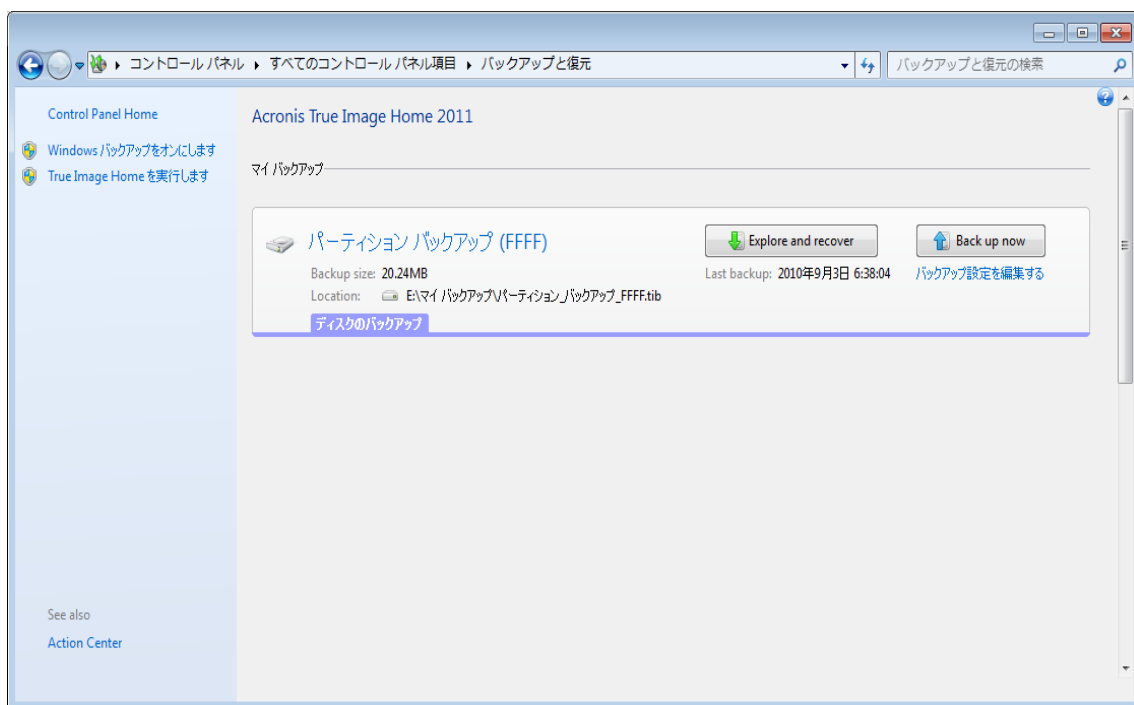
- **[ソフトウェアのインストールを表示]** - この項目を選択すると、タイム ライン上に、コンピュータに新しいプログラムがインストールされた時期を示すアイコンが表示されます。
- **[ソフトウェア更新プログラムの表示]** - この項目を選択すると、タイム ライン上に、Windows およびコンピュータにインストールされているプログラムの更新プログラムを示すアイコンが表示されます。
- **[警告の表示]** - この項目を選択すると、タイム ライン上に、停止したバックアップ バージョン、または警告メッセージを表示して完了したバックアップ バージョン(デフォルトで選択されています)がすべて表示されます。
- **[エラーの表示]** - この項目を選択すると、タイム ライン上に、失敗したバックアップ バージョンと、エラーが発生して終了したバックアップ バージョンが表示されます。

1.3.6 Windows 7 との統合

Acronis True Image Home 2011 は、インストール時に Windows 7 と緊密に統合できます。この統合により、コンピュータの能力を最大限に引き出すことができます。使いやすい新開発のインターフェイスにより、バックアップとリカバリを迅速に開始することができます。

統合により、Acronis True Image Home 2011 の項目が Windows の [スタート] メニューに追加され、タスクバー上の Acronis True Image Home 2011 ボタンのプロパティが変更され、Windows 7 の [コントロール パネル] を使用して Acronis True Image Home 2011 の操作を設定および実行できるようになります。

特筆すべき点として、Windows 7 の [コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] カテゴリの、[バックアップと復元] 項目の [Windows バックアップ] が Acronis True Image Home 2011 によって置き換えられることが挙げられます。バックアップを実行せずに Acronis True Image Home 2011 をインストールすることで、[バックアップと復元] ウィンドウで Acronis ワンクリック バックアップ ツールを使用してバックアップを作成することができます。

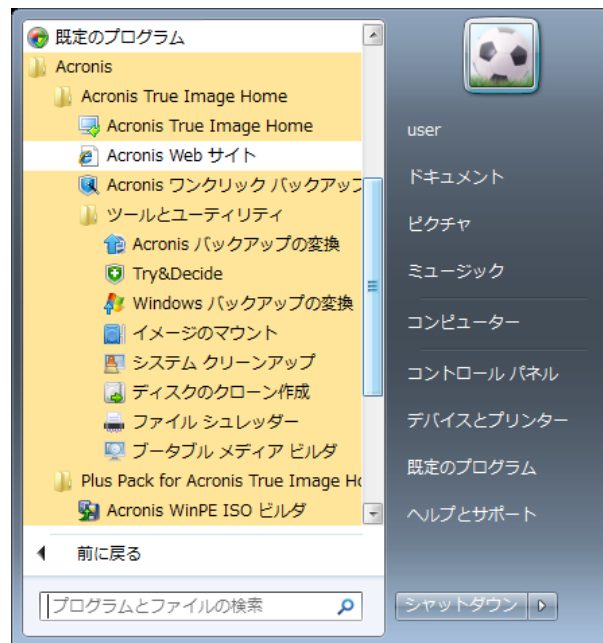


バックアップを作成すると、[バックアップと復元] ウィンドウに、ノンストップ バックアップのボックスと、最も古いディスクまたはパーティションのバックアップのボックスが表示されます。[コントロール パネル] から直接バックアップしたデータをリカバリしたり、バックアップを更新したり、ノンストップ バックアップを一時停止/開始することができます。

Windows バックアップを使用するように設定を戻す場合は、左ペインの [Windows バックアップをオンにします] をクリックします。これにより、[コントロール パネル] の Acronis True Image Home 2011 が [Windows バックアップ] に置き換えられます。

後で、Acronis True Image Home 2011 を再び Windows 7 に統合すると決めた場合、ツールバーの [ヘルプ] をクリックして、[True Image の Windows への統合] を選択します。

さらに、[スタート] メニューに以下の Acronis True Image Home 2011 の項目が追加されます。



これらのメニュー項目により、Acronis True Image Home 2011 を起動することなく、メイン プログラム機能、ツール、およびユーティリティを使用することができます。

2 さまざまな処理

本ユーザーズ ガイドの紙面は限られているため、特定のタスクの実行方法を参照することが難しい場合もあるでしょう。

このセクションでは、よく実行されるタスクの一覧と、本ユーザーズ ガイドの関連箇所を示します。

以下の処理についての説明を見る場合は、対応するページ番号(ヘルプを表示している場合はリンク)をクリックしてください。

- 障害からシステム全体を保護する (106 ページ参照)
- コンピュータを起動できないときにシステムをリカバリする (76 ページ参照)
- 写真、財務関連文書、音楽、ホーム ビデオなどをバックアップする (44 ページ参照)
- 毎日の作業を継続的に保護する (50 ページ参照)
- 電子メールをバックアップする (47 ページ参照)
- ブータブル レスキュー メディアを作成する (140 ページ参照)
- レスキュー メディアから起動した場合に適したビデオ モードを選択する (114 ページ参照)
- 必要なときにレスキューメディアを確実に使用する (113 ページ参照)
- リスクを回避しながらシステムに対して変更を行う (117 ページ参照)
- Acronis セキュア ゾーンを作成して使用する (151 ページ参照)
- 古いバックアップを新しいハードウェアにリカバリする、またはシステムをあるコンピュータから別のコンピュータに移行する (92 ページ参照)
- ディスク ドライブのクローンを作成する (159 ページ参照)
- 新しいハードディスクを追加して、パーティションを設定する (166 ページ参照)
- 自分のデータに他のユーザーがアクセスできないことを確認する (64 ページ参照)
- バックアップを自動的に更新する([バックアップ スキーム] (60 ページ参照) または [スケジュール設定] (124 ページ参照))
- リカバリする必要があるファイルが格納されたバックアップを検索する (126 ページ参照)

3 データのバックアップ

Acronis True Image Home 2011 は、IT の専門家をも満足させる洗練されたバックアップ機能を豊富に備えています。それらのバックアップ機能によって、ディスク(パーティション)、ファイル、および電子メールをバックアップできます。最適なバックアップ機能を 1 つ選んで使用することも、すべてのバックアップ機能を使用することも可能です。以降の各セクションでは、これらのバックアップ機能について詳しく説明します。

セクションの内容

ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージの違い	38
完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ	39
パーティションとディスクのバックアップ	41
ファイルやフォルダのバックアップ	44
電子メールのバックアップ	47
Acronis ノンストップ バックアップの使用	49
バックアップの予備コピーの作成	54
バックアップの保存先の分散	55
既存のバックアップをリストに追加する	57
バックアップからの項目の除外	57
バックアップ オプション	59
バックアップのベリファイ	72
バックアップ バージョンの統合	73
バックアップ設定のクローンの作成	74

3.1 ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージの違い

バックアップとは、ディスクに保存されている選択したファイル、フォルダ、または情報のコピーです。

ファイルとフォルダをバックアップする場合、データとフォルダ ツリーのみが圧縮されて保存されます。

ディスク/パーティションのバックアップは、ファイルとフォルダのバックアップとは異なります。Acronis True Image Home 2011 では、ディスクのスナップショットがセクタ単位で保存されます。このスナップショットには、オペレーティング システム、レジストリ、ドライバ、ソフトウェア アプリケーションのデータ ファイル、およびユーザーに対して非表示のシステム領域が含まれます。この処理を「ディスク イメージの作成」といい、作成されたバックアップは「ディスク/パーティション イメージ」といいます。

Acronis True Image Home 2011 ではデフォルトで、(サポート対象のファイル システムの)データを含むハードディスク部分のみが保存されます。

また Acronis True Image Home では、スワップ ファイル情報はバックアップされません。Acronis True Image Home では、Windows XP 以降の pagefile.sys ファイルおよび hiberfil.sys ファイル(コンピュータが休止状態になる際の RAM の内容を保持するファイル)はバックアップされません。その結果、イメージ ファイルのサイズが小さくなり、イメージ ファイルの作成とリカバリに要する時間が短縮されます。

ただし、**[セクタ単位でバックアップする]** オプションを使用してハードディスクの全セクタをイメージに含めることができます。

パーティション イメージには(隠しファイルとシステム ファイルを含む)すべてのファイルとフォルダ、ブート レコード、および FAT(ファイル アロケーション テーブル)が含まれます。また、ルート ディレクトリのファイルとマスタ ブート レコード(MBR)のあるハードディスクのトラック 0 も含まれます。

ディスク イメージには、すべてのディスク パーティションのイメージと、マスタ ブート レコード(MBR)が含まれるトラック 0 のイメージが含まれます。

Acronis True Image Home 2011 のバックアップ ファイルの拡張子は、デフォルトですべて「.tib」になります。この拡張子を変更しないでください。

ファイルとフォルダを、ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージの両方からリカバリできることを知っておくことは重要です。リカバリするには、イメージを仮想ディスクとしてマウントするか(「イメージのマウント (188 ページ)」を参照)、Acronis バックアップ エクスプローラを使用して、ディスク/パーティションのバックアップからリカバリする必要があるファイルやフォルダを選択します。

3.2 完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ

Acronis True Image Home 2011 には次の 3 つのバックアップ方法が用意されています。

- 1) **完全**: バックアップ作成時点でのすべてのデータが含まれます。完全バックアップは、増分バックアップや差分バックアップの基になるデータとなります。スタンドアロンのバックアップとしても使用できます。
- 2) **増分**: 直前のバックアップの作成以降に変更されたファイルのみが含まれます。
- 3) **差分**: 直前の完全バックアップの作成以降に変更されたファイルのみが含まれます。

バックアップ方法の使用について、次の 3 つの方法のいずれかを選択することをお勧めします。

「**完全**」- スタンドアロンの完全バックアップは、システムを最初の状態に戻すことが多い場合や、複数のバックアップ ファイルを管理することが望ましくない場合に最適なソリューションです。

「**増分**」- 頻繁にバックアップする場合や特定の時点に戻したい場合に非常に役立ちます。最初に完全バックアップを作成し、その後は毎日、増分バックアップを作成する場合は、完全バックアップを毎日作成する場合と同じ結果を得ることができます。増分イメージのサイズは、完全イメージまたは差分イメージと比べてかなり小さくなります。

このバックアップ シナリオでは、週単位のシステムの完全バックアップと、直前のバックアップの作成以降に変更されたデータを対象とする日単位のバックアップとで構成されることがあります。

この場合、日単位のバックアップに必要なストレージ領域と時間は減少しますが、システム クラッシュ後のリカバリに必要な作業は多くなります。たとえば、木曜日にクラッシュが発生した場合、直前の完全バックアップをリカバリした後に、月曜日、火曜日、および水曜日の増分バックアップもリカバリする必要があります。

「**差分**」- 前述の 2 つの方法の中間的な方法です。条件が「完全」または「増分」の中間的である場合に便利です。各差分バックアップには、直前の完全バックアップの作成以降に変更されたすべてのファイルが含まれます。「完全」よりもかかる時間と領域は少ないですが、「増分」よりは多く

なります。利点は、「増分」よりもリカバリが簡単(直前の完全バックアップと直前の差分バックアップをリカバリすればよい)であるということです。

例と推奨事項

目的のバックアップ方法を選択するには、カスタム バックアップ スキームを設定する必要があります。詳細については、「カスタム スキーム (62 ページ)」を参照してください。

変更するファイルの大きさと変更頻度に応じてバックアップ プロジェクトごとに方法を選択できます。たとえば、増分バックアップが開始される前にほとんどすべての格納ファイルが変更されることが予想される場合、その増分バックアップのサイズは、完全バックアップのサイズとほぼ同じになるでしょう。この場合は「完全」が簡単なリカバリの方法です。

「差分」バックアップ シナリオでは、同じ週単位のシステムの完全バックアップと、直前の完全バックアップ以降に変更されたファイルの毎日のバックアップを使用します。

このスキームでは、時間とともに使用されるストレージ領域が増大していきませんが、リカバリで使用するバックアップの種類は 2 つだけです。直前の完全バックアップと前日の差分バックアップです。リカバリが簡単であるということと、ほとんどのバックアップが夜間に実行されるという理由で、多くのユーザーがこの方法を選択しています。

これらの例における、2 つのバックアップ シナリオの唯一の違いは、次のとおりです。

増分バックアップでは必要なストレージ領域は少なく、差分バックアップではストレージ領域を多く必要とします。

増分バックアップでは、リカバリを完了するには、その週に取得したすべてのバックアップを使用する必要がありますが、差分バックアップでは、必要なものは常に最大 2 つのバックアップのみです。

ディスクを最適化した後に、増分バックアップ、または差分バックアップを作成すると、通常に比べかなり大きなサイズになります。これは、ディスクの最適化プログラムによってディスク上のファイルの位置が変更され、バックアップにこれらの変更が反映されるためです。このため、ディスク最適化後に、完全バックアップを再度作成することをお勧めします。

増分バックアップ バージョンを失ったり、それが破損すると、それ以降のすべての増分バックアップ バージョンが使用できなくなります。

バックアップとバックアップ バージョンの削除

不要になったバックアップやバックアップ バージョンは削除することができます。Acronis True Image Home 2011 は、バックアップに関する情報をメタデータ情報データベースに保存します。

このため、不要なバックアップ ファイルを Windows エクスプローラで削除しても、そのバックアップに関する情報はデータベースからは削除されず、Acronis True Image Home 2011 からはそれらがまだ存在しているものと見なされます。

その結果、既に存在していないバックアップに対してもプログラムが処理を実行しようとして、エラーが発生します。このため、必要のなくなったバックアップやバックアップ バージョンを削除するときは、必ず Acronis True Image Home 2011 のツールを使用してください。

バックアップ全体を削除する手順は、次のとおりです。

メイン画面で、該当するバックアップ ボックスを参照して **[処理]** をクリックし、**[バックアップを削除する]** をクリックします。

バックアップ全体を削除すると、すべてのバージョンも削除されます。

特定のバックアップ バージョンを削除する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で、該当するバックアップ ボックスを参照して **[参照とリカバリ]** をクリックし、**[すべてのバージョンを参照する]** をクリックします。
2. バックアップ エクスプローラで、削除するバージョンを右クリックして、**[バージョンの削除]** をクリックします。

バックアップ バージョンを削除する場合は、削除するバージョンに依存するバージョンが存在する可能性があることに注意してください。この場合、依存するバージョンからのデータ リカバリは不可能になるため、依存するバージョンも削除されます。

- **完全バックアップ バージョンを削除した場合** - 次の完全バージョンまでの、後続のすべての増分バージョンと差分バージョンも削除されます。
- **増分バックアップ バージョンまたは差分バックアップ バージョンを削除した場合** - 次の完全バージョンまたは差分バージョンまでの、後続のすべての増分バージョンも削除されます。

3.3 パーティションとディスクのバックアップ

イメージ バックアップは非常に簡単に実行できます。

a) バックアップするパーティションのチェックボックスをオンにします。ディスクにパーティションが複数存在しており、そのディスク全体をバックアップしたい場合は、**[ディスク モードに切り替える]** をクリックし、ディスクのチェックボックスをオンにします。パーティション選択表示に戻すには、**[パーティション モードに切り替える]** をクリックします。

b) バックアップ先を選択します(デフォルトのバックアップ先のままにするか、現在のバックアップ先の右側にある下矢印をクリックして **[参照...]** を選択し、任意のバックアップ先を参照することが可能です)。

c) **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

もちろん、バックアップのスケジュールを設定することも、デフォルトのバックアップ オプションを変更することも、バックアップからファイルおよびフォルダを除外することも可能です。バックアップを設定するには、該当するリンクをクリックします。

パーティション表示とディスク表示の切り替え
表示をパーティションとディスク全体で切り替えることができます

バックアップ対象(バックアップ ソース)
バックアップするパーティションまたはディスク全体を選択します

除外対象
バックアップ ソースからファイルを除外できます

保存先
ここで指定した場所にバックアップ ファイルが保存されます

ディスク バックアップ オプション
その他の設定を行うにはここをクリックします

バックアップ名ボックス
バックアップの名前を入力します

スケジュールとスキーム
バックアップを最新の状態に保ったり、バックアップ方針を最適化したりできます

[今すぐバックアップ] ボタン
すべての設定が終了したら、ここをクリックします

以降の各手順では、利用可能なイメージ バックアップ設定値の大部分を使用してバックアップを構成する方法について説明します。

1. バックアップするパーティション(複数可)のチェックボックスをオンにします。ディスクにパーティションが複数存在しており、そのディスク全体をバックアップしたい場合は、[ディスク モードに切り替える] をクリックし、ディスクのチェックボックスをオンにします。パーティション選択表示に戻すには、[パーティション モードに切り替える] をクリックします。
2. 特定のファイルやフォルダをバックアップから除外できます。たとえば、DVD の動画をデータパーティション上のフォルダに移動した場合を考えてみましょう。動画は大量のストレージを使用しますし、その DVD を実際に保有しているため、バックアップは無意味であると考えられます。フォルダを除外するには、[除外] の右側にある [追加] リンクをクリックして、そのフォルダを除外される項目のリストに追加します。

3. バックアップ先を選択します(デフォルトのバックアップ先でよければそのままにするか、現在のバックアップ先の右側にある下矢印をクリックして **[参照...]** を選択し、任意のバックアップ先を参照することが可能です)。

バックアップ先がリムーバブル メディア(USB スティック、BD、DVD など)である場合、**[このメディアをブータブルにする]** チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、リムーバブル メディア上に起動可能なリカバリ環境が作成され、Acronis True Image Home 2011 のスタンドアロン版が追加されます。このリムーバブル メディアを使用して、ベアメタルシステムまたはクラッシュしたコンピュータから Acronis True Image Home 2011 を実行できるようになります。

システム パーティションのバックアップをダイナミック ディスクに保存することは避けるようにしてください。システム パーティションは Linux 環境でリカバリされるからです。Linux と Windows では、ダイナミック ディスクの動作が異なります。その結果、リカバリ中に問題が発生する可能性があります。

4. バックアップをスケジュールに基づいて実行する必要がある場合、**[スケジュール]** の右側にあるリンクをクリックして、スケジュール設定をオンにし、目的のスケジュールを設定します。詳細については、「**スケジュール設定 (124 ページ)**」を参照してください。
5. 該当するリンクをクリックして、デフォルトのバックアップ スキームを変更することもできます。詳細については、「**バックアップ スキーム (60 ページ)**」を参照してください。
6. バックアップに対して特定の名前を割り当てたい場合は、**[バックアップ名]** フィールドにデフォルト名とは異なる名前を入力します。

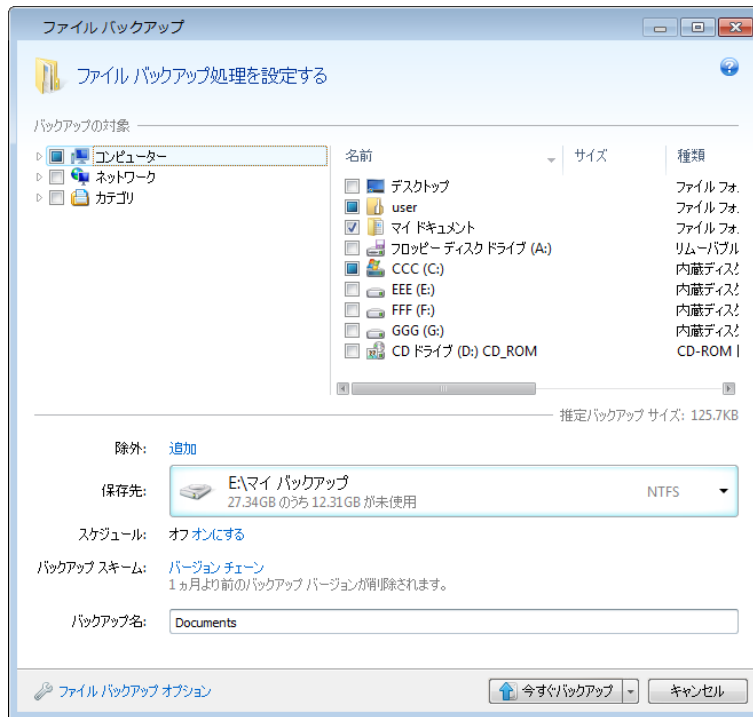
役に立つ情報をバックアップ名に追加することもできます。その場合は、保存先の右側にある下矢印をクリックして、**[参照...]** をクリックします。**[ファイル名]** の行の右側のフィールドに追加する項目を選択します。

- 日付を追加 - バックアップ作成日が追加されます。
- 時間を追加 - バックアップ作成時刻が追加されます。
- ユーザー名を追加 - 現在のユーザー名が追加されます。
- コンピュータ名を追加 - コンピュータ名が追加されます。
- タスク名を追加 - バックアップを含むタスクの名前が追加されます。
- タスク実行番号を追加 - タスク実行のシーケンス番号が追加されます。

7. 構成中のバックアップにオプションを設定するには、**[ディスク バックアップ オプション]** をクリックします。たとえば、データ ディスクに機密情報が含まれていて、この情報を暗号化する場合があります。バックアップの作成直後にベリファイすることを選択できますが、ベリファイは後で実行することもできます。詳細については、「**バックアップ オプション (59 ページ)**」を参照してください。
8. 必要に応じてバックアップを設定する場合は、**[今すぐバックアップ]** ボタンをクリックして、即座にバックアップを実行できます。後で、あるいはスケジュールに基づいてバックアップを実行したい場合は、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウン リストで **[後で実行]** を選択すると、設定した内容を保存できます。

3.4 ファイルやフォルダのバックアップ

ファイルやフォルダをバックアップするには、メイン画面で **[ファイル バックアップ]** をクリックします。**[ファイル バックアップ]** ウィンドウが開きます。



このバックアップを使用してフォルダをバックアップしてみましょう。

1. **[バックアップの対象]** 領域内のディレクトリ ツリーでそのフォルダを選択します。右側には、フォルダの内容と、選択されたすべてのファイルおよびサブフォルダが表示されます。バックアップ不要のファイルがある場合は、ここでそのファイルの選択を解除します。
2. バックアップ先を選択します (現在のバックアップ先の右側にある下矢印をクリックして **[ユーザー 一定義...]** を選択した後に、デフォルトのバックアップ先のままにするか、または任意のバックアップ先を参照することが可能です)。
3. デフォルトでは、バックアップに対して、バックアップ対象のフォルダの名前が割り当てられますが、別の名前を割り当てたい場合は、**[バックアップ名]** フィールドに名前を入力します。
4. バックアップを即座に実行したい場合は、**[今すぐバックアップ]** ボタンをクリックします。バックアップの開始を最大 6 時間まで遅らせることも可能です。その場合は、このボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウン リストから遅らせる時間を選択します。

デフォルトのバックアップ オプションを変更する必要がある場合は、**[ファイル バックアップ オプション]** をクリックして、必要なオプションを設定します。該当するリンクをクリックして、デフォルトのバックアップ スキームを変更することもできます。詳細については、「バックアップ スキーム (60 ページ)」を参照してください。

スケジュールに基づいてバックアップを実行したい場合は、**[オンにする]** リンクをクリックして、スケジュールを設定します (詳細については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください)。スケジュールに基づいてバックアップを実行するには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウン リストで **[後で実行]** を選択します。設定が行われたバックアップ

クアッブは、スケジュールに従って実行されます。後で、メイン画面からバックアップを手動で開始することも可能です。

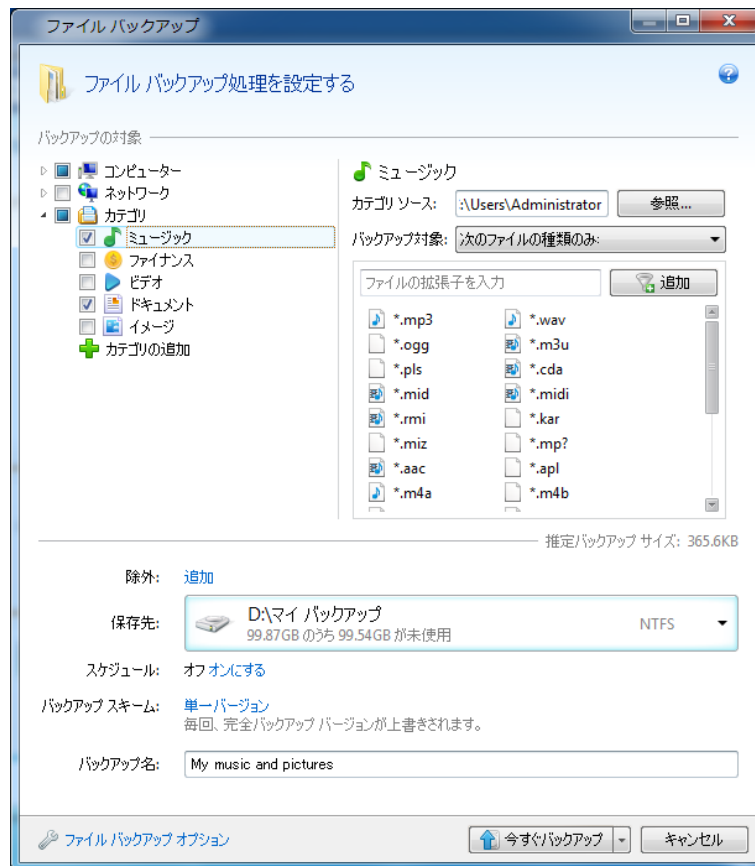
カテゴリごとにファイルをバックアップすることが可能です。ファイル カテゴリ(複数可)を選択すると、コンピュータのハードディスク ドライブ上で発見された、関連する種類のすべてのファイルのバックアップが自動的に選択されます。選択できるデフォルトのカテゴリは、**[ドキュメント]**、**[ファイナンス]**、**[イメージ]**、**[ミュージック]**、および **[ビデオ]** です。また、ファイルやフォルダが含まれるカスタム カテゴリを追加することもできます。新しいカテゴリが保存され、上記のカテゴリと共に表示されます。カスタムやデフォルトのファイル カテゴリの内容は変更でき(カテゴリの編集)、カテゴリを削除することも可能です。デフォルトのファイル カテゴリは削除できません。

隠しファイルやフォルダ、システム ファイルやフォルダ、ユーザーが指定した条件と一致するファイルをバックアップから除外できます。除外の条件を追加するには、**[除外する内容]** をクリックします。条件の追加には、一般的な Windows のワイルドカード文字を使用できます。詳細については、「バックアップからの項目の除外 (57 ページ)」を参照してください。

3.4.1 データ カテゴリ

カテゴリごとにファイルをバックアップすることが可能です。ファイル カテゴリ(複数可)を選択すると、コンピュータのハードディスク ドライブ上で発見された、関連する種類のすべてのファイルのバックアップが自動的に選択されます。選択できるデフォルトのカテゴリは、**[ドキュメント]**、**[ファイナンス]**、**[イメージ]**、**[ミュージック]**、および **[ビデオ]** です。また、ファイルやフォルダが含まれるカスタム カテゴリを追加することもできます。新しいカテゴリが保存され、上記のカテゴリと共に表示されます。カスタムやデフォルトのファイル カテゴリの内容は変更でき(カテゴリの編集)、カテゴリを削除することも可能です。デフォルトのファイル カテゴリは削除できません。

カスタム データ カテゴリを追加するには、[カテゴリの追加] をクリックします。カスタム カテゴリのデフォルト名を変更するには、その名前をダブルクリックして、新しい名前を入力します。[参照...] ボタンをクリックして、新しいカテゴリのデータ ソース(フォルダなど)を選択します。デフォルトでは、新しいカテゴリには、ソースのデータがすべて含まれますが、フィルタを適用して、バックアップするまたはしない特定のファイルの種類を選択することができます。



フィルタを設定するには、[次のファイルの種類のみ] または [次のファイルの種類を除くすべてのデータ] のいずれかを選択します。

選択したフィルタに対してファイルの種類を追加するには、適切なフィールドにその拡張子を 1 つずつ入力してから、[追加] をクリックします。

追加したファイルの種類は、ウィンドウの下部に表示されます。

3.4.2 zip 形式のサポート

tib 形式の代わりに zip 形式を使用すると、Acronis True Image Home 2011 を使用しなくても、任意の場所にあるバックアップからファイルを取り出すことができます。

たとえば、ファイルを USB スティックにバックアップし、Acronis True Image Home 2011 がインストールされていない自宅のノートパソコンから、バックアップされたファイルを取り出すことができます。これは、最も広範に利用されているオペレーティング システム (Microsoft Windows と Mac OS X) に zip ファイル形式のサポートが組み込まれているからです。

Windows に組み込まれている zip ファイルのサポートには、マルチボリュームの zip アーカイブの処理、サイズが 4 GB を超える zip バックアップ、4 GB を超えるファイルが含まれる zip バックアップは含まれないことにご注意ください。

zip 形式は、ファイルやフォルダをバックアップする場合や、バックアップの予備コピーを作成する場合に使用できます。

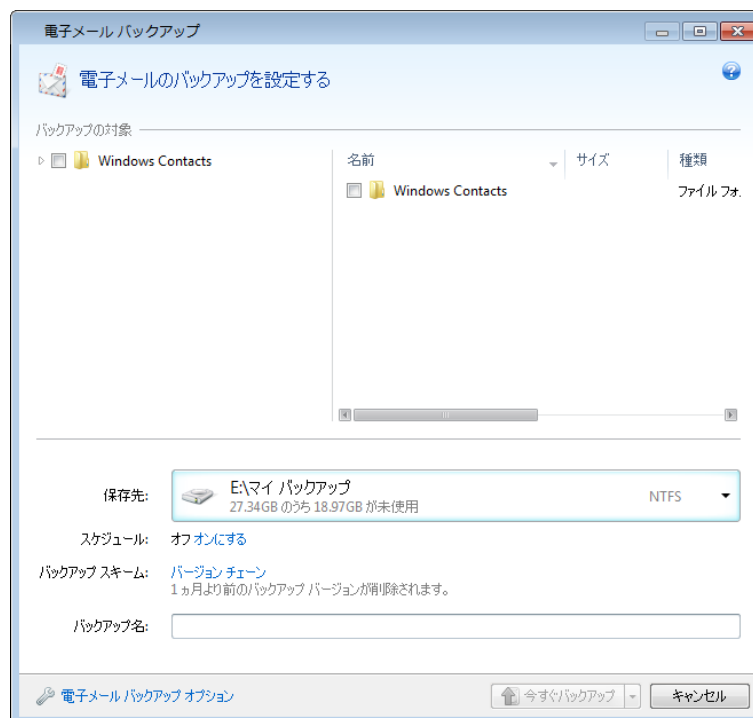
Acronis True Image Home 2011 では、tib 形式で利用可能なほとんどの機能を zip 形式でも利用できます。バックアップのスケジュール設定、zip 形式のバックアップのベリファイ、zip 形式のバックアップからのファイルやフォルダのリカバリ、増分バックアップや差分バックアップの作成などを行うことができます。

ただし、パスワード保護および暗号化は使用できません。

Acronis True Image Home 2011 でリカバリとベリファイを行うことができるのは、本ソフトウェアで作成した zip 形式のバックアップのみです。ファイル アーカイブ作成プログラムで作成された zip アーカイブの場合、Acronis True Image Home 2011 を使用してリカバリと検証を行うことはできません。

3.5 電子メールのバックアップ

Acronis True Image Home 2011 では、Microsoft Outlook 2000、2002、2003、2007、2010、Microsoft Outlook Express、Windows メール、Windows Live のメッセージ、アカウント、設定をバックアップすることができます。電子メール バックアップは、ファイル レベル バックアップの一部であり、バックアップ対象のフォルダがあらかじめ定義されているので、ユーザーによる選択操作は最小限です。ただし、必要であれば、Microsoft Outlook のコンポーネントやフォルダを個別に選択することもできます。



選択できる項目は次のとおりです。

- .PST/.DBX データベース ファイルに格納されているメッセージ

- 電子メール アカウント

Microsoft Office Outlook 2000、2002、2003、2007、2010 の場合

- メール フォルダ
- 予定表
- 連絡先
- 仕事
- メモ
- 署名
- ニュース フォルダ
- ユーザー設定
- アドレス帳

Microsoft Outlook Express の場合

- メール フォルダ
- アドレス帳([Windows アドレス帳] を選択)

Acronis True Image Home 2011 では、Microsoft Outlook の IMAP(インターネット メッセージ アクセス プロトコル)メール フォルダのバックアップも可能です。つまり、メール サーバー上に保存されているフォルダをバックアップすることができます。Microsoft Outlook Express および Windows メールの場合は、ローカルの電子メール フォルダのバックアップのみが可能です。

Acronis True Image Home 2011 では、バックアップの種類として **[メールのバックアップ]** を選択したときにバックアップされる項目の中の Unicode 文字はサポートされないことに注意してください。

電子メールをバックアップする手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で **[電子メールのバックアップ]** をクリックします。**[電子メールのバックアップ]** ウィンドウが開きます。
2. **[バックアップの対象]** 領域で、バックアップしたいメール項目を選択します。右側に、項目の内容と選択されたすべての副項目が表示されます。バックアップ不要の副項目がある場合は、ここでその副項目の選択を解除します。
3. バックアップ先を選択します(デフォルトのバックアップ先のままにするか、現在のバックアップ先の右側にある下矢印をクリックして **[参照...]** を選択し、任意のバックアップ先を参照することが可能です)。
4. バックアップに対してデフォルトの名前が割り当てられますが、別の名前を割り当てたい場合は、**[バックアップ名]** フィールドに名前を入力します。
5. バックアップを即座に実行したい場合は、**[今すぐバックアップ]** ボタンをクリックします。バックアップの開始を最大 6 時間まで遅らせることも可能です。その場合は、このボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウン リストから遅らせる時間を選択します。

Windows のアカウント名とパスワードを指定する必要があります。これは、機密性を確保するためです。指定したアカウントの電子メール メッセージと設定だけがバックアップされ、その他のアカウントの電子メール データはバックアップされません。

認証情報を指定する手順は、次のとおりです。

- 適切なフィールドにユーザー名を入力します。

- 適切なフィールドにパスワードを入力します。パスワードを入力しなかったり、間違ったパスワードを入力してしまった場合は、認証情報が無効であるというメッセージが表示されます。

デフォルトのバックアップ オプションを変更する必要がある場合は、[電子メール バックアップ オプション] をクリックして、必要に応じてオプションを設定します。該当するリンクをクリックして、デフォルトのバックアップ スキームを変更することもできます。詳細については、「バックアップ スキーム (60 ページ)」を参照してください。

スケジュールに基づいてバックアップを実行したい場合は、[オンにする] リンクをクリックして、スケジュールを設定します (詳細については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください)。スケジュールに基づいてバックアップを実行するには、[今すぐバックアップ] ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウン リストで [後で実行] を選択します。設定を行ったバックアップは、スケジュールに従って実行されます。後で、メイン画面からバックアップを手動で開始することも可能です。

3.6 Acronis ノンストップ バックアップの使用

Acronis ノンストップ バックアップを利用すると、ディスクとファイルを簡単に保護することができます。ディスク全体や個々のファイル、別のバージョンをリカバリすることができます。

Acronis ノンストップ バックアップの主要な目的はデータ(ファイル、フォルダ、連絡先など)の継続的な保護ですが、パーティションの保護に使用することもできます。パーティション全体の保護を選択すると、イメージ リカバリ手順を使用して、パーティション全体をリカバリできるようになります。

外付けハード ドライブ上のデータの保護に Acronis ノンストップ バックアップを使用することはできません。

動作

Acronis ノンストップ バックアップを起動すると、保護対象として選択されているデータの、最初の完全バックアップが実行されます。Acronis ノンストップ バックアップは保護対象のファイル(開いているファイルを含む)の変更を 5 分ごとに保存します。そのため、システムを保存された時点とまったく同じ状態にリカバリできます。

通常、保護対象データの各状態は、24 時間 5 分間隔でバックアップされます。

それよりも古いバックアップは日単位で統合され、過去 30 日分が保持されます。また、週単位のバックアップは、ノンストップ バックアップ データの保存先に空きがある限り保持されます。

Acronis ノンストップ バックアップでシステム パーティション以外のパーティションを保護していて、前回のバックアップから 5 分間変更が行われなかった場合は、次のスケジュールされたバックアップはスキップされます。Acronis ノンストップ バックアップは、データが大幅に変更されるまで待機し、データが大幅に変更されたことを検出すると新しい増分バックアップを作成します。その場合、実際の間隔は 5 分間より長くなります。また、たとえば、1 時間ずっと「保存」の操作を行わずに Word で作業している場合は、Word ドキュメントの変更は 5 分ごとにはバックアップされません。Acronis True Image Home 2011 はディスク上のファイルの変更のみを確認し、メモリ内は確認しないためです。

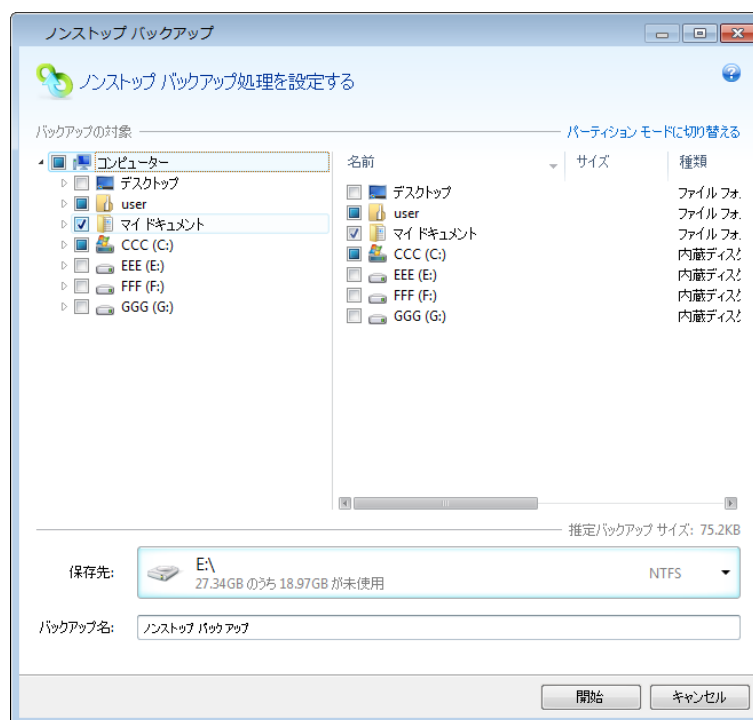
統合は、毎日深夜 00:00 から 01:00 の間に実行されます。最小の統合は、ノンストップ バックアップが最低 24 時間動作した後に実行されます。たとえば、7 月 12 日の午前 10:00 にノンストップ バックアップを起動したとします。この場合、初回の統合は 7 月 14 日の午前 00:00 から 01:00 の間に実行されます。その後、プログラムは毎日同じ時間にデータを統合します。午前

00:00 から 01:00 の間にコンピュータの電源が入っていない場合は、コンピュータを起動したときに統合が開始されます。ノンストップ バックアップを一時的に無効にした場合は、次に有効したときに統合を開始します。

このバックアップ頻度ではストレージはすぐにいっぱいになると思われるかも知れません。しかし、Acronis True Image Home 2011 は「デルタ」と呼ばれるもののみをバックアップするため、その心配はありません。つまり、変更されたファイルがすべてバックアップされるのではなく、古いバージョンと新しいバージョンの差分だけがバックアップされるのです。たとえば、Microsoft Outlook または Windows メールを使用している場合、pst ファイルのサイズが非常に大きい場合があります。また、電子メールを受信または送信するたびにファイルの内容が変わります。変更があるたびに pst ファイル全体をバックアップすると保存領域を消費しすぎるため、Acronis は最初にバックアップしたファイルと共に、変更された部分のみをバックアップします。

3.6.1 データの継続的な保護

ノンストップ バックアップを使用してデータを保護する方法をみましょう。



データを継続的に保護する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で **[ノンストップ バックアップ]** をクリックします。 **[ノンストップ バックアップ]** ウィンドウが開きます。
2. **[バックアップの対象]** 領域内のディレクトリ ツリー上で、ノンストップ バックアップによって保護する項目を選択します。右側には、項目の内容と、選択されたすべてのファイルおよびサブフォルダが表示されます。ディレクトリ ツリーでは、保護する必要がないファイルの選択を解除することもできます。より多くの項目を保護する必要がある場合は、同じ方法でディレクトリ ツリー上の項目をさらに選択します。
3. ノンストップ バックアップの保存先を選択します (現在のバックアップ先をクリックして **[ユーザー定義...]** を選択した後に、デフォルトのバックアップ先のままにするか、または任意のバックアップ先を参照することが可能です)。ノンストップ バックアップ ストレージの選択および管理の

詳細については、「Acronis ノンストップ バックアップ ストレージ (53 ページ)」を参照してください。

リムーバブル メディア (たとえば、外付けハードディスク ドライブ) をノンストップ バックアップの保存先として選択すると、**[このメディアをブータブルにする]** チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、リムーバブル メディア上に起動可能なリカバリ環境が作成され、Acronis True Image Home 2011 のスタンドアロン版が追加されます。リムーバブル メディアから Acronis True Image Home 2011 を実行し、クラッシュして起動できないコンピュータ上でも、バックアップされたデータをリカバリできるようになります。

4. ノンストップ バックアップに対してデフォルトの名前が付けられますが、別の名前を割り当てたい場合は、**[バックアップ名]** フィールドに名前を入力します。
5. 選択したデータの保護を直ちに開始するには、**[開始]** ボタンをクリックします。

指定した基準と一致するファイルを保護対象から除外することができます。除外の条件を追加するには、**[除外する内容]** をクリックします。条件の追加には、一般的な Windows のワイルドカード文字を使用できます。詳細については、「バックアップからの項目の除外 (57 ページ)」を参照してください。

また、ノンストップ バックアップでは、対応するチェックボックスをオンにすることによって電子メールデータを保護することもできます。

なお、ノンストップ バックアップの設定は、いつでも変更が可能です。設定を変更するには、メイン画面で **[ノンストップ バックアップ設定の編集]** をクリックします。**[保存]** ボタンをクリックして編集済みのノンストップ バックアップの設定を保存すると、直ちにノンストップ バックアップが新しい設定での動作を開始します。ノンストップ バックアップの保存先を変更した場合、新しいノンストップ バックアップ ストレージ上に、保存対象のデータの新しい完全バックアップが作成されます。

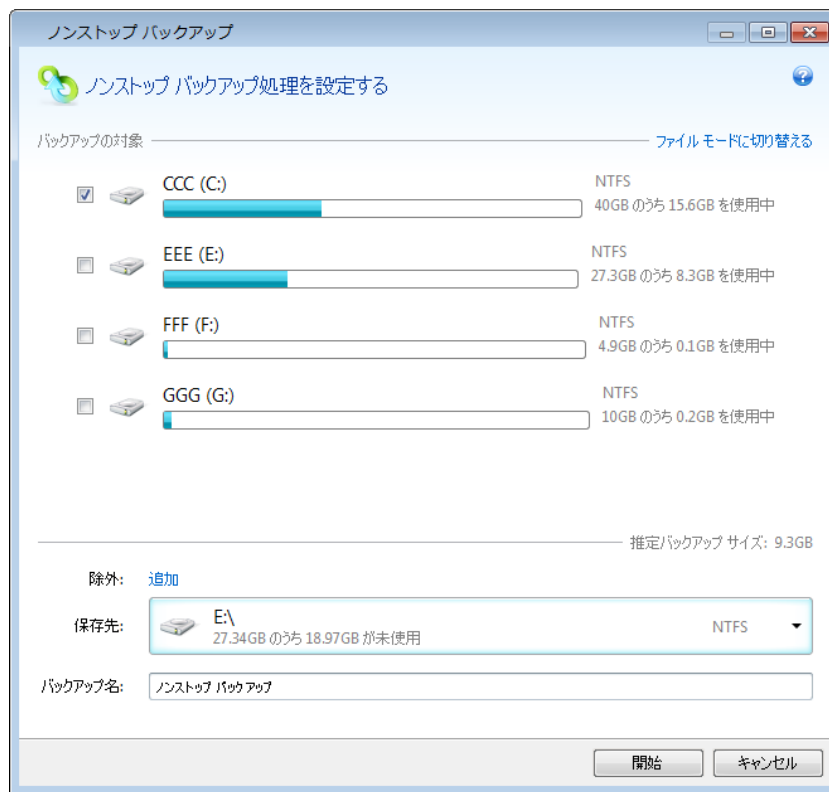
また、ファイルやフォルダをノンストップ バックアップの保存対象にするには、Windows エクスプローラで選択し、選択されている項目を右クリックすると表示されるショートカット メニューで **[継続的に保護する]** を選択します。

3.6.2 システムの継続的な保護

Acronis ノンストップ バックアップを使用して、システム パーティション全体を保護することも可能です。保存領域が十分にあれば、Acronis ノンストップ バックアップが複数のパーティションの保護を同時に行うことができます。

システム パーティションを継続的に保護する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で **[ノンストップ バックアップ]** をクリックします。 **[ノンストップ バックアップ]** ウィンドウが開きます。



2. **[ノンストップ バックアップ]** ウィンドウの右上隅にある **[パーティション モードに切り替える]** をクリックします。ローカル ハードディスク上に存在するパーティションが、**[バックアップの対象]** 領域に表示されます。該当するチェックボックスをオンにして、システム パーティションを選択します。
3. ノンストップ バックアップの保存先を選択します(デフォルトのバックアップ先のままにするか、現在のバックアップ先をクリックし、ドロップダウン リストから希望するバックアップ先を選択することができます)。
保護対象のパーティションを、ノンストップ バックアップ ストレージの保存先として選択することはできません。
4. ノンストップ バックアップに対してデフォルトの名前が付けられますが、別の名前を割り当てたい場合は、**[バックアップ名]** フィールドに名前を入力します。
5. 選択したパーティションの保護を直ちに開始するには、**[開始]** ボタンをクリックします。

ノンストップ バックアップと Try&Decide を同時に有効にすることはできません。Try モードがオンの場合に **[開始]** ボタンをクリックすると、Try モードでの作業中はノンストップ バックアップを開始できないことを示すメッセージが表示されます。ノンストップ バックアップを開始するには、Try&Decide セッションを終了する必要があります。

指定した基準と一致するファイルを保護対象から除外することができます。除外の条件を追加するには、**[除外]** の右側にある **[追加]** リンクをクリックします。条件の追加には、一般的な Windows のワイルドカード文字を使用できます。詳細については、「バックアップからの項目の除外 (57 ページ)」を参照してください。

3.6.3 Acronis ノンストップ バックアップのデータ ストレージ

Acronis ノンストップ バックアップのデータ ストレージは、NTFS 形式のローカル ハードディスク ドライブ(内蔵と外付けの両方)にのみ作成できます。したがって、ネットワーク ドライブ、および Jomega REV ドライブなどのリムーバブル メディアは使用できません。

多くの場合、ノンストップ バックアップのデータ ストレージには外付けのハードディスクを使用するのが最も良い方法です。(USB 3.0 を含む)USB、eSATA、FireWire、および SCSI のいずれかのインターフェイスを持つ外付けディスクを使用できます。

外付けハードディスク ドライブの中には、FAT32 形式にフォーマットされて販売されているものがあります。このようなハードディスク ドライブを使用して Acronis ノンストップ バックアップのデータを保存するには、NTFS 形式で再フォーマットする必要があります。

外付けハードディスクを使用できない場合は、ノンストップ バックアップを内蔵ディスク(ダイナミックディスクを含む)に保存することができます。保護されているパーティションは、ノンストップ バックアップのストレージとして使用することはできないので注意してください。コンピュータにハードディスク ドライブが 1 つしかなく、その中にパーティションが 1 つしかない環境で Acronis ノンストップ バックアップを使用したい場合は、Acronis セキュア ゾーンを作成してこれをノンストップ バックアップのデータ ストレージとして使用できます。

Acronis True Image Home 2011 は、Acronis ノンストップ バックアップ データ ストレージを作成する前に、選択した保存先に十分な空き容量があるかどうか確認します。保護対象のデータの容量を 1.2 倍にして最小ストレージ サイズ条件を算出し、保存先の空き容量がこの条件を満たした場合に、その場所をノンストップ バックアップ データの保存先として使用します。

Acronis ノンストップ バックアップのデータ ストレージの管理

Acronis ノンストップ バックアップのデータ ストレージの空き領域は、一定時間が経過すると必然的になくなります。この時間は、選択した Acronis ノンストップ バックアップの保存先と、ノンストップ バックアップによって保護されるデータの量や構成により異なります。

ストレージの空き容量が 200 MB 未満になると、アラート メッセージが表示されます。この場合は、別の保存先を選択すれば、それまでにバックアップしたデータが失われることはありません。古いストレージにバックアップしたデータをリカバリできます。新しい保存先を選択すると、Acronis ノンストップ バックアップによって、保護対象として選択したデータの新しい完全バックアップが作成されるので注意してください。

Acronis ノンストップ バックアップ ストレージを管理するもう 1 つの方法は、不要になったバックアップ バージョンを削除することです。ストレージをクリーンアップするには、ノンストップ バックアップのボックスの **[処理]** → **[クリーンアップ...]** を選択します。期間を選択するためのウィンドウが表示されます。ここで指定した期間内に作成されたバックアップ バージョンが削除されます。期間を選択して **[OK]** をクリックします。Acronis ノンストップ バックアップのボックスで **[処理]** → **[バックアップを削除する]** を選択し、ノンストップ バックアップのストレージを完全にクリーンアップすることもできます。この処理を実行すると、Acronis ノンストップ バックアップを使用してバックアップしたデータがすべて消去されるので注意してください。

3.7 バックアップの予備コピーの作成

バックアップの予備コピーを作成して、ファイル システム、ネットワーク ドライブ、USB フラッシュ ドライブなどに保存できます。

この機能を使用すると、複製することによりバックアップ データの安全が強化されるほか、たとえばドキュメント一式を USB スティックにコピーして自宅で作業したりすることも可能となります。つまり、通常のバックアップを実行して、同じファイルを USB スティックやローカル ハード ドライブにコピーすることができるようになりました。作成する予備コピーの形式は、ネイティブ形式の通常ファイル、ZIP 圧縮ファイル、および TIB ファイル(パスワード保護と暗号化も可能)から選択できます。パスワードで保護された予備コピーを暗号化できるのは、メイン バックアップの暗号化が選択されている場合のみです。同じ長さの暗号化キーが予備コピーの暗号化にも使用されます。

予備コピーには、バックアップとして選択したすべてのファイルが常に含まれます。つまり、予備コピーを作成する場合は常にソース データの完全バックアップが作成されます。予備コピーの形式が TIB であっても、増分または差分バックアップとして予備コピーを作成することはできません。

また、利便性とデータの安全性が向上するかわりに、処理の実行時間が長くなるので注意してください。通常のバックアップと予備コピーの作成は、同時ではなく順番に実行されるためです。

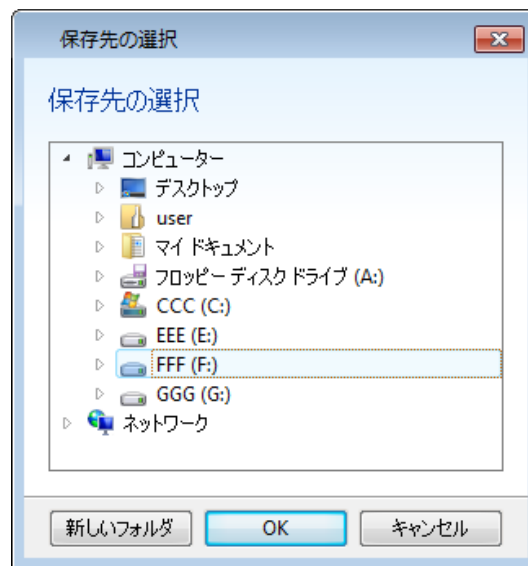
ここで、どのような場合にバックアップの予備コピー作成が必要になるかを考えてみます。

あなたは、ある緊急プロジェクトのメンバーとして多忙な日々を送っており、プロジェクトの期限は明日の朝に迫っています。一日の作業の成果を Acronis セキュア ゾーンにバックアップし、予備コピーを USB スティックに作成して、残りのプロジェクト作業を自宅で完了させることにしました。予備コピーを作成する手順は、次のとおりです。

1. バックアップを設定する間に、[ファイル バックアップ オプション] のリンクをクリックし、[バックアップの予備コピー] の項目を展開して、[バックアップの予備コピーを作成する] ボックスをチェックします(デフォルトのバックアップ オプションでチェックされていない場合)。



2. プロジェクト ファイルをどのように USB スティック上に複製するかを選択します。領域を節約したい場合は、ZIP ファイルを選択します。[場所の設定...] のリンクをクリックして USB スティックのドライブ文字を選択し、[新しいフォルダ] ボタンをクリックして予備コピーのためのフォルダを作成します。



3. バックアップの設定を通常どおり最後まで実行します。
4. [今すぐバックアップ] をクリックします。USB スティックを忘れずに持ち帰るようにします。

Windows による ZIP ファイルのサポートには、いくつかの制限があります。マルチボリュームの ZIP アーカイブや、サイズが 4 GB を超える ZIP アーカイブ、および 4 GB を超えるファイルが含まれる ZIP アーカイブを操作することはできません。また、予備コピーの作成場所として CD/DVD を使用することはできません。

3.8 バックアップの保存先の分散

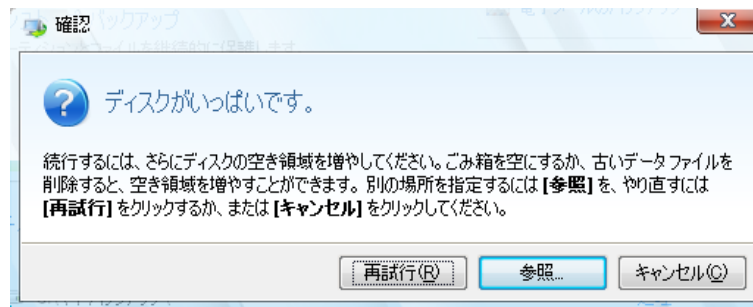
Acronis True Image Home 2011 では、バックアップの保存先を選択することができます。完全、増分、および差分のバックアップ バージョンをそれぞれ別の場所(ネットワーク共有、CD/DVD、USB スティック、ローカルの内蔵ハードディスクまたは外付けのハードディスク ドライブなど)に保存することもできます。

選択したバックアップの設定を編集するときにバックアップの保存先を変更して、バックアップ バージョンをそれぞれ別の場所に保存することができます。たとえば、最初の完全バックアップを外付けの USB ハード ドライブに保存した後に、バックアップの設定を編集して、バックアップの保存先を USB スティックに変更することができます。後続の増分または差分バックアップは、USB スティックに書き込まれます。

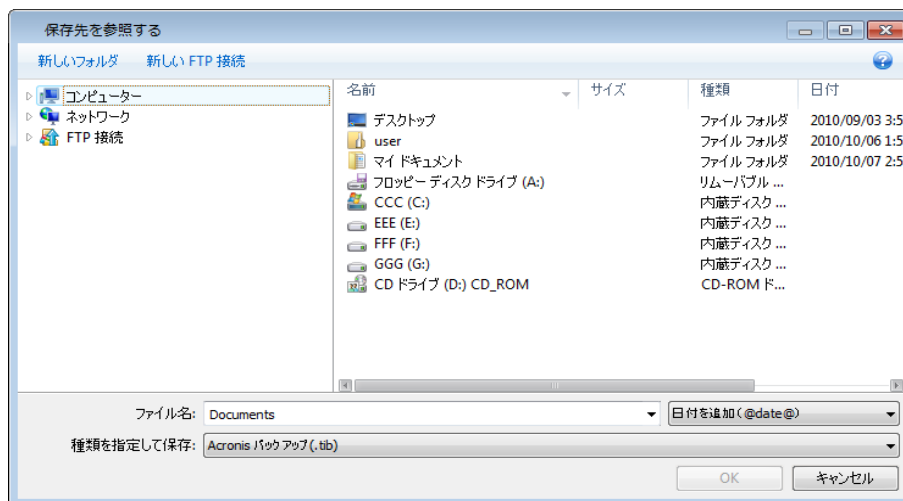
同じ「バックアップ チェーン」に属するバックアップ バージョンの一部だけを Acronis セキュア ゾーンに保存することはできません。Acronis セキュア ゾーンに保存されたバックアップ バージョンは、バックアップ自動統合時に自動的に削除されてしまう可能性があるためです。その結果、バックアップのつながりが壊れてしまいます。また、この機能は、FTP サーバーでは動作しません。

この機能の便利な点として、バックアップを「その場で」分割できることが挙げられます。たとえば、ハードディスクへのバックアップを実行しているときに、バックアップ先のハードディスクの空き領域

が不足しているためバックアップを完了できないことが判明したとします。ディスクがいっぱいであることを警告するメッセージが表示されます。



バックアップを完了させるには、そのディスクの領域の一部を解放してから **[再試行]** をクリックするか、別の記憶装置を選択します。後者の場合は、確認ウィンドウの **[参照...]** をクリックします。**[保存先を参照する]** ウィンドウが表示されます。



左ペインには、このコンピュータから利用可能なストレージの場所が表示されます。適切な場所を選択した後に、残りのバックアップ対象データを保存するファイルの名前を指定します。名前は手動で入力することも(たとえば「tail_end.tib」など)、行の右にあるボタンをクリックして自動的に生成することもできます。その後で **[OK]** をクリックすると、Acronis True Image Home 2011 によるバックアップが最後まで実行されます。

既に説明したとおり、完全、増分、または差分のバックアップ バージョンをそれぞれ別の場所に保存することが可能です。たとえば、最初の完全バックアップ バージョンをローカル ハード ドライブに保存してから、後続の増分バックアップ(または差分バックアップ バージョン)を DVD に書き込むことができます。また、そのようなバックアップ バージョンをネットワーク共有または FTP サーバーに保存することも可能です。同一の「バックアップ チェーン」に属するバックアップ バージョンが複数の場所に分散して保存されている場合は、データ リカバリ時に、過去のバックアップの場所を指定するための画面が表示されることがあります。この画面は、選択されたバックアップ バージョンの中にリカバリ対象のファイルが含まれていない(または一部しか含まれていない)場合にのみ表示されます。

3.9 既存のバックアップをリストに追加する

[マイ バックアップ] リストに表示されないバックアップがある場合(たとえば、旧バージョンの Acronis True Image Home 2011 で作成されたバックアップ)、それらのバックアップをリストに追加できます。メイン画面で [バックアップの参照] をクリックします。ウィンドウが開き、コンピュータ上に存在するバックアップを参照できます。

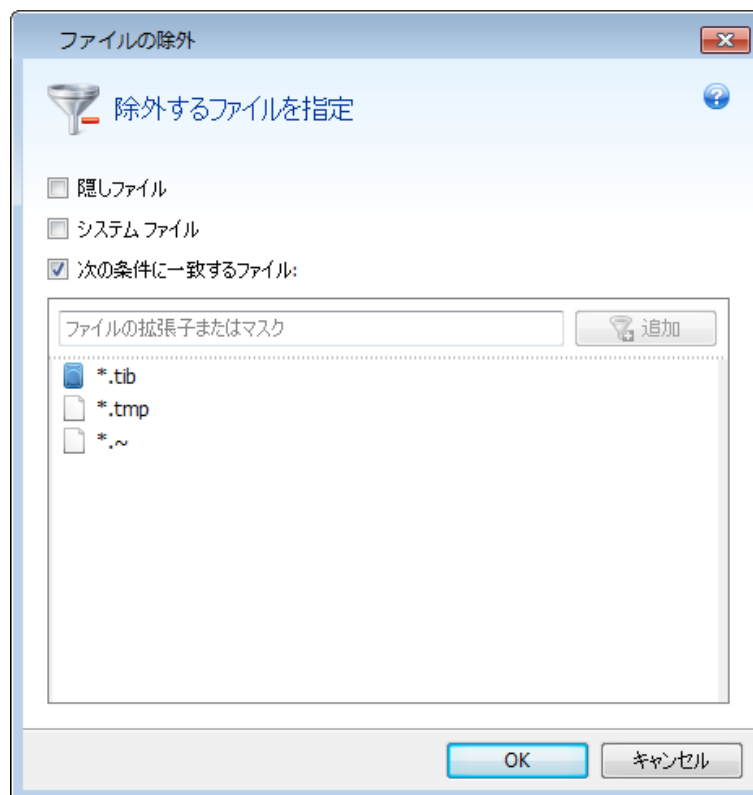
メイン画面で既存のバックアップをバックアップ リストに追加するには、バックアップを選択して、[バックアップ リストに追加] ボタンをクリックします。

3.10 バックアップからの項目の除外

バックアップから不要なファイルを除外する場合は、[ファイルの除外] ウィンドウで該当するファイルの種類を指定します。

ファイルを除外するには、[ディスク バックアップ]、[ファイル バックアップ]、または [ノンストップ バックアップ] ウィンドウの [除外する内容] をクリックします。

対応するチェックボックスをチェックすることで、隠しファイルとシステム ファイルをバックアップから除外できます。



また、指定した条件と一致するファイルを除外することもできます。この場合は、[次の条件に一致するファイル] チェックボックスをオンにし、除外条件を入力して [追加] をクリックします。

.*、.tmp、および .tib の拡張子を持つファイルは、デフォルトでバックアップから除外されます。

バックアップから除外するファイル名を、次のように明示的に入力します。

file.ext: 該当するファイルはすべてバックアップから除外されます。

C:¥file.ext: C: ドライブにある file.ext ファイルが除外されます。

ワイルドカードも使用できます。

***.ext:** .ext の拡張子を持つすべてのファイルが除外されます。

C:¥*.ext: パーティション C のルートにある拡張子が .ext のファイルが除外されます。

f_name.*: 拡張子に関係なく、f_name という名前のファイルがすべて除外されます。

??name.ext: 拡張子が .ext のファイルで、合計 6 文字(最初の 2 文字が任意の文字(??)で、残りの部分が name)のファイル名を持つすべてのファイルが除外されます。

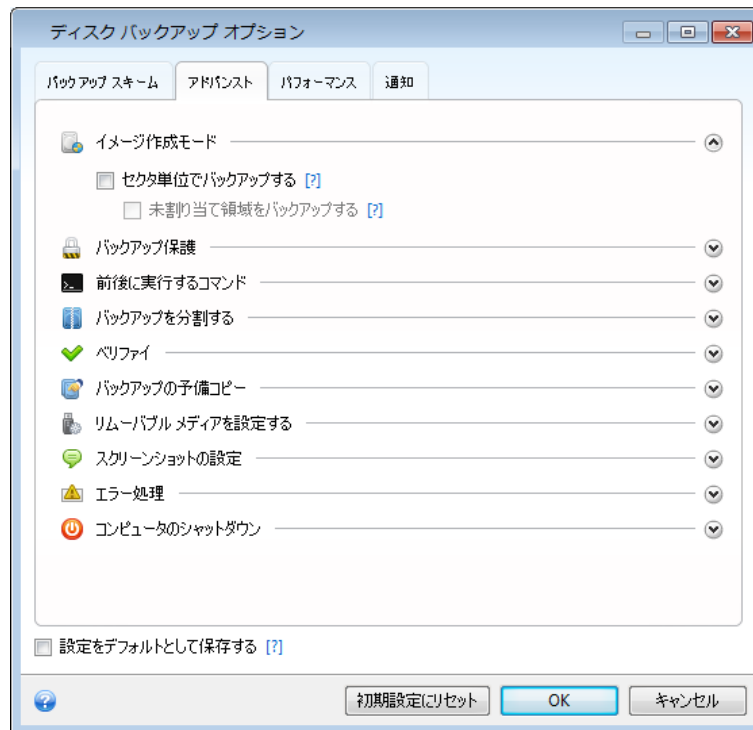
たとえば誤って追加した条件を削除するには、その条件の右にある [削除] アイコンをクリックします。

除外する項目の変更をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。

除外する項目の内容を変更した後、[OK] をクリックして変更を確定し、[ファイルの除外] ウィンドウを閉じます。

3.11 バックアップ オプション

[ディスク バックアップ オプション]、[ファイル バックアップ オプション]、[電子メール バックアップ オプション] のウィンドウで、それぞれ、ディスクとパーティション、ファイル、および電子メールのバックアップ処理のオプションを設定できます。アプリケーションをインストールすると、すべてのオプションは初期値に設定されます。これらのオプションは、現在のバックアップ処理のためだけに変更することも、今後のすべてのバックアップ向けに変更することも可能です。[設定をデフォルトとして保存する] チェックボックスをオンにすると、変更した設定が今後のバックアップ作業すべてにデフォルトで適用されます。



ディスク バックアップ、ファイル バックアップ、電子メール バックアップのオプションは完全に独立しており、個別に設定する必要があるので注意してください。

製品のインストール後に変更したオプションをすべて初期値にリセットする場合は、[初期設定にリセット] ボタンをクリックします。

セクションの内容

バックアップ スキーム	60
イメージ作成モード	63
バックアップの保護	64
バックアップ処理前後に実行するコマンド	64
バックアップの分割	65
バックアップのベリファイ オプション	66
バックアップの予備コピー	66
リムーバブル メディアの設定	67
スクリーンショットの設定	68
エラー処理	68
コンピュータのシャットダウン	69
バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定	69

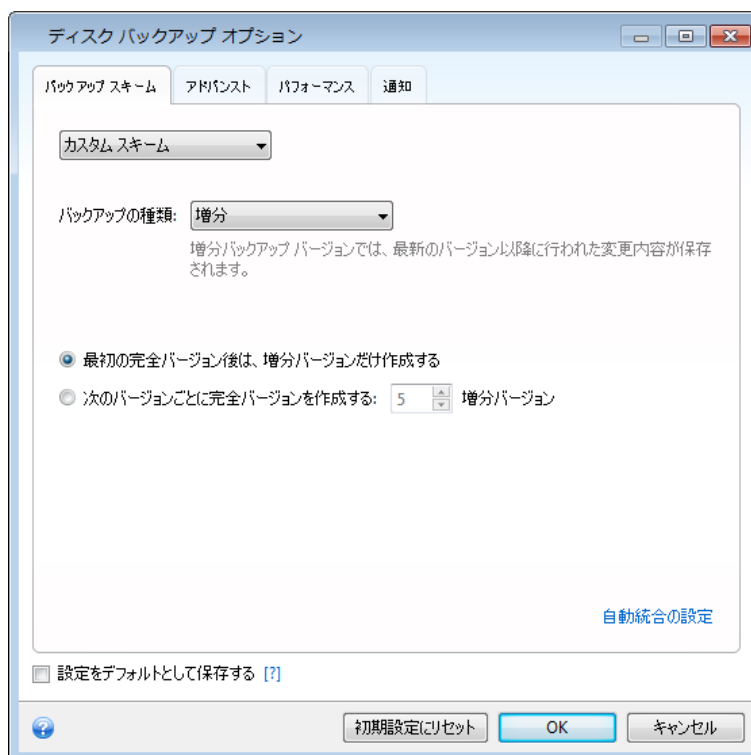
バックアップ処理のパフォーマンス.....	70
バックアップ処理の通知	71

3.11.1 バックアップ スキーム

バックアップ スキームとスケジューラを使用して、バックアップ戦略を設定できます。このスキームを使用することで、バックアップ ストレージ領域の使用を最適化し、データ ストレージの信頼性を向上させ、使用しなくなったバックアップ バージョンを自動的に削除することができます。

バックアップ スキームでは、以下のパラメータを定義します。

- バックアップ バージョン作成の際に使用するバックアップ方法 (完全、差分、増分)
- 別の方法で作成したバックアップ バージョンのシーケンス
- バージョンのクリーンアップ ルール



Acronis True Image Home 2011 で選択可能なバックアップ スキームは次のとおりです。

- **[単一バージョン]** (61 ページ参照) - 使用するバックアップ ストレージのサイズが非常に小さい場合や、大幅な変更のあるデータをバックアップする場合は、このスキームを選択します。
- **[バージョン チェーン]** (61 ページ参照) - 最もお勧めの最適なスキームです。
- **[カスタム]** (62 ページ参照) - バックアップ スキームを手動で設定する場合は、この項目を選択します。

バックアップ スキームとスケジューラ

デフォルトのバックアップ スキーム (単一バージョンおよびバージョン チェーン) のスケジューラ設定は、事前に定義されています。スケジューラで、デフォルトの定期バックアップ設定を変更しません。ディスク バックアップの場合、設定は月単位、ファイルバックアップの場合は日単位となります。いずれかのバックアップ スキームを選択してから、定期設定を変更 (たとえば、月単位から週単位へ) すると、バックアップ スキームは、選択した増分バックアップによるカスタム バックアップ スキ

ーマに自動的に設定されます。この場合、バージョン チェーンは、完全バックアップ バージョンと一連の増分バックアップ バージョンで構成されます。

単一バージョン スキーム

このバックアップ スキームは、ディスク バックアップとファイル バックアップで同じです(スケジューラ設定は除く)。

このスキームでは完全なバックアップ バージョンが作成されます。このバージョンは、指定したスケジュール時間や手動バックアップの実行時に上書きされます。

ディスク バックアップのバックアップ スケジューラ設定: 月単位

ファイル バックアップのバックアップ スケジューラ設定: 日単位

結果: 単一で最新の完全バックアップ バージョンが作成されます。

必要なストレージ領域: 最小

バージョン チェーン スキーム

このバックアップ スキームは、ディスク バックアップとファイル バックアップで異なります。

ディスク バックアップのバージョン チェーン

最初に完全バックアップ バージョンが作成されます。このバージョンは、手動で削除されるまで保存されます。これ以降、指定のスケジュールに従って(または手動バックアップの実行時に)、1 つの完全バックアップ バージョンと、5 つの差分バックアップ バージョンが作成されます。続いて、同じく 1 つの完全バックアップ バージョンと、5 つの差分バックアップ バージョンが再作成され、これが繰り返されます。作成したバージョンは 6 ヶ月間保存されます。この期間が経過すると、(最初の完全バージョン以外の)最も古いバックアップ バージョンを削除してもよいかが分析されます。この結果は、バージョンの最小限の数(8)およびバージョン チェーンの一貫性によって変わります。同じバックアップ方法で新しいバージョンが作成されると、最も古いバージョンが 1 つずつ削除されます(たとえば最も古い差分バージョンは、最新の差分バージョンの作成後に削除されます)。まず最も古い差分バージョンが削除され、次に最も古い完全バージョンが削除されます。

バックアップ スケジューラ設定: 月単位

結果: 直近の 6 ヶ月間のバックアップ バージョンが月単位で保持されます(最初の完全バックアップ バージョンを含む。このバージョンは、さらに長期間保管可能)。

必要なストレージ領域: バージョン数とそれらのサイズにより異なります。

ファイル バックアップのバージョン チェーン

指定のスケジュールに従って(または手動バックアップの実行時に)、1 つの完全バックアップ バージョンと、6 つの増分バックアップ バージョンが作成されます。続いて、同じく 1 つの完全バックアップ バージョンと、6 つの増分バックアップ バージョンが再作成され、これが繰り返されます。作成したバージョンは 1 ヶ月間保存されます。この期間が経過すると、最も古いバックアップ バージョンを削除してよいかが分析されます。この結果は、バージョン チェーンの一貫性によって変わります。一貫性を維持するために、新しい類似のバージョン チェーンの作成後に、最も古い 1 つの完全バックアップ バージョンと 6 つの増分バックアップ バージョンが、チェーンごとに削除されます。

バックアップ スケジューラ設定: 日単位

結果: 直近の 1 ヶ月間の、毎日のバックアップ バージョンが保持されます。

必要なストレージ領域: バージョン数とそれらのサイズにより異なります。

カスタム スキーム

Acronis True Image Home 2011 を使用して独自のバックアップ スキームを作成することもできます。このスキームは、完全、差分、または増分のいずれかのバックアップ バージョンの作成に基づきます。

したがって、まず該当のボックスでバックアップ方法を 1 つ選択してください。

- **完全** (39 ページ参照)
完全バックアップ バージョンのみを作成する場合は、この方法を選択します。
- **差分** (39 ページ参照)
完全バックアップ バージョンと差分バックアップ バージョンのみを含むバックアップ チェーンを作成する場合は、この方法を選択します。
以下のオプションのうちの 1 つを使用してスキームを設定できます。
 - **[最初の完全バージョン後は、差分バージョンだけ作成する]** - バックアップ バージョン チェーンを 1 つだけ作成する場合は、この項目を選択します。このオプションでは自動クリーンアップを使用できません。
 - **[次のバージョンごとに完全バージョンを作成する:[n] 差分バージョン]** - 複数のバックアップ バージョン チェーンを作成する場合は、この項目を選択します。このバックアップ スキームは信頼性の高いものですが、使用領域が多くなります。
- **増分** (39 ページ参照)
完全バックアップ バージョンと差分バックアップ バージョンのみを含むバックアップ チェーンを作成する場合は、この方法を選択します。
以下のオプションのうちの 1 つを使用してスキームを設定できます。
 - **[最初の完全バージョン後は、増分バージョンだけ作成する]** - バックアップ バージョン チェーンを 1 つだけ作成する場合は、この項目を選択します。このオプションでは自動クリーンアップを使用できません。
 - **[次のバージョンごとに完全バージョンを作成する:[n] 増分バージョン]** - 複数のバックアップ バージョン チェーンを作成する場合は、この項目を選択します。このバックアップ スキームは信頼性の高いものですが、使用領域が多くなります。

自動クリーンアップのルール

使用しなくなったバックアップ バージョンを自動的に削除するには、以下のクリーンアップ ルールのうちの 1 つを設定します。

- **[次の期間が経過したバージョンを削除する [定義した期間]]**(完全バックアップの場合のみ使用可能)- バックアップ バージョンの保存期間を限定する場合は、このオプションを選択します。指定した期間を超過したバージョンは、すべて自動的に削除されます。
- **[次の期間が経過したバージョン チェーンを削除する [定義した期間]]**(増分バックアップと差分バックアップでのみ使用可能)- バックアップ バージョン チェーンの保存期間を限定する場合は、このオプションを選択します。最も古いバージョン チェーンは、削除後、最も古いバージョンの保存期間が指定した期間を超過した場合にのみ削除されます。

- **最大 [[n] つの最新バージョンを保存する]**(完全バックアップの場合のみ使用可能) - バックアップ バージョンの最大数を制限する場合は、このオプションを選択します。バージョン数が指定値を超えると、最も古いバックアップ バージョンが自動的に削除されます。
- **最大 [[n] つの最新のバージョン チェーンを保存する]**(増分バックアップと差分バックアップでのみ使用可能) - バックアップ バージョン チェーンの最大数を制限する場合は、このオプションを選択します。バージョン チェーン数が指定値を超えると、最も古いバックアップ バージョン チェーンが自動的に削除されます。
- **[バックアップのサイズを次のサイズ以下に保つ [定義したサイズ]]** - バックアップの最大サイズを制限する場合は、このオプションを選択します。新しいバックアップ バージョンが作成された後に、バックアップの合計サイズが、指定した値を超えているかどうかを確認されます。指定した値を超えている場合は、古いバックアップ バージョンが削除されます。

最初のバックアップ バージョンのオプション

バックアップの最初のバージョンは多くの場合、最も重要なバージョンの 1 つです。このバージョンには、初期のデータ状態(最近インストールした Windows のシステム パーティションなど)や、その他の安定したデータ状態(ウイルス チェック完了後のデータなど)が保存されるためです。

[バックアップの最初のバージョンは削除しない] - 初期のデータ状態を維持する場合は、このチェックボックスをオンにします。最初の完全バックアップ バージョンが 2 つ作成されます。最初のバージョンは自動クリーンアップから除外され、手動で削除するまで保存されます。

増分または差分バックアップを選択した場合、最初のバックアップ チェーンは 2 番目の完全バックアップ バージョンから開始されます。3 番目のバックアップ バージョンのみが増分または差分バックアップになります。

このチェックボックスをオンにすると、**[[n] つの最新バージョンだけ保存する]** チェックボックスが、**[1+[n] つの最新バージョンだけ保存する]** に変わります。

3.11.2 イメージ作成モード

これらのパラメータを使用して、データが含まれるセクタと、パーティションまたはハードディスク全体のコピーを作成できます。**[セクタ単位でバックアップする]** チェックボックスがオンになっている場合にのみ、**[未割り当て領域をバックアップする]** チェックボックスを選択できるので注意してください。

- セクタ単位のバックアップを行うには、**[セクタ単位でバックアップする]** パラメータをオンにします。デフォルトでは、データを含むハードディスク内のセクタのみがコピーされます。ただし、完全なセクタ単位のバックアップを作成する方が便利な場合もあります。たとえば、誤ってファイルを削除してしまい、そのファイルを復活させる前にディスク イメージを作成しておく場合などです。これは、削除したファイルを復活させることによって、ファイル システムに問題が発生する可能性があるためです。このモードでは、ハードディスクの使用されているセクタと未使用のセクタをコピーするため、処理時間が長くなり、通常は、作成されるイメージ ファイルが大きくなります。
- **[未割り当て領域をバックアップする]** オプションは、上記の **[セクタ単位でバックアップする]** パラメータをオンにすると、使用可能になります。デフォルトでは、セクタ単位のバックアップを実行する場合、未割り当ての領域はバックアップ ファイルに含められません。このオプションを有効にすると、ディスクのすべての未割り当ての領域がバックアップに含められます。

3.11.3 バックアップの保護

バックアップ ファイルをパスワードで保護することができます。デフォルトでは、バックアップはパスワードで保護されません。

バックアップを保護する手順は、次のとおりです。

- バックアップ用のパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。パスワードはできる限り想像しにくいものにするため、8 文字以上の、アルファベット(大文字と小文字の両方を使用することが望ましい)と数字を含むものに入力してください。
- [パスワードの確認] フィールドに、先に入力したパスワードをもう一度入力します。
- 機密データの安全性を高めるため、業界標準の強力な AES(Advanced Encryption Standard)暗号化アルゴリズムを使用してバックアップを暗号化することもできます。AES には、パフォーマンスと保護強度に応じて、キーの長さが 3 種類あり(128、192、256 ビット)、いずれかを選択できます。

ほとんどの場合は、暗号キーの長さは 128 ビットで十分です。キーが長いほど、データのセキュリティは向上します。ただし、192 ビットや 256 ビットの長さのキーを使用すると、バックアップ処理の速度が大幅に低下します。

AES 暗号を使用する場合は、以下のキーのいずれかを選択します。

- [AES 128]: 128 ビット暗号キーを使用します。
- [AES 192]: 192 ビット暗号キーを使用します。
- [AES 256]: 256 ビット暗号キーを使用します。
- バックアップを暗号化せず、パスワードによる保護のみを行う場合は、[暗号化しない] を選択します。

バックアップの保護設定を指定したら、[OK] をクリックします。

パスワードで保護されたバックアップからデータをリカバリする場合やパスワードで保護されたバックアップに増分バックアップを追加する場合は、特別なウィンドウが表示され、パスワードが要求されるので、権限を持つユーザーしかアクセスできません。

3.11.4 バックアップ処理前後に実行するコマンド

バックアップ処理の前後に自動的に実行するコマンド(またはバッチ ファイル)を指定することができます。

たとえば、バックアップを開始する前に特定の Windows プロセスを開始/停止することや、バックアップ対象のデータを調べることができます。

コマンド(バッチ ファイル)を指定する手順は、次のとおりです。

- バックアップ処理の開始前に実行するコマンドを [処理前に実行するコマンド] フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチ ファイルを選択するには、[編集] ボタンをクリックします。
- バックアップ処理の終了後に実行するコマンドを [処理後に実行するコマンド] フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチ ファイルを選択するには、[編集] ボタンをクリックします。

バックアップ用ユーザー コマンドの編集

バックアップ処理の前または後に実行するユーザー コマンドを指定することができます。

- コマンドを [コマンド] フィールドに入力するか、一覧から選択します。[...] をクリックすると、バッチ ファイルを選択できます。
- [作業ディレクトリ] フィールドに、コマンド実行のためのパスを入力するか、入力済みのパスの一覧から選択します。
- コマンド実行引数を [引数] フィールドに入力するか、一覧から選択します。

[コマンドの実行が完了するまで処理を行わない] パラメータを無効にすると(デフォルトでは有効)、コマンド実行と並行してバックアップ処理を実行できます。

[ユーザー コマンドが失敗したら処理を中止する] パラメータを有効にした場合は(デフォルトでは有効)、コマンド実行でエラーが発生すると処理が中止されます。

入力したコマンドをテストするには、[コマンドのテスト] ボタンをクリックします。

3.11.5 バックアップの分割

サイズの大きいバックアップを、元のバックアップを構成するいくつかのファイルに分割することができます。また、リムーバブル メディアに書き込めるように 1 つのバックアップを分割することもできます。

デフォルトの設定は [自動] です。この設定を使用すると、Acronis True Image Home 2011 は次のように動作します。

ハードディスクにバックアップする場合:

- 選択したディスクに十分な空き領域があり、予想ファイル サイズがファイル システムの許容範囲内である場合は、1 つのバックアップ ファイルを作成します。
- ストレージディスクに十分な空き領域があっても、予想ファイル サイズがファイル システムの許容範囲を超える場合、プログラムは自動的にイメージを複数のファイルに分割します。
- ハードディスクに、イメージを保存するだけの十分な空き領域がない場合、プログラムは警告を表示し、問題への対処方法の入力を求めます。空き領域を増やして続行するか、[戻る] をクリックして別のディスクを選択することができます。

CD-R/RW、DVD-RW、DVD+R/RW、および BD-R/RE にバックアップする場合:

- 前のディスクがいっぱいになると、Acronis True Image Home 2011 によって新しいディスクを挿入するように指示されます。

また、ドロップダウン リストからファイル サイズを選択することもできます。バックアップは、指定したサイズの複数のファイルに分割されます。後で CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW、または BD-R/RE にバックアップを書き込む予定でハードディスクにバックアップする場合には、この機能が役立ちます。

CD-R/RW、DVD-RW、DVD+R/RW、および BD-R/RE に直接イメージを作成すると、ハードディスクに作成するよりも大幅に時間がかかる場合があります。

3.11.6 バックアップのベリファイ オプション

[作成後にバックアップをベリファイする] で、追加の検証設定を指定できます。

このオプションを有効にすると、バックアップの直後に、最近作成または追加したバックアップ バージョンの整合性がチェックされます。重大なデータのバックアップ、またはディスク/パーティションのバックアップを設定するときには、バックアップを使用して消失したデータを確実にリカバリできるように、このオプションを有効にすることをお勧めします。

標準ベリファイ

バックアップが正常な状態であることを確認するために、バックアップのベリファイをスケジュールすることも可能です。デフォルトでは、標準ベリファイは次の設定でオンになります。

- 間隔: 月 1 回
- 日付: バックアップが開始された日
- 時間: バックアップが開始された時間 + 15 分
- 詳細設定: [コンピュータのアイドル時にのみベリファイを実行する] チェックボックスがオン

例: 7 月 15 日の 12:00 にバックアップ処理を開始するとします。バックアップ バージョンは、12:05 に作成されます。コンピュータが「スクリーン セーバー」の状態であれば、ベリファイは 12:15 に実行されます。そうでない場合、ベリファイは実行されません。1 カ月後、8 月 15 日の 12:15 に、ベリファイが再び開始されます。以前と同様、コンピュータは「スクリーン セーバー」の状態である必要があります。同様に、9 月 15 日にも同じことが行われます。

デフォルト設定を変更して、独自のスケジュールを指定することもできます。増分バックアップを使用したカスタム バックアップ スキームを設定してある場合に便利です。たとえば、すべてのバックアップ バージョン(最初の完全バックアップ バージョンおよびその後の増分バックアップ バージョン)の検証スケジュールを、週 1 回に設定する必要があるかもしれません。

詳細については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。

3.11.7 バックアップの予備コピー

バックアップの予備コピーを作成して、ファイル システム、ネットワーク ドライブ、USB フラッシュ ドライブなどに保存できます。

予備コピーを作成する手順は、次のとおりです。

- [バックアップの予備コピーを作成する] チェックボックスをオンにします。
- [場所...] をクリックし、バックアップ コピーの場所を指定します。
- 予備コピーの作成方法を選択します。
 - tib ファイルとしてバックアップを複製する
 - zip アーカイブとして予備コピーを作成する
 - 指定した場所にファイルやフォルダを「現状のまま」コピーする

tib 形式での予備コピー作成を選択した場合は、ソース バックアップのすべてのバックアップ オプション(バックアップの圧縮、バックアップの分割など)が継承されます。tib バックアップ予備コピーをパスワードで保護することもできます。このためには、[パスワードを設定する] をクリックし、予備コピーのパスワードを指定します。

予備コピーには、バックアップとして選択したすべてのファイルが常に含まれます。つまり、予備コピーを作成する場合は常にソース データの完全バックアップが作成されます。予備コピーは、tib 形式の場合でも、増分または差分バックアップの形で作成することはできません。

また、通常のバックアップと予備コピーは、両方同時ではなくどちらか一方しか実行できないので、利便性とデータ セキュリティが向上するかわりに、バックアップにかかる時間が増えます。

Windows に組み込まれている zip ファイルのサポートでは、サイズが 4 GB を超える zip アーカイブ、4 GB を超えるファイルが含まれる zip アーカイブ、またはマルチボリュームの zip アーカイブの処理は対象としないことにご注意ください。また、zip アーカイブの場所として CD/DVD はサポートされていないので、zip ファイル形式を使用してこれらのメディアに予備バックアップ コピーを作成することはできません。

3.11.8 リムーバブル メディアの設定

リムーバブル メディアにバックアップする際には、追加コンポーネントを書き込むことで、このメディアをブータブルにすることができます。このようにすると、別のブータブル ディスクが不要になります。

次の設定を使用できます。

- **Acronis True Image Home 2011(完全版)のメディアへの保存**
Acronis True Image Home 2011(完全版): USB、PC カード(旧 PCMCIA)、SCSI、およびこれらの各インターフェイスを介して接続されるストレージ デバイスがサポートされます。したがって、このコンポーネントの追加を強くお勧めします。
- **Acronis システム レポートのメディアへの保存**
Acronis システム レポート: システム レポートが生成されます。このレポートは、プログラムの問題が発生したときに、システムに関する情報を集めるのに利用できます。レポート生成は、ブータブル メディアから Acronis True Image Home 2011 を起動する前でも実行可能です。生成されたシステム レポートは、USB フラッシュ ドライブに保存できます。
- **Acronis ワンクリック リストア のメディアへの保存**
Acronis ワンクリック リストアは、ブータブル メディアに追加される最小コンポーネントです。このコンポーネントを追加しておく、このメディアに保存されたイメージ バックアップからワンクリックでデータをリカバリできるようになります。つまり、このメディアからコンピュータを起動して [リカバリする] を選択すると、自動的にすべてのデータが元の場所にリカバリされます。ただし、パーティションのサイズ変更などのオプションを選択することはできません。

Acronis ワンクリック リストア をメディアに追加できるのは、ハードディスク全体の完全バックアップを作成するときだけです。増分または差分バックアップ、およびパーティションのバックアップの作成時には追加できません。これらのバックアップの作成時には、デフォルトのリムーバブル メディアの設定で [Acronis ワンクリック リストア のメディアへの保存] がオンになっていたとしても、このチェックボックスは現在のバックアップ オプションの [一般] タブには表示されません。

- **リムーバブル メディアにバックアップを作成する際に最初のメディアの挿入を求める**
リムーバブル メディアにバックアップする際に、[最初のメディアを挿入してください] というメッセージを表示するかどうかを選択できます。デフォルトの設定では、メッセージ ボックスの [OK] がクリックされるまでプログラムの実行が停止するので、ユーザーがその場にいなければリムーバブル メディアへのバックアップはできません。したがって、リムーバブル メディアへのバックアップをスケジュールする場合は、応答を要求するメッセージ表示を無効にする必要があります。

す。こうしておくと、リムーバブル メディアが利用可能 (CD-R/RW が挿入されているなど) であれば、バックアップを無人で実行できます。

他のアクロニス製品がコンピュータにインストールされている場合は、それらのプログラムのコンポーネントのブータブル版も同様に利用できます。

3.11.9 スクリーンショットの設定

バックアップのコメントとともに、スクリーンショットは、リカバリする必要がある以前のデータの状態を認識するために役立ちます。Acronis True Image Home 2011 では、ディスクまたはパーティションのバックアップ開始時にスクリーンショットを取得できます。オプションを有効にするには、**[ディスク バックアップの開始時にスクリーンショットを取得する]** チェックボックスをオンにします。スクリーンショットは、バックアップ エクスプローラの **[ディスクとパーティション]** タブに表示されます。各スクリーンショットは、それぞれのディスク バックアップ バージョンに対応します。このため、タイムライン上でバックアップ バージョンを切り替えると、異なるスクリーンショットが表示され、必要なバックアップ バージョンをすばやく見つけることができます。

3.11.10 エラー処理

バックアップの実行中にエラーが発生した場合は、バックアップ処理が中止されてメッセージが表示され、エラーへの処理に関するユーザーからの応答を待つ状態になります。エラーへの処理方法を設定しておくことで、バックアップ処理は中止されず、エラーに関する警告メッセージが発行され、設定した規則に従ってエラーが対処されて、処理は継続されます。

以下のエラー処理方法を設定することができます。

- **[処理中にメッセージやダイアログを表示しない(サイレント モード)]**(デフォルトでは無効): この設定を有効にすると、バックアップ処理中のエラーを無視することができます。この機能は、主に無人バックアップのために用意されたものです。無人バックアップの場合は、ユーザーがバックアップ プロセスを制御することはできません。このモードでは、バックアップ中にエラーが発生しても、通知は一切表示されません。その代わりに、バックアップ プロセスの終了後にすべての処理の詳細ログを表示できます。
- **[不良セクタを無視する]**(デフォルトでは無効): このオプションは、ディスクとパーティションのバックアップのみが対象です。このオプションを有効にすると、ハードディスク上に不良セクタがある場合でもバックアップを実行できます。ほとんどのディスクには不良セクタはありませんが、ハードディスクを使い続けるうちに、不良セクタの発生する可能性は高くなります。ハード ドライブから異音が聞こえる(たとえば、動作中にかなり大きなクリック音や摩擦音が発生する)場合は、ハードディスクが故障しかかっている可能性があります。ハード ドライブが完全に故障してしまうと、重要なデータが失われるおそれがあるため、できる限り早くドライブをバックアップする必要があります。しかし、故障しかかっているハード ドライブには既に不良セクタがあるかもしれません。**[不良セクタを無視する]** チェックボックスがオフの場合は、不良セクタで読み取りまたは書き込みエラーが検出されるとバックアップが中止されます。このチェックボックスをオンにすると、ハードディスク上に不良セクタが存在していてもバックアップは実行できるので、ハード ドライブから可能な限り最大の情報を保存することができます。
- **[Acronis セキュア ゾーンに十分な空き領域がない場合、最も古いバックアップを削除する]**(デフォルトでは有効): この設定が無効になっており、作成するバックアップ ファイルのための十分な空き領域が Acronis セキュア ゾーンにない場合は、ゾーンに空き領域がないことを警告するダイアログが表示され、ユーザーの操作が必要になります。ユーザーが何らかの操作を行うまでバックアップは停止状態になるため、無人バックアップを行うことはできません。この

メッセージは、[処理中にメッセージやダイアログを表示しない(サイレント モード)] 設定が有効な場合にも表示されます。したがって、スケジュールに従った Acronis セキュア ゾーンへの無人バックアップを計画する場合は、[Acronis セキュア ゾーンに十分な空き領域がない場合、最も古いバックアップを削除する] チェックボックスをオンにしておくことをお勧めします。

3.11.11 コンピュータのシャットダウン

設定するバックアップ処理に時間がかかることが分かっている場合は、[バックアップの完了後にコンピュータをシャットダウンする] チェックボックスを選択することをお勧めします。これにより、処理が完了するまで待つ必要がなくなります。プログラムはバックアップを実行し、自動的にコンピュータの電源を切ります。

このオプションは、バックアップのスケジュールを設定する場合にも便利です。たとえば、すべての作業を保存するには、平日の夕方に毎日バックアップを実行できます。バックアップのスケジュールを設定して、チェックボックスをオンにします。この設定の場合、仕事が完了したら、そのままコンピュータから離れることができます。なぜなら、重要なデータがバックアップされ、コンピュータの電源が切られることがわかっているからです。

3.11.12 バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定

ファイルのバックアップに関するセキュリティ設定を指定することができます(これらの設定が関係するのはファイル/フォルダのバックアップだけです)。

- **[バックアップにファイルのセキュリティ設定を保持する]**: このオプションを選択すると、バックアップ ファイルのすべてのセキュリティ プロパティ(グループまたはユーザーに割り当てられる許可)が、将来のリカバリに備えて保存されます。

デフォルトでは、ファイルとフォルダは元の Windows セキュリティ設定(ファイルの [プロパティ] → [セキュリティ] で設定される、各ユーザーまたはユーザー グループに与えられる書き込み、読み取り、実行などの許可)と共にバックアップに保存されます。セキュリティで保護されたファイルまたはフォルダをコンピュータ上でリカバリしようとしているユーザーに、アクセス許可が与えられていない場合は、そのファイルの読み取りや変更ができなくなる可能性があります。

このような問題を回避するため、バックアップの際にファイルのセキュリティ設定を保存するのを無効にすることができます。このようにすれば、リカバリされたファイル/フォルダのアクセス許可は常に、リカバリ先のフォルダ(親フォルダ、ルートにリカバリされる場合は親ディスク)から継承されます。

または、ファイルのセキュリティ設定をリカバリ時に無効化できます。これは、ファイルのセキュリティ設定がバックアップに保存されている場合でも可能です。結果は同じになります。

- **[暗号化されたファイルを暗号化解除された状態でバックアップに格納する]**(デフォルト設定は[無効]): バックアップに暗号化ファイルが含まれており、リカバリ後にそのファイルをすべてのユーザーからアクセス可能にしたい場合は、このオプションをオンにします。オフにすると、ファイル/フォルダを暗号化したユーザーのみがそのファイル/フォルダを読むことができます。暗号化されたファイルを別のコンピュータにリカバリする場合にも、暗号化解除が役立つことがあります。

Windows XP 以降のオペレーティング システムで利用可能な暗号化機能を使用しない場合は、このオプションは無視してください。ファイル/フォルダの暗号化を設定するには、[プロパティ] → [全般] → [詳細設定] → [内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する] の順に選択します。

これらのオプションは、ファイルやフォルダのバックアップのみに関係します。また、これらは zip バックアップには利用できません。

3.11.13 バックアップ処理のパフォーマンス

[パフォーマンス] タブでは、以下の設定を行うことができます。

圧縮レベル

バックアップの圧縮レベルを選択することができます。

- **[なし]** - データが圧縮されずにコピーされるため、バックアップ ファイルのサイズは非常に大きくなります。
- **[通常]** - 推奨されるデータ圧縮レベルです(デフォルト設定)。
- **[高]** - バックアップ ファイルが高い圧縮レベルで圧縮されるため、バックアップの作成に要する時間が長くなります。
- **[最高]** - バックアップは最高圧縮レベルで圧縮されるため、バックアップの作成に要する時間が最も長くなります。

最適なデータ圧縮レベルは、バックアップに保存されるファイルの種類によって異なります。たとえば、.jpg、.pdf、.mp3 など、既に圧縮されたファイルを含むバックアップは、最高圧縮レベルで圧縮してもバックアップ サイズが大幅に縮小されることはありません。

処理の優先順位

バックアップ処理やリカバリ処理の優先度を変更すると、(優先度の上げ下げによって)バックアップの処理速度を速くしたり遅くしたりできますが、実行中の他のプログラムのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性もあります。システムで実行中のどの処理に対しても、優先順位に応じて、その処理に割り当てられる CPU の使用時間とシステム リソースが決定されます。処理の優先度を下げることによって、他の CPU タスクが利用できるリソースが増えます。バックアップやリカバリの優先度を上げると、同時に実行している他の処理からリソースを取得するため、バックアップ処理の速度が向上します。優先度変更の効果は、全体的な CPU の使用状況およびその他の要因に応じて異なります。

処理の優先度は、次のいずれかに設定することができます。

- **[低]**(デフォルトで有効): バックアップ処理やリカバリ処理の速度は低下しますが、他のプログラムのパフォーマンスは向上します。
- **[通常]**: バックアップ処理やリカバリ処理に、他の処理と同じ優先度が割り当てられます。
- **[高]**: バックアップ処理やリカバリ処理の速度は向上しますが、他のプログラムのパフォーマンスは低下します。このオプションを選択すると、Acronis True Image Home 2011 による CPU 使用率が 100% になる場合があるので注意してください。

ネットワークの接続速度

データをネットワーク ドライブまたは FTP に頻繁にバックアップする場合は、Acronis True Image Home 2011 が使用するネットワーク帯域を制限することもできます。

以下のいずれかのパラメータを選択することで、ネットワークのバックアップ データ転送速度を指定できます。

- **[最大速度の割合で表した転送速度]**: スライダをドラッグして、バックアップ データの転送速度の制限値を設定します。

- **[KB/秒で表した転送速度]:** バックアップ データの転送に使用する帯域制限を KB/秒単位で入力します。

3.11.14 バックアップ処理の通知

バックアップまたはリカバリの処理には 1 時間以上かかる場合があります。Acronis True Image Home 2011 では、この処理の終了時に電子メールの通知を受け取ることができます。また、処理中に発行されたメッセージや、処理完了後の詳細な処理ログも送信されます。

デフォルトでは、すべての通知は無効になっています。

空きディスク領域のしきい値

バックアップ ストレージの空き領域が指定したしきい値より少なくなったときに、通知を受け取ることができます。バックアップの開始後、選択したバックアップの場所の空き領域がその時点で既に指定値より少ないことが検出された場合、Acronis True Image Home 2011 では実際のバックアップ処理は開始されず、対応する通知メッセージが直ちに表示されます。メッセージには 3 つの選択肢が示されます。メッセージを無視してバックアップを続行するか、バックアップを保存する別の場所を参照するか、バックアップをキャンセルするかのいずれかを選択してください。

バックアップの実行中に空き領域が指定値より少なくなった場合も、同じメッセージが表示され、同様に選択する必要があります。

空きディスク領域のしきい値を設定する手順は、次のとおりです。

- **[ディスクの空き領域が不十分なとき]** チェックボックスをオンにします。
- **[サイズ]** ボックスでしきい値を入力または選択し、単位を選択します。

Acronis True Image Home 2011 では、次のストレージ デバイスの空き領域を監視できます。

- ローカル ハード ドライブ
- USB カードおよびドライブ
- ネットワーク共有 (SMB/NFS)

[エラー処理] 設定で **[処理中にメッセージやダイアログを表示しない(サイレント モード)]** チェックボックスがオンになっている場合、メッセージは表示されません。

FTP サーバーと CD/DVD ドライブについては、このオプションを有効にすることはできません。

電子メール通知

バックアップ処理の通知に使用する電子メール アカウントを指定することができます。

電子メールによる通知を設定する手順は、次のとおりです。

- **[処理状態に関する電子メール通知を送信する]** チェックボックスを選択します。
- 電子メール アドレスを **[電子メール アドレス]** フィールドに入力します。複数の電子メール アドレスをセミコロンで区切って入力することもできます。
- 送信メール サーバー (SMTP) を **[送信メール サーバー (SMTP)]** フィールドに入力します。
- 送信メール サーバーのポート番号を設定します。デフォルトの場合、ポート番号は 25 に設定されます。
- **[ユーザー名]** フィールドにユーザー名を入力します。

- パスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
- 電子メール クライアントでメッセージを受信したときに、設定済みのポリシーに従ってメールを処理する場合は(たとえば、指定のフォルダに振り分けるなど)、[件名] フィールドに件名を指定します。
- ご利用のインターネット サービス プロバイダで、電子メール送信前にメール受信サーバーでの認証を受けることが必要な場合は、[受信メール サーバーにログオンする] チェックボックスをオンにし、次に POP3 サーバー名を入力して受信メール サーバーのポートを設定します。
- 設定が正しいかどうかをチェックするには、[テスト メッセージを送信する] ボタンをクリックします。

その他の通知設定:

- 処理の完了に関する通知を送信するには、[処理が正常に完了したら通知を送信する] チェックボックスをオンにします。
- 処理の失敗に関する通知を送信するには、[処理が失敗したら通知を送信する] チェックボックスをオンにします。
- 処理メッセージを添付して通知を送信するには、[ユーザーの操作が必要な場合に通知を送信する] チェックボックスをオンにします。
- 処理の詳細なログを添付して通知を送信するには、[完全なログを通知に含める] チェックボックスをオンにします。

3.12 バックアップのベリファイ

ベリファイ処理では、特定のバックアップからデータをリカバリできるかどうかの検査が行われます。したがって、ベリファイ対象として選択されたバックアップの種類によって検査の内容は異なります。

- 完全バックアップを選択すると、プログラムはその完全バックアップのみを検証します。
- 差分バックアップを選択すると、プログラムは最初の完全バックアップおよび選択した差分バックアップを検証します。
- 増分バックアップを選択すると、プログラムは最初の完全バックアップ、選択した増分バックアップ、および選択した増分バックアップ以前に作成された一連のバックアップがあれば、これをすべて検証します。この一連のバックアップに差分バックアップが 1 つでも含まれている場合、プログラムは(最初の完全バックアップおよび選択した増分バックアップに加えて)最新の差分バックアップのみを検証し、その差分バックアップと選択した増分バックアップの間に作成された増分バックアップがあればそれらもすべて検証します。

この情報は、たとえば、完全バックアップおよび一連の増分バックアップで構成されるバックアップが破損していることが分かった場合に役立ちます。バックアップのトラブルシューティングを行う手順は、次のとおりです。最初に完全バックアップをベリファイします。これが破損している場合は、バックアップ チェーン全体が使用できません。破損していない場合は、増分バックアップを古いものから順に検証します。問題となっている増分バックアップが見つかるまで続けます。破損している増分バックアップ以降の増分バックアップはすべて使用できませんが、少なくともそれ以前のバックアップからのデータのリカバリは可能です。

バックアップをベリファイする手順は、次のとおりです。

1. ベリファイするバックアップを選択し、[処理] をクリックして、[バックアップのベリファイ] を選択します。選択したバックアップがパスワードで保護されている場合は、Acronis True Image Home 2011 によりパスワードの入力を求めるダイアログ ボックスが表示されます。
2. 正しいパスワードを入力すると、ベリファイ処理が開始されます。

3. ベリファイが完了すると、結果ウィンドウが表示されます。[キャンセル] をクリックすると、ベリファイをキャンセルできます。

3.13 バックアップ バージョンの統合

バックアップ バージョンの統合を使用すると、選択したバックアップの削除と同時に、整合性のあるバックアップのコピーを作成できます。これにより、バックアップを破損することなく、任意のバックアップから不要になったバックアップ バージョンを削除できます。

統合では、削除されたバックアップ バージョンを含まない整合性のあるバックアップのコピーが作成されます。統合したバックアップに新しい場所を選択すると、ソース バックアップは、削除しない限りそのまま残されます。このため、必要なディスク領域は大きくなりますが、停電やディスク領域不足により統合に失敗した場合でもバックアップの安全性を確保できます。

現在の Acronis True Image Home 2011 バージョンでは、zip 形式で作成されたバックアップの統合はサポートされません。

Acronis True Image Home 2011 では、読み取り/書き込みモードでマウントしたパーティション イメージを編集する際に作成されたバックアップ バージョンは統合できません。

バックアップ内のバックアップ バージョンを統合する手順は、次のとおりです。

- メイン画面で統合するバックアップを選択します。
- 選択したバックアップのボックスで [処理] をクリックして、[詳細] → [バージョンの統合] を選択します。
- ウィザードの手順に従います。

Acronis セキュア ゾーンにあるバックアップ バージョンを統合する場合は、別の場所を選択することはできません。

3.13.1 アーカイブの統合保護

選択したアーカイブは、不正アクセスを防止するため、パスワードで保護されています。アーカイブにアクセスするには、以前に入力したパスワードを指定する必要があります。

パスワードを指定する手順は、次のとおりです。

- [パスワード] フィールドに、パスワードを入力します。正しいパスワードを入力しないと、アーカイブの統合処理を続行することはできません。
- 続行するには、[OK] をクリックしてください。

3.13.2 バックアップの選択

[バックアップの選択] ウィンドウには、(リカバリ ウィザードと同様に) 選択したアーカイブに含まれるバックアップと作成日時の一覧が表示されます。一番上に表示されているバックアップは完全バックアップ、その他は増分バックアップです。

保存するバックアップを選択する手順は、次のとおりです。

- 保存するバックアップを選択します。その他のバックアップは、統合アーカイブに含まれません。ウィンドウの右側のペインには、選択したバックアップに関する情報(名前、作成日、種類とコメント)が表示されます。
- 続行するには、[次へ] をクリックしてください。

3.13.3 保存先

アーカイブのコピーを保存する場所とアーカイブの名前を指定します。デフォルトでは、アーカイブの名前と場所は元のアーカイブと同じです。元のアーカイブは上書きされます。

統合アーカイブ用に別の場所を指定する手順は、次のとおりです。

- **[新しい場所]** 項目を選択し、**[参照]** ボタンをクリックします。ドライブ ツリーから、統合アーカイブを保存する場所を指定します。
必要に応じて、選択した場所に新しいフォルダを作成(📁 **[新しいフォルダの作成]** ボタンをクリック)したり、不要なフォルダを削除(✖ **[削除]** ボタンをクリック)したりすることもできます。
- **[ファイル名]** フィールドに統合したアーカイブの名前を入力するか、🔑 **[名前の生成]** ボタンをクリックして名前を自動的に生成します。
- 元のアーカイブが不要な場合に削除するには、**[元のアーカイブを削除する]** チェックボックスをオンにします。
- 続行するには、**[次へ]** をクリックします。

Acronis セキュア ゾーンに保存されているアーカイブの中のバックアップを統合する場合は、別の場所を選択することはできません。

3.13.4 統合の概要

概要ウィンドウには、**[実行]** をクリックすると Acronis True Image Home 2011 で実行される処理の簡単な説明が表示されます。変更するパラメータがある場合は、ウィンドウの左側で必要なステップを選択して、パラメータを修正します。

[実行] ボタンをクリックすると、表示されている処理が開始します。

[オプション] ボタンをクリックすると、オプションのステップを実行できます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、処理は実行されず、ウィザードが終了します。

3.14 バックアップ設定のクローンの作成

バックアップが既に存在していて、同じ種類(ディスク、ファイル、またはメールのバックアップ)の新しいバックアップを作成する必要がある場合、バックアップ プロセスを最初から設定する必要はありません。既存のバックアップからすべての設定をコピーすることができます。その後、新しいバックアップ用にコピーした設定を多少修正して、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。

既存のバックアップを基に新しいバックアップを作成する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で、該当するバックアップ ボックスを参照して **[処理]** をクリックし、**[詳細]** をポイントして、**[バックアップ設定のクローンを作成する]** をクリックします。

[[最初のバックアップの名前] のコピー] という名前の新しいバックアップ ボックスが作成され、これには「親」のバックアップと同じ設定が含まれています。

2. クローンのバックアップ ボックスで **[処理]** をクリックし、**[バックアップ設定を編集する]** をクリックします。
3. バックアップする項目を変更します。必要に応じて、バックアップ名、保存先、その他の設定を変更します。
4. **[保存]** ボタンをクリックします。
5. 最初のバックアップ バージョンを作成するには、バックアップ ボックスで **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

4 データのリカバリ

データ バックアップの目的は、ハードウェア障害、火災、盗難、または誤ったファイルの削除によって元のデータが失われた際に、バックアップされたデータをリカバリすることです。

Acronis True Image Home 2011 のバックアップ機能を使用して、システムおよびデータを正常にバックアップできたことと思います。バックアップがあれば安心です。

次のセクションでは、ディスク、パーティション、ファイル、およびフォルダのリカバリ方法について説明します。ほとんどの場合、ファイルおよびフォルダのリカバリには Acronis バックアップ エクスプローラを使用します。詳細については、「Acronis バックアップ エクスプローラ (27 ページ)」を参照してください。

セクションの内容

クラッシュ後のシステムのリカバリ.....	76
パーティションとディスクのリカバリ.....	81
Acronis ノンストップ バックアップで保護されているパーティションのリカバリ	83
複数のパーティションを一度にリカバリする	84
レスキュー メディアを使ってディスク バックアップを異なるディスクへリカバリする	85
ファイル レベルのバックアップからデータをリカバリする	89
ファイル バージョンのリカバリ	91
異なるハードウェアへのリカバリ	92
Acronis Universal Restore	96
Acronis スタートアップ リカバリ マネージャの使用法	97
ダイナミック/GPT ディスクおよびボリュームのリカバリについて.....	98
[バックアップ保護] ダイアログボックス.....	100
BIOS での起動順の並び替え.....	100
リカバリ オプション.....	101

4.1 クラッシュ後のシステムのリカバリ

コンピュータが起動に失敗した場合、「クラッシュの原因を特定する (76 ページ参照)」で説明されているヒントを参考にして、まず原因を特定することをお勧めします。クラッシュがオペレーティングシステムの破損によって発生した場合は、バックアップを使用してシステムをリカバリします。「リカバリの準備 (77 ページ)」を参照して準備を完了し、「システムのリカバリ (77 ページ参照)」の手順に進みます。

4.1.1 クラッシュの原因を特定する

システム クラッシュの原因には、2 つの基本的な要因があります。1 つ目は、ハードウェア障害によってコンピュータが起動できなくなることです。2 つ目の要因は、オペレーティングシステムに障害が発生し、Windows が開始されなくなることです。

最初の原因の場合は、サービス センターに問い合わせることをお勧めします。その前に、いくつかの検査を実行することもできます。ケーブル、コネクタ、外付けデバイスの電源などを確認します。その後、コンピュータを再起動してください。コンピュータの電源をオンにすると同時に POST (パワーオン セルフ テスト: power-on self test) が開始され、システム ハードウェアが確認されます。POST によって障害が検知された場合、PC を修理に出す必要があります。

POST によってハードウェア障害が見つからなかった場合、BIOS を開始して、システムのハードディスク ドライブが認識されているかどうかを確認します。BIOS を開始するには、POST シーケンス中に必要なキーの組み合わせ (Del キー、F1 キー、Ctrl+Alt+Esc キー、Ctrl+Esc キーなど。ご使用の BIOS によります) を押します。通常は起動テスト中に、必要なキーの組み合わせを示すメッセージが表示されます。このキーの組み合わせを押すと、セットアップ メニューが表示されます。ハードディスク自動検出ユーティリティを選択します。通常は、「Standard CMOS Setup」または「Advanced CMOS setup」の下に表示されています。ユーティリティによってシステム ドライブが検出されなかった場合、システム ドライブに障害が発生しているため、ドライブを交換する必要があります。

ユーティリティによって、システムのハードディスク ドライブが正常に検出された場合、クラッシュの原因は、ウイルス、マルウェア、または起動に必要なシステム ファイルの破損が考えられます。

システム ドライブが正常である場合は、システム ディスクまたはシステム パーティションのバックアップを使用してシステムをリカバリします。Windows を起動できないので、Acronis ブータブルレスキュー メディアを使用する必要があります。

破損したハード ディスク ドライブを交換した後でシステムをリカバリする際は、システム ディスクバックアップも使用する必要があります。

4.1.2 リカバリの準備

a) ウィルスまたはマルウェア攻撃のためにクラッシュが発生したことが疑われる場合、コンピュータがウイルスに感染しているかどうかスキャンします。

b) Acronis ブータブル レスキュー メディアをテストします (まだ実行していない場合)。詳細については、「ブータブル レスキュー メディアのテスト (113 ページ)」を参照してください。

c) レスキュー メディアから起動し、リカバリに使用するバックアップをベリファイします。これは、必須です。Windows では正常にベリファイされたバックアップが、リカバリ環境でのベリファイでは壊れているという現象が報告されているためです。これは、Acronis True Image Home 2011 で使用されるデバイス ドライバが Windows とリカバリ環境とで異なることが原因である可能性があります。Acronis True Image Home 2011 によって、バックアップが破損していると見なされた場合、リカバリは中止されます。

4.1.3 システムのリカバリ

「リカバリの準備 (77 ページ参照)」で説明した手順を実行し終わったら、システムのリカバリ処理を開始します。ここでは、破損したシステムを同じハードディスクにリカバリする方法について説明します。交換したハードディスク ドライブにシステムをリカバリする方法も、ほぼ同じです。新しいディスクのフォーマットは、リカバリ処理の中で実行されるので、実行する必要はありません。

リカバリに使用するバックアップが格納されている外部ドライブを接続して、ドライブに電源が入っていることを確認します。これは、Acronis レスキュー メディアから起動する前に行います。

1. BIOS で起動順序を設定して、レスキュー メディア デバイス (CD、DVD、または USB スティック) を最初のブート デバイスにします。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。
2. レスキュー メディアから起動して、[Acronis True Image Home 2011 (完全版)] を選択します。

3. [ようこそ] 画面の [リカバリする] の下の [マイ ディスク] を選択します。



4. リカバリに使用するシステム ディスクまたはパーティション バックアップ イメージを選択します。

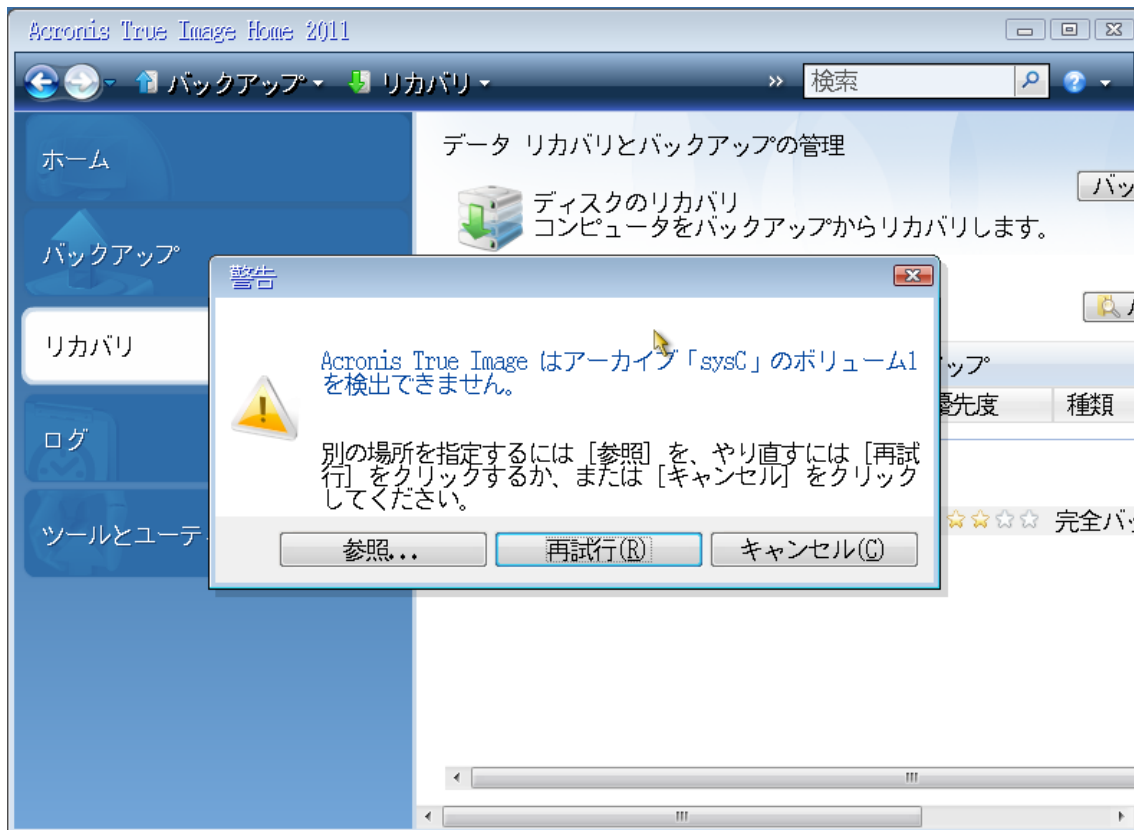
バックアップを右クリックし、ショートカット メニューで [リカバリする] を選択します。

Windows とリカバリ環境とで異なるドライブ文字が割り当てられた場合、次のエラー メッセージが表示されます。

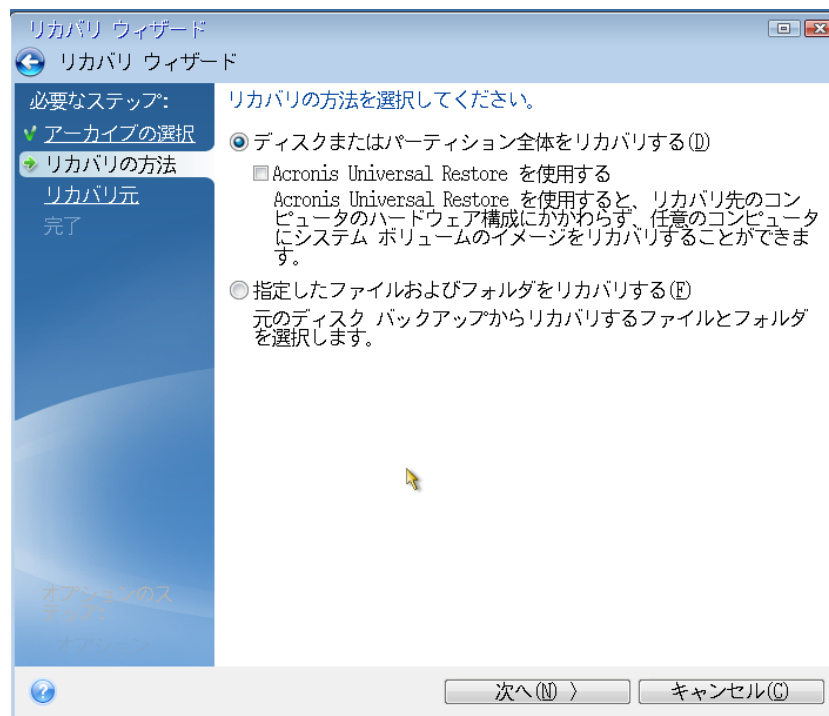
「Acronis True Image Home 2011 はアーカイブ「名前」のボリューム N を検出できません。」

ここで、「名前」は必要なイメージ バックアップの名前であり、ボリューム番号(N)はアーカイブに含まれるバックアップの数によって異なる場合があります。

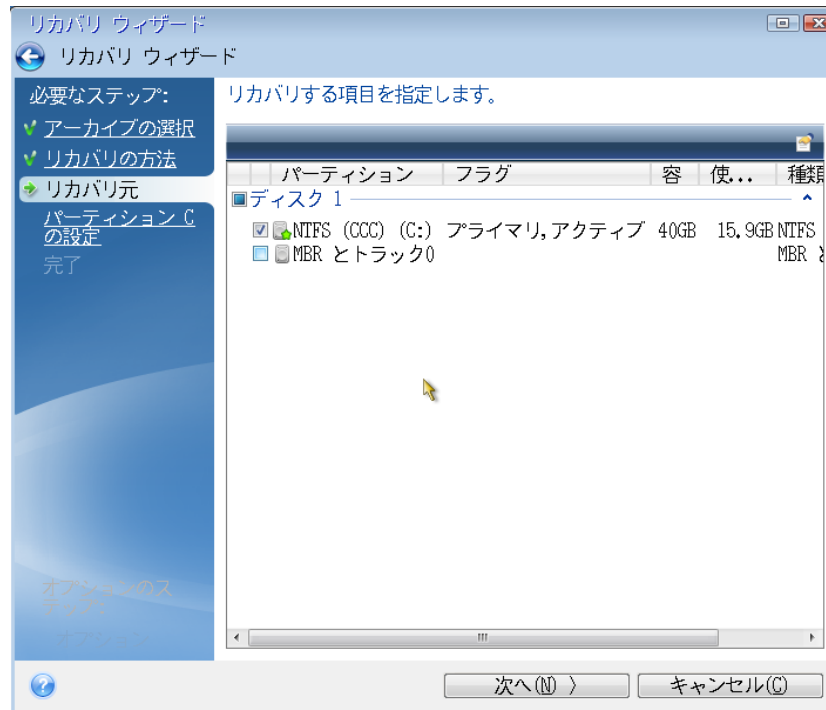
[参照] をクリックしてバックアップのパスを表示します。



5. [リカバリの方法] で [ディスクまたはパーティション全体をリカバリする] を選択します。

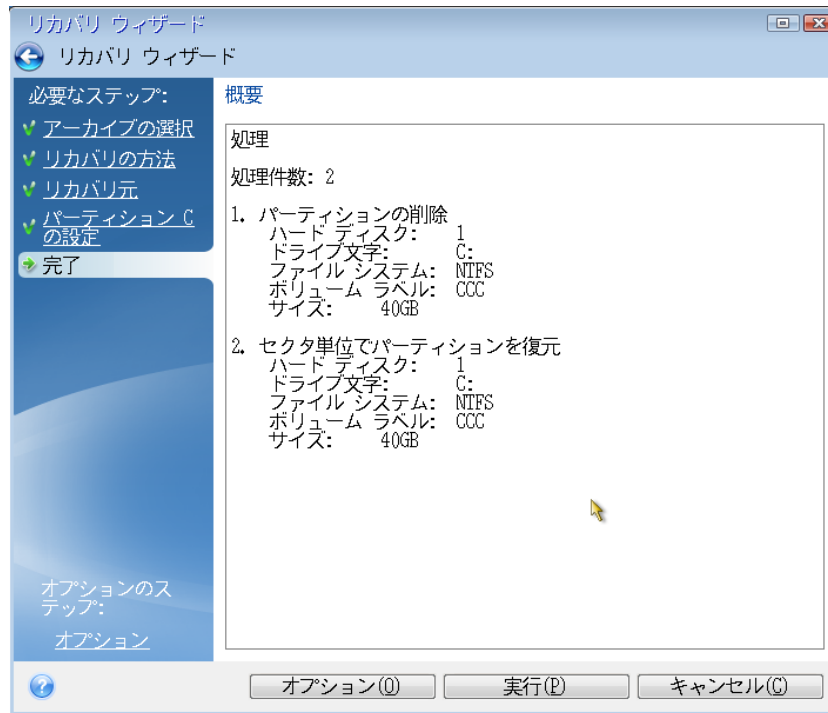


6. **[リカバリ元]** 画面で、システム パーティション(通常は C)を選択します。システム パーティションの文字が異なる場合は、**[フラグ]** 列を使用してパーティションを選択します。**[プライマリ]** および **[アクティブ]** フラグが設定されている必要があります。



7. **[パーティション C の設定]**(または、異なる場合は実際のシステム パーティションの文字)の手順で、デフォルトの設定を確認し、正しい場合は **[次へ]** をクリックします。正しくない場合は、必要に応じて設定を変更した後、**[次へ]** をクリックします。容量が異なる新しいハードディスクにリカバリする場合は設定を変更する必要があります。

8. **[完了]** の画面で処理の概要を確認します。パーティションのサイズを変更していない場合は、**[パーティションの削除]** 項目と **[パーティションの復元]** 項目のサイズが一致している必要があります。概要を確認して、**[実行]** をクリックします。

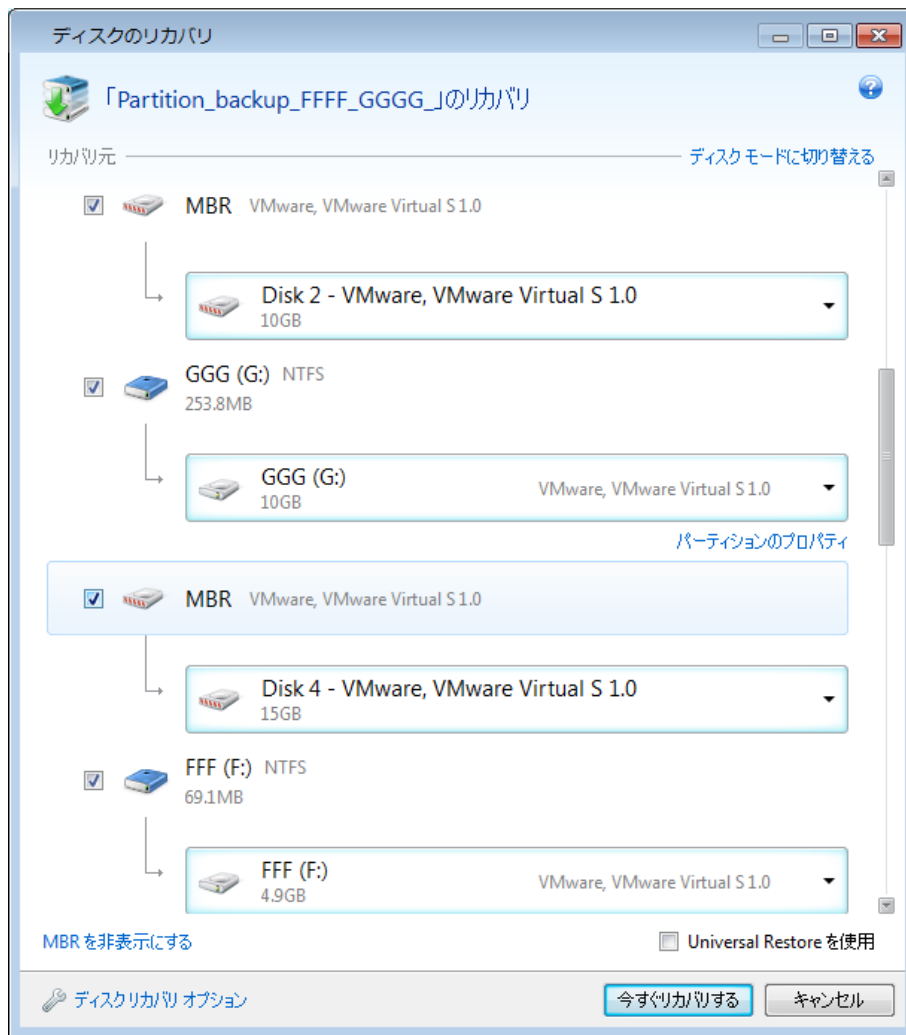


9. 処理が終了したら、Acronis True Image Home 2011 のスタンドアロン バージョンを終了し、レスキュー メディアを取り出して、リカバリされたシステム パーティションから起動します。必要な状態まで Windows をリカバリしたことを確認してから、元の起動順序を復元します。

4.2 パーティションとディスクのリカバリ

メイン画面と Acronis バックアップ エクスプローラの両方で、イメージ バックアップからパーティションまたはディスクのリカバリを開始できます。メイン画面からリカバリを開始するには、リカバリする必要があるパーティション イメージが格納されているバックアップのチェックボックスをオンにします。**[リカバリする]** または **[最新バージョンをリカバリする]** (バックアップに複数のバージョンがある場合) をクリックします。これにより、**[ディスクのリカバリ]** ウィンドウが開きます。

パーティションを、過去の日付の状態にリカバリする必要がある場合は、**[最新バージョンをリカバリする]** ボタンの下の **[参照とリカバリ]** をクリックします。これによりバックアップ エクスプローラが開き、その日付で作成されたイメージ バックアップ バージョンを選択できます。目的のバージョンを選択した後に **[リカバリする]** をクリックすると、**[ディスクのリカバリ]** ウィンドウが開きます。



a) リカバリするパーティション(複数可)に対応するチェックボックスをオンにします。

ディスク全体をバックアップした場合は、**[ディスク モードに切り替える]** をクリックして、ディスク全体を一度にリカバリすることができます。パーティションを再度選択できるようにするには、**[パーティション モードに切り替える]** をクリックします。

b) パーティション名の下に **[リカバリ先を選択する]** フィールドで、リカバリ先パーティションを選択します。リカバリ先として適切なパーティションは黒い文字で表示されます。適切ではないパーティションは赤い文字で表示されます。リカバリ先のパーティション上のデータは、リカバリされるデータおよびファイル システムによって置き換えられるので、すべて失われます。

c) 選択し終わったら、**[今すぐ]** をクリックしてリカバリを開始します。

マスター ブート レコード(MBR)をリカバリする必要がある場合もあります。たとえば、リカバリ後に Windows が起動しない場合には必要である可能性があります。MBR を(パーティションと一緒に、または個別に)リカバリするには、**[MBR]** チェックボックスをオンにします。

ディスク全体をリカバリする場合は、**[ディスク シグネチャをリカバリ]** チェックボックスが表示されません。ディスク シグネチャは、ハードディスク MBR の一部です。このシグネチャによって、ディスクメディアが一意に識別されます。

この **[ディスク シグネチャをリカバリ]** チェックボックスはオンにすることをお勧めします。その理由は次のとおりです。

- Acronis True Image Home 2011 でスケジュールされたバックアップが作成されるときに、ソースハードディスクのシグネチャが使用されます。同じディスク シグネチャをリカバリする場合は、前に作成されたバックアップを再作成または編集する必要はありません。
- インストールされているアプリケーションの中には、使用許諾などの目的にディスク シグネチャを使用するものがあります。

次の場合は、**[ディスク シグネチャをリカバリ]** チェックボックスをオフにすることをお勧めします。

- イメージ バックアップを使用する目的が、災害復旧ではなく、Windows のハードディスク ドライブのクローン作成である場合。

この場合は、リカバリ先が同じドライブであっても、リカバリされたハードディスク ドライブのディスクシグネチャは新たに生成されます。

[ディスク リカバリ オプション] - ディスク リカバリ処理に追加パラメータを設定する場合にクリックします。

[Acronis Universal Restore を使用する] - リカバリ中に Acronis Universal Restore を使用する場合にクリックします。

Acronis Universal Restore (別製品の Acronis True Image Home 2011 Plus Pack によって提供)を使用すると、起動可能なシステム クローンを別のハードウェア上に作成できます (詳細については、「Acronis Universal Restore (96 ページ)」を参照してください)。

システムをバックアップしたときにあったものとは異なるプロセッサ、マザーボード、または大容量記憶装置を持つコンピュータにシステム ディスクをリカバリする場合には、このオプションを選択します。

4.3 Acronis ノンストップ バックアップで保護されているパーティションのリカバリ

Acronis ノンストップ バックアップで保護されているパーティションをリカバリすることができます。最初に、Windows でデータ パーティションをリカバリする方法を示します。

1. Acronis True Image Home 2011 を起動します。
2. メイン画面のノンストップ バックアップのボックスで、**[参照とリカバリ]** をクリックします。
3. **[ディスクとパーティション]** タブのタイム ラインで、リカバリするバックアップ バージョンを選択します。
4. リカバリするパーティションを選択して、**[リカバリする]** をクリックします。
5. これ以降の手順は、従来のイメージ バックアップからデータ パーティションまたはディスクをリカバリするときと似ています。詳細については、「パーティションとディスクのリカバリ (81 ページ)」を参照してください。

状況によっては、システム パーティションのリカバリは、Windows と (Windows が起動しないときは) レスキュー メディアから起動した後の両方で実行できます。Windows でのリカバリはデータ

パーティションのリカバリと似ていますが、再起動が必要です。通常は、システム パーティションをリカバリするにはレスキュー メディアを使用する方が安全です。

レスキュー メディアを使用したリカバリ手順は、従来のバックアップからシステム パーティションをリカバリするときの手順とほぼ同じです。唯一の違いはリカバリ ポイントのステップで、これによりシステム パーティションをリカバリする時点を選択できます。

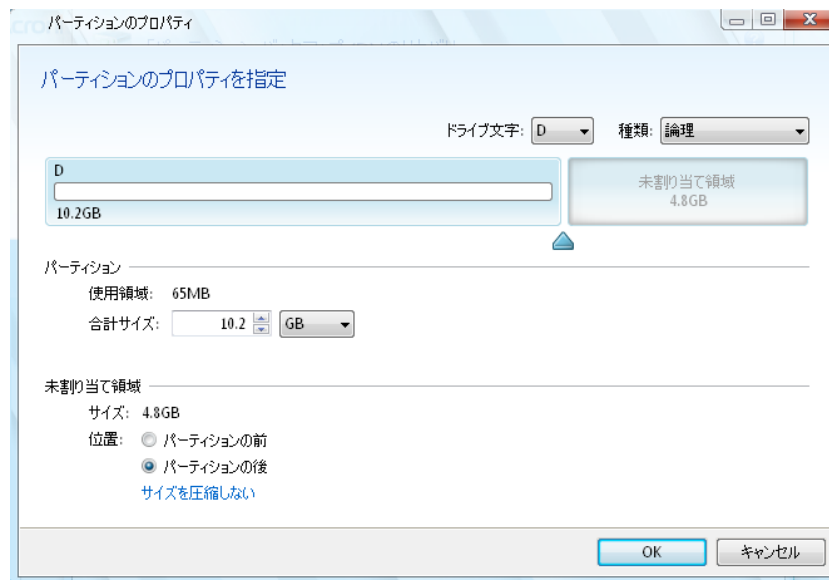
Acronis True Image Home 2011 のセーフ版では、ノンストップ バックアップ ストレージからのリカバリはサポートされません。

4.4 複数のパーティションを一度にリカバリする

複数のパーティションが格納されているハードディスクのイメージを、別のハードディスク ドライブにリカバリするには、次の手順を実行します。

1. 複数のパーティションが格納されているディスクのバックアップ ボックスで **[リカバリする]** ボタンをクリックします。
2. **[ディスクのリカバリ]** ウィンドウでリカバリするパーティションを選択します。これにより、パーティション ラベルの下に **[リカバリ先を選択する]** フィールドが開きます。
3. フィールドの右側の下向き矢印をクリックして、**[リカバリ先を選択する]** の項目を選択します。
4. リカバリ先のハードディスクを選択します。リカバリされるパーティションが、選択したハードディスク上に配置されます。このパーティションは、利用可能なディスク領域すべてを占めます。パーティションのプロパティを変更するには、リカバリ先フィールドの下の **[パーティションのプロパティ]** をクリックします。
5. 残りのパーティション用に十分なディスク領域を残しておくためにパーティションのサイズを圧縮するには、**[サイズを圧縮]** リンクをクリックします。
6. パーティションのサイズを変更するには、画面の水平バー上でマウスを使用して右の境界をドラッグします。パーティションに特定のサイズを割り当てるには、**[合計サイズ]** フィールドに適切な数字を入力します。サイズを変更した新しいパーティションの後ろに、残りのパーティションに必要な未割り当て(空き)領域を残しておく必要があることに注意してください。ドライブとパーティションの種類を選択します。設定を終了したら、**[OK]** をクリックしてその設定を確定し、**[ディスクのリカバリ]** メイン ウィンドウに戻ります。

[パーティションの前] ラジオ ボタンをオンにすることによって、パーティションの前に未割り当て領域を配置することもできます。



7. 次のパーティションのチェックボックスをオンにします。
8. リカバリ先のハードディスク上の未割り当て領域を選択します。未割り当て領域を占有するパーティションが作成されます。
9. 2 番目のパーティションの設定を行います。リカバリする他のパーティション用に十分な未割り当て領域を残しておきます。
10. 次のパーティションを選択します。
11. バックアップ内のすべてのパーティションについて処理が済むまで上記操作を繰り返します。
12. [リカバリする] をクリックして、すべてのパーティションをリカバリ先のハードディスクにリカバリします。

4.5 レスキュー メディアを使ってディスク バックアップを異なるディスクへリカバリする

複数のパーティションが格納されたディスクのバックアップを容量が異なるハードディスクへリカバリする作業は、最も複雑な処理の一つです。バックアップした元のハードディスクに診断またはリカバリのために作成された隠しパーティションが存在する場合には特に複雑になります。

「リカバリの準備 (77 ページ)」を参照して、準備を完了してください。

まだ行っていない場合は、コンピュータのディスクの各パーティションに固有名(ラベル)を割り当ててください。これにより、パーティションをドライブ文字ではなく名前で識別できるようになります。レスキュー メディアから起動するときに、異なる文字がドライブに割り当てられる場合があります。そのため、名前はバックアップを含むドライブやリカバリ先(新規)ドライブを見つける際に役立ちます。

パーティションのサイズ、ドライブの容量、製造者、およびモデル番号も、ドライブを正確に識別するのに役立ちます。

新しいハードディスク ドライブはコンピュータ内の同じ場所に取り付け、元のドライブで使用したものと同じケーブルおよびコネクタを使用することをお勧めします。元のドライブが IDE で新しいドライ

ブが SATA である場合などは、不可能な場合もあります。どの場合でも、新しいドライブは使用するマシンに取り付けてください。

4.5.1 隠しパーティションを含まないディスクのリカバリ

まず、隠しパーティションでない 2 つのパーティションを含むシステム ディスクをリカバリする場合について説明します。また、このシステム ディスクには、隠しパーティションでない可能性のあるリカバリ パーティションは含まれないものとします。ディスクにパーティションが 3 つある場合でも手順は同様です。ここでは、レスキュー メディアを使用するリカバリ方法を説明します。通常は、この方法によって最善のリカバリ結果が得られます。

リカバリに使用するバックアップが外部ドライブに格納されている場合は、その外部ドライブを接続して電源を入れます。これは、Acronis True Image Home 2011 レスキュー メディアから起動する前に行います。

1. BIOS で起動順序を設定して、レスキュー メディア デバイス (CD、DVD、または USB スティック) を最初のブート デバイスにします。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。
2. レスキュー メディアから起動して、[Acronis True Image Home 2011 (完全版)] を選択します。
3. メイン メニューで [リカバリ] → [ディスクとパーティションのリカバリ] を選択します。リカバリに使用するシステム ディスクのイメージ バックアップを選択します。

Windows とリカバリ環境でディスクのドライブ文字が異なる場合は、「Acronis True Image Home 2011 はアーカイブ「名前」のボリューム N を検出できません。」というメッセージが表示されます。ここで、「名前」は必要なイメージ バックアップの名前です。ボリューム番号 (N) はバックアップに含まれるバックアップ バージョンの数によって異なる場合があります。[参照] をクリックしてバックアップのパスを表示します。

4. [リカバリの方法] で [ディスクまたはパーティション全体をリカバリする] を選択します。
5. [リカバリ元] で、リカバリするパーティションのチェックボックスをオンにします。[MBR とトラック 0] チェックボックスはオンにしないでください。オンにすると、ディスク全体がリカバリの対象となります。ディスク全体のリカバリでは、パーティションのサイズを手動で変更することはできません。この場合、新しいディスクの領域は、リカバリされる各パーティションの元の大きさに比例して配分されます。必要に応じて、後から MBR をリカバリできます。パーティションを選択して [次へ] をクリックします。

パーティションを選択すると、該当する [パーティションの設定...] の手順が表示されます。

これらの手順はパーティション ドライブ文字の昇順に基づいて決定され、順序を変更することはできません。この順序は、ハードディスク上のパーティションの物理的順序とは異なる場合があります。

隠しパーティションのリカバリを行わない場合、新しいディスク上のパーティションの物理的な順序は重要ではありません。Acronis True Image Home 2011 によって自動的に適切な Windows ローダ ファイルが修正されます。

この手順により、リカバリしようとしているディスクに隠しパーティションが含まれているかどうかを確認できます。隠しパーティションにはドライブ文字は割り当てられておらず、[パーティションの設定...] で最初に処理されます。隠しパーティションが見つかった場合は、「隠しパーティションを含むディスクのリカバリ (87 ページ)」をご参照ください。

6. パーティション設定のうち、場所、種類、およびサイズを指定できます。システム パーティションの文字はほとんどの場合 C であるため、通常は最初にシステム パーティションの設定を指定します。新しいディスクにリカバリするので、[新しい場所] をクリックします。割り当てられた名前または容量によって、リカバリ先ディスクを選択します。

ディスクに名前を割り当てておらず、リカバリ先ディスクの選択に確信が持てない場合は、リカバリを中止できます。

[キャンセル] をクリックして、型番やインターフェイスなどからリカバリ先ディスクを識別します。型番やインターフェイスを表示するには、メインメニューで [ツールとユーティリティ] → [新しいディスクの追加] を選択します。型番やインターフェイスなどの情報が [ディスクの選択] 画面に表示されます。この画面を使用してリカバリ先ディスクの番号を確認してから [キャンセル] をクリックします。再度リカバリウィザードを実行して上記の手順を繰り返し、リカバリ先ディスクを選択します。

7. [確定] をクリックすると、[パーティションの設定...] 画面に戻ります。パーティションの種類を確認し、必要に応じて変更します。システムパーティションはアクティブに設定されたプライマリパーティションである必要があります。
8. 次に、[パーティション サイズ] の領域で [デフォルトを変更] をクリックしてパーティションのサイズを指定します。デフォルトではパーティションは新しいディスク全体を占有します。画面の水平バーでマウスを使用してパーティションの境界をドラッグすることによって、パーティションのサイズおよび場所を変更できます。または、適切なフィールド([パーティション サイズ]、[前方の空き領域]、[後方の空き領域])に対応する値を入力することも可能です。パーティションのサイズを変更する際には、2番目のパーティション用に十分な未割り当て(空)領域を残す必要があることを忘れないでください。
通常、パーティションの前の空き領域は 0 です。パーティションのサイズに問題なければ [確定] をクリックしてから、[次へ] をクリックします。
9. 次に、2番目のパーティションの設定を指定します。[新しい場所] をクリックしてから、2番目のパーティションを配置するディスク上の未割り当て領域を選択します。[確定] をクリックします。パーティションの種類を確認(必要に応じて変更)します。パーティションのサイズを指定します。パーティションのサイズは、デフォルトでは元のサイズと同じです。通常、最後のパーティションの後ろには空き領域はありません。そのため、未割り当て領域のすべてを 2番目のパーティションに割り当てます。[確定] をクリックしてから [次へ] をクリックします。
10. 実行する処理の概要を確認します。バックアップを検証しない場合は [実行] をクリックします。検証する場合は [オプション] をクリックして [リカバリ前にバックアップアーカイブを検証する] チェックボックスをオンにしてから [実行] をクリックします。
11. 処理が終わったら、スタンドアロンバージョンの Acronis True Image Home 2011 を終了します。

リカバリ後の初回起動時には、Windows は新しいドライブおよび古いドライブを認識しません。認識した結果、Windows の起動に問題が発生する可能性があるからです。古いドライブを容量の大きい新しいドライブにアップグレードする場合は、初回起動前に古いドライブを取り外してください。

古いドライブを取り外す必要がある場合はコンピュータの電源を切ってください。その必要がない場合は、レスキューメディアを取り出してからコンピュータを再起動します。

Windows でコンピュータを起動します。新しいハードウェア(ハードドライブ)が見つかったため Windows を再起動する必要があると表示される場合があります。システムが正常に動作することを確認してから、元の起動順序に戻します。

4.5.2 隠しパーティションを含むディスクのリカバリ

PC 製造元によって、診断やシステムリカバリ用の隠しパーティションが作成されている場合があります。隠しパーティションが存在するシステムディスクのバックアップをリカバリする場合には、他にも考慮すべき点があります。まず、古いドライブに存在するパーティションの物理的順序を新しい

ドライブでも維持する必要があります。また、隠しパーティションを同じ場所(通常はディスク領域の先頭または末尾)に配置する必要もあります。問題発生リスクを最小限に抑えるために、隠しパーティションのサイズを変更せずにリカバリすることをお勧めします。

リカバリに使用するバックアップが外部ドライブに格納されている場合は、その外部ドライブを接続して電源を入れます。これは、Acronis True Image Home 2011 レスキュー メディアから起動する前に行います。

1. BIOS で起動順序を設定して、レスキュー メディア デバイス(CD、DVD、または USB スティック)を最初のブート デバイスにします。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。
2. レスキュー メディアから起動して、[Acronis True Image Home 2011(完全版)]を選択します。
3. メイン メニューで [リカバリ] → [ディスクとパーティションのリカバリ] を選択します。リカバリに使用するシステム ディスクのイメージ バックアップを選択します。

Windows とリカバリ環境でディスクのドライブ文字が異なる場合は、「Acronis True Image Home 2011 はアーカイブ「名前」のボリューム N を検出できません。」というメッセージが表示されます。ここで、「名前」は必要なイメージ バックアップの名前です。ボリューム番号(N)はバックアップに含まれるバックアップ バージョンの数によって異なる場合があります。

リカバリを続行する前に、既存のすべてのパーティションのサイズと物理的な順序を把握しておく必要があります。この情報を表示するには、ウィザードのツールバーで [詳細] をクリックします。Acronis True Image Home 2011 によって、バックアップされたディスクの情報が表示されます。この情報には、ディスクに格納されているすべてのパーティションおよびディスク上の物理的順序の図が含まれます。パーティションの表示領域が小さいために必要なすべての情報が分からない場合は、パーティション上にマウス ポインタを置くと情報が表示されます。

4. [リカバリの方法] で [ディスクまたはパーティション全体をリカバリする] を選択します。
5. [リカバリ元] で、リカバリするパーティションのチェックボックスをオンにします。[MBR とトラック 0] チェックボックスはオンにしないでください。オンにすると、ディスク全体がリカバリの対象となります。ディスク全体のリカバリでは、パーティションのサイズを手動で変更することはできません。MBR は後でリカバリすることができます。パーティションを選択して [次へ] をクリックします。

パーティションを選択すると、該当する [パーティションの設定...] の手順が表示されます。これらの手順は、ドライブ文字のないパーティション(隠しパーティションには通常、ドライブ文字はありません)から開始します。次に、パーティションのドライブ文字の昇順に進みます。この順序は変更できません。この順序は、ハードディスク上のパーティションの物理的順序とは異なる場合があります。

6. パーティション設定のうち、場所、種類、およびサイズを指定できます。隠しパーティションには通常はドライブ文字がないため、最初に隠しパーティションの設定を指定する必要があります。新しいディスクにリカバリするため、[新しい場所] をクリックします。割り当てられた名前または容量によって、リカバリ先ディスクを選択します。

ディスクに名前を割り当てておらず、リカバリ先ディスクの選択に確信が持てない場合は、リカバリを中止できます。[キャンセル] をクリックして、型番やインターフェイスなどからリカバリ先ディスクを識別します。型番やインターフェイスを表示するには、メイン メニューで [ツールとユーティリティ] → [新しいディスクの追加] を選択します。型番やインターフェイスなどの情報が [ディスクの選択] 画面に表示されます。この画面を使用してリカバリ先ディスクの番号を確認してから [キャンセル] をクリックします。再度リカバリ ウィザードを実行して上記の手順を繰り返し、リカバリ先ディスクを選択します。

7. [確定] をクリックすると、[パーティションの設定...] 画面に戻ります。パーティションの種類を確認し、必要に応じて変更します。

8. 次に、[パーティション サイズ] の領域で **[デフォルトを変更]** をクリックしてパーティションのサイズを指定します。デフォルトではパーティションは新しいディスク全体を占めています。隠しパーティションは、サイズを変更せずそのままにし、ディスク上の同じ場所(ディスク領域の先頭または末尾)に配置する必要があります。これを行うには、画面の水平バーでマウスを使用してパーティションの境界をドラッグし、パーティションのサイズおよび場所を変更します。または、適切なフィールド([パーティション サイズ]、[前方の空き領域]、[後方の空き領域])に対応する値を入力することも可能です。パーティションを必要なサイズおよび場所に指定したら、**[確定]** をクリックしてから **[次へ]** をクリックします。
 - 2 番目のパーティションの設定を指定します。このパーティションは、ここではシステム パーティションです。**[新しい場所]** をクリックしてから、パーティションを配置するディスク上の未割り当て領域を選択します。**[確定]** をクリックしてパーティションの種類を確認(必要に応じて変更)します。システム パーティションはアクティブに設定されたプライマリ パーティションである必要があります。パーティションのサイズを指定します。デフォルトでは元のサイズと同じです。通常、このパーティションの後ろには空き領域はないため、新しいディスク上の未割り当て領域のすべてを 2 番目のパーティションに割り当てます。**[確定]** をクリックしてから **[次へ]** をクリックします。
9. 実行する処理の概要を確認します。バックアップを検証しない場合は **[実行]** をクリックします。検証する場合は **[オプション]** をクリックして **[リカバリ前にバックアップ アーカイブを検証する]** チェックボックスをオンにしてから **[実行]** をクリックします。
10. 処理を終了したら MBR のリカバリに進みます。PC の製造元は、隠しパーティションへのアクセスを提供するために、Windows の MBR やトラック 0 上のセクタを変更している可能性があるため、MBR をリカバリする必要があります。
11. 同じバックアップをもう一度選択します。ショートカット メニューで **[リカバリする]** を右クリックして選択します。**[リカバリの方法]** で **[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択してから、[MBR とトラック 0] チェックボックスをオンにします。
12. 次の手順で MBR のリカバリ先のディスクを選択し、**[次へ]** をクリックしてから **[実行]** をクリックします。MBR のリカバリが完了したら、Acronis True Image Home 2011 のスタンドアロン バージョンを終了します。

リカバリ後の初回起動時には、Windows は新しいドライブおよび古いドライブを認識しません。認識した結果、Windows の起動に問題が発生する可能性があるからです。古いドライブを容量の大きい新しいドライブにアップグレードする場合は、初回起動前に古いドライブを取り外してください。

古いドライブを取り外す必要がある場合はコンピュータの電源を切ってください。その必要がない場合は、レスキュー メディアを取り出してからコンピュータを再起動します。

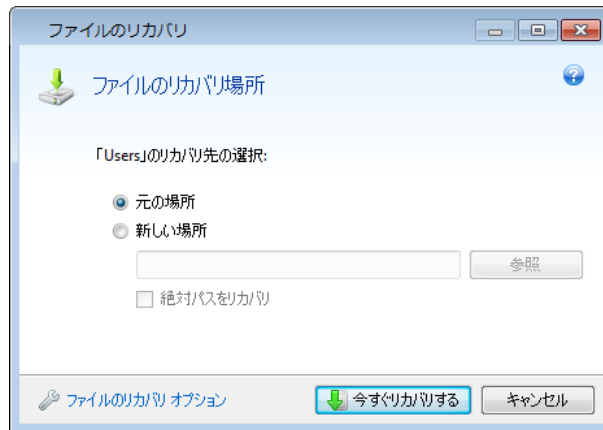
Windows でコンピュータを起動します。新しいハードウェア(ハード ドライブ)が見つかったため Windows を再起動する必要があると表示される場合があります。システムが正常に動作することを確認してから、元の起動順序に戻します。

4.6 ファイル レベルのバックアップからデータをリカバリする

通常、ファイルおよびフォルダのリカバリは、Acronis バックアップ エクスプローラで開始します。特定のバージョンをリカバリする場合は、**[バージョンの表示]** ウィンドウからリカバリの手順を開始します。いずれの場合でも、リカバリを開始すると、**[ファイルのリカバリ]** ウィンドウが開きます。

バックアップ エクスプローラでのファイルおよびフォルダのリカバリについて説明します。

1. バックアップ エクスプローラで、リカバリするファイルおよびフォルダを選択します。バックアップ エクスプローラでの選択操作については、「ファイルとフォルダ (30 ページ)」を参照してください。[リカバリする] をクリックしてリカバリを開始します。[ファイルのリカバリ] ウィンドウが開きます。



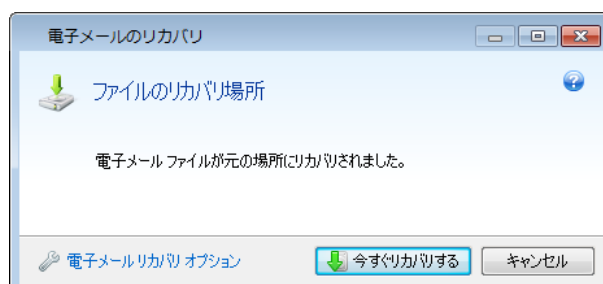
2. 選択したファイルまたはフォルダをリカバリするコンピュータ上のリカバリ先を選択します。元の場所にデータをリカバリすることができます。また、必要に応じて新しい場所を選択することもできます。新しい場所を選択するには、[参照...] ボタンをクリックします。
3. 新しい場所を選択した場合、デフォルトでは、元の絶対パスはリカバリせずに、選択した項目がリカバリされます。項目をフォルダ構造全体と共にリカバリすることもできます。その場合は、[絶対パスをリカバリ] チェックボックスをオンにします。
4. 必要に応じて、リカバリ処理のオプション(リカバリ処理の優先度、ファイルレベルのセキュリティ設定など)を選択します。オプションを設定するには、[ファイルのリカバリ オプション] リンクをクリックします。ここで設定するオプションは、現在のリカバリ処理にのみ適用されます。
5. リカバリ処理を開始するには、[今すぐ] ボタンをクリックします。
6. リカバリの進行状況が別ウィンドウに表示されます。[キャンセル] をクリックすると、リカバリは中止されます。中止したリカバリによってリカバリ先のフォルダが変更されている場合があります。

メール、アプリケーション設定、およびシステム状態のリカバリ方法

メールは、電子メールのバックアップからデータのリカバリを意味します。アプリケーション設定およびシステム状態は、Acronis True Image Home 2011 など、旧バージョンの Acronis True Image Home 2011 によって作成された古いバックアップからのみリカバリできます。

電子メール、アプリケーション設定、およびシステム状態のバックアップからデータをリカバリする方法について説明します。

1. Acronis バックアップ エクスプローラで目的のバックアップ バージョンを選択し、[リカバリする] をクリックしてリカバリを選択します。[ファイルのリカバリ] ウィンドウが開きます。



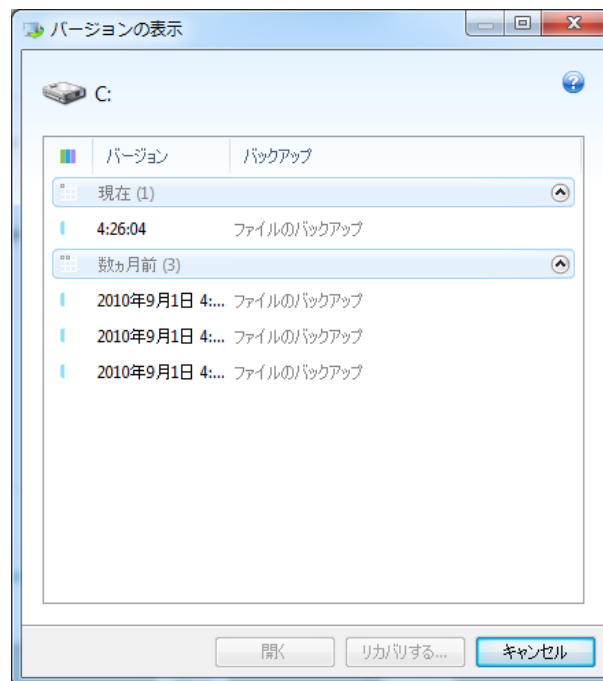
2. このようなデータをリカバリできるのは、元の場所に対してのみです。そのため、変更できるのはリカバリ オプションのみです。リカバリ オプションを変更するには、[リカバリ オプション] リンクをクリックします。ここで設定するオプションは、現在のリカバリ処理にのみ適用されます。
3. リカバリ処理を開始するには、[今すぐ] ボタンをクリックします。
4. リカバリの進行状況が別ウィンドウに表示されます。[キャンセル] をクリックすると、リカバリは中止されます。リカバリを中止しても元の場所に変更されている場合があることにご留意ください。

4.7 ファイル バージョンのリカバリ

ファイルの特定バージョンをリカバリする必要がある場合、バックアップ エクスプローラでファイルを選択します。ファイルを選択すると、ファイル サイズ情報の下に [バージョンの表示] リンクが表示されます。リンクをクリックすると、[バージョンの表示] ウィンドウが開き、バックアップ内のファイル バージョンすべての一覧が表示されます。

バックアップ エクスプローラでファイルを選択することもできます。右クリックして、ショートカット メニューで [バージョンの表示] を選択します。

[バージョンの表示] ウィンドウでファイル バージョンを選択するまで、[開く] ボタンと [リカバリする...] ボタンは無効の状態です。ファイル バージョンを選択すると、ボタンは有効になります。



バックアップ時刻に基づいて必要なバージョンを選択し、[リカバリする...] をクリックします。[ファイルのリカバリ] ウィンドウが開きます。リカバリ先を選択し、選択したフォルダにファイル バージョンをリカバリします。詳細については、「ファイル レベルのバックアップからデータをリカバリする (89 ページ)」を参照してください。

Windows エクスプローラで選択したフォルダにバージョンをドラッグしてリカバリすることも可能です。

正しいバージョンを選択するには、関連するアプリケーションでバージョンを開き、ファイルの内容を表示します。バックアップ時刻に基づいてバージョンを選択してから、**[開く]** ボタンをクリックします。Acronis True Image Home 2011 によってファイル バージョンが一時フォルダにリカバリされます。次に、関連付けられているアプリケーションによってファイルが開きます。

4.8 異なるハードウェアへのリカバリ

Acronis Universal Restore (別製品の Acronis True Image Home 2011 Plus Pack によって提供)を使用すると、起動可能なシステム クローンを異なるハードウェア上に作成できます。詳細については、「Acronis Universal Restore (96 ページ)」を参照してください。元のバックアップを作成したシステムとは異なるプロセッサ、マザーボード、または大容量記憶装置にシステム ディスクをリカバリするときは、このオプションを選択します。たとえば、壊れたマザーボードを交換した後や、システムをデスクトップからラップトップに移行するときなどに役に立ちます。tib ファイルおよび vhd ファイルのどちらからシステム ディスクをリカバリする場合でも、Acronis Universal Restore を使用できます。

Acronis ノンストップ バックアップからシステム パーティションをリカバリするときは、Acronis Universal Restore を使用することはできません。

リカバリを開始する前に、ハードディスク ドライブ コントローラ用のドライバ、または新しいマザーボード用のチップセット ドライバが存在していることを確認してください。これらのドライバは、オペレーティング システムの起動に不可欠です。マザーボード用のドライバは、製品製造元のウェブ サイトからダウンロードできます。.exe、.cab、または .zip 形式でドライバをダウンロードした場合は、最初にそれらのドライバを取り出す必要があります。ドライバ ファイルの拡張子は、.inf、.sys、または .oem です。

Acronis Universal Restore を使用したシステムのリカバリ

1. メイン画面の **[マイ バックアップ]** 領域で、システム パーティションが格納されているバックアップを選択します。
2. バックアップが単一バージョンで構成されている場合、バックアップのボックスの **[リカバリする]** ボタンをクリックします。複数のバックアップ バージョンが存在する場合、**[参照とリカバリ]** をクリックします。**[ディスクとパーティション]** タブで、リカバリするバックアップ バージョンを選択してから、**[リカバリする]** をクリックします。
3. **[ディスクのリカバリ]** ウィンドウが開いたら、システム パーティションのチェックボックスをオンにして、リカバリ先を選択します。
4. **[Universal Restore を使用]** チェックボックスをオンにします。次に、**[設定]** をクリックして、**[ドライバ マネージャ]** ウィンドウを開きます。
5. ターゲット ハードウェアに装着されているハードディスク用の大容量記憶装置コントローラ (SCSI、RAID、ファイバ チャネル アダプタなど) がわかっている場合は、特定のハードウェア用のドライバを検索する場所を指定します。ドライバがフロッピー ディスクまたは CD に格納されている場合は、**[リムーバブル メディアからデバイス ドライバを検索する]** チェックボックスをオンにします。ローカル ハードディスクまたはネットワーク共有に格納されているドライバがある場合は、**[カスタム ドライバの場所を追加します...]** をクリックします。次に、ドライバ(複数可)の場所を選択します。ドライバの場所を指定したら、**[OK]** をクリックします。

Acronis Universal Restore は、FTP サーバー上でのドライバの検索はサポートしていません。

ほとんどの場合、Acronis Universal Restore では次の 3 つの場所でドライバが検索されます。

- リムーバブル メディア

- この手順で指定したドライバ ストレージの場所(複数の場合あり)
 - Windows のデフォルトのドライバ ストレージ フォルダ(リカバリされるイメージ内)
- 使用可能なドライバの中から最適なものが検索され、リカバリされたシステムにインストールされます。

6. リカバリを開始するには、**[リカバリする]** ボタンをクリックします。
7. 処理を続行するためにコンピュータを再起動するよう警告が表示されたら、**[再起動]** をクリックして続行します。

リカバリの際、指定された検索先で見つからないドライバがあると、エラー メッセージが表示されます。その場合、**[無視]** をクリックしてリカバリを続行するか、**[キャンセル]** をクリックして処理を取り消してから必要なドライバを検索します。その後、リカバリ処理を続行します。

システムがリカバリされたら、Acronis Universal Restore によってレジストリにパッチが当てられ、新しいドライバがインストールされます。そのため、ドライバの場所が有効であることを確認する必要があります。たとえば、バックアップのリカバリ先にするディスクと同じディスク上にドライバの検索パスを指定しないでください。別の USB ハードディスク、USB フラッシュ スティック、またはネットワーク共有にドライバを配置することをお勧めします。

システム パーティションのリカバリが成功したら、リカバリされた Windows を起動します。

初めて Windows を起動すると、「新しいハードウェアが見つかりました」というポップアップ メッセージが何回も表示され、コンピュータを再起動するように要求されます。

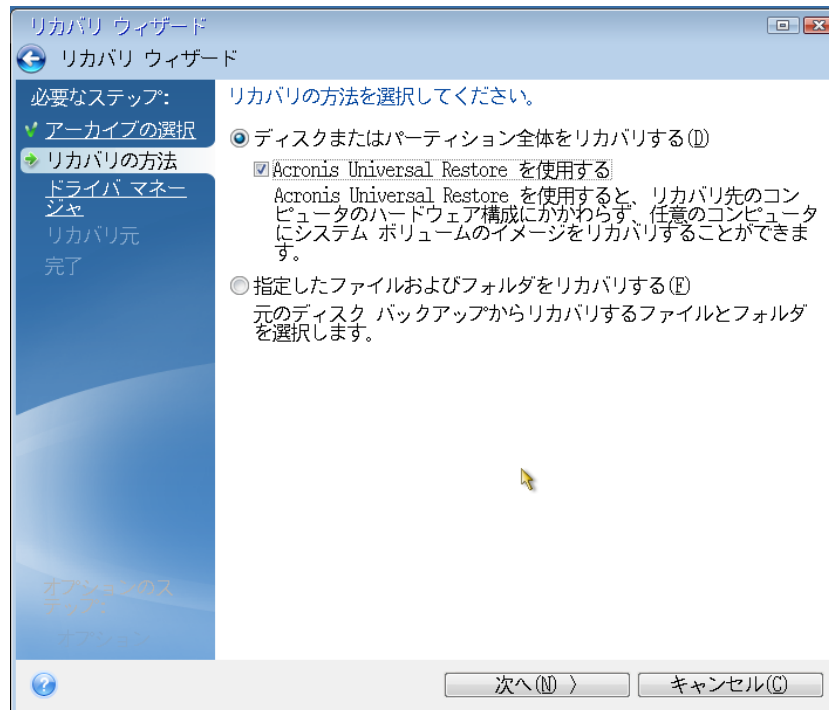
複数の Windows OS によるマルチブート構成のバックアップをリカバリするために Acronis Universal Restore を使用する場合、最も重要なドライバはすべての Windows インストールで置き換えられます。

レスキュー メディアで Acronis Universal Restore を使用したシステムのリカバリ

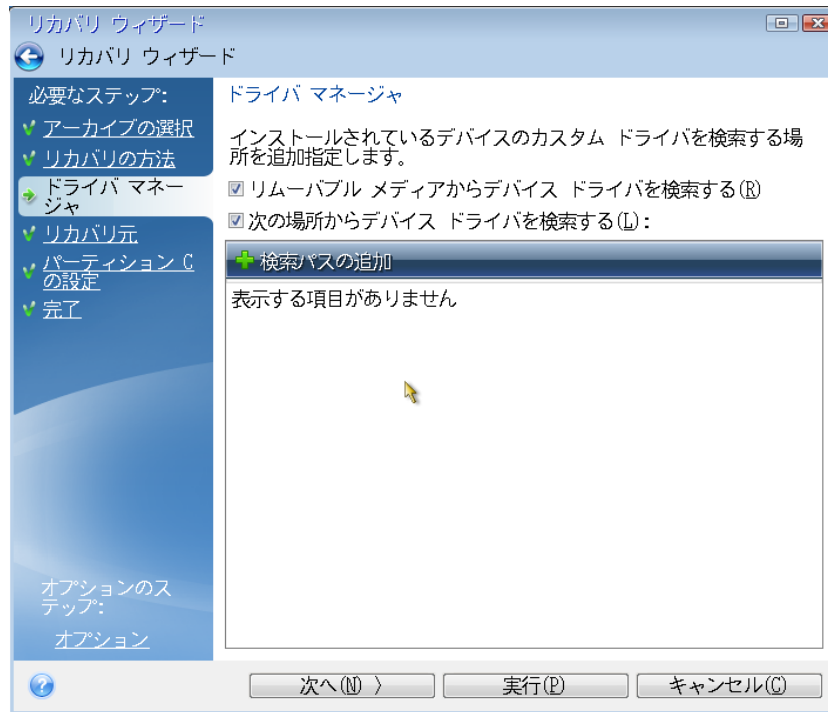
ほとんどの場合、システムのリカバリにはブータブル メディアが適しています。レスキュー メディアには、Acronis Universal Restore アドオンが格納されている必要があります。そのため、Acronis True Image Home 2011 Plus Pack のインストール後は、ブータブル メディアを再度作成する必要があります。

1. BIOS でレスキュー メディアを最初のブート デバイスにします。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。
2. レスキュー メディアから起動して、[Acronis True Image Home 2011 (完全版)] を選択します。
3. [ようこそ] 画面の **[リカバリする]** の下にある **[マイ ディスク]** リンクをクリックして、リカバリ ウィザードを起動します。次に、リカバリするシステム ディスクのイメージを選択します。スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 でのドライブ文字は Windows でのドライブの認識方法と異なることがあるため、イメージ ファイルのパスを指定する必要がある場合があります。**[参照]** をクリックしてイメージが格納されているディスクとフォルダを選択します。

4. [ディスクまたはパーティション全体をリカバリする] を選択し、[Acronis Universal Restore を使用する] チェックボックスをオンにします。



5. ターゲット ハードウェアに装着されているハードディスク用の大容量記憶装置コントローラ (SCSI、RAID、ファイバ チャンネル アダプタなど)がわかっている場合は、**[ドライバ マネージャ]** 手順で、特定のハードウェア用のドライバを検索する場所を指定します。ドライバがフロッピー ディスクまたは CD に格納されている場合は、**[リムーバブル メディアからデバイス ドライバを検索する]** チェックボックスをオンにします。ローカルのハードディスクまたはネットワーク共有に格納されているドライバがある場合は、**[次の場所からデバイス ドライバを検索する]** チェックボックスをオンにします (デフォルトでオンになっていない場合)。**[検索パスの追加]** をクリックしてからドライバへのパスを指定します。



この手順で両方のチェックボックスをオンにすると、Acronis Universal Restore では次の 3 つの場所からドライバが検索されます。

- リムーバブル メディア
- この手順で指定したドライバ ストレージ フォルダ
- Windows のデフォルトのドライバ ストレージ フォルダ (リカバリされるイメージ内)

使用可能なドライバの中から最適なものが検索され、リカバリされたシステムにインストールされます。

6. **[リカバリ元]** でシステム ディスクを選択します。次に、リカバリされるディスク (新しいシステム ディスク) のリカバリ先を指定します。この時点で、ターゲット ディスクが空かどうかチェックされます。空ではない場合は、ターゲット ディスクにパーティションが存在し必要なデータが含まれている可能性があることを知らせる確認ウィンドウが表示されます。パーティションの削除を確認するには、**[OK]** をクリックします。
7. **[完了]** の画面で処理の概要を確認します。バックアップを検証しない場合は **[実行]** をクリックします。検証する場合はサイドバーの **[オプション]** をクリックして **[リカバリ前にバックアップ アーカイブを検証する]** チェックボックスをオンにしてから **[実行]** をクリックします。

バックアップ元およびリカバリ先ディスクの容量が異なる場合、新しいディスク領域は、リカバリされる各パーティションに比例して配分されます。

システムパーティションのリカバリが成功したら、Acronis True Image Home 2011 を終了します。BIOS に移動し、システムのハードディスクを最初のブート デバイスにしてから、リカバリした Windows を起動します。

4.9 Acronis Universal Restore

4.9.1 Acronis Universal Restore の用途

Universal Restore は Acronis True Image Home 2011 Plus Pack の一部であり、別途購入する必要があります。Acronis True Image Home 2011 Plus Pack には固有のライセンスがあり、独自のセットアップ ファイルからインストールします。新しくインストールした Universal Restore アドオンを起動用のリカバリ環境で機能させるには、ブータブル メディアを再度作成する必要があります。

システム ディスク イメージを、それが作成されたハードウェアまたは同一構成のハードウェアに、簡単に復元できます。ただし、ハードウェア障害などの状況で、マザーボードを交換したり、バージョンの異なるプロセッサを使用したりすると、リカバリされたシステムを起動できないことがあります。

通常、より高スペックなコンピュータにシステムを移動させようとした場合にも同じ結果になります。これは、新しいハードウェアが、イメージに含まれている重要なドライバと互換性がないからです。

Microsoft System Preparation Tool (Sysprep) を使用しても、この問題は解決しません。Sysprep で置き換えることができるのは、プラグ アンド プレイのデバイス ドライバ (サウンド カード、ネットワーク アダプタ、ビデオ カードなど) に限られているためです。

ただし、システムの HAL (Hardware Abstraction Layer) と大容量記憶装置デバイス ドライバは、ソース コンピュータとターゲット コンピュータの両方で同じである必要があります (Microsoft サポート 技術情報の文書番号 302577 と 216915 をご参照ください)。

Acronis Universal Restore テクノロジーは、重要な HAL および大容量記憶装置のドライバを置き換えることによって、ハードウェアに依存しないシステムの復元の効率的なソリューションを提供します。

Acronis Universal Restore は次の操作に使用できます。

1. さまざまなハードウェアで障害や災害が発生したシステムの迅速なリカバリ
2. ハードウェアに依存しないオペレーティング システムのクローン作成

Acronis Universal Restore の使用上の制限

1. イメージのパーティション構造またはターゲット ディスクのパーティションがソース ディスクのパーティションと一致しないと、Acronis Universal Restore によって復元されたシステムは起動しない可能性があります。イメージから復元されたローダは誤ったパーティションをポイントすることになり、システムが起動しなかったり、正しく動作しなかったりします。

これは、次の場合に発生することがあります。

- ソース ディスク全体ではなく、選択したパーティションのみをバックアップした場合
- ソース ディスク全体ではなく、選択したパーティションのみを復元した場合。システムが元のパーティション以外のパーティション上にある場合など、条件によってはローダに混乱が生じて、復元されたシステムを起動できなくなります。

この問題を回避するには、システム ディスク全体をバックアップし、システム全体をリカバリすることをお勧めします。

2. Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ(F11 キー)を使用してコンピュータを起動した場合や、バックアップ イメージが Acronis セキュア ゾーンにある場合は、Acronis Universal Restore オプションが機能しません。これは、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャと Acronis セキュア ゾーンが主に同じコンピュータ上でデータ リカバリを目的としているためです。

4.9.2 Acronis Universal Restore の一般的な原理

1. HAL および大容量記憶装置のドライバの自動選択

Acronis Universal Restore は、(復元されたイメージの)Windows デフォルト ドライバ ストレージ フォルダで HAL および大容量記憶装置のドライバを検索し、復元先ハードウェアに最も適したドライバをインストールします。

カスタム ドライバ リポジトリ(ネットワーク ドライブまたは CD の 1 つまたは複数のフォルダ)を指定して、このリポジトリでドライバを検索することもできます。さらに、Acronis Universal Restore はリムーバブル メディア上のドライバを検索することもできます。

Windows のデフォルトのドライバ ストレージ フォルダは、レジストリ キー

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\DevicePath
```

のレジストリ値「DevicePath」で指定されています。通常、このストレージ フォルダは WINDOWS/inf です。

2. プラグ アンド プレイ デバイス用のドライバのインストールでは、Acronis Universal Restore は組み込みのプラグ アンド プレイの検出および設定処理を利用して、システム起動時に重要ではないデバイスのハードウェアの違いに対処します。このようなデバイスには、ビデオ、オーディオ、および USB が含まれます。Windows はログオン段階でこの処理を行います。新しいハードウェアが検出されないときは、後で手動でドライバをインストールできます。

4.10 Acronis スタートアップ リカバリ マネージャの使用方法

Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを使用すると、オペレーティング システムを読み込まずにローカル コンピュータ上で Acronis True Image Home 2011 を起動することができます。

Windows が読み込まれない場合でも、この機能により、Acronis True Image Home 2011 を単独で実行して、損傷しているパーティションをリカバリすることができます。

コンピュータ起動時に Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを使用できるようにするための手順は、次のとおりです。

- メニュー バーの [ツールとユーティリティ] をクリックし、[Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ] を選択します。

- [有効化] ボタンをクリックします。



注意

Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを有効化すると、MBR(マスタ ブート レコード)がスタートアップ リカバリ マネージャのブート コードで上書きされます。サード パーティ製のブート マネージャがインストールされている場合は、リカバリ マネージャを有効化した後に、そのブート マネージャを再度有効化する必要があります。Linux のローダ (LiLo、GRUB など) を使用している場合は、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを有効化する前に、ローダを MBR ではなく、Linux の root (または boot) パーティションのブート レコードにインストールすることをお勧めします。

障害や災害が発生した場合は、コンピュータの電源を入れて、「Press F11 for Acronis Startup Recovery Manager」というメッセージが表示されたら F11 キーを押します。スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 が起動します。このスタンドアロン版と完全版との違いはごくわずかです。システム パーティションのイメージが格納されているバックアップを参照し、システムをリカバリします。

スタンドアロンの Acronis True Image Home 2011 で使用されるドライブ文字は、Windows でのドライブ文字とは異なることがあります。たとえば、スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 の D: ディスクが、Windows の E: ディスクに対応していることもあります。ディスクのラベル、パーティション サイズ、ファイル システム、ドライブの性能、メーカー、およびモデル番号に関する情報を参照することによって、ディスクおよびパーティションを正しく特定することができます。

Try&Decide がオンの場合、以前にアクティブ化した Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを使用することはできません。Try モードでコンピュータを再起動すると、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを再び利用できるようになります。

4.11 ダイナミック/GPT ディスクおよびボリュームのリカバリについて

1) Acronis True Image Home 2011 では、ローカル ハード ドライブの次の場所へダイナミック ボリュームをリカバリすることができます。

- 元の場所へ(同じダイナミック ボリュームへ)

- 別のダイナミック ディスクまたはボリュームへ
- ダイナミック グループの未割り当て領域へ
- ベーシック ディスクへ

ダイナミック ボリュームをダイナミック グループの未割り当て領域にリカバリすると、リカバリされたボリュームの種類はバックアップ内でのボリュームの種類と同じになります。

ダイナミック ディスクにリカバリする際に、手動でダイナミック ボリュームのサイズを変更することはサポートされていません。リカバリ中にダイナミック ボリュームのサイズを変更する必要がある場合は、ベーシック ディスクにリカバリする必要があります。

ダイナミック ボリュームを新しい未フォーマット ディスクに「ベアメタル リカバリ」を行うと、リカバリされたボリュームはベーシックになります。リカバリされたボリュームをダイナミックのままにしておきたい場合は、ターゲット ディスクをダイナミックとして準備(パーティションが設定され、フォーマットされている)する必要があります。これは、Windows Disk Management スナップインなどの、サードパーティのツールを使用して行うことができます。

2) リカバリ後のターゲット ディスクのパーティションには次の種類があります。

- GPT ディスク イメージを GPT ディスクにリカバリした場合、ターゲット ディスクは GPT ディスクのままです。
- GPT ディスク イメージを MBR ディスクにリカバリした場合、ターゲット ディスクは MBR ディスクのままです。
- MBR ディスク イメージを MBR ディスクにリカバリした場合、ターゲット ディスクは MBR ディスクのままです。
- MBR ディスク イメージを GPT ディスクにリカバリした場合、ターゲット ディスクは MBR になります。

GPT ディスクの未割り当て領域にリカバリすることはサポートされていません。

3) 既存のボリュームにリカバリすると、ターゲット ボリュームの種類は変化しません。

例:

- ダイナミック ボリュームをベーシック ボリュームにリカバリすると、ターゲット ボリュームはベーシックのままです。
- ダイナミック ストライプ ボリュームをダイナミック スパン ボリュームにリカバリすると、ターゲット ボリュームはスパンのままです。

4) ベーシック ボリュームまたはディスクをダイナミック グループへリカバリする場合、次のようなパターンがあります。

- ベーシック ボリュームをダイナミック グループの未割り当て領域にリカバリすると、リカバリされたボリュームはダイナミックになります。
- ベーシック ディスクをダイナミック グループ内のディスクの未割り当て領域にリカバリすると、ディスクはベーシックになります。
- ベーシック ディスクを、2 つのディスクで構成されているダイナミック グループのダイナミック ディスクに割り当てると、リカバリされたディスクはベーシックのままとなり、スパン/ストライプ ダイナミック ボリュームは「不足」になります。

4.12 [バックアップ保護] ダイアログボックス

バックアップ ファイルをパスワードで保護することができます。バックアップの作成時に、バックアップ オプションでパスワードによる保護を設定できます。

パスワードで保護されたバックアップからのデータのリカバリやマウント、パスワードで保護されたバックアップへの増分バックアップの追加を行う場合は、ウィンドウが表示され、パスワードが要求されるので、権限を持つユーザーしかアクセスできません。この場合、選択したバックアップ ファイルに対して正しいパスワードを指定する必要があります。正しいパスワードを指定すると、選択した処理を続行できます。

4.13 BIOS での起動順の並び替え

BIOS には、コンピュータの初期構成を行うためのセットアップ ユーティリティが組み込まれています。セットアップ ユーティリティを開始するには、コンピュータの電源をオンにした直後に開始される POST (power-on self test) シーケンス中に、特定のキーの組み合わせ (Del、F1、Ctrl+Alt+Esc、Ctrl+Esc キーなど、BIOS によって異なります) を押す必要があります。通常は起動テスト中に、必要なキーの組み合わせを示すメッセージが表示されます。このキーの組み合わせを押すと、BIOS に組み込まれているセットアップ ユーティリティのメニューが表示されます。

メニューの外観、メニューに表示される項目と項目名は、BIOS の製造元によって異なります。コンピュータのマザーボード用の BIOS の製造元として最もよく知られているのは、Award/Phoenix と AMI です。また、標準的なセットアップ メニューの項目に関しては BIOS ごとの違いはほとんどありませんが、拡張(または高度な)セットアップの項目は、コンピュータおよび BIOS バージョンによって大幅に異なります。

BIOS メニューでは、特に**起動順**を調整することができます。**起動順**の管理は、AMI BIOS、AWARD BIOS、およびハードウェアの大手メーカーなど、BIOS バージョンごとに異なります。

コンピュータ BIOS では、オペレーティング システムをハードディスクからだけでなく、CD-ROM、DVD-ROM、およびその他のデバイスからも起動できます。レスキュー メディア (CD、DVD、または USB スティック) デバイスを最初の起動デバイスにするなど、起動順の変更が必要になることがあります。

コンピュータに C:、D:、E:、および F: というドライブ文字が割り当てられた複数のハードディスクがある場合は、オペレーティング システムをたとえばディスク E: から起動するように起動順を変更することができます。この場合、起動順を E:、CD-ROM:、A:、C:、D: のように設定する必要があります。

これは、起動順の一覧にある最初のデバイスから起動が実行されることを意味するものではありません。単に、オペレーティング システムの起動がこのデバイスで**最初の試行**であることを意味します。ディスク E: にオペレーティング システムがない場合や、E: がアクティブでない場合もあります。この場合、BIOS は一覧に記載された次のデバイスを照会します。

BIOS は、IDE コントローラに接続されている順序(プライマリ マスタ、プライマリ スレーブ、セカンダリ マスタ、セカンダリ スレーブの順)に従ってディスクに番号を付け、次に SCSI ハードディスクに番号を付けます。

BIOS セットアップで起動順を変更した場合、この順序どおりではなくなります。たとえば、起動をハードディスク E: から実行するよう指定した場合、通常的环境下では 3 番目になるハードディスク(一般的には IDE ハードディスクのセカンダリ マスタ)から番号付けが開始されます。

マザーボードの中には、いわゆるブート メニューが用意されているものもあります。ブート メニューは、特定のキーまたはキーの組み合わせ、たとえば F12 キーなどを押すと開きます。ブート メニューを使用すれば、BIOS 設定を変更することなく、ブータブル デバイスのリストからブート デバイスを選択できます。

4.14 リカバリ オプション

[ディスク リカバリ オプション]、[ファイルのリカバリ オプション]、および [電子メールのリカバリ オプション] ウィンドウで、それぞれ、ディスク/パーティション、ファイル、および電子メールのリカバリ処理のオプションを設定できます。アプリケーションをインストールすると、すべてのオプションは初期値に設定されます。それらのオプションは、現在のリカバリ処理用のみに、または、その後のすべてのリカバリ処理用に変更できます。[設定をデフォルトとして保存する] チェックボックスをオンにすると、変更した設定が今後のリカバリ作業すべてにデフォルトで適用されます。

ディスク リカバリ オプション、ファイル リカバリ オプション、および電子メール リカバリ オプションは完全に独立しており、個別に設定する必要があるので注意してください。

製品のインストール後に変更したオプションをすべて初期値にリセットする場合は、[初期設定にリセット] ボタンをクリックします。

セクションの内容

リカバリの前後に実行するコマンド	101
ベリファイ オプション.....	102
コンピュータの再起動	102
ファイル リカバリ オプション	102
ファイル上書きオプション	103
リカバリ処理のパフォーマンス	103
リカバリ処理の通知	104

4.14.1 リカバリの前後に実行するコマンド

リカバリ処理の前後に自動的に実行するコマンド(またはバッチ ファイル)を指定することができます。

たとえば、リカバリを開始する前に特定の Windows プロセスを開始/停止することや、リカバリ対象データのウィルスの有無を調べることができます。

コマンド(バッチ ファイル)を指定する手順は、次のとおりです。

- リカバリ処理の開始前に実行するコマンドを [リカバリ処理の前] フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチ ファイルを選択するには、[編集] ボタンをクリックします。
- リカバリ処理の終了後に実行するコマンドを [リカバリ処理の後] フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチ ファイルを選択するには、[編集] ボタンをクリックします。

リカバリ用ユーザー コマンドの編集

リカバリの前または後に実行するコマンドを指定することができます。

- **[コマンド]** フィールドにコマンドを入力するか、一覧から選択します。[...] をクリックすると、バッチ ファイルを選択できます。
- **[作業ディレクトリ]** フィールドに、コマンド実行のためのパスを入力するか、入力済みのパスの一覧から選択します。
- コマンド実行引数を **[引数]** フィールドに入力するか、一覧から選択します。

[コマンドの実行が完了するまで処理を行わない](デフォルトでは有効)パラメータを無効にすると、コマンド実行と同時にリカバリ処理を実行できます。

[ユーザー コマンドが失敗したら処理を中止する] パラメータを有効にした場合は(デフォルトでは有効)、コマンド実行でエラーが発生すると処理が中止されます。

入力したコマンドをテストするには、**[コマンドのテスト]** ボタンをクリックします。

4.14.2 ベリファイ オプション

- **[リカバリ前にバックアップをベリファイする]**
デフォルトの設定は **[無効]** です。
バックアップからデータをリカバリする前に、Acronis True Image Home 2011 で整合性をチェックすることができます。バックアップが破損している疑いがある場合は、このオプションを有効にします。
- **[リカバリ後にファイル システムをチェックする]**
デフォルトの設定は **[無効]** です。
イメージからパーティションをリカバリ済みの場合、Acronis True Image Home 2011 でファイルシステムの整合性をチェックできます。これを行うには、このオプションを有効にします。

このオプションの使用に関する制限

- ファイル システムのチェックは、FAT16/32 および NTFS ファイル システムを使用してパーティションをリカバリするときのみ使用することができます。
- システム パーティションを元の場所にリカバリする場合のように、リカバリ中に再起動が必要な場合は、ファイル システムはチェックされません。

4.14.3 コンピュータの再起動

デフォルトの設定は **[無効]** です。

リカバリが必要な場合に自動的にコンピュータを再起動させるには、**[リカバリに必要であればコンピュータを自動的に再起動する]** チェックボックスをオンにします。このオプションは、オペレーティング システムによってロックされているパーティションをリカバリする必要がある場合に使用します。このオプションをオンにすると、リカバリ時にユーザーの操作なしでコンピュータが再起動するようになります。

4.14.4 ファイル リカバリ オプション

次のファイル リカバリ オプションを選択できます。

- **[元のセキュリティ設定でファイルをリカバリする]:** バックアップ時にファイルのセキュリティ設定を保存してある場合(「バックアップ用ファイル レベルのセキュリティ設定 (69 ページ)」を参照してください)は、ファイルの元のセキュリティ設定をリカバリするか、リカバリ先のフォルダのセキュリティ設定をファイルに継承させるかを選択できます。このオプションは、ファイルまたはフォルダのバックアップからファイルをリカバリする場合にのみ有効です。
- **[リカバリされたファイルに現在の日時を設定する]:** ファイルの日付/時刻をバックアップからリカバリするか、現在の日付/時刻を割り当てるかを選択することができます。デフォルトでは、バックアップの日付と時刻が割り当てられます。

4.14.5 ファイル上書きオプション

バックアップにあるファイルと同じファイル名が復元先フォルダで見つかった場合の処理を選択します。デフォルトでは、ファイルやフォルダの上書きは行われず、バックアップにあるファイルよりハードディスクにあるファイルが無条件で優先されます。

[既存のファイルを上書きする] チェックボックスをオンにすると、ハードディスクにあるファイルよりバックアップにあるファイルの方が無条件で優先されますが、デフォルト設定では、システム ファイル/フォルダ、隠しファイル/フォルダや、新しいファイルやフォルダは上書きから保護されます。これらのファイルやフォルダも上書きする場合は、該当するチェックボックスをオフにします。

一部のファイルは上書きする必要がない場合:

- **[隠しファイルと隠しフォルダ]** チェックボックスをオン/オフすることで、すべての隠しファイルと隠しフォルダの上書きを有効または無効にします。
- **[システム ファイルとシステム フォルダ]** チェックボックスをオン/オフすることで、すべてのシステム ファイルとシステム フォルダの上書きを有効または無効にします。
- **[復元するものよりも新しいファイルとフォルダ]** チェックボックスをオン/オフすることで、すべての新しいファイルとフォルダの上書きを有効または無効にします。
- **[特定のファイルやフォルダを追加する]** をクリックして、上書きしたくないカスタム ファイルとカスタム フォルダの一覧を管理します。
 - 特定のファイルの上書きを無効にするには、**[次の条件に一致するファイルとフォルダ]** チェックボックスをオンにし、**[追加]** ボタンをクリックして、除外する条件を作成します。
 - 条件の指定には、一般的な Windows のワイルドカード文字を使用できます。たとえば、拡張子 `.exe` を持つすべてのファイルを保護するには、`*.exe` を追加します。`My???.exe` を追加すると、「my」で始まり 5 文字で構成される名前が付いた拡張子 `.exe` のファイルがすべて保護されます。
 - 作成済みの除外条件を編集するには、**[編集]** ボタンをクリックします。

選択した条件を削除するには、**[削除]** ボタンをクリックします。作成したすべての条件を削除するには、**[すべて削除]** ボタンをクリックします。

4.14.6 リカバリ処理のパフォーマンス

[パフォーマンス] タブでは、以下の設定を行うことができます。

処理の優先順位

バックアップ処理やリカバリ処理の優先度を変更すると、(優先度の上げ下げによって)バックアップの処理速度を速くしたり遅くしたりできますが、実行中の他のプログラムのパフォーマンスに悪影響

を及ぼす可能性もあります。システムで実行中のどの処理に対しても、優先順位に応じて、その処理に割り当てられる CPU の使用時間とシステム リソースが決定されます。処理の優先度を下げることによって、他の CPU タスクが使用できるリソースが増えます。バックアップやリカバリの優先度を上げると、同時に実行している他の処理からリソースを取得するため、バックアップ処理の速度が向上します。優先度変更の効果は、全体的な CPU の使用状況およびその他の要因に応じて異なります。

処理の優先度は、次のいずれかに設定することができます。

- **[低]**(デフォルトで有効): バックアップ処理やリカバリ処理の速度は低下しますが、他のプログラムのパフォーマンスは向上します。
- **[通常]**: バックアップ処理やリカバリ処理に、他の処理と同じ優先度が割り当てられます。
- **[高]**: バックアップ処理やリカバリ処理の速度は向上しますが、他のプログラムのパフォーマンスは低下します。このオプションを選択すると、Acronis True Image Home 2011 による CPU 使用率が 100% になる場合があるので注意してください。

4.14.7 リカバリ処理の通知

バックアップまたはリカバリの処理には 1 時間以上かかる場合があります。Acronis True Image Home 2011 では、この処理の終了時に電子メールの通知を受け取ることができます。また、処理中に発行されたメッセージや、処理完了後の詳細な処理ログも送信されます。

デフォルトでは、すべての通知は無効になっています。

空きディスク領域のしきい値

バックアップ ストレージの空き領域が指定したしきい値より少なくなったときに、通知を受け取ることができます。バックアップの開始後、選択したバックアップの場所の空き領域がその時点で既に指定値より少ないことが検出された場合、Acronis True Image Home 2011 では実際のバックアップ処理は開始されず、対応する通知メッセージが直ちに表示されます。メッセージには 3 つの選択肢が示されます。メッセージを無視してバックアップを続行するか、バックアップを保存する別の場所を参照するか、バックアップをキャンセルするかのいずれかを選択してください。

バックアップの実行中に空き領域が指定値より少なくなった場合も、同じメッセージが表示され、同様に選択する必要があります。

空きディスク領域のしきい値を設定する手順は、次のとおりです。

- **[ディスクの空き領域が不十分なとき]** チェックボックスをオンにします。
- **[サイズ]** ボックスでしきい値を入力または選択し、単位を選択します。

Acronis True Image Home 2011 では、次のストレージ デバイスの空き領域を監視できます。

- ローカル ハード ドライブ
- USB カードおよびドライブ
- ネットワーク共有 (SMB/NFS)

[エラー処理] 設定で **[処理中にメッセージやダイアログを表示しない(サイレント モード)]** チェックボックスがオンになっている場合、メッセージは表示されません。

FTP サーバーと CD/DVD ドライブについては、このオプションを有効にすることはできません。

電子メール通知

リカバリ処理の通知に使用する電子メール アカウントを指定することができます。

電子メールによる通知を設定する手順は、次のとおりです。

- **[処理状態に関する電子メール通知を送信する]** チェックボックスを選択します。
- 電子メール アドレスを **[電子メール アドレス]** フィールドに入力します。複数の電子メール アドレスをセミコロンで区切って入力することもできます。
- 送信メール サーバー(SMTP)を **[送信メール サーバー(SMTP)]** フィールドに入力します。
- 送信メール サーバーのポート番号を設定します。デフォルトの場合、ポート番号は 25 に設定されます。
- **[ユーザー名]** フィールドにユーザー名を入力します。
- パスワードを **[パスワード]** フィールドに入力します。
- 電子メール クライアントでメッセージを受信したときに、設定済みのポリシーに従ってメールを処理する場合は(たとえば、指定のフォルダに振り分けるなど)、**[件名]** フィールドに件名を指定します。
- ご利用のインターネット サービス プロバイダで、電子メール送信前にメール受信サーバーでの認証を受けることが必要な場合は、**[受信メール サーバーにログオンする]** チェックボックスをオンにし、次に POP3 サーバー名を入力して受信メール サーバーのポートを設定します。
- 設定が正しいかどうかをチェックするには、**[テスト メッセージを送信する]** ボタンをクリックします。

その他の通知設定:

- 処理の完了に関する通知を送信するには、**[処理が正常に完了したら通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理の失敗に関する通知を送信するには、**[処理が失敗したら通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理メッセージを添付して通知を送信するには、**[ユーザーの操作が必要な場合に通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理の詳細なログを添付して通知を送信するには、**[完全なログを通知に含める]** チェックボックスをオンにします。

5 使用領域

セクションの内容

システムとデータの保護	106
バックアップの準備	109
ブータブル レスキュー メディアのテスト	113
バックアップのリカバリ テスト	116
安全なシステム変更の試行	117
スケジュール設定.....	124
バックアップとその内容の検索.....	126
ウィザードに表示する項目の選択.....	137

5.1 システムとデータの保護

システムとデータを保護するためには、次の必要な予防措置をとってください。

- 1) システムを障害から保護するには、システムの完全バックアップを作成する必要があります。このタスクを簡単に行えるように、アクロニスはワンクリック バックアップ機能を用意しました。この機能を使用すれば、新規にインストールしたプログラムを初めて起動するときにシステム パーティションのバックアップを行うことができます。ワンクリック バックアップを使用しない場合、早急にシステム バックアップを作成してください。
- 2) 可能な限り、プライマリ ハードディスク(C: ドライブ)以外のハード ドライブ(できれば外付けハード ドライブ)にシステムのイメージを保存する必要があります。これにより、プライマリ ハードディスク ドライブに障害や災害が発生した場合でも、システムをより確実にリカバリできます。また、個人のデータはオペレーティング システムやアプリケーションとは別に D: ドライブなどのディスクに格納します。このような対策を行うことにより、システム ディスクとデータ ディスク(またはパーティション)のイメージ作成時間を短縮できます。また、リカバリに必要な情報の量も少なくなります。これにより、システム パーティションのバックアップ ファイルが小さくなり、リカバリが容易になります。バックアップ ファイルのサイズが小さくなればなるほど、破損の可能性は少なくなり、システムのリカバリに必要な時間も短縮されます。
- 3) 2)で説明している処置に従って、データ(ドキュメント、ビデオ、写真など)をシステム ディスク以外の場所に保存する場合は、そのデータもバックアップする必要があります。データを含んでいるフォルダをバックアップするか、データ ディスク イメージを作成できます。イメージの作成はファイルのコピーに比べて、かかる時間が大幅に少なくて済むことを覚えておいてください。そのため、大量のデータをバックアップする場合は、バックアップ処理時間を大幅に短縮できる可能性があります。何らかの理由でイメージ ファイルが破損した場合でも、イメージをマウントできることがあります。マウントしたイメージから Windows エクスプローラを使用してファイルやフォルダをコピーすることで、ほとんどのファイルやフォルダを保存できることもあります。
- 4) ほとんどの場合、クラッシュ後のシステムのリカバリはレスキュー メディアを起動してから実行するので、レスキュー メディアを作成(「ブータブル レスキュー メディアの作成 (140 ページ)」を参照)してから、「ブータブル レスキュー メディアのテスト (113 ページ参照)」で説明したとおりにそのレスキュー メディアをテストする必要があります。

システム パーティションのバックアップ

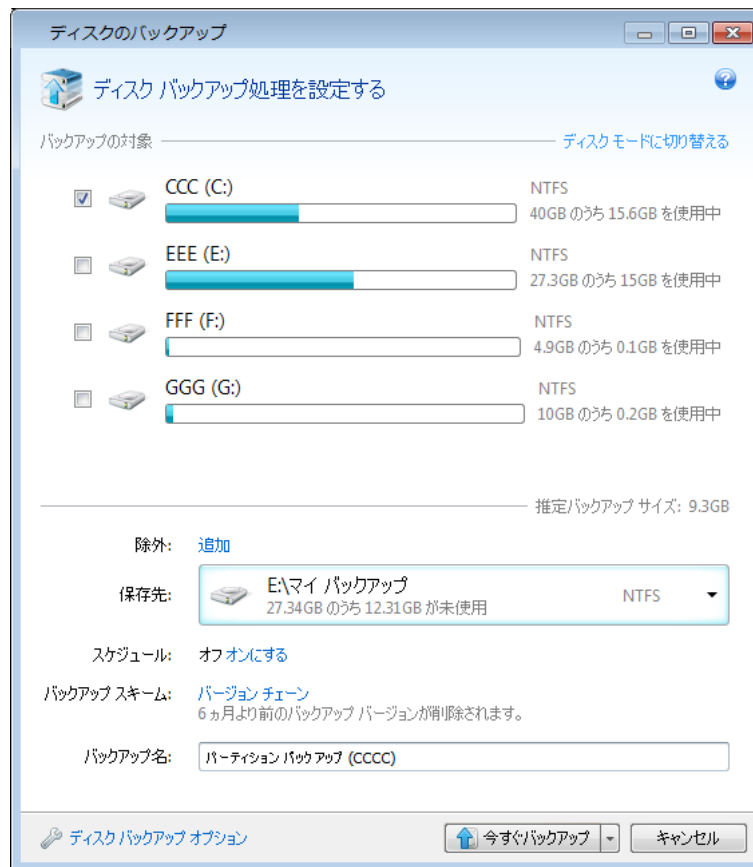
外付けドライブにバックアップを格納する場合は、Acronis True Image Home 2011 を起動する前に、ドライブを接続して電源を入れてください。

1. Acronis True Image Home 2011 を起動して、メイン ウィンドウで **[ディスクとパーティションのバックアップ]** をクリックします。



2. この手順で **[ディスク バックアップ]** ウィンドウが開かれ、デフォルトで選択されたシステム パーティション(通常、C:)が表示されます。

Windows 7 を使用している場合、このプログラムでは「システムで予約済み」のパーティションも選択されます。システムがクラッシュした場合、状況によっては、パーティションをリカバリする必要があるため、このチェックボックスはオフにしないでください。



3. バックアップ先を選択します (デフォルトのバックアップ先のままにするか、現在のバックアップ先の右側にある下矢印をクリックして [参照...] を選択し、任意のバックアップ先を参照することが可能です)。
4. [今すぐバックアップ] をクリックします。

その他の推奨事項

1) 多くの IT 担当者はシステム バックアップのコピーを少なくとも 2 つ (できれば 3 つ) 持つように推奨しています。バックアップしたコピーのうち 1 つは、その他のコピーとは別の場所 (バックアップ コンピュータを自宅で使用している場合は、たとえば会社や友人の自宅など他の建物が望ましい) に保存することもお勧めします。複数のバックアップが有効なもう 1 つの点として、次のことが挙げられます。リカバリを開始すると、Acronis True Image Home 2011 により、リカバリ先のパーティション (またはディスク) が削除されます。そのため、バックアップが 1 つしかない場合、リスクが大きくなります。リカバリするコンピュータでシステム パーティションが削除された時点で、残っているのはリカバリするイメージだけになるからです。そのイメージが破損していた場合、システムをリカバリすることができなくなってしまうます。

2) 自宅に 1 台のコンピュータしかない場合は、インターネットが使用できなくなる可能性があるので、障害からのリカバリに役立つ可能性がある情報を印刷しておくことをお勧めします。「クラッシュ後のシステムのリカバリ」、「パーティションとディスクのリカバリ」、「異なるハードウェアへのリカバリ」の 3 セクションを印刷することをお勧めします。印刷した情報はレスキュー CD/DVD や別のレスキュー メディアと一緒に安全な場所に保管してください。

5.2 バックアップの準備

新しいバックアップ戦略を作成する場合は、少なくともバックアップの保存場所、バックアップするデータの種類、バックアップの実行間隔について検討する必要があります。以下のセクションでは、これらの問題について詳細に説明します。

また、バックアップ(特にイメージのバックアップ)を実行する前には、念入りに準備を行ってください。バックアップ中に「不測の事態」が発生しないよう、システムでウイルスやマルウェアのスキャンを行ってください。ディスクのバックアップ前にディスクの最適化を行うこともお勧めします。

5.2.1 バックアップの保存場所の決定

最初にバックアップの保存場所を決定します。Acronis True Image Home 2011 では、さまざまなストレージ デバイスを使用できます。詳細については「サポートされるストレージ メディア (14 ページ)」を参照してください。サポートされている保存場所について、以下で説明します。

ハードディスク ドライブ

現在はハードディスクが安価になっているため、ほとんどの場合、外付けハード ドライブを購入してバックアップを保存する方法が最適です。外付けドライブを使用するとデータをサイト外に保存できるため、データ セキュリティが向上します。たとえば、会社のコンピュータのバックアップを自宅に保管しておくこと(またはその逆)が可能となります。コンピュータのポートと必要なデータ転送速度の設定によって、USB、FireWire、eSATA など、さまざまなインターフェイスを選択できます。多くの場合(特にご使用のコンピュータで USB 3.0 がサポートされている場合)、USB の外付けハードディスク ドライブが最善の選択と言えるでしょう。

デスクトップ PC で USB の外付けハードディスク ドライブを使用する場合は、短いケーブルを使用して背面のコネクタにドライブを接続すれば最も動作の信頼性が高くなります。この方法を使用すると、バックアップ/リカバリ時のデータ転送エラーの可能性が低くなります。

NAS や NDAS などのホーム ファイル サーバー

Gigabit Ethernet ホーム ネットワーク、および専用のファイル サーバーや NAS をお持ちの場合は、(内蔵ドライブと同様に)ファイル サーバーや NAS にバックアップを保存することができます。

NAS、NDAS などの外付けハードディスク ドライブを使用する場合は、選択したバックアップ ストレージが Acronis True Image Home 2011 によって認識されるかどうかをチェックする必要があります。これは Windows とレスキュー メディアからの起動時の両方で確認が必要です。

NDAS 対応のストレージ デバイスにアクセスするには、多くの場合 NDAS デバイス ID(20 文字)と書き込みキー(5 文字)を指定する必要があります。書き込みキーを使用すると、NDAS が有効なデバイスを書き込みモード(バックアップの保存など)で使用できます。通常、デバイス ID と書き込みキーは NDAS デバイスの底面のステッカーまたはエンクロージャの内側に記載されています。ステッカーが見つからない場合は、NDAS デバイスの製造元に問い合わせることでこの情報を入手してください。

光学ディスク

DVD-R、DVD+R などの空の光学ディスクは非常に価格が安いいため、最も低コストなバックアップ ソリューションではありますが、時間は一番かかります。DVD に直接バックアップする場合は特にそうです。また、複数の DVD でバックアップを行った場合は、データ リカバリの際に何度もディスクを入れ替える必要があります。一方で、ブルーレイ ディスクも使用できます。

ディスクが 4 枚以上になる場合はディスクの入れ替えが頻繁になるため、DVD 以外の方法でバックアップすることを強くお勧めします。DVD 以外に方法がない場合は、すべての DVD をハードディスク上のフォルダにコピーし、そのフォルダからリカバリすることをお勧めします。

FTP 接続

Acronis True Image Home 2011 を使用すれば、FTP サーバーにバックアップを保存できます。

FTP サーバーにバックアップを保存する場合、次を指定します。

- バックアップ ファイルへのフル パス (.tib 拡張子を含む)、例:
ftp://my.server.com/myfolder/mybackup.tib
- ポート
- ユーザー名
- パスワード

設定を確認するには、**[接続のテスト]** ボタンをクリックします。コンピュータで、指定した FTP サーバーに対する接続が試行されます。テスト接続が確立された場合、**[接続]** ボタンをクリックして、FTP 接続を追加します。

単に FTP サーバーのルート フォルダを開いても、ユーザーのホーム ディレクトリには移動されないことに注意してください。

FTP サーバー側がパッシブ モードのファイル転送を許可している必要があります。FTP サーバーから直接リカバリするデータの場合、バックアップはそれぞれが 2 GB 以下のファイルで構成される必要があります。

バックアップ元のコンピュータのファイアウォール設定では、ポート 20 および 21 が TPC プロトコルと UDP プロトコル用に開いており、機能するようになっていることが必要です。Windows の **ルーティングとリモートアクセス** サービスは無効にする必要があります。

認証設定

ネットワークのコンピュータに接続する場合はほとんど、ネットワーク共有にアクセスするために必要なログイン情報を入力する必要があります。

ユーザー名とパスワードを指定する方法は、次のとおりです。

- **[NT 認証を使用する]** チェックボックスをオンにして、ログイン情報を入力します。
 - **[ユーザー名]** - ユーザー名を入力します。
 - **[パスワード]** - ユーザーのパスワードを入力します。

[接続のテスト] ボタンをクリックすると、選択したネットワーク共有への接続が試行されます。エラー メッセージが表示される場合は、ログイン情報が正しいか確認し、選択したネットワーク共有用の正しいユーザー名とパスワードを入力します。

[NT 認証を使用する] チェックボックスをオフにすると、Windows へのログオンに使用された認証情報が使用されて接続が試行されます。

必要な情報を入力したら、**[接続]** をクリックします。

5.2.2 バックアップするデータの決定

オペレーティング システムとアプリケーションのサイズは以前に比べて増大しています(たとえば、Windows Vista x64 ではハードディスクに 15 GB の空き領域が必要です)。オペレーティング システムとアプリケーションを元の CD や DVD から新しいハードディスクに再インストールするには、数時間かかります。

さらに、インターネットからアプリケーションをダウンロードして購入する方法が一般的になってきています。通常電子メールで送信される登録情報を紛失した場合、アプリケーションの使用権を簡単には再取得できない場合があります。

したがって、システム ディスク全体のバックアップを作成(ディスク イメージを作成)しておく、障害が発生してもそれに対処する時間を大幅に節約できます。また、その他の発生しうる問題に備えることができます。

システム ディスク全体のバックアップには、より多くのディスク領域が必要となりますが、システムのクラッシュやハードウェアの障害や災害が発生した場合に、短時間でシステムをリカバリすることができます。また、イメージの作成はファイル コピーに比べてかかる時間が大幅に少なくて済みます。

オペレーティング システムまたはデータのリカバリが必要な場合、イメージを使用することで大幅に時間を節約できるため、バックアップ戦略に組み込むことをお勧めします。

ドライブに複数のパーティションがある場合は、その全部をイメージに含めておくことをお勧めします。ハードディスク ドライブに障害が発生すると、ほとんどの場合そのドライブに含まれるすべてのパーティションにも障害が発生するためです。

定期的にハードディスクのイメージを作成することを強くお勧めしますが、それも信頼性の高いバックアップ戦略の一部でしかありません。

お使いのコンピュータには、数年間にわたって蓄積した銀行取引記録、家族の写真、ビデオなどがあるのではないのでしょうか。ハードウェアやソフトウェアは交換できても、個人のデータは交換できません。これらのデータは他に存在しないからです。したがって、ファイル バックアップやフォルダ バックアップによって、個人のデータを保護しておくことも必要です。イメージ バックアップに個人のデータが含まれている場合でも、このようなバックアップは行っておいてください。

最初に完全バックアップを作成しておけばファイル のバックアップの実行にかかる時間は比較的短くなるので、データのバックアップを 1 日に 1 回(または何回も)行うことも簡単です。これは、常に、作成時から 1 日以上経過しない間に最新のバックアップが行われることを意味します。しかし、主に次の 2 つの理由から、ファイル バックアップとフォルダ バックアップだけでは不十分です。

1) 起動ドライブが完全に故障した場合、それを交換するまでは、何も作業ができなくなってしまいます。2) オペレーティング システムとアプリケーションを元の CD や DVD から再インストールするには時間と手間がかかります。ハードディスクのイメージを作成しておけば、この問題を回避できます。

以上の理由から、ほとんどのユーザーの場合、システム ディスク(または 1 つ以上のシステム パーティション)と個人データの両方をバックアップしておくことが、最適なバックアップ戦略となります。この戦略を簡単に実装するため、Acronis True Image Home 2011 には Acronis ワンクリック バックアップ (19 ページ参照)という機能があります。Acronis ワンクリック バックアップでは、デフォルトでシステム パーティションと個人データの両方がバックアップされます。

5.2.3 バックアップの実行間隔の決定

ディスクとパーティションのバックアップ

最初にシステム ディスクのバックアップについて考えてみましょう。いつシステムがクラッシュするかは予測できないため、最初のシステム ディスク バックアップをできるだけ早く作成する必要があります。次に、そのバックアップを「更新」する間隔を決定します。ストレージ デバイスにバックアップに使用する空き領域がある場合は、古いバックアップを削除せずに新しいバックアップを作成した場合があります。複数のバックアップを保持しておくことで、障害発生時にシステムをリカバリできる可能性が高くなります。バックアップが 1 つしかない場合は、それが破損してしまうとシステムのリカバリが不可能となります。

次にシステム ディスク バックアップを実行するタイミングは、新しいアプリケーションや更新プログラムのインストール頻度によって変わります。多くの場合、新しいシステム バックアップは月 1 回スケジュールしておけば十分です。最初に増分バックアップをスケジュールしておき、次のバックアップ実行後に増分バックアップのサイズをチェックするという方法もあります。増分バックアップのサイズが初期の完全バックアップのサイズと同程度の場合は、完全バックアップのみを作成することをお勧めします。完全バックアップと複数の増分バックアップが含まれるバックアップ チェーンからリカバリするより、完全バックアップからリカバリする方が時間を短縮できます。また、チェーン内の増分バックアップが破損していると、その後の同じチェーン内のバックアップが使用できなくなります。詳細については、「完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ (39 ページ)」を参照してください。

Windows Vista と Windows 7 では、増分バックアップと差分バックアップのサイズが大きくなる場合があります。これらのオペレーティング システムでは、デフォルトで最適化やインデックス作成などのバックグラウンドタスクが実行されるためです。これらのタスクを実行すると、ディスク上のファイルの場所が変更されます。増分バックアップには前回のバックアップ以降に変更されたセクタが含まれるため、ファイルの場所の変更も反映されます。

新しいアプリケーション、ゲーム、ユーティリティなどを頻繁に使用する場合には、「クリーンな」システムのバックアップを取ることをお勧めします。クリーンなシステムは Windows のみをインストールした後に作成されるもので、Microsoft Office、ウイルス対策ソフト、お気に入りのユーティリティなどのアプリケーションが必ず含まれています。したがって、新しいソフトウェアを使用した後は、クリーン レジストリを使用してこのクリーンなシステムにリカバリすることができます。

システム ディスクのバックアップをスケジュール設定しても、必要に応じて随時バックアップを追加することは可能です。新しいユーザー インターフェイスを使用すれば、このタスクを非常に簡単に実行できます。メイン プログラム ウィンドウのシステム ディスク バックアップ ボックスを選択し、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。これは、主要な Windows 更新プログラムや Service Pack をインストールする前などに便利です。

データのバックアップ

Acronis True Image Home 2011 の現在のバージョンでは、Acronis ノンストップ バックアップによって個々のフォルダを保護できます。この結果、常に個人データを保護することができます。保護されるのはデータ ファイルのみなので、ほとんどの場合バックアップ サイズがそれほど大きくなることはありません。長期間のファイル変更履歴を保存できます。

もちろん、Acronis ノンストップ バックアップを使用したくない場合は、ファイル バックアップを手動で、またはスケジュール設定して実行することもできます。この場合、バックアップするファイルの変更頻度や新しいファイルの追加頻度によって、バックアップの実行間隔が変わります。たとえば、

あるプロジェクトに関する作業を毎日行う場合、毎日の終業時にその日の作業をバックアップするようスケジュール設定する必要があるでしょう。

音楽ファイル (mp3、ogg など) と写真 (jpg、jpeg など) は圧縮されているため、これらを tib ファイルとしてバックアップしてもディスク領域を大幅に節減することはできません。Windows エクスプローラを使用してこれらのファイルをコピーし、ネイティブ形式でバックアップしたい場合もあります。Acronis True Image Home 2011 には、このような重要ファイル向けの機能として、バックアップ コピーを予約という機能があります。この機能により、同じデータ ファイルを tib 形式とネイティブ形式の両方で、別々の場所にバックアップできます。このバックアップは、必要に応じてスケジュール設定できます。たとえば新しい音楽ファイルを定期的にダウンロードするような場合は、週 1 回にスケジュール設定します。

バックアップ スキーム

Acronis True Image Home 2011 の最新バージョンには、ディスク バックアップとファイル バックアップの両方にあらかじめ定義されたバックアップ スキームがあります。バックアップを管理するには、多くの場合、使用するバックアップ スキームを選択すればプログラムが残りの処理を実行してくれます。詳細については、「バックアップ スキーム (60 ページ)」を参照してください。

5.3 ブータブル レスキュー メディアのテスト

必要に応じてコンピュータを正常にリカバリできるように、レスキュー メディアからコンピュータを起動できることをテストしておく必要があります。また、大容量記憶デバイスおよびネットワーク アダプタの運用に必要なドライバがすべてリカバリ メディアに含まれるようにしてください。

ブータブル CD を含むパッケージ版の製品を購入された場合は、その CD をテストしてください。

レスキュー メディアをテストするには、次の手順を実行します。

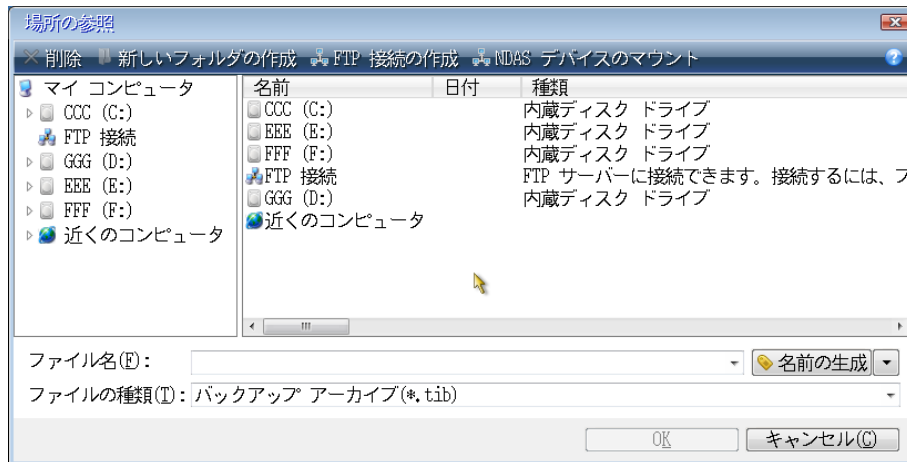
1) レスキュー メディアからの起動を有効にし、レスキュー メディアのデバイス (CD-ROM/DVD-ROM ドライブまたは USB スティック) が最初のブート デバイスになるようにコンピュータを構成してください。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。

レスキュー CD がある場合は、「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたらすぐにキーを押して CD からの起動を開始します。5 秒以内にキーを押さなかった場合は、コンピュータを再起動する必要があります。他のレスキュー メディアを使用する場合の手順も同様です。

2) コンピュータをリカバリ環境で起動した後は、ブート メニューで [Acronis True Image Home 2011 (完全版)] を選択します。

3) プログラムが開始したら、システム内のハード ドライブすべてが検知されることを確認します。また、バックアップの保存に外部ハード ドライブを使用している場合、それらのハード ドライブについても確認します。そのため、レスキュー メディアから起動する前に外部ドライブを接続しておく必要があります。接続していない場合は、リカバリ環境がドライブを検知しないことがあります。

ドライブを確認するには、[ようこそ] 画面の [バックアップ] の下にある [ディスク] をクリックして、バックアップ ウィザードを起動します。[バックアップの対象] の手順でバックアップするディスクを選択して、[次へ] をクリックします。[バックアップの保存先] フィールドの右側にある [参照] ボタンをクリックします。[場所の参照] ウィンドウが開いたら、[マイ コンピュータ] の下にすべてのドライブが表示されていることを確認します。ドライブを確認したら、[キャンセル] をクリックしてバックアップ ウィザードを終了します。



4) バックアップをネットワークに保存している場合は、リカバリ環境でネットワークにアクセスできることを確認する必要があります。この手順が必要なのは、レスキュー メディアから起動した場合に、Acronis True Image Home 2011 がネットワークを検知しないことがあるからです。

ネットワーク上にコンピュータが表示されないが、[マイ コンピュータ] に [近くのコンピュータ] アイコンが表示されている場合(スクリーンショットを参照)は、ネットワーク上の DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。DHCP サーバーを使用していない場合は、[ツールとユーティリティ] → [オプション] → [ネットワーク アダプタ] で表示されるウィンドウで、ネットワーク設定を手動で指定します。

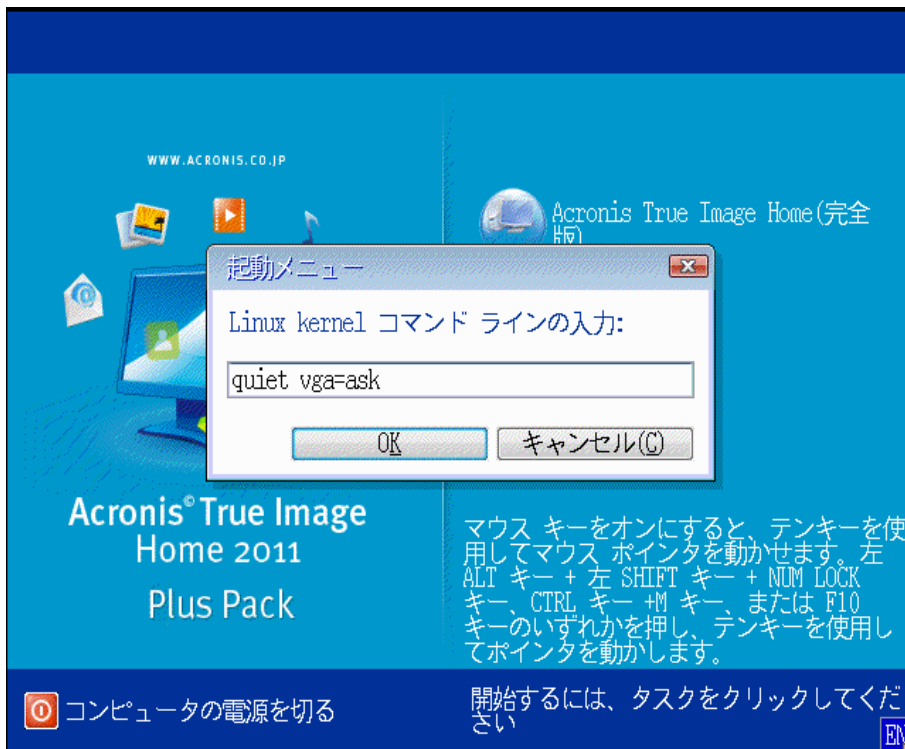
[マイ コンピュータ] で [近くのコンピュータ] アイコンが表示されない場合は、ネットワーク カードまたは Acronis True Image Home 2011 に付属しているカード ドライバに問題がある可能性があります。

5.3.1 レスキュー メディアからの起動時におけるビデオ モードの選択

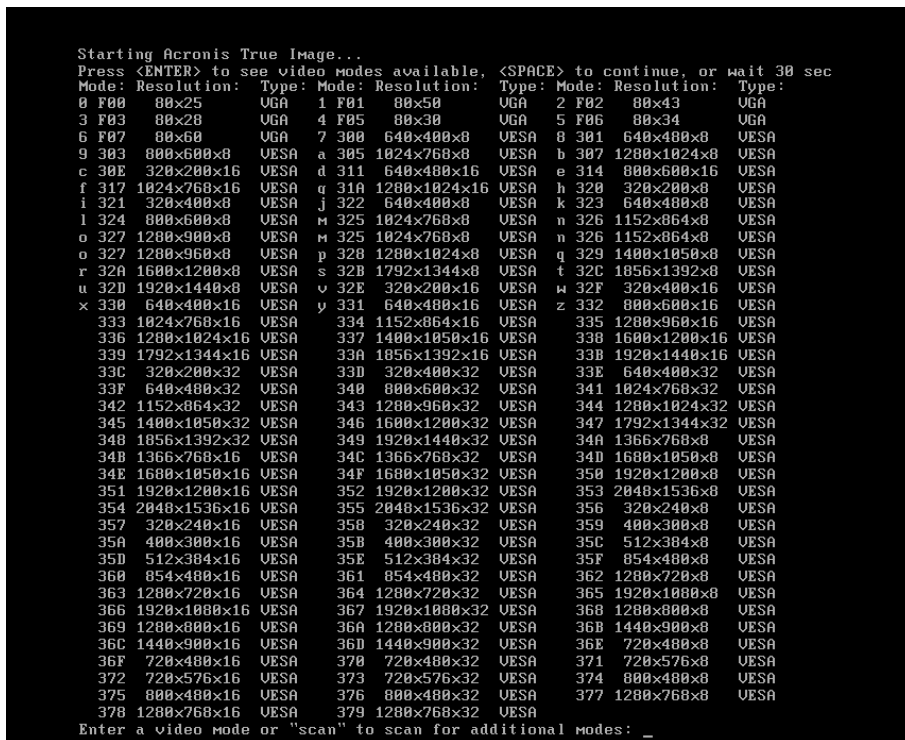
レスキュー メディアからの起動時には、ビデオ カードおよびモニタの仕様に応じて最適なビデオ モードが自動で選択されます。ただし、使用しているハードウェアに適していないビデオ モードが選択される場合もあります。このような場合は、次の手順で適したビデオ モードを選択できます。

1. レスキュー メディアからの起動を開始します。ブート メニューが表示されたら、Acronis True Image Home 2011 (完全版)の項目にマウス ポインタを置いて F11 キーを押します。

2. コマンド ラインが表示されたら、「vga=ask」と入力して [OK] をクリックします。



3. ブート メニューで Acronis True Image Home 2011(完全版)を選択してレスキュー メディアからの起動を継続します。使用できるビデオ モードを表示するには、該当するメッセージが表示されたら Enter キーを押します。
4. 使用しているモニタに最適なビデオ モードを選択し、その番号をコマンド ラインに入力します。たとえば、338 と入力すると 1600x1200x16 のビデオ モードが選択されます(下図参照)。



3 桁の数字の前に 1 桁の数字や文字があるビデオ モードの場合、これらの数字や文字(この例では「v」)を入力して選択することもできます。

5. Acronis True Image Home 2011(完全版)が起動するまで待ってから、モニタ上の [ようこそ] 画面の表示状態が適していることを確認します。

他のビデオ モードをテストするには、Acronis True Image Home 2011 を閉じてから上記の手順を繰り返してください。

ハードウェアに最適なビデオ モードを見つけたら、そのビデオ モードを自動的に選択する新しいブータブル レスキュー メディアを作成できます。

これを行うには、Acronis メディア ビルダを起動して必要なメディア コンポーネントを選択し、[ブータブル メディアの起動パラメータ]のステップにおいてコマンド ラインに接頭辞「0x」を付加してモードの番号を入力(この例では「0x338」)してから、通常通りにメディアを作成します。

5.4 バックアップのリカバリ テスト

推奨事項は以下の通りです。

1) Windows でアクティブ パーティションのリカバリを開始する場合でも、プログラムはリカバリ プロセスの開始後に Linux 環境で再起動されます。これは、Windows 自体のパーティションのリカバリ中に Windows を実行しておくことはできないためです。したがって、すべてのケースにおいてリカバリ環境下でアクティブ パーティションをリカバリします。

予備のハードディスク ドライブがある場合は、このハードディスク ドライブにリカバリできるかどうかをテストすることを強く推奨します。これは、Linux を使用するレスキュー メディアからの起動後に実行する必要があります。

スペア ドライブがない場合は、少なくともリカバリ環境でイメージの検証を実行してください。Windows での検証中に読み取ることができるバックアップを、Linux 環境でも常に読み取れるとは限りません。

Acronis True Image Home 2011 のレスキュー メディアを使用すると、Windows でのドライブの識別方法とは異なるディスク ドライブ文字が作成されることがあります。たとえば、スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 の D: ディスクが、Windows の E: ディスクに対応していることもあります。ハードディスク ドライブのすべてのパーティションに一意の名前(ラベル)を割り当てておくことをお勧めします。これにより、バックアップを含むディスクを見つけることが容易になります。

2) レスキュー メディアから起動する場合は、リカバリ ウィザードの [概要] 画面までの全ステップを完了しておくのも便利です。ただし、**[実行]** ボタンはクリックしないでください。後でリカバリ処理をシミュレーションできるようにしておくためです。

また、Acronis True Image Home 2011 でバックアップとターゲット ドライブを含むドライブが両方とも認識されていることを確認してください。

リカバリ ウィザードのすべてのステップを完了したら、[概要] 画面の **[キャンセル]** をクリックします。この手順は、設定と選択肢に納得するまで繰り返すことができます。

3) Windows 7 の Enterprise Edition または Ultimate Edition を使用している場合は、リカバリしたシステム パーティションから起動できるかどうかを事前にテストできます。Acronis True Image Home 2011 では、システム パーティション イメージを TIB ファイルに格納して、このファイルから

コンピュータを起動することができます。バックアップからの起動テストで起動することができれば、実際のシステム リカバリ後ほぼ確実にそのバックアップから起動することができます。

Acronis True Image Home 2011 で起動元の tib ファイルを選択すると、このファイルが一時的に vhd ファイルに変換されます。ハードディスク ドライブには、このファイルを保存できるだけの空き領域が必要です。次に、Windows のブート ローダの一覧に新しい項目が追加されます。ブート ローダの一覧から tib ファイルを選択すると、コンピュータは、この一時 vhd ファイルから起動します。tib ファイルが起動できることを確認したら、このファイルをブート ローダの一覧から削除し、vhd 一時ファイルを削除できます。

5.5 安全なシステム変更の試行

セクションの内容

Try&Decide とは.....	117
Try モードの開始	120
Try モードの停止	120
Try&Decide のオプションと通知.....	121
Try&Decide: 典型的な使用例.....	122

5.5.1 Try&Decide とは

Try&Decide 機能を使用すると、特別な仮想化ソフトウェアをインストールせずに、管理された安全な一時的作業スペースをコンピュータ上に作成できます。オペレーティング システム、プログラム、またはデータに損傷を与える可能性を心配せずに、さまざまなシステム操作を実行できます。

仮想的に変更を行ってから、その変更を元のシステムに適用することができます。そのため、行った変更が適切である場合にのみ、その変更をシステムに適用できます。この機能を使って試す操作の例には、未知の差出人からのメール添付ファイルを開く、危険なコンテンツが存在する可能性のあるウェブサイトアクセスするなどがあります。

たとえば、ウェブ サイトにアクセスしたときや電子メールの添付ファイルを開いたときに、オペレーティング システムの一時的な複製がウイルスに感染しても、その複製を削除すれば何の被害も及ぶことはなく、コンピュータがウイルスに感染することはありません。

Try モードで POP メール サーバーから電子メールをダウンロードしたり、新しいファイルの作成や既存の文書の編集を行ったりした後、変更を破棄するように決定した場合、それらのファイル、文書の変更、および電子メールは失われることにご注意ください。POP 電子メールを使用する場合は、Try モードを有効にする前に、電子メールをサーバーに残すようにメール設定を変更してください。このようにすると、いつでも電子メールを再度取得できます。同様に、新しいファイルや編集した文書は、Try&Decide で保護されていないドライブに保存してください。

Try モードを開始した後は、システムに対する影響を心配せずに、システムの更新、ドライバ、およびアプリケーションを安全にインストールすることができます。何らかの問題が生じた場合は、Try モードで行った変更を破棄します。



Try&Decide モードの最も優れた特長の 1 つは、更新によって一時的なオペレーティング システムの複製に加えられた変更から「実際」のオペレーティング システムが隔離されることです。何らかの不適合が見つかった場合は、更新が適用される前の、変更が加えられていない初期の状態にシステムを簡単に戻すことができます。

このため、システムの更新が提供されたときに、それを安全にインストールすることができます。Windows Update によってシステムおよび Microsoft 社のアプリケーション用の更新がインストール可能であることを通知された場合は、Try&Decide を有効にしてから、更新のインストールを実行します。何らかの問題が発生した場合は、変更を破棄すれば、実際のオペレーティング システムとアプリケーションに影響が及ぶことはありません。

Try&Decide はオペレーティング システムを再起動しても継続されるため、必要に応じて有効のままにしておくことができます。

Try モードでの作業中に何らかの理由でコンピュータが再起動された場合は、オペレーティング システムの起動が開始する前に表示されるダイアログで、Try モードを停止して変更を破棄するか、Try モードを継続するかを選択できます。これにより、システム クラッシュを発生させた変更を破棄することができます。逆に、たとえばアプリケーションをインストールした後で再起動した場合などは、Windows が起動した後も継続して Try モードで作業することができます。



最終的には Try&Decide モードをオフにします。Try&Decide アイコンをクリックすると、Try モードで行ったシステムへの変更を適用するか破棄するかを選択するためのダイアログが表示されます。

[**変更を適用する**] を選択すると、システムに対する変更が残り、[**変更を破棄する**] を選択すると、Try&Decide を有効にする前のシステム状態に戻ります。[**再起動して変更を適用**] を選択すると、変更の適用を高速化できます。

Try&Decide 使用上の制限

Try&Decide は必要な期間有効のままにしておくことができます(数日間など)。ただし、長期間有効のままにすると、変更の適用に要する時間も長くなります。

Windows Vista または Windows 7 を使用している場合、Try モードではコンピュータがアイドル状態のときでもプログラムがディスクの空き領域をかなり消費することがあるため、注意してください。これは、バックグラウンドで実行されるインデックス作成などのハウスキューピング処理のためです。

Try モードでの作業中は、システムのパフォーマンスが低下することに注意してください。また、変更を適用する処理にかなりの時間がかかることがあります。

Try&Decide はディスクのパーティションの変更を追跡できないため、パーティションのサイズ変更やレイアウトの変更など、パーティションの仮想処理には Try モードを使用できないことにご注意ください。また、Try&Decide と同時にディスク最適化やディスク エラー チェックのユーティリティを使用しないでください。同時に使用すると、ファイル システムが修復不可能なほど破損することや、システム ディスクが起動不能になることがあるからです。

Try モードを開始すると、それ以前に Acronis スタートアップ リカバリ マネージャがアクティブ化されていても、使用できなくなります。Try モードでコンピュータを再起動すると、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを再び利用できるようになります。

Try&Decide とノンストップ バックアップを同時に有効にすることはできません。Try モードを開始すると、ノンストップ バックアップが一時停止します。Try モードを停止すると、ノンストップ バックアップが再開されます。

5.5.2 Try モードの開始

Try モードを開始する手順は、次のとおりです。

- メイン プログラム メニューの [Try&Decide] をクリックします。
- Try&Decide のオプションを設定します。
 - 保護されたパーティション (121 ページ参照)
 - 仮想的な変更用のストレージ (121 ページ参照)
 - 警告の設定 (122 ページ参照)
- [Try & Decide] アイコンをクリックして、Try モードを開始します。OS とファイルに対するすべての変更の追跡が開始され、選択したディスクにすべての変更が一時的に保存されます。

Try モードでコンピュータを再起動(ソフト リブート)するたびに、最大 500 MB の Try&Decide のハウスキーピング データが、仮想的な変更の保存先として選択したストレージに追加されます。このデータは、再起動の間に、保護されているパーティションを変更しなかった場合でも追加されます。

試用する変更をすべて実行した後、[Try & Decide] アイコンを再度クリックして Try モードを終了します。メッセージが表示され、変更の適用または破棄の選択を求められます。

Acronis True Image Home 2011 による変更の追跡は、仮想的な変更の保存先として選択したディスクの領域が十分にあり、選択した場合は変更を適用できる間は実行されます。この状態になると、アラート メッセージが表示され、それまでに行った変更を適用するか破棄するかをユーザーが選択する必要があります。アラート メッセージを無視した場合、ディスクの空き領域がなくなったときにシステムは自動的に再起動され、変更は破棄されます。この時点ですべての変更は失われます。

5.5.3 Try モードの停止

このモードをオフにするには、[Try & Decide] ウィンドウの [Try & Decide] アイコンをクリックします。

[変更を適用する] を選択すると、システムに加えた変更が保存されます。

[再起動して変更を適用] を選択すると、変更の適用を短時間で実行できます。このボタンをクリックすると、コンピュータが再起動され、再起動中に変更が適用されます。

[変更を破棄する] を選択すると、Try モードを有効にする前の状態にシステムを戻すことができます。

[**変更を破棄する**] を選択して複数のオペレーティング システムがインストールされているコンピュータを再起動すると、Try モードでの作業に使用したオペレーティング システム以外は起動できなくなります。もう一度再起動すると、元の MBR がリカバリされて、他のオペレーティング システムも起動できるようになります。

5.5.4 Try&Decide のオプションと通知

[Try&Decide] 機能のデフォルト オプションの表示や編集を行うには、ツールバーの [ツールとユーティリティ] → [Try&Decide] をクリックします。メイン ウィンドウの対応する領域にオプションと通知が表示されます。

次の Try&Decide のオプションと通知を変更することができます。

- **[保護されたパーティション]:** Try&Decide でのセッション中に、不正な変更から保護するパーティションを指定します。Try&Decide のデフォルトではシステム パーティション(ディスク C)が保護されますが、システムの他の任意のパーティションやディスクを保護するように選択することもできます。
- **[仮想的な変更用のストレージ]:** Try&Decide で、システムに対する仮想的な変更についての情報を保存する場所を指定します。Try&Decide のデフォルトでは、ディスク C の空き領域に情報が保存されます。このようなストレージとして、Acronis セキュア ゾーンまたは他の論理ディスクやハードディスク ドライブを選択することもできます。

複数のパーティションを保護するように選択した場合、保護するパーティションの中から仮想的な変更の保存先を選択することはできません。また、外部ハードディスク ドライブは選択できません。

- **[通知]:** 仮想的な変更の保存用に割り当てたすべての空き領域が Try&Decide によって使用された場合と、指定した時間が経過した場合に警告を表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、すべての通知がオンになっています。デフォルトの設定を変更するには、[警告の設定を変更します...] をクリックします。

設定を構成した後、いつでもデフォルト値に戻すことができます。そのためには、[設定値をデフォルトに戻す] ボタンをクリックします。

保護されたパーティション

Try&Decide セッション中の不正な変更から保護するパーティション(複数可)を指定します。Try&Decide のデフォルトではディスク C が保護されますが、システムの他のパーティションを保護するように選択することもできます。

パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

- 対応するパーティションのチェックボックスをオンにします。ディスク全体を選択するには、そのディスクのパーティションをすべて選択する必要があります。
- [OK] をクリックします。

仮想的な変更用のストレージ

Try&Decide セッション中に行われる仮想的な変更を保存するためのパーティションを指定します。デフォルトでは、この情報はディスク C の空き領域に保存されます。保存場所として、Acronis Secure Zone または他の論理ディスクやハードディスク ドライブを選択することもできます。

保護することが選択されているパーティションを、仮想的な変更の保存先として選択することはできません。また、外部ハードディスク ドライブは選択できません。

パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

- 仮想的な変更を保存するパーティションをクリックします。
- [OK] をクリックします。

警告の設定

仮想的な変更の保存用に割り当てたすべての空き領域が Try&Decide によって使用された場合と、指定した時間が経過した場合に警告を表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、このアラートはオンになっています。

次から選択できます。

- **残りのディスク空き領域** - このオプションを使用すると、Try&Decide で使用されているディスクの空き領域の残りと、ユーザーの指定した値が自動的にチェックされます。空き領域が指定値より少なくなると、通知メッセージが表示されます。
- **Try&Decide 開始からの経過時間** - このオプションを使用すると、Try&Decide での動作時間が、ユーザーの指定した時間を超えた場合に通知が行われます。

警告の設定値を指定したら、[OK] をクリックします。

5.5.5 Try&Decide: 典型的な使用例

Try&Decide 機能は、さまざまな場合に役立ちます。以下にその例を示します。

ソフトウェアのテスト

ウイルス対策ソフトウェアをインストールすると、一部のアプリケーションの機能が損なわれる場合があります。また、ウイルス対策ソフトウェアをインストールした後に、アプリケーションが起動できなくなる場合もあります。Try&Decide ユーティリティは、このような問題を防ぐのに役立ちます。次に例を示します。

- 試してみたい製品のベンダのウェブサイトから、ウイルス対策ソフトウェアの試用版をダウンロードします。
- Try&Decide を有効にします。
- ウィルス対策ソフトウェアをインストールします。
- ウィルス対策ソフトウェアがコンピュータにインストールされている状態で、通常の作業が実行できるかどうかを試みます。
- すべての作業が問題なく実行できた場合は、互換性に関する問題は存在しないと判断でき、このウイルス対策ソフトウェアを購入することができます。
- 何らかの問題が発生した場合は、このウイルス対策ソフトウェアのインストールによって生じたシステムの変更を破棄して、他のベンダのウイルス対策ソフトウェアを試みます。このようにして、別のソフトウェアが正常に動作するかどうかを確認することができます。

ファイルのリカバリ

ファイルを誤って削除してしまった後に、ごみ箱を空にしたとします。削除したファイルには重要な情報が含まれていたことに気づき、適切なソフトウェアを使用して、削除したファイルの回復を試みます。ただし、削除したファイルを回復する際に何らかの問題が発生し、回復を試みる前よりも状況が悪化する場合があります。このような場合は、次の手順を実行します。

- Try&Decide モードを有効にします。

- 削除ファイルの回復ユーティリティを起動します。
- ユーティリティによってディスクをスキャンされ、削除したファイルまたはフォルダのエントリが検索されます。削除したエントリが見つかった場合はそのエントリが表示され、リカバリ可能なものを元に戻す機会が得られます。その際に、必要なファイルとは異なるファイルを誤って選択してしまうと、リカバリしたいファイルがユーティリティにより上書きされてしまう可能性があります。Try&Decide を使用していない場合、このようなエラーは致命的であり、ファイルは完全に失われてしまいます。
- これに対し、Try&Decide モードが有効になっている場合は、間違った変更を破棄するだけでなく、再び Try&Decide モードを有効にしてから、正しいファイルのリカバリを試みることができます。ファイルのリカバリで最良の結果が得られるまで、このような試行を何回でも繰り返すことができます。

ソフトウェアのアンインストール

Windows のコントロール パネルの [プログラムの追加と削除] コンポーネントでは、アプリケーションを完全に削除できるとは限りません。これは、このコンポーネントがアプリケーションの痕跡を残さずにアンインストールするために十分な情報を、ほとんどのアプリケーションが提供していないためです。このため、試用版プログラムを追加して削除すると、ほぼ毎回、コンピュータにゴミ(不要となったデータ)が残り、放置すると Windows の動作が遅くなります。特別なアンインストーラユーティリティを使用したとしても、完全にアンインストールできるとは限りません。しかし、Try&Decide 機能を使うと、どのようなソフトウェアに対しても、完全なアンインストールを短時間で簡単に行うことができます。以下はその方法です。

- Try&Decide モードを有効にします。
- 評価するソフトウェア アプリケーションをインストールします。
- アプリケーションを試用します。
- アンインストールする場合は、Try&Decide モードで行ったコンピュータへの変更をすべて破棄します。

これは、たとえば、さまざまなゲームをプレイしたいユーザーに役立つだけでなく、プロのソフトウェア テスト担当者がテスト用マシンで使用することもできます。

Web のプライバシー

アクセスしたウェブサイトや開いたページを、誰にも知られたくない場合について考えてみましょう。プライバシーを守る権利はすべての人にあります。しかし、この際に問題になるのが、より速く快適に ウェブサーフィンを行うために、サイトやページの情報の他にも、受信したクッキー、検索エンジンで実行したクエリ、入力した URL などのさまざまな情報が、特殊な隠しファイルに保存されてしまうということです。また、これらの情報は、ブラウザのツールを使用してインターネット一時ファイルをクリアしたり、クッキーを削除したり、最近開いたウェブ ページの履歴をクリアしても、完全には削除されません。このため、特別なソフトウェアを使用すると、これらの情報に不正にアクセスできる場合があります。インターネットのすべての操作履歴をクリーンアップするためのサードパーティ製のプログラムもありますが、その多くは、価格が高かったり、習得に時間がかかったりします。Try&Decide 機能を使用すると、はるかに容易に、このような問題に対処できます。

まず、インターネット ブラウザを起動する前に、マウスを数回クリックして Try&Decide モードを有効にします。Try&Decide モードを有効にすると、仮想ディスクが作成されます。Try&Decide モードの実行中は、システム自体による変更も含め、システムに対するすべての変更がこの仮想ディスクに保存されます。この状態で、必要なだけ ウェブサーフィンを楽しむことができます。ブラウザの使用が終わった後に、マウスを数回クリックすると、Try&Decide モード中にシステムに蓄積された

変更が破棄され、システムは再起動されます。これで、すべての隠しファイルも含めたシステム全体が、Try&Decide モードを開始する前とまったく同じ状態に復元されます。

5.6 スケジュール設定

[スケジューラ] ウィンドウを使用すれば、バックアップを指定し、スケジュール設定をベリファイできます。



バックアップおよびベリファイ実行の間隔を、次のいずれかから選択して設定できます。

- [日単位] (125 ページ参照) - 処理は 1 日 1 回以上実行されます。
- [週単位] (125 ページ参照) - 処理は 1 週間に 1 回、または 1 週間に複数回、指定した曜日に実行されます。
- [月単位] (126 ページ参照) - 処理は 1 カ月に 1 回、または 1 カ月に複数回、指定した日に実行されます。
- [イベント発生時] (126 ページ参照) - 処理はイベントの発生時に実行されます。

[スケジュールを設定しない] ボタンをクリックすると、現在の処理に設定されているスケジューラが無効になります。この場合、バックアップやベリファイはそれぞれ、メイン ウィンドウで [今すぐバックアップ] または [バックアップのベリファイ] をクリックした場合にのみ実行されます。

詳細設定

[詳細設定] をクリックすると、バックアップおよびベリファイの次の追加設定を指定できます。

- スケジュールされた処理の実行を、コンピュータが使用中でない状態(スクリーン セーバーが表示される、またはコンピュータがロックされている状態)になるまで延期するには、[コンピュータのアイドル時にのみバックアップを実行] チェックボックスをオンにします。ベリファイのスケジュールを設定すると、チェックボックスが [コンピュータのアイドル時にのみベリファイを実行する] に変化します。
- スリープ/休止状態のコンピュータを起動して、スケジュールされた処理を実行するには、[スリープ/休止状態のコンピュータを起動] チェックボックスをオンにします。

- スケジュールした時刻にコンピュータの電源が入っていない場合、処理は実行されません。実行されなかった処理は、次のシステム起動時に強制的に実行することができます。そのように設定するには、**[システム起動時に実行]** チェックボックスをオンにします。
- USB フラッシュ ドライブへのバックアップ、または USB フラッシュ ドライブに存在するバックアップのベリファイを設定すると、もう 1 つのチェックボックス、**[現在のデバイスが接続されている場合に実行]** が表示されます。チェックボックスをオンにすると、スケジュールした時刻に USB フラッシュ ドライブが接続されていなかったために実行されなかった処理を、USB フラッシュ ドライブが接続されたときに実行することができます。
- **[HDD アラーム発生時にバックアップを実行する]**(Acronis Drive Monitor がインストールされている場合に使用可能)- 有効にすると、バックアップ元に含まれているいずれかのハードディスクで考えられる問題が発生し、Acronis Drive Monitor のアラームがオンになるとすぐにバックアップが実行されます。Acronis Drive Monitor は、ハード ドライブの S.M.A.R.T. レポート、Windows のログ、および独自のスクリプトから受け取った情報をベースにしたハード ドライブ状態監視ユーティリティです。

スケジュール設定が終了したら、**[OK]** をクリックします。

セクションの内容

日単位の実行パラメータ.....	125
週単位の実行パラメータ.....	125
月単位の実行パラメータ.....	126
イベント発生時の実行パラメータ.....	126

5.6.1 日単位の実行パラメータ

日単位の処理の実行では、次のパラメータを設定することができます。

- **開始時刻または実行間隔**
 - **[時刻:]** を選択した場合、開始時刻を設定します。時と分を手動で入力するか、上下の矢印ボタンを使用して開始時刻を設定します。複数の開始時刻を指定するには、**[追加]** をクリックします。
 - **[毎]** を選択した場合は、ドロップダウン リストから日単位の処理の実行間隔を選択します (例: 2 時間ごと)。

[詳細設定] の説明については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。

5.6.2 週単位の実行パラメータ

週単位の処理の実行では、次のパラメータを設定することができます。

- **曜日**
処理の名前をクリックして、処理を実行する日を選択します。
- **開始時刻**
処理の開始時刻を設定します。時と分を手動で入力するか、上下の矢印ボタンを使用して開始時刻を設定します。

[詳細設定] の説明については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。

5.6.3 月単位の実行パラメータ

月単位の処理の実行では、次のパラメータを設定することができます。

- **実行間隔または日付**
 - **[毎]** を選択した場合、ドロップダウン リストから週の番号と曜日を選択します(たとえば、第 1 月曜日を選択すると、処理は毎月第 1 月曜日に実行されます)。
 - **[指定日]** を選択した場合、処理の実行日を選択します(たとえば、その月の 10 日、20 日、および最終日に処理を実行できます)。
- **開始時刻**

処理の開始時刻を設定します。時と分を手動で入力するか、上下の矢印ボタンを使用して開始時刻を設定します。

[詳細設定] の説明については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。

5.6.4 イベント発生時の実行パラメータ

イベント発生時の処理の実行では、次のパラメータを設定することができます。

- **イベント**
 - **[ユーザー ログオン時]** - 現在のユーザーがオペレーティング システムにログオンするたびに処理が実行されます。
 - **[ユーザー ログオフ時]** - 現在のユーザーがオペレーティング システムからログオフするたびに処理が実行されます。
 - **[システム起動時]** - オペレーティング システムの起動時に毎回処理が実行されます。
 - **[システム シャットダウン時]** - コンピュータのシャットダウン時または再起動時に毎回処理が実行されます。
- **追加条件**
 - 当日そのイベントが最初に発生したときのみ処理を実行する場合は、**[1 日 1 回のみ]** チェックボックスをオンにします。

Windows Vista 以降のオペレーティング システムの Winlogon サービスは以前の Windows オペレーティング システムの同サービスとはまったく違うものになっており、タスク実行のスケジュール設定で **[システム シャットダウン時]** および **[ユーザー ログオフ時]** は無効になっています。

[詳細設定] の説明については、「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください。

5.7 バックアップとその内容の検索

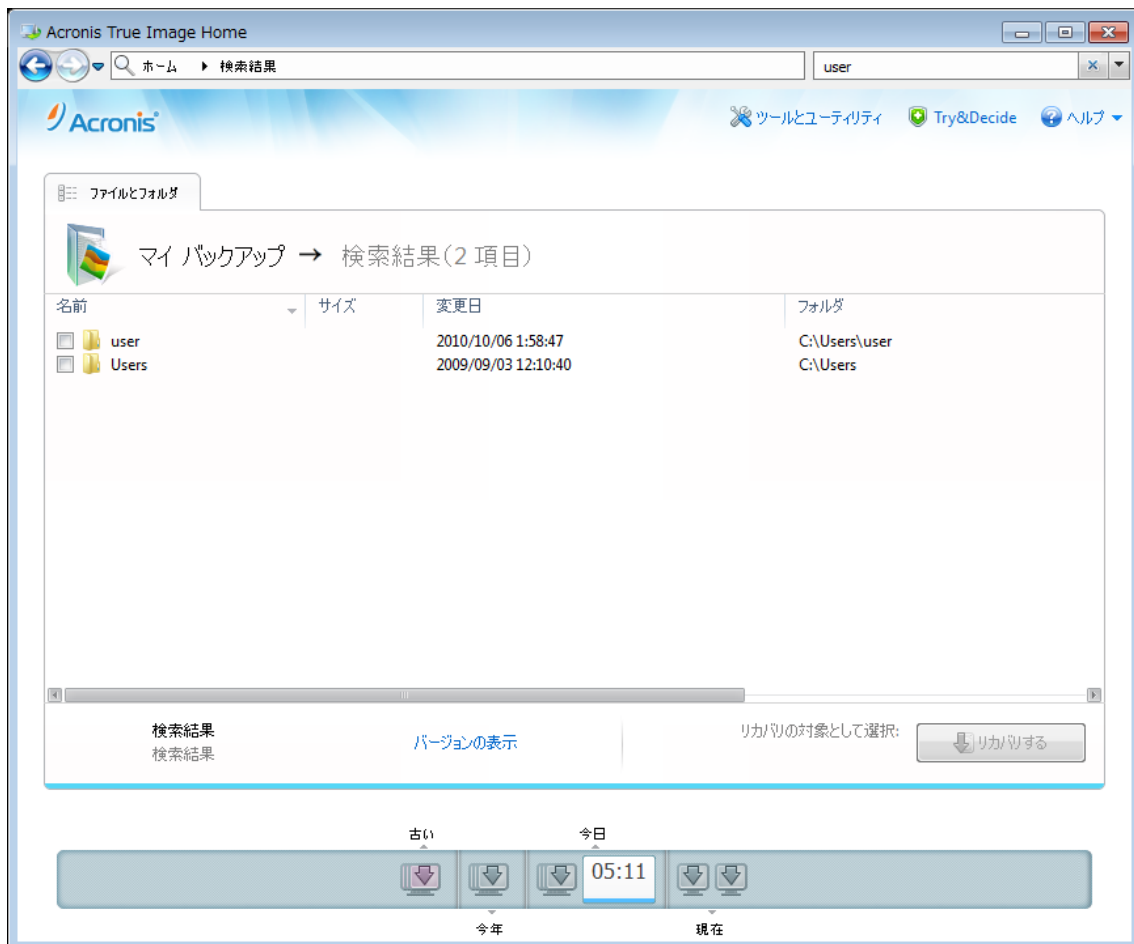
セクションの内容

検索.....	126
Windows Search と Google デスクトップの統合	128

5.7.1 検索

Acronis True Image Home 2011 では、バックアップを参照できるだけでなく、バックアップ内のファイルも検索できます。

検索文字列を Acronis True Image Home 2011 ウィンドウ右上の [検索] フィールドに入力します。Acronis バックアップ エクスプローラ画面が表示されます。検索結果は、[ファイルとフォルダ] タブに表示されます。



デフォルトでは、Acronis True Image Home 2011 が情報を検索することのできるすべてのソースで検索が実行されます。つまり、すべてのローカル ストレージ デバイス上の、すべてのバックアップおよびそのバージョン内のファイルが検索されます。

Acronis True Image Home 2011 は、ネットワーク共有、Windows で [リムーバブル ストレージがあるデバイス] として認識されるデバイスでの検索は実行できません。

[ファイルとフォルダ] タブには、tib バックアップ内のファイルやフォルダの検索結果が表示されます。ファイル名をダブルクリックすると、そのファイルが開きます。ファイル名を右クリックしてショートカット メニューで [リカバリする] を選択すると、ファイルをリカバリすることができます。このショートカット メニューからは、ファイルまたはその親フォルダを開くこともできます。

バックアップにあるファイルを検索する際には、ファイル名の全部または一部を入力します。一般的な Windows のワイルドカード文字を使用することもできます。たとえば、バックアップにあるすべてのバッチ ファイルを検索するには、「*.bat」と入力します。「my???.exe」と入力すると、「my」で始まる 5 文字の名前を持つ拡張子 .exe のすべてのファイルを検索できます。検索では大文字と小文字が区別されないため、「Backup」と「backup」は同じ検索文字列とみなされます。

1 つのファイルが複数のバックアップに格納されており、そのファイルが変更された場合、検索結果には、対応する列内にファイル バージョンの数が表示されます。その列の数をクリックすると、[バージョンの表示] ウィンドウが開き、そこでリカバリするバージョンを選択することができます。

Acronis True Image Home 2011 では、暗号化およびパスワード保護された tib バックアップにあるファイルや、パスワード保護された Acronis セキュア ゾーンにあるファイルは検索されません。また、Acronis True Image Home 2011 で作成された zip バックアップ内のファイルも検索されません。

5.7.2 Windows Search と Google デスクトップの統合

Acronis True Image Home 2011 には、Google デスクトップと Windows Search 用のプラグインが用意されています。コンピュータ上でこれらの検索エンジンを使用する場合、適切なプラグインをインストールすることにより、バックアップのインデックスを作成することができます。インデックスを使用すると、バックアップ内の検索速度が向上します。インデックスが作成されると、Google デスクトップまたは Windows Search のデスクバーのクエリ フィールドにファイル名を入力するだけで、Acronis True Image Home 2011 を起動せずにバックアップの内容を検索できます。検索の結果はブラウザ ウィンドウに表示されます。検索結果を使用して、以下のことを行えます。

- 任意のファイルを選択し、開いて参照したり、ファイル システムの(バックアップ以外の)任意の場所に保存したり、元の場所に戻す。
- どのバックアップに指定したファイルが保存されているか確認し、そのバックアップをリカバリする。

バックアップ内のファイル名のインデックス作成機能に加えて、Google デスクトップと Windows Search を使用して、バックアップに含まれる大量のファイル内のテキストに対するフルテキスト インデックスを作成することもできます。これにより、複数ファイル内の検索を実行できます。

バックアップ アーカイブに含まれるファイルのフルテキスト インデックスが作成されるのは、Google デスクトップと Windows Search により認識されるファイルの種類だけです。認識されるデータとしては、テキスト ファイル、Microsoft Office ファイル、Microsoft Office Outlook や Microsoft Outlook Express のすべてのアイテムなど、さまざまなものがあります。

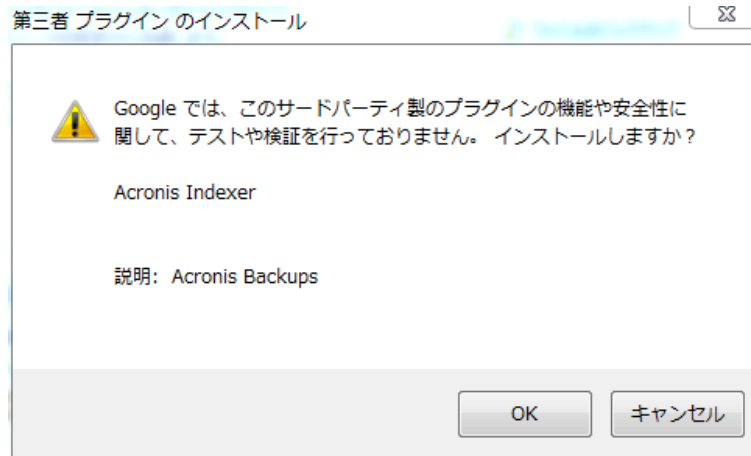
パスワードで保護されているバックアップや、パスワードおよび暗号化で保護されているバックアップの内容に対しては、インデックスは作成されませんが、Google デスクトップや Windows Search では、そのようなバックアップの tib ファイルを検索することは可能です。また、Google デスクトップおよび Windows Search は Acronis セキュア ゾーンにアクセスできないため、これらの検索エンジンを使用してゾーン内のバックアップを検索したり、インデックスを作成したりすることはできません。

Google デスクトップと Acronis True Image Home 2011 の併用

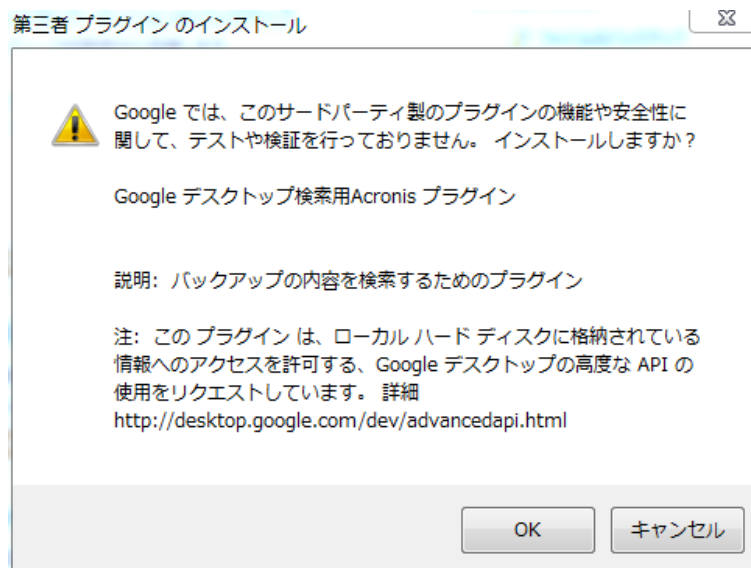
Google デスクトップを所有していない場合は、Google のウェブサイトから無料でダウンロードできます。 <http://desktop.google.com/> をクリックして、ダウンロードとインストールの手順に従います。

Acronis バックアップ内のファイル検索に Google デスクトップを利用するための手順は、次のとおりです。

1. プラグインをインストールするには、メイン プログラム ウィンドウの右上にある [検索] フィールドの右側の下矢印をクリックします。次に、ドロップダウン メニューで [検索オプション] を選択し、[Google デスクトップ] チェックボックスをオンにします。次のウィンドウが表示されます。



2. [OK] をクリックして、プラグインのインストールを開始します。確認ウィンドウがもう 1 つ表示される場合があります。その場合、[OK] をクリックして、インストールを終了します。



3. プラグインがインストールされていることを確認します。システムトレイにある Google デスクトップのアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから **[オプション]** を選択します。Google デスクトップにより、ブラウザに **[設定]** ウィンドウが表示されます。 **[インデックス作成のプラグイン]** 領域で **[Acronis Indexer (Acronis バックアップ)]** が選択されていることを確認します。



4. システムトレイの Google デスクトップのアイコンを再度右クリックし、**[インデックスの作成]** → **[インデックスの再作成]** の順に選択します。表示される確認ウィンドウで **[はい]** をクリックします。Google デスクトップにより、新しいコンテンツがすべて既存のインデックスに追加されます。

Google デスクトップによりコンピュータのハードディスク上にあるすべての Acronis バックアップのインデックスが作成され、そのインデックス情報がインデックス データベースに追加されるまでには、多少の時間がかかります。所要時間は Acronis バックアップとそれに含まれるファイル数によって異なります。

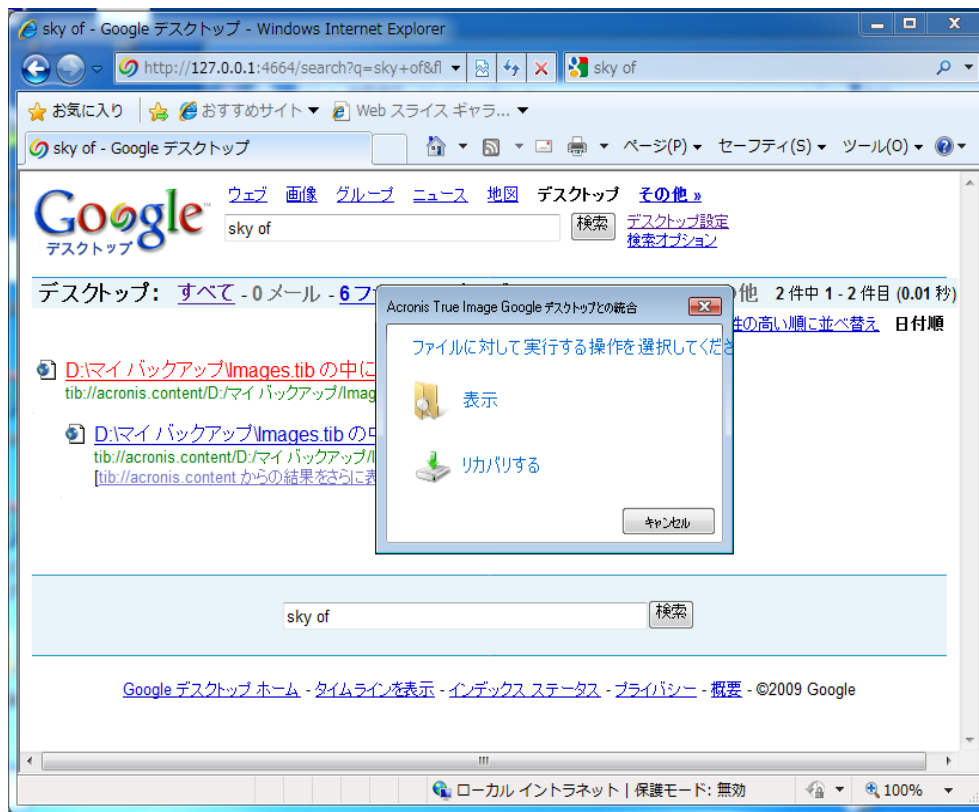
たとえば 1 時間後などに、確実にバックアップしたとわかっているファイルの名前をクエリ フィールドに入力して、Google デスクトップによって Acronis バックアップのインデックスが作成されたかどうか確認します。Google デスクトップでインデックスの作成を完了している場合は、ファイルが見つかったバックアップが表示されます。



検索結果をすべて表示するには、[すべての結果] をクリックします。次のスクリーン ショットのような検索結果が表示されます。



ブラウザ ウィンドウで任意のファイル バージョンに対応する行をクリックすると、[表示] と [リカバリする] の 2 つのオプションのみが表示された小さいダイアログが開きます。



[表示] を選択すると、このファイルの種類に対応するアプリケーションが起動され、そのファイルが開かれます。[リカバリする] を選択すると、Acronis True Image Home 2011 が起動し、ファイルを任意の場所にリカバリすることができます。

Google デスクトップでは、Acronis True Image Home 2011 によって作成された zip バックアップに含まれるファイルも検索できます。ただし、ブラウザ ウィンドウでファイル名の行をクリックして zip バックアップからファイルを開いたりリカバリしたりすることはできません。Google デスクトップによって検索された zip バックアップからファイルをリカバリするには、Acronis True Image Home 2011 のリカバリ機能を使用します。

Windows Search と Acronis True Image Home 2011 の組み合わせ

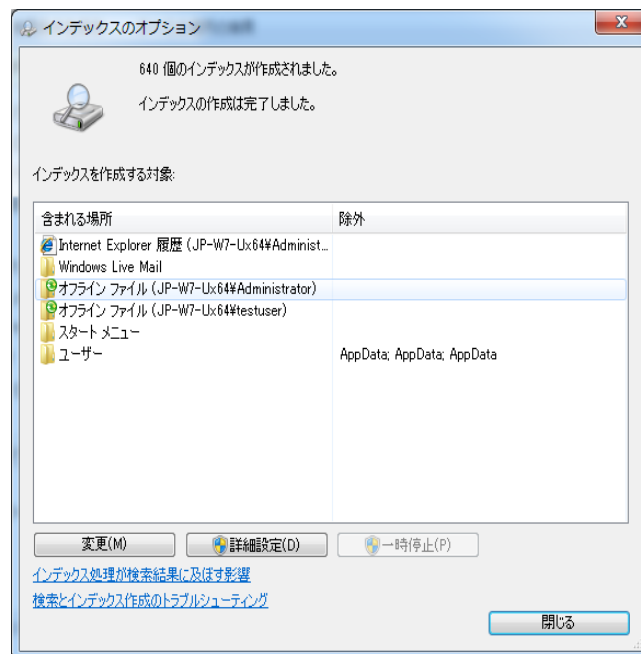
デスクトップ検索機能が組み込まれているいずれかのエディションの Windows Vista または Windows 7、あるいは Windows デスクトップ サーチ 3.0 以降を使用している場合、tib ファイルのインデックスを作成することができます。

Windows Search をインストールしていないが使用したい場合は、Microsoft のウェブサイトから Windows Search 4.0 を無料でダウンロードできます。ダウンロードするには、<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyId=bc28ed7f-c51b-49cd-b505-95b91b453284&displayLang=ja> をクリックします。ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストール手順に従います。

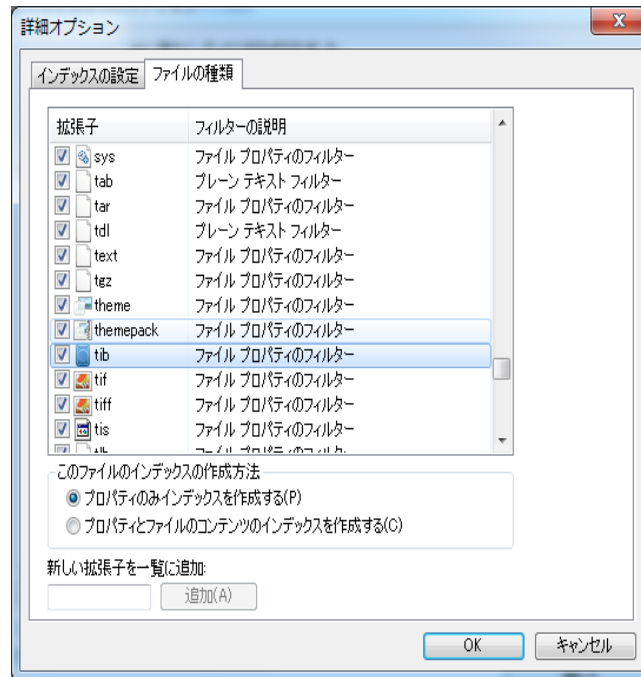
Windows Search は、zip ファイル コンテンツのインデックス作成には対応していません。

1. プラグインを登録するには、メイン プログラム ウィンドウの右上にある [検索] フィールドの右側の下矢印をクリックします。次に、ドロップダウン メニューで **[検索オプション]** を選択し、**[Windows Search]** チェックボックスをオンにします。
2. ファイルのインデックス作成のサポートが有効になっていることを確認します。システムトレイにある Windows Search アイコンを右クリックし、コンテキストメニューで **[Windows デスクトップ 検索のオプション...]** を選択します。次のウィンドウが表示されます。[含まれる場所] の一覧に「tib://...」という項目が表示されていることを確認します。

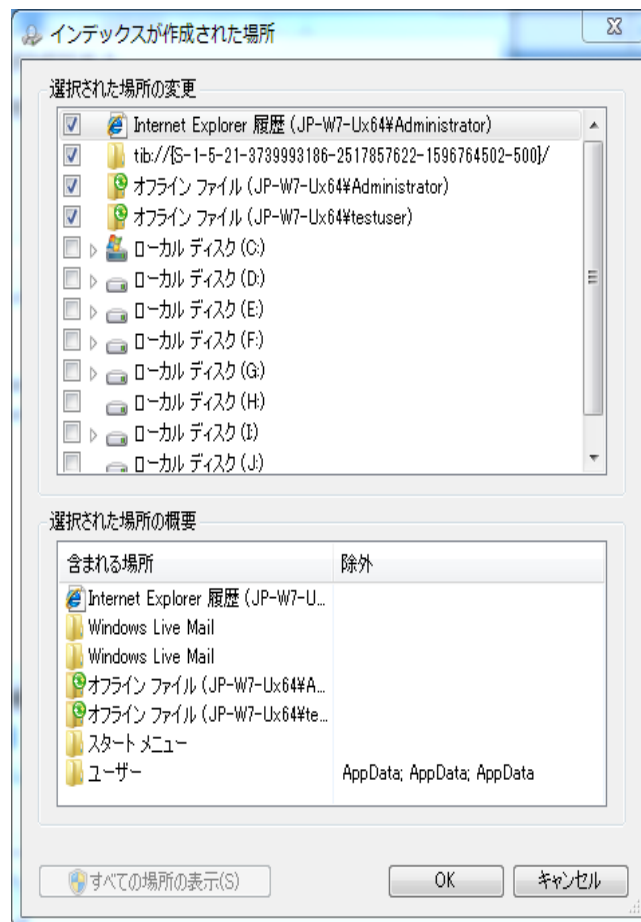
Windows Vista または Windows 7 で [インデックスのオプション] ウィンドウを開くには、コントロール パネルを開いてから **[インデックスのオプション]** アイコンをダブルクリックします。Windows Vista と Windows 7 のインデックスのオプションは、それぞれ内容や外観が多少異なりますが、以下の説明の大部分は両オペレーティング システムに当てはまります。



3. **[詳細設定]** をクリックして **[ファイルの種類]** タブを選択し、**tib** 拡張子が選択されており、**[フィルタの説明]** フィールドに「.tib IFilter」が表示されていることを確認します。 **[プロパティとファイルのコンテンツのインデックスを作成する]** を選択します。

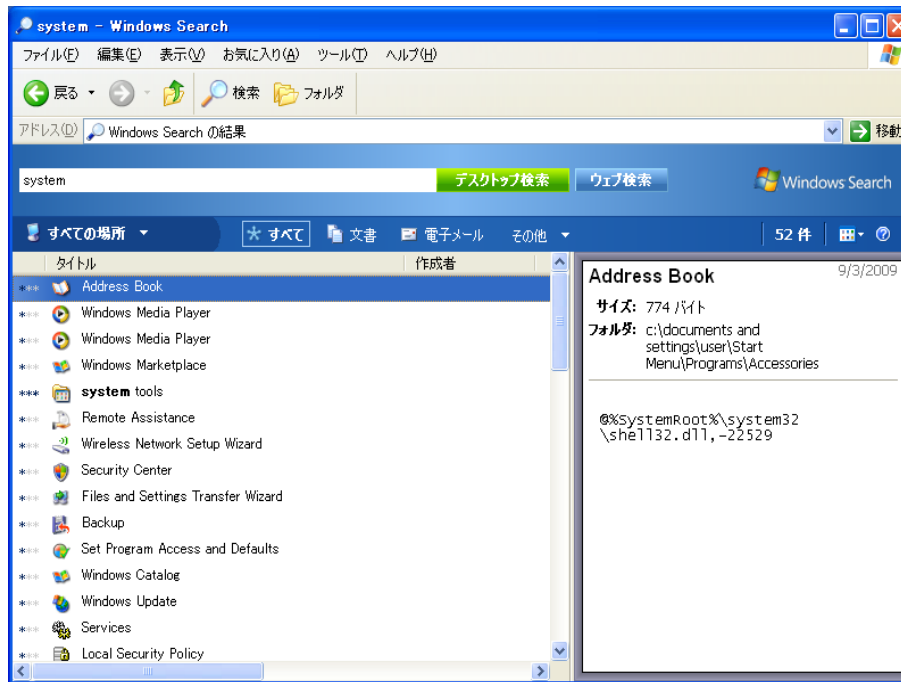


4. **[OK]** をクリックし、**[インデックスのオプション]** ウィンドウで、バックアップが保存されているディスクが **[含まれる場所]** の一覧に表示されていることを確認します。そのディスクがリストに表示されていない場合、バックアップのインデックスは作成されません。ディスクを追加するには、**[変更]** をクリックし、表示されたウィンドウでそのディスクを選択します。

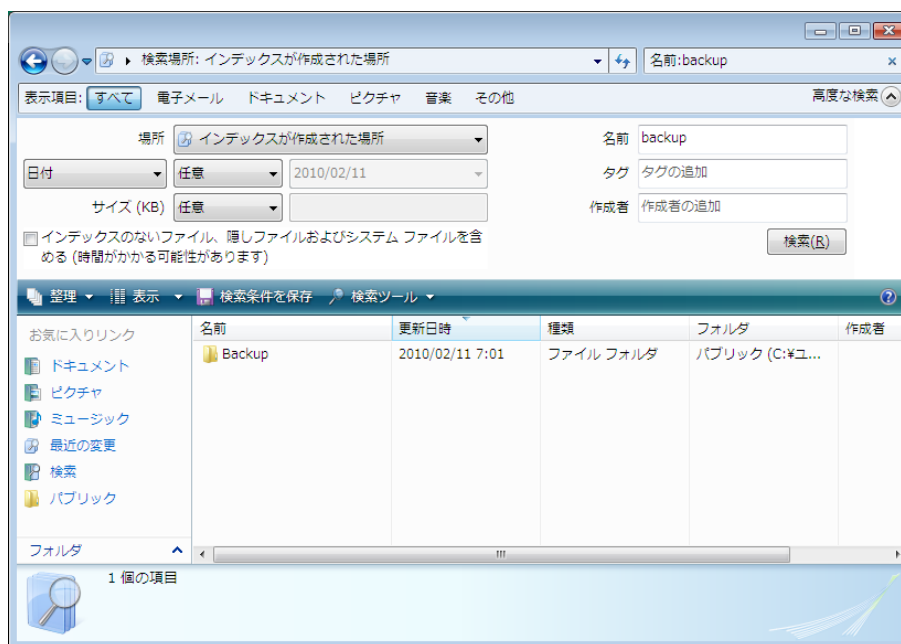


バックアップをネットワーク共有に保存している場合も、Windows Search でインデックスを作成できます。必要な作業は、共有を **[含まれる場所]** の一覧に追加するだけで、追加するには、**[詳細オプション]** の **[UNC の場所の追加]** タブを選択して、適切な UNC パスを **[UNC パスの追加]** に入力します。

Windows Search によりコンピュータのハードディスク上にある Acronis バックアップのインデックスが作成され、そのインデックス情報がインデックス データベースに追加されるまでには、多少の時間がかかります。所要時間はバックアップと、バックアップに格納されているファイル数によって異なります。インデックスの作成が完了すると、Windows Search により tib バックアップ内のファイルを検索できるようになります。Windows Search と、Windows Vista または Windows 7 の検索エンジンは同様に機能しますが、検索結果の表示方法はやや異なります。



Windows Search の検索結果



Windows Vista の検索結果

5.8 ウィザードに表示する項目の選択

各ウィザードでの項目の表示方法を変更できます。

特定の列を基準に項目を並べ替えるには、ヘッダーをクリックします(もう一度クリックすると、逆の順序で項目が並べ替えられます)。

表示する項目を選択するには、右側のペインで右クリックして、ショートカットメニューで **[表示項目の選択]** を選択します。それから、表示する項目にフラグを設定します。また、**[上に移動]** および **[下に移動]** ボタンを使って項目の表示順を変更することもできます。

項目の境界をマウスでドラッグすると、項目の幅を変更できます。

6 ツールとユーティリティ

アクロニスのツールとユーティリティには、保護ツール、変換ツール、ディスク管理ユーティリティ、セキュリティとプライバシーのユーティリティ、マウント ツール、およびバックアップ設定転送ツールがあります。

保護ツール

- **Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ**

コンピュータ起動時にオペレーティング システムを読み込まずに Acronis True Image Home 2011 を起動することができます(オペレーティング システムが起動する前に F11 キーを押します)。

- **ブータブル メディア ビルダ**

コンピュータにインストールされている アクロニス製品(または指定したコンポーネント)が収録されたブータブル レスキュー メディアを作成することができます。

- **Acronis セキュア ゾーン**

ディスク上の安全な専用パーティションにバックアップを保存することができます。

- **ブート シーケンス マネージャ**

Windows 7 システム パーティションのイメージをブート リストに追加して、そのリストを管理することができます。

- **ワンクリック バックアップ**

コンピュータを保護するために、システム パーティションおよびマスタ ブート レコード(MBR)のバックアップを直ちに開始することができます。

ディスク管理ユーティリティ

- **ディスクのクローン作成**

ディスクのクローン作成ウィザードは、ハードディスク ドライブのクローンを作成する場合に使用します。このウィザードを実行すると、パーティションが別のハードディスクにコピーされます。

- **新しいディスクの追加**

新しいディスクの追加ウィザードを使用すると、コンピュータに新しいハードディスク ドライブを容易に追加できます。パーティションを作成しフォーマットして、このハードディスク ドライブを使用できるようにします。

システム クリーンアップ ユーティリティ

- **Acronis DriveCleanser**

Acronis DriveCleanser は、ハードディスクのデータを確実に消去するためのユーティリティです。

- **ファイル シュレッダー**

ファイル シュレッダーを使用すると、不要なファイルやフォルダを選択して完全に消去することができます。

- **システムのクリーンアップ**

システム クリーンアップ ユーティリティを使用すると、一般的なシステム タスクに関連するコンポーネント(フォルダ、ファイル、レジストリ セクションなど)を消去することができます。これらの Windows コンポーネントには、ユーザーによるコンピュータの操作履歴が保持されているため、個人情報を守るためにもこれらを完全に消去する必要があります。

マウント ツール

■ イメージのマウント

作成済みのイメージを参照できるようになります。パーティション イメージに一時的なドライブ文字を割り当てて、通常の論理ドライブとしてアクセスすることができます。

■ イメージのアンマウント

イメージを参照するために作成した一時的な論理ドライブのマウントを解除できます。

変換ツール

■ Acronis バックアップを Windows バックアップに変換

バックアップ ファイルの形式を TIB から VHD に変換するときに使用します。VHD ファイルを使用すると、たとえば、Windows Vista や Windows 7 で Acronis True Image Home 2011 を使用せずにディスク イメージをマウントできるようになります。

■ Windows バックアップを Acronis バックアップに変換

バックアップ ファイルの形式を vhd から tib に変換するときに使用します。tib は、Acronis バックアップのネイティブ ファイル形式です。

バックアップ設定転送ツール

■ バックアップ設定をインポートする

別のコンピュータからバックアップ設定を取得できます。

■ バックアップ設定をエクスポートする

バックアップの設定を別のコンピュータにコピーおよび移動できます。

6.1 Acronis スタートアップ リカバリ マネージャ

6.1.1 動作

Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを使用すると、オペレーティング システムを読み込まずに Acronis True Image Home 2011 を起動することができます。この機能を利用すれば、オペレーティング システムが起動しなくなったときでも、Acronis True Image Home 2011 を使用して、破損したパーティションをリカバリすることができます。Acronis のリムーバブル メディアからコンピュータを起動する場合とは異なり、Acronis True Image Home 2011 の起動時には独立したメディアやネットワーク接続は必要ありません。

6.1.2 使用方法

コンピュータ起動時に Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを使用できるようにするための手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image Home 2011 をインストールします。

2. Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを有効化します。



Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを有効化すると、MBR(マスタ ブート レコード)がスタートアップ リカバリ マネージャのブート コードで上書きされます。サードパーティ製のブート マネージャがインストールされている場合は、スタートアップ リカバリ マネージャを有効化した後に、そのブート マネージャを再度有効化する必要があります。Linux のローダ(LiLo、GRUB など)を使用している場合は、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャを有効化する前に、ローダを MBR ではなく、Linux の root(または boot)パーティションのブート レコードにインストールすることをお勧めします。

障害や災害が発生した場合は、コンピュータの電源を入れて、「Press F11 for Acronis Startup Recovery Manager」というメッセージが表示されたら F11 キーを押します。スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 が起動します。このスタンドアロン版と完全版との違いはごくわずかです。

6.2 ブータブル レスキュー メディアの作成

セクションの内容

Acronis メディア ビルダ.....	140
Acronis True Image Home 2011 での BartPE ディスクの作成	145
WinPE ベースのレスキュー メディアの作成	148

6.2.1 Acronis メディア ビルダ

緊急用起動ディスクを使用して、ベアメタル システムまたはクラッシュしたコンピュータで Acronis True Image Home 2011 を起動できます。Windows 以外のコンピュータのハードディスクをバックアップすることもできます。ディスクのデータを一度に 1 セクタずつイメージ作成することにより、すべてのデータをバックアップにコピーします。これには、スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 がインストールされたブータブル メディアが必要になります。

パッケージ版を購入された場合は、インストール用の製品 CD 自体が、プログラムのインストールだけでなく起動も行えるものであるため、これをブータブル メディアとして使用できます。

Acronis True Image Home 2011 をアクロニス オンラインストアから購入した場合や小売業者からダウンロード版を購入した場合は、ブータブル メディア ビルダを使用して、ブータブル メディアを作

成することができます。このメディアを作成するには、空の CD-R/RW、DVD+R/RW、またはコンピュータの起動に使用可能なその他のメディア (USB フラッシュ ドライブなど) が必要です。

Acronis True Image Home 2011 には、ブータブル ディスクの ISO イメージをハードディスク上に作成する機能もあります。

コンピュータに Acronis Disk Director Suite などの他のアクロニス製品がインストールされている場合は、それらのプログラムのスタンドアロン版も同じブータブル ディスクに追加することができます。

インストール時にブータブル メディア ビルダをインストールしなかった場合は、Acronis True Image Home 2011 でこの機能を使用することはできません。

ブータブル メディアから起動する場合は、Ext2/Ext3/Ext4、ReiserFS、Linux SWAP ファイル システムが採用されているディスクやパーティションへのバックアップを行うことはできません。

ブータブル メディアを作成する手順は、次のとおりです。

- Acronis メディア ビルダ ウィザードを実行します。手順は次のとおりです。
 - メインメニューの [ツールとユーティリティ] をクリックし、次に [ツールとユーティリティ] 画面の [ブータブル メディア ビルダ] をクリックします。
または、
 - [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] → [Acronis] → [Acronis True Image Home 2011] → [ツールとユーティリティ] → [ブータブル メディア ビルダ] を選択します。
- [次へ] をクリックして、ウィザードのステップに従います。

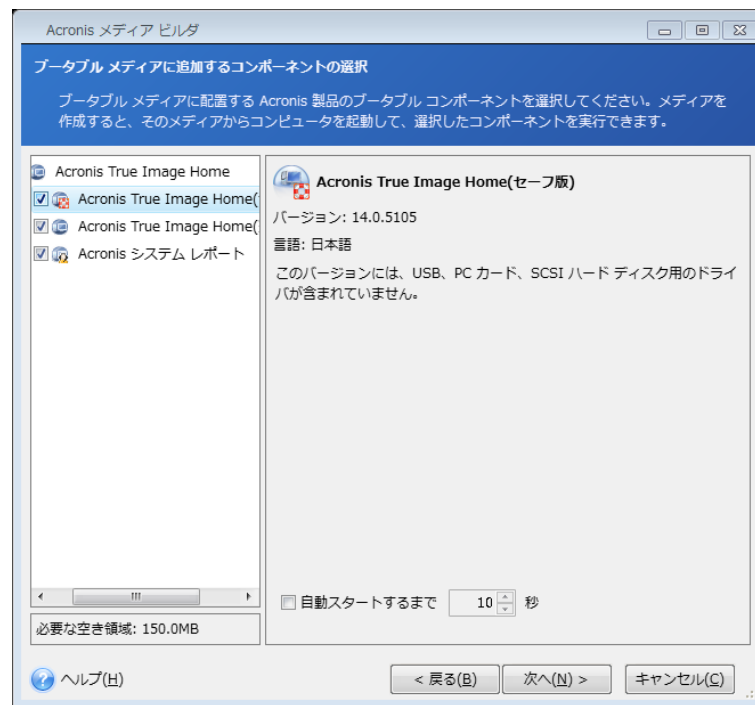
レスキュー メディアに追加するコンポーネントの選択

Acronis プログラムのどのコンポーネントをブータブル メディアに追加するかを選択できます。他のアクロニス製品、たとえば Acronis Disk Director Suite がコンピュータにインストールされている場合は、そのプログラムのコンポーネントも選択可能です。

Acronis True Image Home 2011 には、次のコンポーネントがあります。

- **Acronis True Image Home 2011 (完全版):** USB、PC カード (旧 PCMCIA)、SCSI、およびこれらの各インターフェイスを介して接続されるストレージ デバイスがサポートされます。したがって、このコンポーネントの追加を強くお勧めします。
- **Acronis True Image Home 2011 (セーフ版):** USB、PC カード、および SCSI はサポートされません。セーフ版を利用できるのは、Acronis True Image Home 2011 のパッケージ製品を購入済みで、適切なアドオンがインストールされている場合です。

- **Acronis システム レポート:** システム レポートが生成されます。このレポートは、プログラムの問題が発生したときに、システムに関する情報を集めるのに利用できます。レポート生成は、ブータブル メディアから Acronis True Image Home 2011 を起動する前でも実行可能です。生成されたシステム レポートは、USB フラッシュ ドライブに保存できます。



コンポーネントを選択する手順は、次のとおりです。

- ブータブル メディアに格納したいプログラムのチェックボックスをオンにします。一番下のフィールドには、選択したコンポーネントに必要な容量が表示されます。コンピュータに他の アクロニス製品がインストールされている場合は、そのプログラムのスタンドアロン版も同じブータブル メディアに追加することができます。
- プログラムを自動的に起動する場合は、**[自動スタートするまで [n] 秒]** チェックボックスをオンにします。**[自動スタートするまで [n] 秒]** パラメータでは、ブート メニューのタイムアウト間隔を指定します。このパラメータが指定されていない場合、ブート メニューが表示され、OS または Acronis コンポーネントのどちらを起動するかが選択されるまで待機します。たとえば、アクロニス製品のレスキュー メディアに対してこのパラメータを **10 秒** に設定すると、ブート メニューが表示されてから 10 秒後にスタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 が起動します。
- 続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。

ブータブル メディアの起動パラメータ

ブータブル メディアの起動パラメータを設定することにより、ブータブル メディアの起動オプションを構成し、さまざまなハードウェアとの互換性を向上させることができます。nousb、nomouse、noapic などのオプションが利用できます。上級ユーザー向けに用意されているパラメータです。ブータブル メディアからの起動をテスト中にハードウェアの互換性の問題が発生した場合は、アクロニス テクニカル サポートにお問い合わせください。

起動パラメータを追加する手順は、次のとおりです。

- **[パラメータ]** フィールドにコマンドを入力します。

- 起動パラメータを指定したら、[次へ] をクリックして先に進みます。

Linux カーネルを起動する前に適用できる追加パラメータ

説明

次のパラメータを使用すると、Linux カーネルを特殊モードで読み込むことができます。

- **acpi=off**

ACPI を無効にします。ハードウェアの特定の構成に役立ちます。

- **noapic**

APIC(Advanced Programmable Interrupt Controller)を無効にします。ハードウェアの特定の構成に役立ちます。

- **nousb**

USB モジュールの読み込みを無効にします。

- **nousb2**

USB 2.0 のサポートを無効にします。このオプションを指定しても、USB 1.1 デバイスは動作します。このオプションを指定すると、USB 2.0 モードでは動作しない一部の USB ドライブを USB 1.1 モードで使用できます。

- **quiet**

このパラメータはデフォルトで有効になっており、起動メッセージは表示されません。このパラメータを削除すると、Linux カーネルが読み込まれるときに起動メッセージが表示されるようになり、Acronis プログラムが実行される前にコマンド シェルが提供されます。

- **nodma**

すべての IDE ディスク ドライブの DMA を無効にします。カーネルが一部のハードウェアでフリーズするのを防ぎます。

- **nofw**

FireWire(IEEE1394)のサポートを無効にします。

- **nopcmcia**

PCMCIA ハードウェアの検出を無効にします。

- **nomouse**

マウスのサポートを無効にします。

- **[モジュール名]=off**

モジュールを無効にします(例: `sata_sis=off`)。

- **pci=bios**

PCI BIOS の使用を強制し、ハードウェア デバイスには直接アクセスしません。たとえば、コンピュータが標準以外の PCI ホスト ブリッジを備えているような場合にこのパラメータを使用することがあります。

- **pci=nobios**

PCI BIOS の使用を無効にします。ハードウェアへの直接アクセスのみを許可します。たとえば、BIOS が原因で起動時にクラッシュが発生すると考えられる場合にこのパラメータを使用することができます。

- **pci=biosirq**

PCI BIOS の呼び出しを使用して、割り込みルーティング テーブルを取得します。これらの呼び出しは、一部のコンピュータではバグがあり、使用するとコンピュータがフリーズしますが、他のコンピュータでは、割り込みルーティング テーブルを取得する唯一の方法です。カーネルが IRQ を割り当てることができない場合、またはマザーボード上のセカンダリ PCI バスを検出できない場合は、このオプションを試してください。

- **vga=ask**

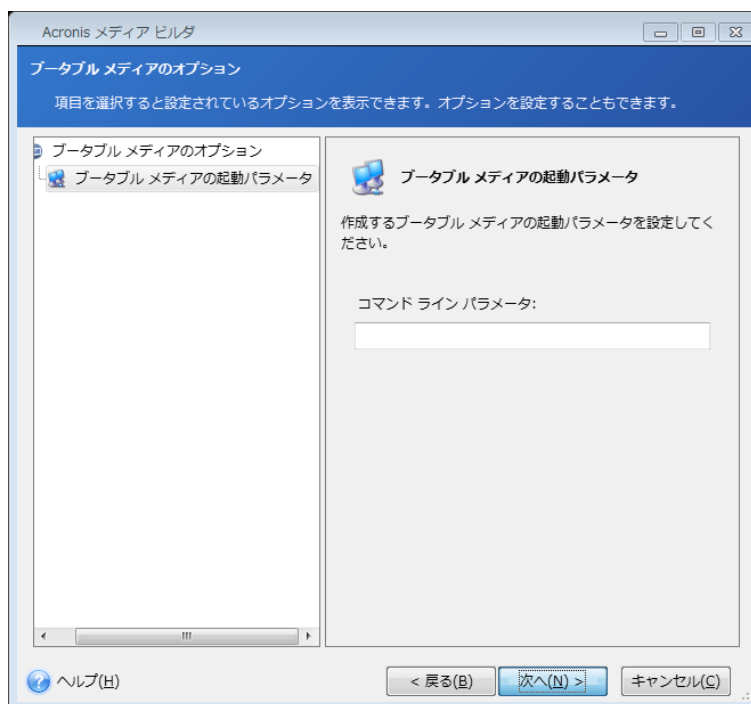
現在のビデオ カードで使用できるビデオ モードの一覧を取得し、ビデオ カードとモニタに最適なビデオ モードを選択できるようにします。自動的に選択されたビデオ モードがお使いのハードウェアに適合しない場合は、このオプションを試してください。

ブータブル メディアの選択

ブータブル メディアの作成先を選択します。

- **CD-R/RW** - CD に作成する場合は、空のディスクを挿入します。プログラムによってディスクの容量が確認されます。
- **ISO イメージ** - ISO ディスク イメージを作成すると、DVD ライティング ソフトウェアを使用して、書き込み可能な任意の DVD メディアに書き込むことができます。ブータブル メディア ビルダから直接ブータブル DVD を作成することはできません。
- **USB メモリ** など、コンピュータを起動できるその他のメディア

非光学メディアを使用する場合、メディアのファイル システムは、FAT ファイル システムでなければなりません。この制限事項は、ISO イメージには該当しません。



ファイルの保存先の選択

ブータブル メディアの ISO イメージの作成を選択した場合は、作成する ISO イメージのファイル名と保存先のフォルダを指定します。

- フォルダ ツリーで保存先のフォルダを選択します。
- [ファイル名] フィールドに、.iso ファイルの名前を入力します。
- 続行するには、[次へ] をクリックしてください。

ブータブル メディア作成の概要

このページでは実行される処理が表示されます。

ブータブル メディアの作成プロセスを開始する場合は、[実行] をクリックします。

左のサイドバーは、ウィザードのステップで行った設定を変更する場合に使用します。

処理をキャンセルして Acronis メディア ビルダを終了する場合は、[キャンセル] をクリックします。

起動ディスクの作成後は、ディスクに必要事項を記入して安全な場所に保管してください。

新しいバージョンのプログラムで作成されたバックアップは、前のバージョンのプログラムとは互換性がない可能性があることに注意してください。このため、Acronis True Image Home 2011 をアップグレードした場合は必ず新しいブータブル メディアを作成することを強くお勧めします。また、レスキュー メディアから起動していてスタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 を使用している場合は、Windows XP 以降のオペレーティング システムの暗号化機能で暗号化されたファイルやフォルダをリカバリすることはできませんので、注意してください。詳細については、「バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定 (69 ページ)」を参照してください。これに対し、Acronis True Image Home 2011 の暗号化機能を使用して暗号化されたバックアップはリカバリすることができます。

スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 をご使用の場合、レスキュー メディアから起動してイメージ バックアップを GPT ディスクにリカバリすることはできません。

6.2.2 Acronis True Image Home 2011 での BartPE ディスクの作成

Bart PE (Bart Preinstalled Environment) とは、Windows XP または Windows Server 2003 のオリジナル インストール/セットアップ CD から作成された、ブータブルな Windows CD/DVD です。Acronis True Image Home 2011 の現在のバージョンには、Windows Vista および Windows 7 のプレインストール環境のためのプラグインはありません。

Bart PE の一番の利点は、Windows のドライバが使用されることと、グラフィカル ユーザー インターフェイスが Windows に似ていることです。任意のストレージ ドライバを起動時に追加することもできます。方法は、Windows をハード ドライブにインストールするときと同じです (F6 キーを押し、ドライバのフロッピー ディスクを挿入します)。

Bart PE にインストールされるアプリケーションはプラグインの形でインストールされます。Acronis True Image Home 2011 プラグインを Bart PE プラグイン タブで追加することができます。

Acronis True Image Home 2011 のパッケージ製品を購入された場合以外は、次の手順に従って、別のインストール ファイルを アクロニス アカウントからダウンロードする必要があります。

- [マイ アカウント] セクションを開きます。

- ログインします。
- 購入した Acronis True Image Home 2011 のプロダクト キーを登録します(未登録の場合)。
- **[登録済み製品]** をクリックします。

登録済の製品の下にある **[Bart PE & Safe Media]** をクリックしてプラグインをダウンロードします。次の手順に従って、プラグインをインストールします。

1. ダウンロードされたファイルをダブルクリックすると、インストールが開始します。
2. Bart PE プラグインだけをインストールする場合は、[カスタム] インストールを選択して、セーフメディア アドオンの選択を解除します。それ以外の場合は、[標準] を選択します。
3. インストールが完了すると、Bart PE CD/DVD を作成して Acronis True Image Home 2011 プラグインを追加することができるようになります。

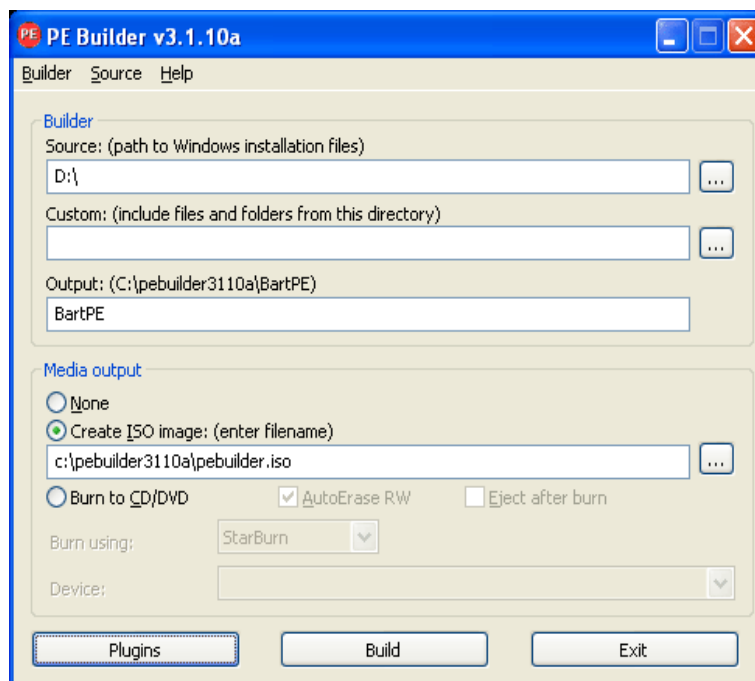
以下の説明は、PE Builder バージョン 3.1.10a の場合の手順です。

Acronis True Image Home 2011 プラグイン付きの BartPE CD を作成するには、次の手順に従います。

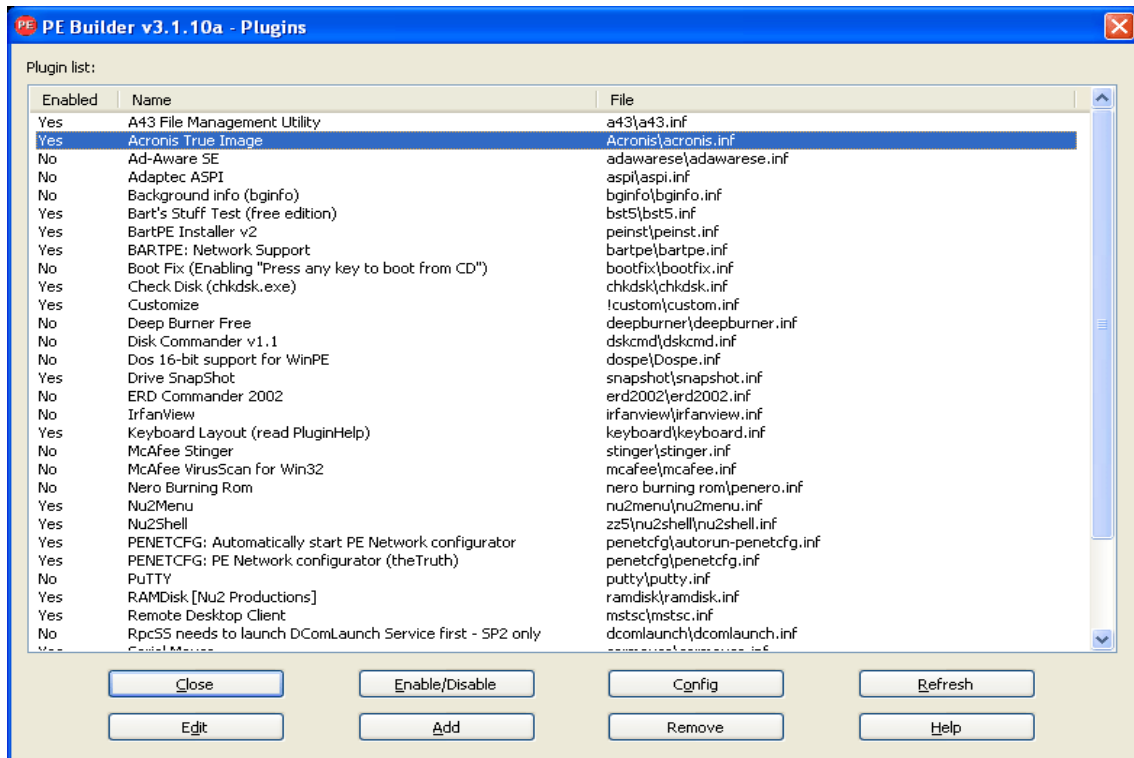
- PE Builder をダウンロードしてインストールします。

Acronis True Image Home 2011 のインストール フォルダを開きます (デフォルトのフォルダは C:\Program Files\Acronis または C:\Program Files\Acronis\Media Add-ons です)。BartPE フォルダの名前を Acronis に変更します。このフォルダを、PE Builder のインストール ディレクトリ内にある Plugin フォルダにコピーします (デフォルト ディレクトリは C:\pebuilder3110a または同様のディレクトリです)。

PE Builder を起動して、必要なパスを入力し(オンライン ヘルプがここにあります)、[プラグイン] ボタンをクリックします。



[プラグイン] 画面で Acronis True Image Home 2011 のプラグインが有効になっていることを確認します。



[プラグイン] ウィンドウを閉じて [ビルド] ボタンをクリックすると、ビルド プロセスが開始します。イメージを CD に書き込む場合は、[CD/DVD に焼く] オプションを選択して、書き込みツールとデバイスをメニューから選択します。

イメージが作成されたら、CD または DVD に書き込みます（前のステップで [CD/DVD に焼く] オプションを選択しなかった場合）。

この CD/DVD からコンピュータを起動した後で、[Go] → [System] → [Storage] を選択すると、Acronis True Image Home 2011 プラグインを起動できます。

ドライバの追加

BartPE で追加できるドライバには、ストレージ ドライバとネットワーク ドライバの 2 種類があります。ドライバを追加する方法については、PE Builder のドライバのヘルプを参照してください。

ストレージ ドライバ(RAID または SCSI デバイス用)を、BartPE の起動時に追加することもできます（F6 キーを押して、ドライバのフロッピー ディスクを読み込ませる必要があります）。共通のストレージ ドライバは、ここにあります。

作成した BartPE メディアからコンピュータを起動したときに、Acronis True Image Home 2011 は次の場所にあります。

[Go] → [System] → [Storage] → [Acronis True Image Home 2011]

6.2.3 WinPE ベースのレスキュー メディアの作成

WinPE ベースのレスキュー メディアを作成するには、Acronis True Image Home 2011 Plus Pack を購入し、インストールする必要があります。

WinPE 用 Acronis プラグインは、次のいずれかのカーネルに基づく WinPE ディストリビューションに追加できます。

- Windows Vista (PE 2.0) (KB926044 以降の Windows XP SP2 にも使用可能)
- Windows Vista SP1 (PE 2.1) (KB926044 以降の Windows XP SP2 にも使用可能)
- Windows 7 (PE 3.0)

PE 2.x および 3.0 イメージを作成または変更できるようにするには、Windows 自動インストールキット(AIK)がインストールされている必要があります。

PC に Windows AIK がインストールされていない場合は、次の手順に従って準備します。

1. Windows 自動インストール キットをダウンロードしてインストールします。

Windows Vista および Windows XP Service Pack 2 以降の AIK (PE 2.0):

<http://www.microsoft.com/Downloads/details.aspx?familyid=C7D4BC6D-15F3-4284-9123-679830D629F2&displaylang=ja>

Windows Vista SP1 用 AIK (PE 2.1):

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=94bb6e34-d890-4932-81a5-5b50c657de08&DisplayLang=ja>

Windows 7 用 AIK (PE 3.0):

<http://www.microsoft.com/DOWNLOADS/details.aspx?familyid=696DD665-9F76-4177-A811-39C26D3B3B34&displaylang=ja>

2. (オプション) Windows AIK を DVD に書き込むかフラッシュ ドライブにコピーします。
3. このキットから Microsoft .NET Framework v.2.0 (ハードウェアに応じて、NETFXx86 または NETFXx64 を選択)をインストールします。
4. このキットから Microsoft Core XML (MSXML) 6.0 パーサーをインストールします。
5. このキットから Windows AIK をインストールします。

Windows AIK で提供されているヘルプ ドキュメントの内容を把握しておくことをお勧めします。ホワイト ペーパー (Getting Started for IT Professionals) の「Create an image」セクションをお読みになることをお勧めします。このドキュメントにアクセスするには、[スタート] メニューから [Microsoft Windows AIK] → [ドキュメント] → [Getting Started for IT Professionals] を選択します。

Windows PE のカスタマイズの詳細については、(Windows プレインストール環境 (Windows PE) ユーザーズ ガイド) (Winpe.chm) をご参照ください。

Acronis True Image Home 2011 と WinPE 2.x または 3.0 ISO の統合

Acronis WinPE ISO ビルダには、Acronis True Image Home 2011 を WinPE 2.x および WinPE 3.0 に統合する方法として、次の 3 つがあります。

- プラグインが組み込まれた PE 2 または PE 3 ISO を最初から作成する。
- Acronis プラグインを既存の PE 2 または PE 3 ISO に追加する。この方法は、以前に設定済みで既に使用中の PE 2 または PE 3 ISO にプラグインを追加するときに便利です。

- 将来使用する目的で(手動での ISO 作成、イメージへの他のツールの追加など)、Acronis プラグインを WIM ファイルに追加する。

上記の操作のいずれかを実行できるようにするには、Acronis True Image Home 2011 Plus Pack および Windows 自動インストール キット(WAIK)が PC にインストールされている必要があります。WAIK をインストールしていない場合は、このセクションの説明に従ってインストールしてください。

Acronis WinPE ISO ビルダでは、x86 WinPE 2.x および WinPE 3.0 のみがサポートされます。この WinPE デイストリビューションは、x64 ハードウェア上でも動作できます。

Win PE 2.x または 3.0 に基づく PE イメージが動作するには、少なくとも 256 MB の RAM が必要です。PE 2.x または 3.0 の推奨メモリ サイズは 512 MB です。

Acronis プラグインを使用した、新しい Win PE 2.x または PE 3.0 ISO の作成

Acronis True Image Home 2011 Plus Pack が PC にインストールされている必要があります。

Acronis プラグインを使用して新しい Win PE 2.x または PE 3.0 ISO を作成するには、まず以下の手順で Windows PE ビルド ディレクトリを作成します。

1. **[スタート]** メニューから、**[Microsoft Windows AIK]** → **[Windows PE ツールのコマンド プロンプト]** を選択します。

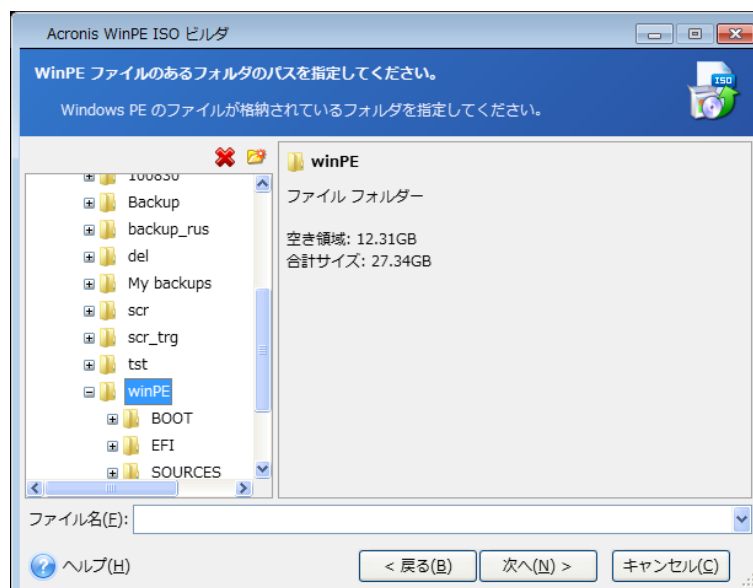
Windows 7 の環境の場合は、**[スタート]** メニューから、**[Microsoft Windows AIK]** → **[Deployment ツールのコマンド プロンプト]** 選択します。

2. **copype.cmd** スクリプトを実行し、Windows PE ファイルが格納されたフォルダを作成します。たとえば、コマンド プロンプトから次のように入力します。

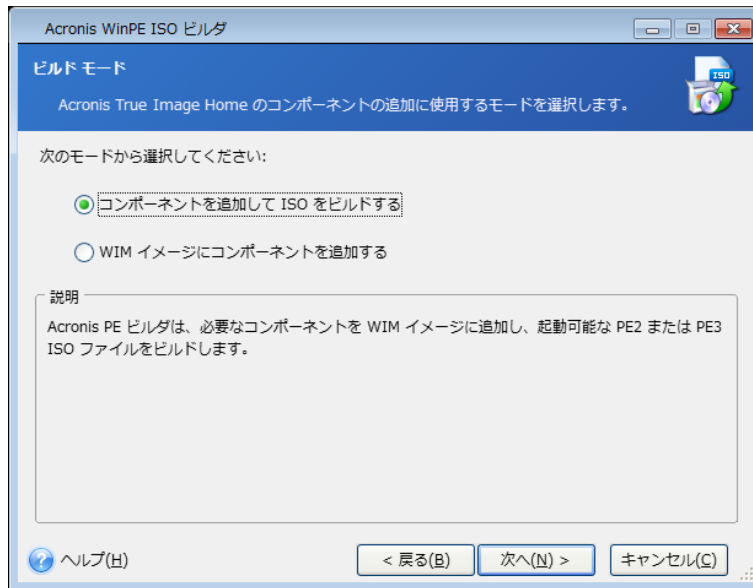
```
copype x86 c:\winpe_x86
```

処理が完了したら、以下の手順で ISO を作成します。

3. **[スタート]** メニューから、**[Acronis]** → **[Plus Pack for Acronis True Image Home 2011]** → **[Acronis WinPE ISO ビルダ]** を選択します。
4. WinPE¥ISO フォルダのパス(c:\winpe_x86¥ISO など)を指定します。



5. 次の画面で [コンポーネントを追加して ISO をビルドする] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。



6. 作成するイメージ ファイルのファイル名を含む完全パスを指定するか、デフォルトのパスおよびファイル名 (AcronisMedia.iso) のままにします。
7. 概要の画面で設定を確認し、[実行] をクリックします。



8. サードパーティのツール (Nero など) を使用して .ISO を CD に書き込むと、Acronis True Image Home 2011 が格納されたブータブル Windows PE ディスクが作成されます。

コンピュータが WinPE で起動すると、Acronis True Image Home 2011 が自動的に起動します。起動までに時間がかかることがあります。

既存の WinPE 2.x または 3.0 ISO への Acronis プラグインの追加

Acronis プラグインを追加する場合、最初に Acronis True Image Home 2011 Plus Pack を PC にインストールする必要があります。

1. Win PE 2 または 3 ISO のすべてのファイルをハードディスク上の別のフォルダにアンパックします。
2. **[スタート]** メニューから、**[Acronis]** → **[Plus Pack for Acronis True Image Home 2011]** → **[Acronis WinPE ISO ビルダ]** を選択します。
3. WinPE ファイルが格納されたフォルダへのパスを指定します。
4. 作成する ISO ファイルのフル パスを、ファイル名を含めて指定するか、デフォルトのパスおよびファイル名 (AcronisMedia.iso) のままにします。
5. 概要の画面で設定を確認し、**[実行]** をクリックします。
6. サードパーティのツール (Nero など) を使用して .ISO を CD に書き込むと、Acronis True Image Home 2011 が格納されたブータブル Windows PE ディスクが作成されます。

コンピュータが WinPE で起動すると、Acronis True Image Home 2011 が自動的に起動します。起動までに時間がかかることがあります。

WinPE 2.x または 3.0 WIM への Acronis プラグインの追加

1. **[スタート]** メニューから、**[Acronis]** → **[Plus Pack for Acronis True Image Home 2011]** → **[Acronis WinPE ISO ビルダ]** を選択します。
2. 追加元の WINPE.WIM ファイルのパスを指定します。x86 ハードウェア用のこのファイルの標準のパスは、\Program Files\Windows AIK\Tools\PETools\X86\winpe.wim です。
3. 作成する WIM ファイルのフル パスを、ファイル名を含めて指定するか、デフォルトのパスおよびファイル名 (AcronisMedia.wim) のままにします。
4. 概要の画面で設定を確認し、**[実行]** をクリックします。

結果の WIM ファイルから PE イメージ (ISO ファイル) を作成する手順は、次のとおりです。

1. **[スタート]** メニューから、**[Microsoft Windows AIK]** → **[Windows PE ツールのコマンド プロンプト]** を選択します。
2. Windows 7 の環境の場合は、**[スタート]** メニューから、**[Microsoft Windows AIK]** → **[Deployment ツールのコマンド プロンプト]** を選択します。
3. **copype.cmd** スクリプトを実行し、Windows PE ファイルが格納されたフォルダを作成します。たとえば、コマンド プロンプトから次のように入力します。

```
copype x86 c:\winpe_x86
```

4. Windows PE フォルダ内のデフォルトの boot.wim ファイルを、新しく作成した WIM ファイルに置き換えます。新しく作成した WIM ファイルへのデフォルト パスを使用した、上記の WIM ファイル作成の例の場合、次のように入力します。

```
copy c:\Program Files\Windows AIK\Tools\PETools\X86\AcronisMedia.wim  
c:\winpe_x86\ISO\sources\boot.wim
```

5. **Oscdimg** ツールを使用します。ISO ファイルを作成するには、次のように入力します。

```
oscdimg -n -bc:\winpe_x86\etfsboot.com c:\winpe_x86\ISO c:\winpe_x86\winpe_x86.iso
```

6.3 Acronis セキュア ゾーン® の使用方法

Acronis セキュア ゾーン® は、バックアップを作成したのと同じコンピュータ上にバックアップを保存するための特別なパーティションです。現在の Acronis True Image Home 2011 では、NTFS パーティションとしてゾーンが作成されます。

[ツールとユーティリティ] 画面で [Acronis セキュア ゾーン] をクリックすると、すべてのローカルドライブでゾーンが検索されます。ゾーンが見つかった場合は、その管理(サイズ変更やパスワードの変更)や削除を行うことができます。ゾーンが存在しない場合は、作成するための画面が表示されます。

Acronis スタートアップ リカバリ マネージャまたは Bart PE を使用してブータブル レスキュー メディアから Acronis True Image Home 2011 を開始する場合、リカバリ環境内で Acronis セキュア ゾーンをバックアップの場所として使用することはできません。

セクションの内容

Acronis セキュア ゾーン	152
Acronis セキュア ゾーンの場所	153
パーティションの選択	154
Acronis セキュア ゾーンのサイズ	155
Acronis セキュア ゾーンの詳細	156
Acronis セキュア ゾーンの詳細	158

6.3.1 Acronis セキュア ゾーン

Acronis セキュア ゾーンは、管理対象コンピュータのディスク領域にバックアップを保存するための、セキュリティで保護されたパーティションです。ディスクのバックアップが保存されているディスクをリカバリできます。

Acronis True Image Home 2011 では、セキュア ゾーンはバックアップを保存できる場所と共に一覧表示されます。

Acronis セキュア ゾーンには、Acronis ディスク管理ツールなどの特定の Windows アプリケーションを使用してアクセスできます。

Acronis セキュア ゾーンを作成すると、[マイ コンピュータ] の下の [その他] セクションにアイコンが表示されます。この Acronis セキュア ゾーンアイコンをダブルクリックすると、このセキュア ゾーンに保存されているすべてのバックアップが一覧表示されます。このアイコンを右クリックしてショートカット メニューの [開く] を選択するという方法でも、セキュア ゾーンを開くことができます。

バックアップ アイコンをダブルクリックすると、そのバックアップ内に含まれるすべてのバックアップ バージョン(完全、増分、差分)が表示されます。特定のバックアップ バージョンを右クリックすると、ショートカット メニューが開き、目的の操作を選択することができます。たとえば、バックアップのマウント(イメージ バックアップの場合)、リカバリ、ベリファイ、更新、削除、およびバックアップの詳細の表示を選択できます。Acronis セキュア ゾーンがパスワードで保護されている場合、バックアップの詳細の表示以外の操作には正しいパスワードの入力が必要です。バックアップをダブルクリックすると、デフォルトの操作(イメージ バックアップの場合はマウント、データ バックアップの場合はリカバリ)が開始されます。

Acronis セキュア ゾーンアイコンを右クリックしたときに表示されるショートカット メニューには、その他に [ショートカットの作成](デスクトップへの配置)と [参照](ゾーンの内容の参照)という項目もあります。

[参照] を選択すると、Windows エクスプローラが開いてディレクトリ ツリーで Acronis セキュア ゾーンが自動的に選択されます。その結果、ゾーンの内容を参照できるようになります。

Acronis セキュア ゾーンをバックアップ ファイルの保存場所として使用するには、空き領域があることが条件です。十分な領域がない場合は、空き領域を作成するために古いバックアップが削除されます。

Acronis True Image Home 2011 では、次の方法で Acronis セキュア ゾーンがクリーンアップされます。

- バックアップの作成中に、バックアップ作成のための十分な空き領域がない場合は、Acronis セキュア ゾーンがいっぱいであることを警告するダイアログ ボックスが表示されます。[キャンセル] をクリックすると、バックアップ処理をキャンセルできます。この場合は、たとえば Acronis セキュア ゾーンのサイズを拡大してからバックアップ処理を再度実行します。ゾーン内の領域を自動的に解放するには、[OK] をクリックします。作成しようとしているバックアップ バージョンと同じ種類の完全バックアップ バージョンのうち最も古いものが、後続のすべての増分/差分バックアップ バージョンと共に削除されます。その後、バックアップ処理が再開されます。
- 最も古いバックアップを削除しても空き領域が不十分な場合は、同じ警告メッセージが再度表示されます。この場合、次に古いバックアップ(存在する場合)を削除することができます。この操作は、以前のバックアップがすべて削除されるまで繰り返すことができます。
- 以前のバックアップをすべて削除してもバックアップを完了するのに十分な領域が解放されない場合、エラー メッセージが表示され、バックアップはキャンセルされます。

ゾーン内のバックアップの種類は、ディスク イメージのバックアップとファイル レベルのバックアップの 2 種類のみです。ファイルおよび電子メールのバックアップは、ファイル レベルのバックアップと見なされます。たとえば、ゾーン内に電子メールのバックアップがあり、空き領域が不足しているためにフォルダのバックアップを作成できない場合は、フォルダ バックアップ用の領域を解放するために電子メールのバックアップが削除されます。

データのバックアップを、スケジュールに従って自動的に実行することができます(「スケジュール設定 (124 ページ)」を参照してください)。スケジュールされたバックアップの実行時にセキュア ゾーンがいっぱいになるのを避けるためには、[Acronis セキュア ゾーンに十分な空き領域がない場合、最も古いバックアップを削除する] ボックスを選択することをお勧めします。このボックスはスケジュール バックアップ オプション(エラー処理)の中にあります。

6.3.2 Acronis セキュア ゾーンの場合

Acronis セキュア ゾーンを作成する場合は、Acronis セキュア ゾーンの作成に使用する領域が存在するディスクおよびパーティションを選択します。また、選択した同じディスクの他のパーティションに存在する空き領域や未割り当ての領域を選択することもできます。Acronis セキュア ゾーンは、ベーシック ディスク上にものみ配置できます。ダイナミック ディスクやボリュームおよび GPT ディスクには作成できません。

Acronis セキュア ゾーンの場合の場所を指定する手順は、次のとおりです。

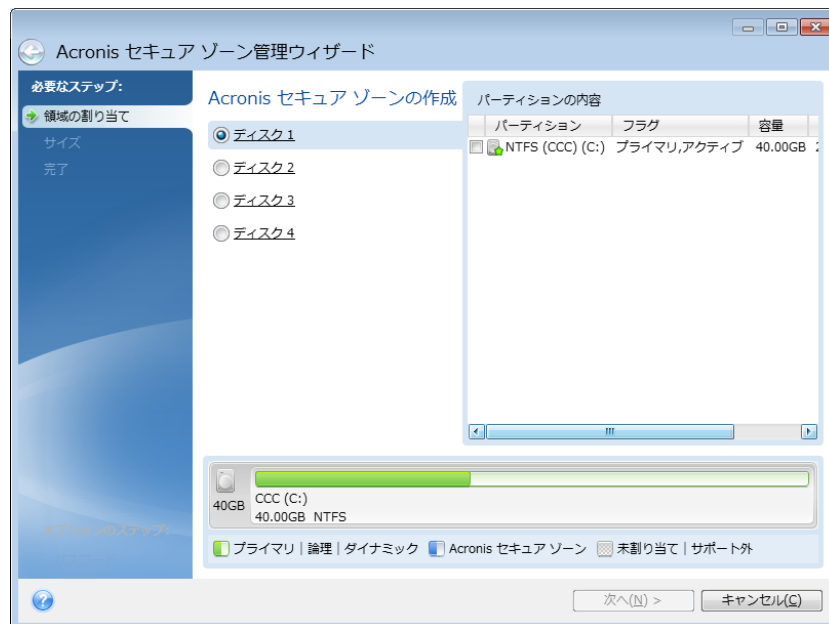
- Acronis セキュア ゾーンを作成するハードディスク ドライブをクリックします。
- 選択したハードディスク ドライブ上で、使用する未割り当ての領域または空き領域のパーティションを 1 つ以上選択します。選択したパーティションは、Acronis セキュア ゾーン用に領域を使用する必要がある場合、必要に応じて、サイズが調整されます。
- ディスクとパーティションを選択した後、[次へ] をクリックして、[Acronis セキュア ゾーンのサイズ] (155 ページ参照) のステップに進みます。

Acronis セキュア ゾーンのサイズを拡大/縮小する手順は、次のとおりです。

- Acronis セキュア ゾーンのサイズを拡大するために領域を使用するパーティション、または Acronis セキュア ゾーンのサイズの縮小後に解放される空き領域を割り当てるパーティションを選択します。未割り当ての領域が存在するパーティションも選択できます。
- [次へ] をクリックして、[Acronis セキュア ゾーンのサイズ] (155 ページ参照) のステップに進みます。

6.3.3 パーティションの選択

どのパーティションの空き領域を Acronis セキュア ゾーンの作成に使用するかを選択します。未割り当ての領域を選択することもできます。

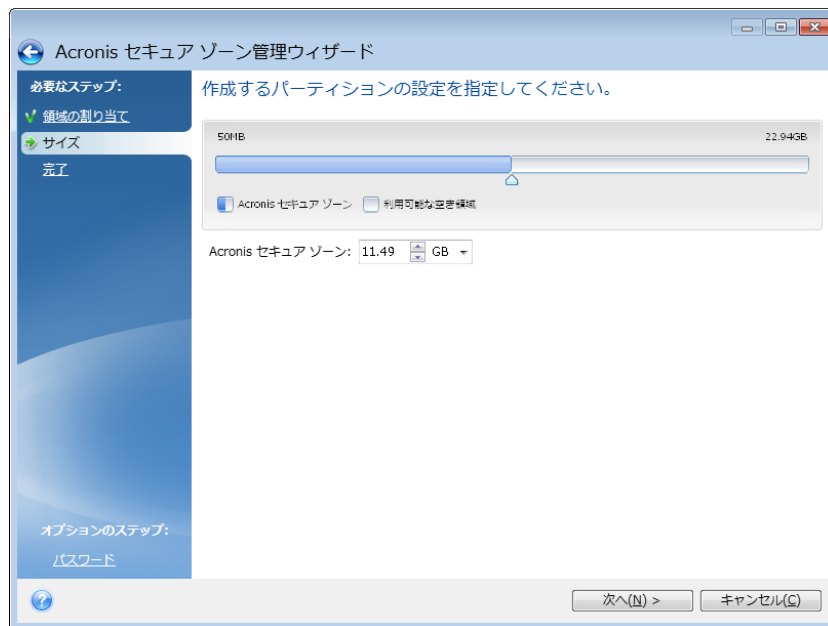


パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

- 適切なパーティションのチェックボックスをオンにして [次へ] をクリックします。

6.3.4 Acronis セキュア ゾーンのサイズ

Acronis セキュア ゾーンのサイズを指定できます。



最小サイズは、ハードディスクの構成により異なりますが、およそ 50 MB です。最大サイズは、ディスクの未割り当て領域に、前の手順で選択したすべてのパーティション上の空き領域の合計を加えたものです。

Acronis セキュア ゾーンを作成または拡大する際には、まず未割り当ての領域が使用されます。作成するゾーンのサイズに対して未割り当ての領域が不十分な場合は、選択したパーティションのサイズが縮小されます。パーティションのサイズ変更を行うと、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

Acronis セキュア ゾーンのサイズを縮小する際に、ハードディスクに未割り当ての領域が存在する場合は、Acronis セキュア ゾーンの縮小によって生じた領域と共に、その未割り当ての領域が、選択したパーティションに割り当てられます。したがって、ディスク上には未割り当ての領域はなくなります。

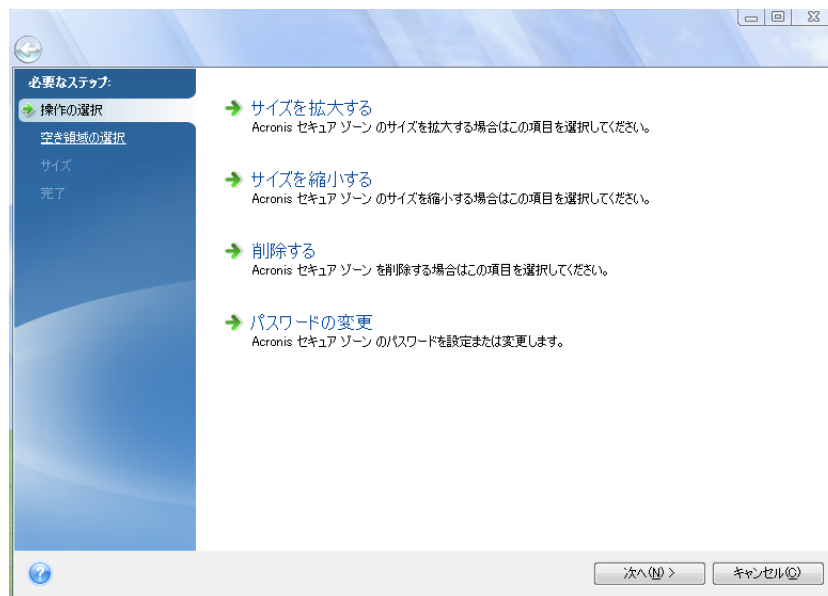
システム パーティションを最小サイズまで縮小すると、オペレーティング システムが起動しなくなる場合があります。

Acronis セキュア ゾーンのサイズを指定する手順は、次のとおりです。

- スライダーを適切な位置にドラッグするか、Acronis セキュア ゾーンの [サイズ] フィールドに正確な値を入力します。

6.3.5 Acronis セキュア ゾーン管理

Acronis セキュア ゾーンを管理することができます。



- [サイズを拡大する] (156 ページ参照) - Acronis セキュア ゾーンを大きくする場合にこの項目を選択します。
- [サイズを縮小する] (156 ページ参照) - Acronis セキュア ゾーンを小さくする場合にこの項目を選択します。
- [削除する] (158 ページ参照) - Acronis セキュア ゾーンをハードディスクから削除する場合にこの項目を選択します。
- [パスワードの変更] (156 ページ参照) - Acronis セキュア ゾーンにアクセスするためのパスワードを変更する場合にこの項目を選択します。

サイズを拡大する

どのパーティションの空き領域を Acronis Secure Zone のサイズ拡大に使用するかを選択します。未割り当ての領域も選択できます。

パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

- 適切なパーティションのチェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。

サイズを縮小する

解放 Acronis Secure Zone のサイズ縮小後に解放される空き領域を割り当てるパーティションを選択します。未割り当ての領域を選択することもできます。

パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

- 適切なパーティションのチェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。

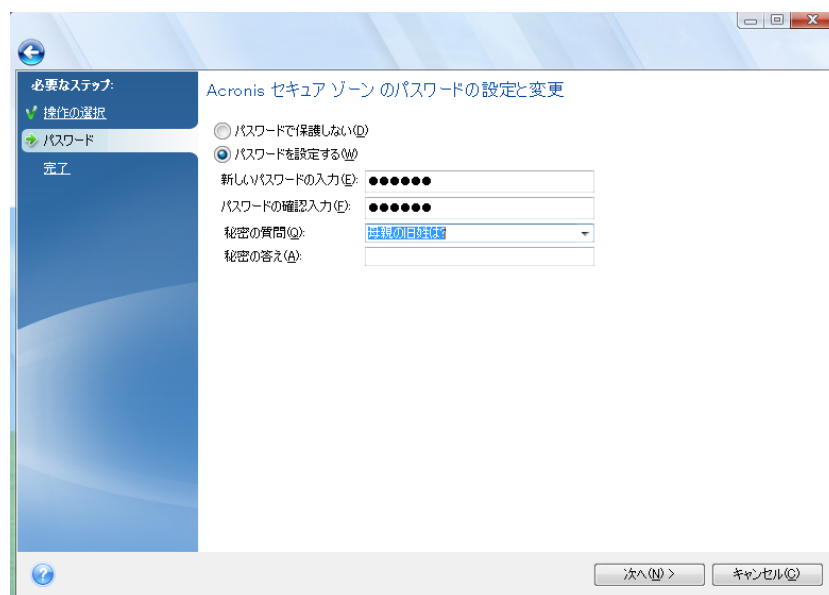
Acronis セキュア ゾーン保護

ここでは、不正アクセスを防止するため、Acronis セキュア ゾーンに対するパスワード保護を設定することができます。

Acronis セキュア ゾーンを使用したデータのバックアップやリカバリ、イメージのマウント、バックアップの検証、Acronis セキュア ゾーンのサイズ変更や削除など、Acronis セキュア ゾーンに関連するすべての処理に対してパスワードが要求されます。

パスワードの設定

- **[パスワードで保護しない]** - セキュア ゾーンに対してパスワード保護を使用しない場合、このオプションを選択します。
- **[パスワードを設定する]** - パスワードを使用して Acronis セキュア ゾーンを保護する必要がある場合、このオプションを選択します。
 - **[パスワード]** フィールドに、パスワードを入力します。
 - **[パスワードの確認]** フィールドに、先に入力したパスワードをもう一度入力します。
 - また、パスワードを忘れた場合に使用できる、本人確認用の秘密の質問を選択することもできます。一覧から秘密の質問を選択して、その答えを入力します。
- 続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。



Acronis True Image Home 2011 の修復または更新により、パスワードが影響を受けることはありません。ただし、ディスク上に Acronis セキュア ゾーンを保持したまま、プログラムを削除して再インストールした場合は、Acronis セキュア ゾーンのパスワードがリセットされます。

ファイル システムの NTFS への変換

旧バージョンの Acronis True Image Home 2011 からアップグレードする際に、システム内に Acronis セキュア ゾーンが存在している場合、ゾーン ファイル システムを、FAT32 から NTFS に変換できます。FAT32 から NTFS への変換では、Acronis セキュア ゾーン内に以前から存在するバックアップが失われることはありません。Acronis セキュア ゾーンを Acronis ノンストップ バックアップ データ ストレージとして使用する場合、ゾーン ファイル システムを変換することをお勧めします。

Acronis セキュア ゾーンのファイル システムを NTFS に変換すると、後でこのウィザードを開始しても、この項目は表示されなくなります。

Acronis Secure Zone の削除

Acronis Secure Zone が占めていた領域をどのパーティションに追加するかを選択します。複数のパーティションを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して配分されます。

パーティションを選択する手順は、次のとおりです。

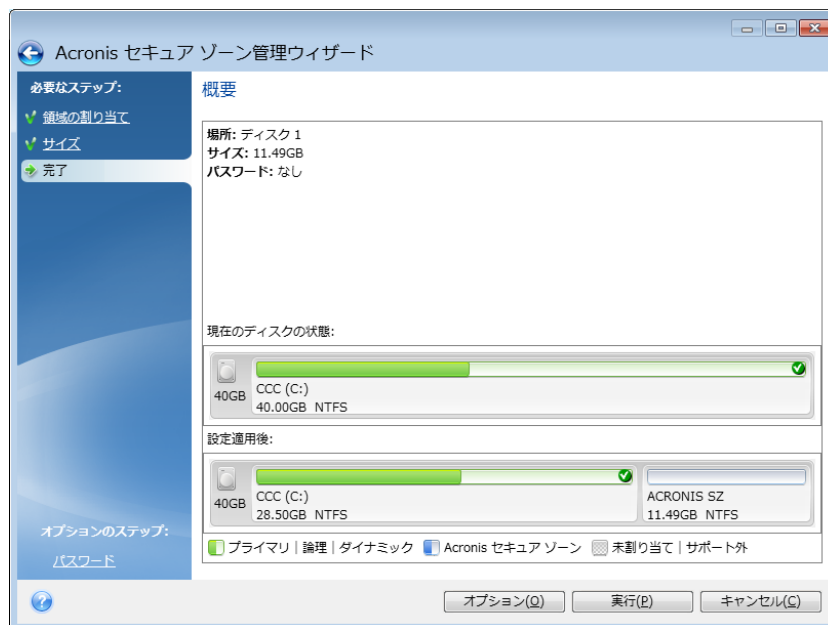
- 該当するパーティションのチェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。

Acronis Secure Zone の削除は、プログラムをアンインストールするときに行うこともできます。Acronis Secure Zone を削除せずにプログラムをアンインストールするか、ソフトウェアと共に Acronis Secure Zone を削除するかを選択できます。

Acronis Secure Zone を削除すると、その中に保存されているバックアップはすべて自動的に消去されます。

6.3.6 Acronis セキュア ゾーンの概要

Acronis セキュア ゾーンの [概要] ウィンドウには、実行される処理の一覧が表示されます。Acronis セキュア ゾーンの作成または管理を行う場合、再起動が必要になる可能性があります。その場合は、[実行] ボタンをクリックするとメッセージが表示され、再起動するかどうかの確認を求められます。



[実行] ボタンをクリックすると、表示されている処理が開始します。

パスワードを使用して Acronis セキュア ゾーンを保護する場合、[オプション] ボタンをクリックします。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、処理は実行されず、ウィザードが終了します。

6.4 ハードディスクのクローン作成

セクションの内容

一般情報.....	159
セキュリティ.....	159
クローン作成モードの選択	160
ソース ディスクの選択.....	161
ターゲット ディスクの選択	162
移行方法.....	162
手動パーティション操作	163
クローン作成の概要.....	165

6.4.1 一般情報

コンピュータのユーザーの多くが、ハードディスクの容量不足を経験します。データ用の領域がなくなった場合は、次の章で説明しているようにデータ ストレージ専用 to 別のディスクを追加することができます。

しかし、ハードディスクにオペレーティング システムやインストール済みアプリケーション用の十分な領域がないと、ソフトウェアの更新や新しいアプリケーションのインストールを行うことができなくなります。この場合は、システムを大容量のハードディスクに移行する必要があります。

システムを移行するには、まずコンピュータにディスクを取り付ける必要があります。コンピュータに別のハードディスク用のベイがなければ、ハードディスクを一時的に CD ドライブの場所に取り付けるか、または USB 2.0 を使用して外付け型のターゲット ディスクに接続します。それができない場合は、ディスク イメージを作成してより大きなパーティションを持つ新しいハードディスクにリカバリすることで、ハードディスクのクローンを作成します。

プログラムの画面では、破損したパーティションの左上の隅に、赤い丸に白い「x」のマークが付きます。クローン作成を開始する前に、適切なオペレーティング システム ツールを使用して、ディスクにエラーがないかどうかを調べ、エラーがあれば修正する必要があります。

転送を効率的に行うには、転送先(新しい)ドライブをコンピュータに取り付けてから、転送元ドライブを別の場所(たとえば外付けの USB エンクロージャ)に取り付けます。特にラップトップ コンピュータの場合は、このとおりにすることをお勧めします。

Acronis True Image Home 2011 では、ディスク間のデータ転送手順(ディスクのクローン作成)を簡単に実行できます。

ディスクのクローンを作成する手順は、次のとおりです。

- メイン メニューの [ツールとユーティリティ] をクリックし、次に [ツールとユーティリティ] 画面の [ディスクのクローン作成] をクリックします。
- [ディスクのクローン作成ウィザード] のステップを順に実行します。

6.4.2 セキュリティ

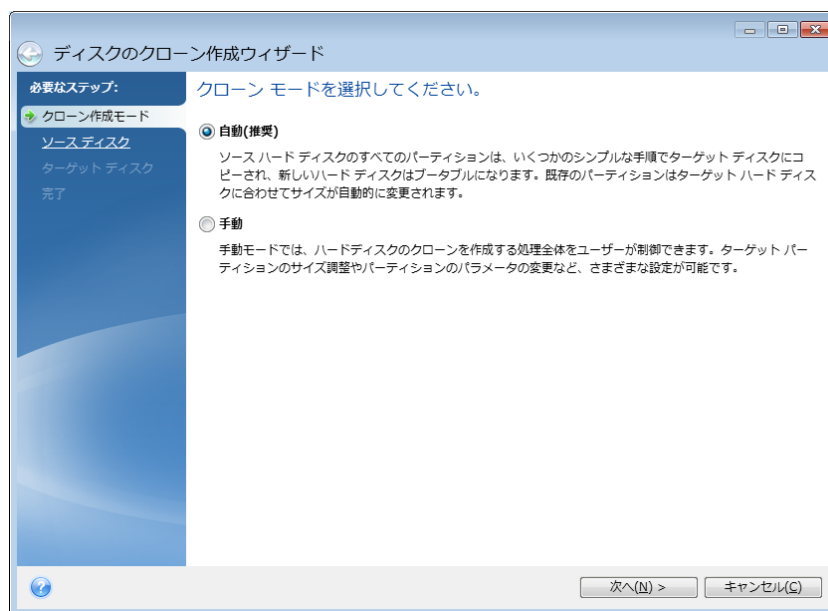
転送の実行中にコンピュータの電源が切れた場合や、誤って [リセット] が押された場合は、転送処理は未完了となるため、ハードディスクのパーティション作成とフォーマットまたはクローン作成をもう一度行う必要があります。

元のディスクは読み取り専用で、パーティションやサイズが変更されるわけではないので、データが失われることはありません。システム転送手順を実行しても、元のディスクは一切変更されません。手順の完了後に、古いディスクをフォーマットするか、含まれているデータを完全に消去することをお勧めします。これらのタスクには、Windows のツールまたは Acronis DriveCleanser を使用します。

ただし、元のディスクのデータはすぐには削除しないことをお勧めします。データが新しいディスクに正しく転送されて、そのディスクからコンピュータが正常に起動し、すべてのアプリケーションが動作していることを確認するまでは、削除しないでください。

6.4.3 クローン作成モードの選択

使用可能な移行モードには次の 2 種類があります。

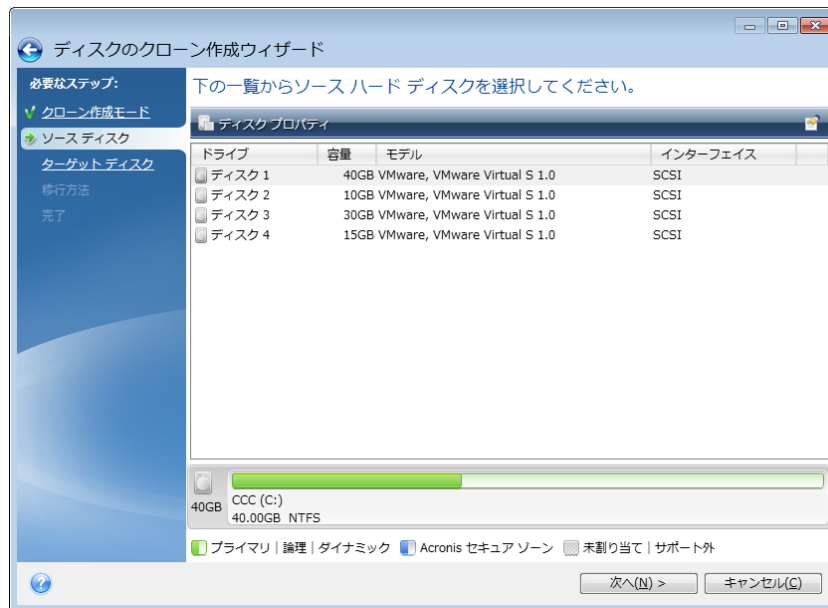


- **[自動]**(ほとんどの場合は自動モードの使用をお勧めします)- 自動モードでは、いくつかの簡単な操作を行うだけで、パーティション、ファイル、およびフォルダを含むすべてのデータを新しいディスクに移行することができます。元のディスクがブータブル(起動用)ディスクだった場合は、新しいディスクがブータブルになります。
- **[手動]** - 手動モードでは、さまざまなデータ転送に対応できます。手動モードは、ディスクパーティション レイアウトの変更が必要な場合に役立ちます。

ディスクが 2 つ検出されて、一方にパーティションがあり、他方にはない場合は、パーティションのあるディスクが自動的にソース ディスクとして認識され、パーティションのないディスクがターゲット ディスクとして認識されます。これに該当する場合は、以降のステップが省略され、クローン作成の概要画面が表示されます。

6.4.4 ソース ディスクの選択

このウィンドウに表示される情報(ディスク番号、容量、ラベル、パーティション、およびファイル システムの情報)を参照して、移行元と移行先を決定することができます。パーティションを持つディスクが複数検出されたときは、ソース ディスク(つまり、古い方のデータ ディスク)を指定するためのウィンドウが表示されます。



現在のバージョンの Acronis True Image Home 2011 では、ダイナミック ディスクと GPT ディスクのクローン作成はサポートされていません。

- 移行元ディスクを選択し、[次へ] をクリックして次に進みます。

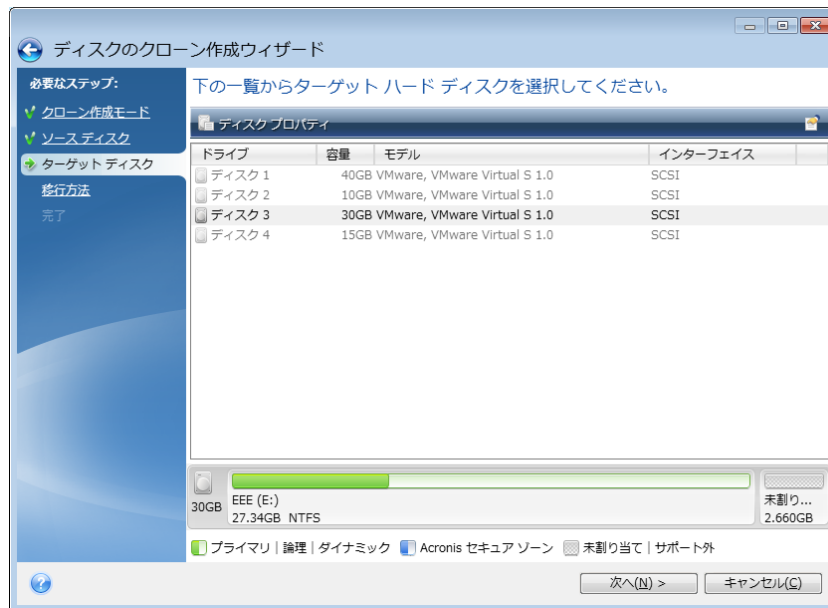
ディスクとパーティション情報の表示

- [項目] - 表示する項目を選択します。項目の境界をマウスでドラッグすると、項目の幅を変更できます。
- [ディスク プロパティ](オブジェクトを右クリックすると表示されるコンテキスト メニューからもアクセス可能)- 選択したパーティションまたはディスクのプロパティのウィンドウを開きます。

このウィンドウは 2 つのペインで構成されています。左側のペインにはプロパティのツリーが、右側のペインには選択したプロパティの詳細な説明が表示されます。ディスク情報にはディスクの物理的なパラメータ(接続の種類、デバイスの種類、サイズなど)が表示されます。パーティション情報にはパーティションの物理的なパラメータ(セクタ、位置など)と論理的なパラメータ(ファイル システム、空き領域、割り当てられているドライブ文字など)の両方が表示されます。

6.4.5 ターゲット ディスクの選択

コピー元(ソース)のハードディスクを選択後、ディスク情報のコピー先(ターゲット)のハードディスクを選択します。前のウィンドウでソースとして選択したディスクはグレー表示になり、選択できなくなっています。



- ターゲット ディスクを選択し、[次へ] をクリックして先に進みます。

この時点で、ターゲット ディスクが空かどうかの検査が行われます。空ではない場合は、ターゲット ディスクにパーティションが存在し必要なデータが含まれている可能性があることを知らせる確認ウィンドウが表示されます。パーティションの削除を確定するには、[OK] をクリックします。

実際の変更やデータ消去はまだ行われずに注意してください。この時点では、クローン作成に必要な指定を行います。すべての変更は、[実行] をクリックするまで実際には行われません。

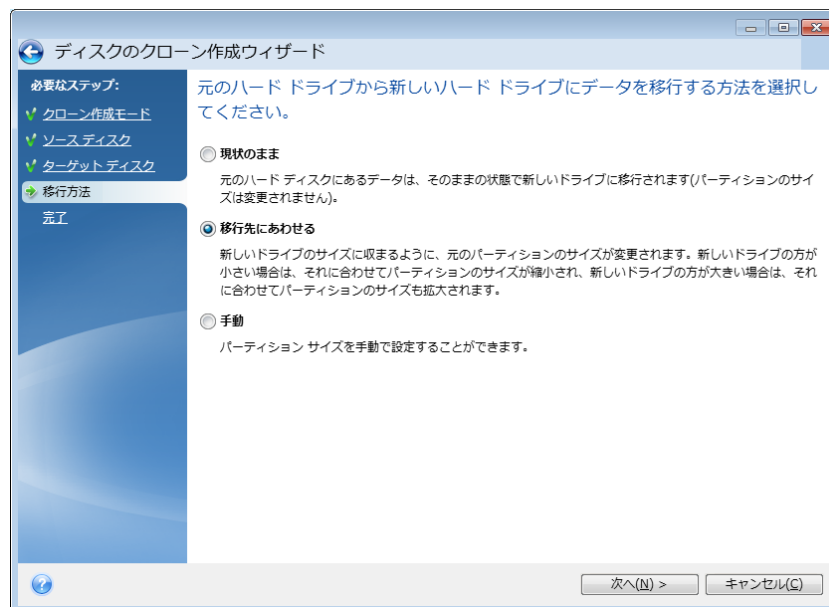
パーティションが作成されていないディスクがある場合は、そのディスクが自動的に移行先と見なされるため、このステップは省略されます。

6.4.6 移行方法

手動クローン作成モードを選択した場合は、データ移動方法として次のいずれかを選択できます。

- [現状のまま] - 古いパーティション 1 つにつき 1 つの新しいパーティションが、同一のサイズ、種類、ファイル システム、ラベルで作成されます。使用されない領域は未割り当てになります。
- [移行先にあわせる] - 新しいディスクの領域は、各パーティションの元の大きさに比例して配分されます。

- **[手動]** - 新しいサイズとその他のパラメータを指定できます。



[現状のまま] を選択した場合は、古いパーティションのそれぞれについて、同じサイズ、種類、ファイル システム、ラベルの新しいパーティションが作成されます。使用されない領域は未割り当てになります。後で、この未割り当ての領域を、新しいパーティションの作成や既存パーティションの拡大に使用することができます。その場合は、Acronis Disk Director Suite などの専用ツールを使用します。

基本的に、転送方法として [現状のまま] を選択することはお勧めできません。新しいディスクのかなりの部分が未割り当てのままになるからです。[現状のまま] を選択すると、サポートされていないファイル システムや破損したファイル システムも転送されます。

[移行先にあわせる] を選択した場合は、各パーティションの大きさが、古いディスクと新しいディスクの容量の比率に従って拡大されます。

FAT16 パーティションには、4 GB というサイズの上限があるため、他のパーティションほど拡大率は大きくなりません。

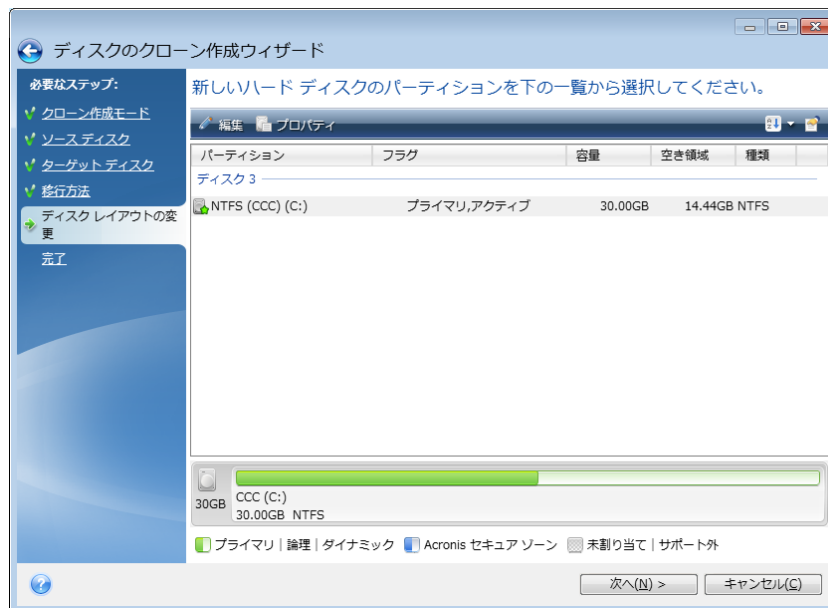
選択された組み合わせに応じて、クローン作成の概要ウィンドウまたは次に説明する [ディスク レイアウトの変更] ステップの画面が表示されます。

6.4.7 手動パーティション操作

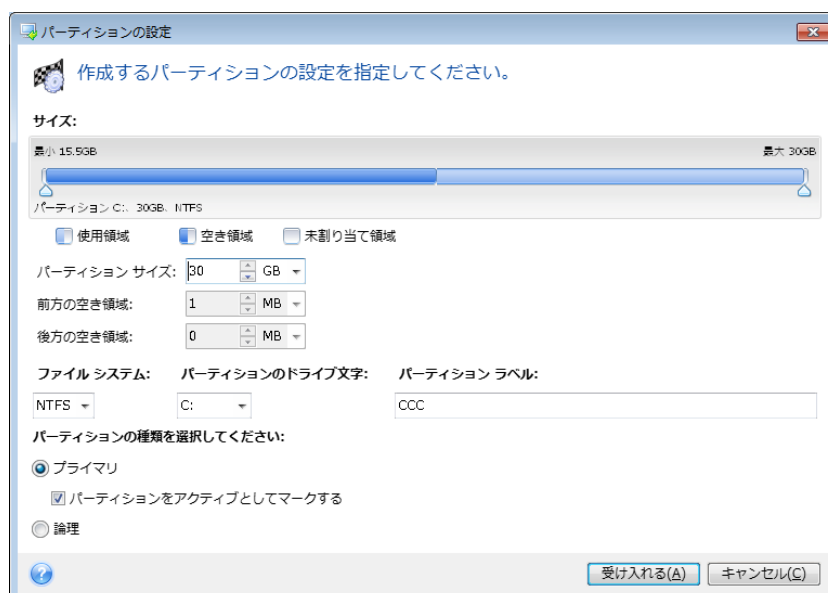
移行方法として [手動] を選択した場合は、新しいディスクのパーティションのサイズを変更できます。デフォルトでは、ソース ディスクとターゲット ディスクの容量の比率に応じて、サイズが変更されます。

このウィンドウには、移行元のハードディスクを表す四角形と、各ディスクのパーティションおよび未割り当て領域、および新しいディスク レイアウトが表示されます。

ハードディスク番号とともに、ディスク容量、ラベル、ボリューム、およびファイル システム情報が表示されます。ボリュームの種類(プライマリ、論理、および未割り当ての領域)は、それぞれ異なる色で表示されます。



既存のボリュームのサイズ、ボリュームの種類、ラベルを変更するには、ボリュームを右クリックし、ショートカット メニューで **[編集]** を選択します。[パーティションの設定] ウィンドウが開きます。



変更するには、**[前方の空き領域]**、**[パーティション サイズ]**、**[後方の空き領域]** の各フィールドに値を入力するか、パーティションの境界またはパーティション自体をドラッグします。

パーティションの境界にマウス カーソルを置くと、左右に矢印が付いた縦の二重線に変化します。この二重線をドラッグすると、パーティションのサイズを拡大または縮小できます。パーティション上にマウス カーソルを置くと、4 方向の矢印に変わり、パーティションを左右に移動できるようになります(未割り当て領域が近くにある場合)。

新しい位置とサイズを指定したら、[受け入れる] をクリックします。[ディスク レイアウトの変更] ウィンドウが再び表示されます。意図したとおりのレイアウトになるまで、必要であればさらにサイズや位置を変更します。

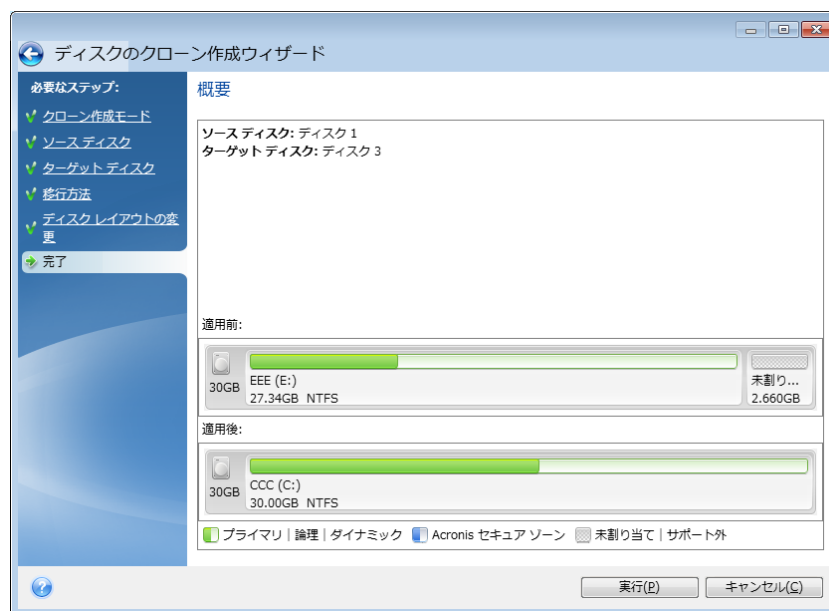
[次へ] をクリックすると、クローン作成の概要ウィンドウに進みます。

 **ご注意ください。**

クローン作成の概要ウィンドウのサイドバーで、ウィザードの前の手順のいずれかをクリックすると、選択されたサイズと位置の変更内容がすべてリセットされるため、もう一度指定し直す必要があります。

6.4.8 クローン作成の概要

クローン作成の [概要] ウィンドウには、ソース ディスク(パーティションと未割り当て領域)およびターゲット ディスクのレイアウトに関する情報が図表形式(四角形)で表示されます。ディスク番号と共に、ディスク容量、ラベル、パーティションおよびファイル システム情報などいくつかの追加情報が表示されます。パーティションの種類(プライマリ、論理)と未割り当て領域は、それぞれ異なる色で表示されます。



- [実行] をクリックすると、ディスクのクローン作成が開始します。
- 処理をキャンセルしてメイン プログラム ウィンドウに戻るには、[キャンセル] をクリックします。

現在アクティブになっているオペレーティング システムが含まれているディスクのクローン作成の場合は、再起動が必要になります。その場合は、[実行] をクリックするとメッセージが表示され、再起動するかどうかの確認を求められます。再起動をキャンセルすると、処理全体がキャンセルされます。クローン作成処理の終了後、いずれかのキーを押してコンピュータをシャットダウンするオプションが表示されます。これにより、マスタ/スレーブのジャンパ位置を変更し、1 台のハードディスクを取り外すことができます。

システム用に使用されていないディスク、または現在アクティブになっていないオペレーティング システムを含むディスクのクローン作成では、再起動の必要はありません。[実行] をクリックすると、Acronis True Image Home で元のディスクから新しいディスクへのクローン作成処理が開始され、別

のウィンドウに進行状況が表示されます。[キャンセル] をクリックすると、処理は中止されます。キャンセルした場合は、新しいディスクにパーティションを再作成してフォーマットするか、クローン作成の手順を繰り返す必要があります。クローン作成処理が完了すると、結果メッセージが表示されます。

6.5 新しいハードディスクの追加

ハードディスクにデータ(家族の写真や動画など)を保存するための十分な空き領域が存在しない場合は、古いハードディスクを新しい大容量のハードディスクに交換するか(新しいディスクへのデータ転送については前章で説明しています)、古いハードディスクをシステム用として残し、データ保存専用の新しいハードディスクを追加します。コンピュータに別のハードディスクを追加する空きベイが存在する場合は、ハードディスク ドライブを追加する方が、ハードディスクのクローンを作成するよりも簡単です。

新しいハードディスクを追加するには、まずコンピュータにハードディスクを取り付ける必要があります。

新しいハードディスクを追加する手順は、次のとおりです。

- メイン メニューの [ツールとユーティリティ] をクリックし、次に [ツールとユーティリティ] 画面の [新しいディスクの追加] をクリックします。
- 新しいディスクの追加ウィザードのステップに従います。

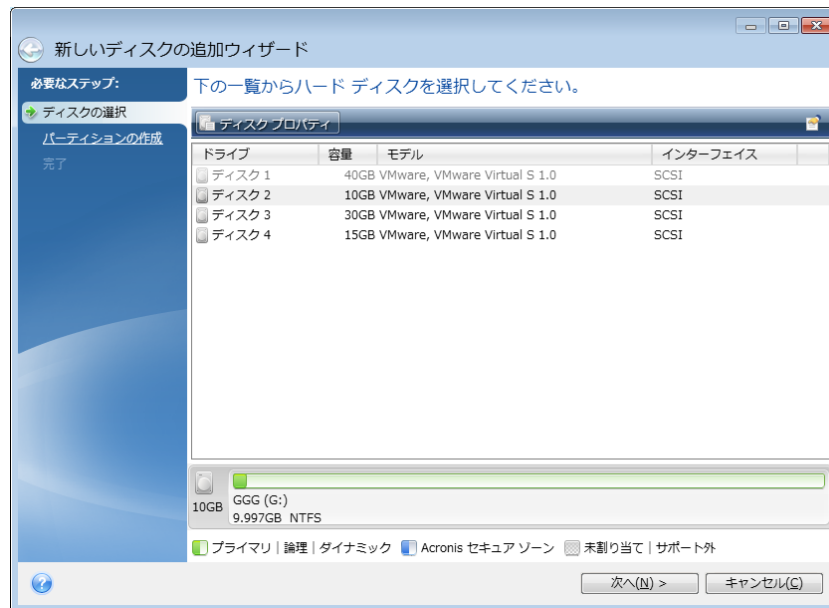
新しいハードディスクに既にパーティションが存在する場合は、まず、そのパーティションを削除する必要があります。追加したハードディスクにパーティションが含まれている場合、注意メッセージが表示されます。追加したハードディスク上の既存のパーティションを削除するには、[OK] をクリックします。

セクションの内容

ハードディスクの選択.....	167
新しいパーティションの作成	167
新しいディスクの追加の概要.....	170

6.5.1 ハードディスクの選択

コンピュータに追加したハードディスクを選択します。複数のハードディスクを追加した場合は、そのうちの 1 台を選択し、[次へ] をクリックして先に進みます。後で、新しいディスクの追加ウィザードを起動し、別のディスクを追加することもできます。



システムにインストールしたすべてのハードディスクのディスク名、ディスク ドライブのモデル、ディスク容量、ファイル システム、インターフェイスなどのプロパティを表示することもできます。

6.5.2 新しいパーティションの作成

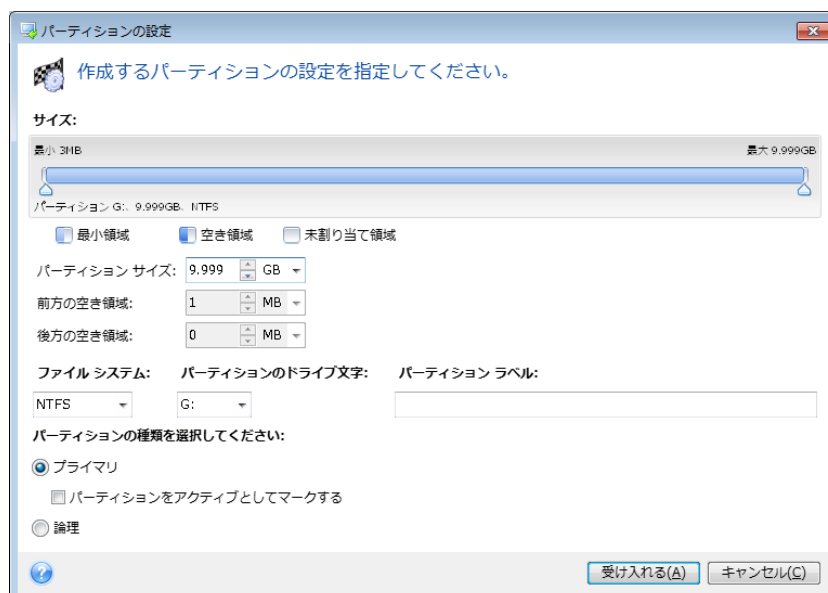
ハードディスクの空き領域を使用するには、パーティションが作成されている必要があります。パーティションングは、ハードディスクの空き領域を論理領域に分割する処理です。論理領域はそれぞれ独立したディスクとして機能することができ、固有のドライブ文字とファイル システムなどが割り当てられます。ハードディスクを複数の論理領域に分割しない場合でも、パーティションの作成は必要です。そのハードディスク全体を 1 つとして扱うつもりであることを、オペレーティング システムに認識させるためです。

最初は、ディスク領域全体が未割り当てになっています。未割り当て領域の大きさは、新しいパーティションを追加すると変化します。

新しいパーティションを作成する手順は、次のとおりです。

- 未割り当て領域を選択してウィンドウ上部の [新しいパーティションの作成] をクリックするか、未割り当て領域を右クリックしてショートカット メニューの [新しいパーティションの作成] を選択します。
- 作成するパーティションについて、以下の設定を指定します。
 - 新しいパーティションのサイズ
 - 新しいパーティションのファイル システム
 - パーティションの種類

■ パーティションのドライブ文字とラベル



ディスクの未割り当て領域をすべて新しいパーティションに割り当てると、**[新しいパーティションの作成]** ボタンが表示されなくなります。

パーティションの設定

作成するパーティションについて次の設定を行います。

サイズ

作成するパーティションのサイズと位置を変更できます。

パーティションのサイズを変更する手順は、次のとおりです。

- パーティションの境界にマウス カーソルを置きます。パーティションの境界上にマウス カーソルを置くと、両側に矢印が付いた縦の二重線に変化します。
- マウスの左ボタンを押してパーティション境界をドラッグすると、パーティションのサイズを拡大または縮小できます。

パーティションのサイズを手動で設定することもできます。その場合は、サイズを **[パーティション サイズ]** フィールドに直接入力してください。

パーティションの場所を変更する手順は、次のとおりです。

- パーティションにマウス カーソルを置きます。マウス カーソルが、十字カーソルに変化します。
- **[前方の空き領域]** フィールドと **[後方の空き領域]** フィールドの値が目的のサイズになるまで、マウスの左ボタンを押したままパーティションをドラッグします。各フィールドに値を直接入力して、手動で設定することもできます。

論理ドライブを作成する場合は、作成されるパーティションの直前に、システムが使用するための未割り当て領域が確保されます。プライマリ パーティションのみ、または論理パーティションとプライマリ パーティションを作成する場合は、システムが使用する未割り当て領域は確保されません。この未割り当ての領域が不要な場合は、後でプライマリ ディスクの領域に変換することもできます。

ファイル システム

作成するパーティションのファイル システムの種類を選択したら、[次へ] をクリックして次に進みます。パーティションごとにファイル システムの種類を変えることもできます。

パーティションをフォーマットしないままにするか、または次のファイル システムの種類から選択することができます。

- **[NTFS]** は、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 のネイティブのファイル システムです。これらのオペレーティング システムを使用している場合に選択してください。Windows 95/98/Me および DOS からは、NTFS パーティションにアクセスできないことに注意してください。
- **[FAT32]** は、FAT ファイル システムの 32 ビット版で、最大 2 TB のボリュームをサポートします。
- **[FAT16]** は、DOS ネイティブのシステムです。ほとんどのオペレーティング システムはこのファイル システムを認識します。ただし、ディスクドライブのサイズが 4 GB を超える場合は、FAT16 でフォーマットすることはできません。
- **[Ext2]** は、Linux ネイティブのファイル システムです。十分に高速ですが、ジャーナリング ファイル システムではありません。
- **[Ext3]** は、Red Hat Linux Version 7.2 で正式に導入された、Linux のジャーナリング ファイル システムです。Ext2 との上位および下位互換性があります。複数のジャーナリング モードを備え、32 ビットおよび 64 ビット アーキテクチャの双方で、プラットフォームに依存しない幅広い互換性を実現します。
- **[ReiserFS]** は、Linux のジャーナリング ファイル システムです。一般的に Ext2 より信頼性が高く高速です。Linux のデータ パーティションにはこれを選択します。
- **[Linux Swap]** は、Linux 用のスワップ パーティションです。Linux 用のスワップ領域を広げる必要がある場合に選択してください。

パーティションの種類

ハードディスクの空き領域を使用するには、パーティションが作成されている必要があります。パーティショニングは、ハードディスクの空き領域を論理領域に分割する処理です。論理領域はそれぞれ独立したディスクとして機能することができ、固有のドライブ文字とファイル システムなどが割り当てられます。ハードディスクを複数の論理領域に分割しない場合でも、パーティションの作成は必要です。そのハードディスク全体を 1 つとして扱うつもりであることを、オペレーティング システムに認識させるためです。

作成するパーティションの種類を選択します。新しいパーティションの種類を「プライマリ」または「論理」として指定することができます。

- **プライマリ:** このパーティションからコンピュータを起動できるようにする場合は、このパラメータを選択します。それ以外の場合は、論理ドライブとして作成することをお勧めします。各ドライブを、4 つのプライマリ パーティションだけにするか、または 3 つのプライマリ パーティションと 1 つの拡張パーティションにすることができます。

注意: 複数のプライマリ パーティションがある場合に、アクティブになるのは一度に 1 つだけです。他のプライマリ パーティションは隠しパーティションとなり、オペレーティング システムからはアクセスできなくなります。

- **パーティションをアクティブとしてマークする** - アクティブなパーティションは、オペレーティング システムの読み込みに使用されます。オペレーティング システムがインストールされていないパーティションをアクティブに選択すると、コンピュータを起動できなくなります。

- **論理:** このパーティションにオペレーティング システムをインストールして起動する予定がない場合は、このパラメータを選択します。論理ドライブは、パーティション分割されて独立した単位として割り当てられた物理ディスクの一部ですが、それぞれ別のドライブとして機能します。

注意: 論理ドライブを作成する場合は、作成されるパーティションの直前に、システムが使用するための未割り当て領域が確保されます。プライマリ パーティションのみ、または論理パーティションとプライマリ パーティションを作成する場合は、システムのための未割り当て領域は確保されません。この未割り当ての領域が不要な場合は、後でプライマリ ディスクの領域に変換することもできます。

ドライブ文字

作成するパーティションに割り当てるドライブ文字を、ドロップダウン リストから選択します。[自動]を選択すると、アルファベット順で最初の未使用のドライブ文字が割り当てられます。

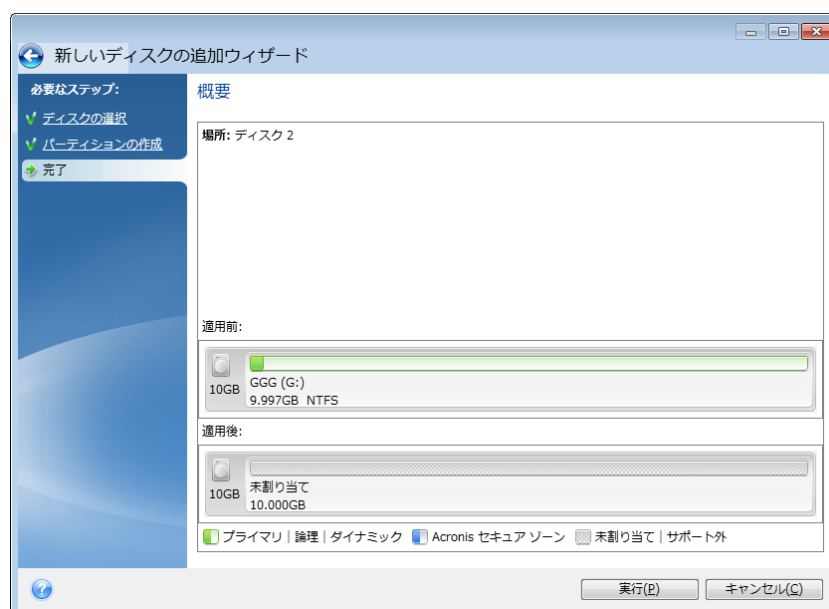
パーティション ラベル

パーティション ラベルは、パーティションを簡単に識別できるように割り当てる名前です。たとえば、オペレーティング システムがインストールされているパーティションは System、アプリケーションのパーティションは Program、データが保存されているパーティションは Data、などのように名前を付けます。パーティション ラベルは、オプションの属性です。

作成するパーティションのラベルを入力し、[受け入れる] をクリックして次に進みます。

6.5.3 新しいディスクの追加の概要

新しいディスクの追加の概要には、パーティション(ディスク)に対して実行される処理の簡単な説明の一覧が表示されます。



- [実行] をクリックすると、新しいパーティションの作成処理が開始されます。
- 処理をキャンセルしてメイン プログラム ウィンドウに戻るには、[キャンセル] をクリックします。

[実行] をクリックすると、Acronis True Image Home によって新しいパーティションの作成が開始され、別のウィンドウに進行状況が表示されます。[キャンセル] をクリックして処理を中止する場合、新

しいディスクのパーティション設定とフォーマットをやり直すか、ディスク追加手順をもう一度実行する必要があります。

[実行] ボタンをクリックする前に、サイドバーを使用して **[新しいディスクの追加ウィザード]** 手順の間を移動し、設定を変更することができます。

6.6 セキュリティとプライバシーのツール

Acronis True Image Home 2011 には、ハードディスク ドライブ全体と個々のパーティションのデータを確実に消去するためのユーティリティが含まれています。このユーティリティでは、個別ファイルを消去したり、システムでのユーザーの操作履歴を消去することもできます。

古いハードディスク ドライブを新しい大容量のディスクに交換するときに、古いディスク上に個人的な機密情報が大量に残ってしまうことがあります。このような情報は、たとえディスクが再フォーマットされたとしても、リカバリできてしまうことがあります。

Acronis DriveCleanser は、ハードディスク ドライブやパーティション上の機密情報を消去するツールです。このツールに採用されている技術は、ほとんどの国や州の基準を満たすか上回っています。データ消去の方法は、機密情報の重要性に応じてさまざまなものから選択することができます。

ファイル シュレッダーは、機能は同じですが、個々のファイルやフォルダに対して実行することができます。

最後のシステム クリーンアップ ウィザードは、ユーザーのコンピュータ上の操作履歴をすべて確実に消去するためのツールです。コンピュータを使用している間、ユーザーが行った操作の履歴が大量のデータとして記録されますが、ユーザー自身は、そのような履歴の存在に気が付きません。この履歴には、ユーザー名やパスワード、その他の個人情報も含まれていることがあります。犯罪者の手に渡れば、個人情報が悪用される恐れがあります。このユーティリティを実行すれば、このような情報がすべてハードディスク ドライブから完全に消去されます。

データ消去方法については、このガイドの「ハードディスクの消去方法 (186 ページ参照)」で詳しく説明されています。

セクションの内容

Acronis DriveCleanser	171
ファイル シュレッダー	178
システムのクリーンアップ	180
ハードディスクの消去方法	186

6.6.1 Acronis DriveCleanser

オペレーティング システムの多くは、安全にデータを消去するツールがないため、削除されたファイルのリカバリも、単純なアプリケーションで簡単に実行できます。ディスク全体を再フォーマットしても、機密データが完全に消去されたことは保証されません。

Acronis DriveCleanser を使用すれば、選択されたハードディスクまたはパーティション上のデータを確実にかつ永久的に消去することができます。消去するデータの重要性に応じて、複数のデータ消去アルゴリズムの中から適切な方法を選択できます。

Acronis DriveCleanser の使用方法

Acronis DriveCleanser を使用すると、以下の処理を行うことができます。

- 既存の消去アルゴリズムを使用して、選択したハードディスクやパーティションのデータを消去する
- ユーザー定義(カスタム)の消去アルゴリズムを作成して、選択したハードディスクやパーティションのデータを消去する

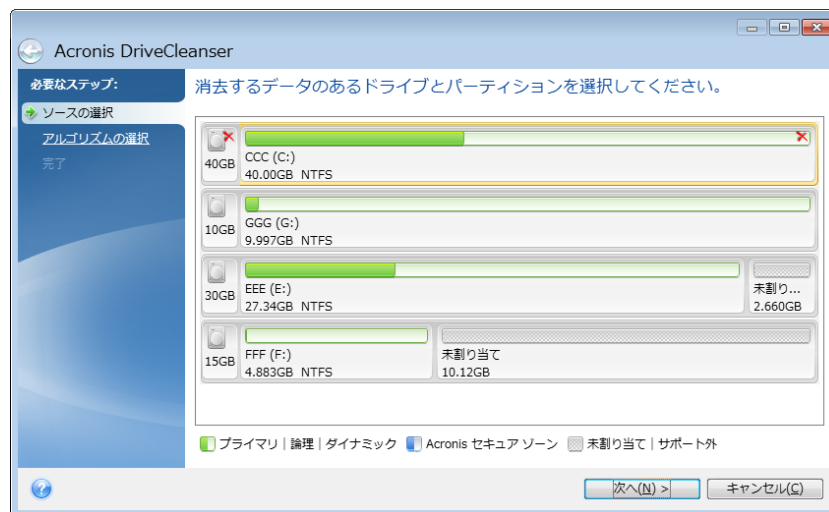
Acronis DriveCleanser は、ウィザード形式でハードディスクに対するすべての処理を順に指定できるようになっています。データの消去は、ユーザーがウィザードの概要ウィンドウで **[実行]** をクリックするまでは行われません。どの時点でも、前のステップに戻って他のディスクやパーティションまたはデータ消去アルゴリズムを選択することができます。

ディスク上のデータを完全に消去する手順は、次のとおりです。

- ツールバーの **[ツールとユーティリティ]** をクリックし、**[Acronis DriveCleanser]** を選択します。
- Acronis DriveCleanser ウィザードのステップに従います。

データの選択

データを消去するハードディスク パーティションを選択します。



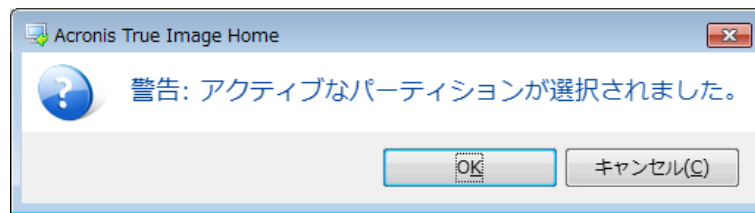
消去するパーティションを決定するには、該当する四角形を選択します。パーティションが選択されたことを示す赤いマークが右上に表示されます。

データを消去する対象として、ハードディスク全体や複数のハードディスクを選択することができます。選択するには、ハードウェアに対応する四角形(デバイス アイコン、ディスク番号、および容量が表示されています)をクリックします。

複数のパーティションを同時に選択でき、パーティションが存在するハードディスク ドライブまたはディスクがそれぞれ異なってもかまいません。また、ディスクの未割り当て領域を選択することもできます。

続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。

選択されたディスクやパーティションにシステムのディスクまたはパーティションが含まれている場合は、警告ウィンドウが表示されます。

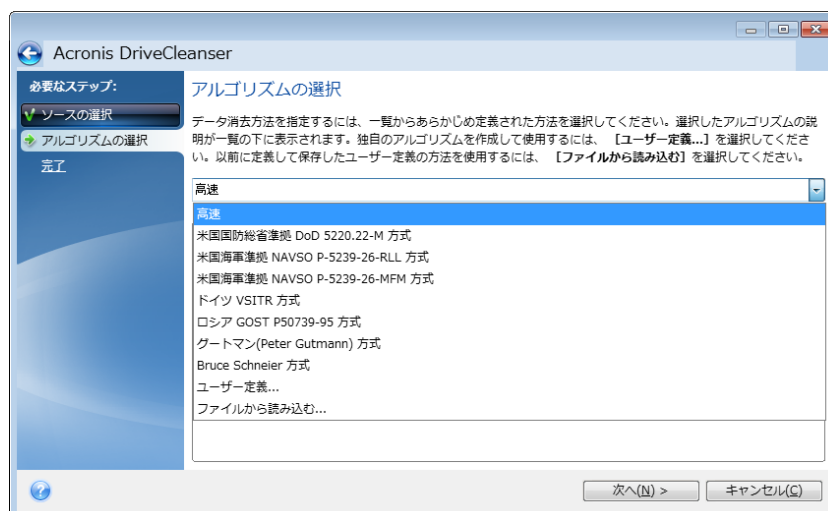


この場合は注意が必要です。警告ウィンドウの [OK] をクリックしてから、概要ウィンドウの [実行] をクリックすると、Windows オペレーティング システムが格納されているシステム パーティションの内容が消去されます。

消去アルゴリズムの選択

Acronis DriveCleanser では、広く使用されているさまざまなデータ消去アルゴリズムを使用できます。ドロップダウン リストから使用する消去アルゴリズムを選択します。

データ消去方法については、このガイドの「ハードディスクの消去方法 (186 ページ参照)」で詳しく説明されています。



消去アルゴリズムを選択すると、Acronis DriveCleanser により、選択したパーティションまたはディスクの内容の消去に必要なすべての処理が実行されます。消去が終了すると、作業が完了したことを示すメッセージが表示されます。

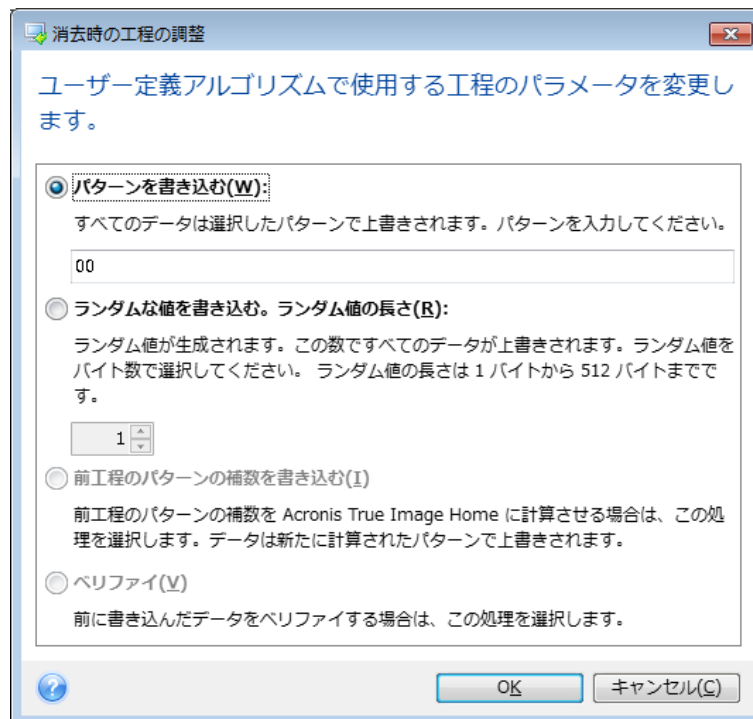
Acronis DriveCleanser には、もう 1 つの便利な機能が用意されています。ハードディスクまたはパーティションでデータ消去アルゴリズムを実行した場合の結果を推定する機能です。この機能では統合ディスク エディタ(ハードディスクの閲覧ツール)を利用できます。

前述の消去アルゴリズムは、機密データを消去するレベルがそれぞれ異なっています。このため、消去結果の表示内容も消去アルゴリズムによってそれぞれ異なります。実際に表示されるのは、0 またはランダムな記号で埋められたディスクのセクタになります。

データを消去するユーザー定義消去アルゴリズムの作成

Acronis DriveCleanser には、ハードディスク データのユーザー独自の消去アルゴリズムを作成する機能が用意されています。さまざまなレベルのデータ消去方式があらかじめ定義されていますが、ユーザー独自の消去方法を作成することも選択できます。この機能は、確実なディスク消去の方法で使用されている原則を十分に理解したうえで使用してください。

ユーザー独自の消去アルゴリズムを作成するには、[アルゴリズムの選択] ウィンドウのドロップダウン リストで [ユーザー定義...] をクリックします。このオプションを選択すると、新しい必須ステップが DriveCleanser ウィザードに追加され、実際のセキュリティ要件に合わせてデータ消去アルゴリズムを作成することができます。



作成した独自のアルゴリズムを保存しておくことができます。この機能は、作成したアルゴリズムを再び使用する予定がある場合に便利です。

ファイルから消去アルゴリズムを読み込む

Acronis True Image Home 2011 ソフトウェアを使用して作成および保存したユーザー定義の消去アルゴリズムは、次の方法で使用できます。

[アルゴリズムの選択] ウィンドウのドロップダウン リストから [ファイルから読み込む...] を選択し、ユーザー定義の消去アルゴリズムのパラメータを含むファイルを選択します。デフォルトでは、作成したファイルの拡張子は *.alg になっています。

消去アルゴリズムの定義

[アルゴリズムの定義] ウィンドウには、これから作成する消去アルゴリズムのテンプレートが表示されます。

このウィンドウには次の内容が表示されています。一覧の最初の列は、ディスクに対して実行する処理の種類を示します(処理の種類は、記号をディスクに書き込む「書き込み」と、書き込みをベリフ

アイする「ベリファイ」の 2 種類のみです)。2 列目は、ディスクに書き込むデータのパターンを示します。

書き込むパターンは常に 16 進数の値となります。たとえば、0x00、0xAA、0xCD などの値です。これらの値は 1 バイトの長さですが、512 バイトまで設定できます。このような値以外にも、512 バイトまでの任意の長さで 16 進数のランダム値を入力できます。作成する方式には、もう一つ「補数値」と呼ばれる書き込み用の値を含めることもできます。この値は、1 つ前の工程でディスクに書き込まれた値の補数です。

バイナリ値が 10001010(0x8A)の場合、この補数のバイナリ値は 01110101(0x75)となります。

[アルゴリズムの定義] ウィンドウには、消去アルゴリズムのテンプレートのみが表示されます。ユーザー定義の消去アルゴリズムに従って、機密データを消去するためにディスクに書き込む内容を正確に定義する必要があります。

これを行うには、マウスで第 1 工程を示す行をクリックし、**[編集]** をクリックします。

消去時の工程の調整

[消去時の工程の調整] ウィンドウでは、ディスクに書き込むパターン(16 進数値)を定義できます。

このウィンドウの **[パターンを書き込む]** スイッチの下のフィールドに任意の 16 進数値を入力できます。この値が、消去の工程で(この例では 1 回目の工程で)ハードディスクに書き込まれます。

スイッチを [ランダムな値を書き込む。ランダム値の長さ] に設定した場合は、ディスクにランダム値が書き込まれるので、その値の長さをバイト単位で指定します。

米国標準の方式では、最初の工程において各ディスク セクタの各バイトにランダム値を書き込むことが規定されているため、**[ランダムな値を書き込む。ランダム値の長さ]** を選択してフィールドに 1 を入力します。

続行するには、**[OK]** をクリックしてください。

再び **[アルゴリズムの定義]** ウィンドウが表示されます。前のレコード **[書き込み]**、**[00]** が、新しく、**[書き込み]**、**[ランダム、1 バイト]** に置き換えられたことがわかります。

次の工程を定義するには、**[追加]** ボタンをクリックします。

前回と同様のウィンドウが表示されますが、次の 2 つのスイッチ位置も選択可能になっています。

- **前工程のパターンの補数を書き込む**: 米国標準方式では、前回の工程で書き込まれた値に対する補数の 16 進数値を 2 回目の工程で各ディスク セクタに書き込むことになっています。このためには、**[前工程のパターンの補数を書き込む]** を選択して **[OK]** をクリックします。

再び **[アルゴリズムの定義]** ウィンドウに戻ります。このウィンドウでは、2 番目のレコードは、**[書き込み]** – **[前工程のパターンの補数]** になります。

- **ベリファイ**

米国標準方式の仕様に従い、データ上書きの 3 回目および 4 回目の工程を定義します。

同様にして、必要なセキュリティ要件に応じて任意のデータ消去アルゴリズムを作成できます。

ユーザー定義消去アルゴリズムの保存

[ユーザー定義アルゴリズムの保存] ウィンドウでは、作成した消去アルゴリズムを保存することができます。この機能は、作成した消去方法を再び使用する場合に便利です。

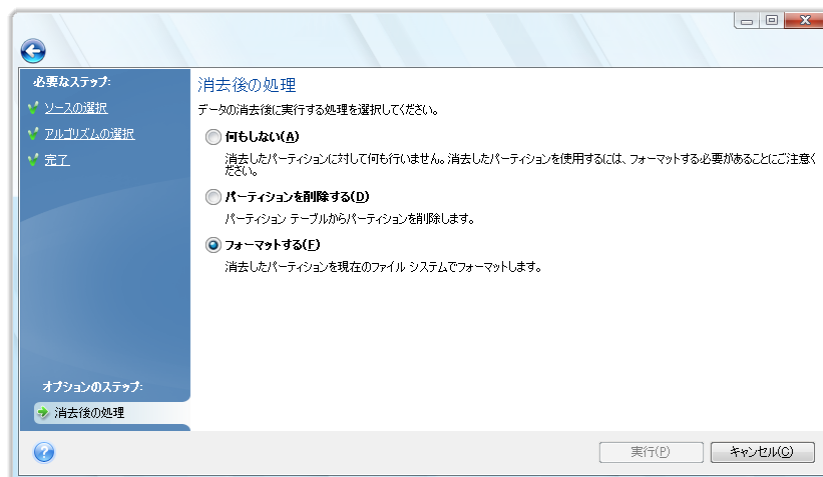
作成したユーザー定義の消去アルゴリズムを保存するには、ファイル名を指定して、[ファイルの選択] フィールドでパスを定義するか、ディスク上の既存のファイルを指定します。

ユーザー定義の各消去アルゴリズムは、ファイル名をつけて別々のファイルに保存されます。既存のファイルに新しい消去アルゴリズムを書き込むと、既存のファイルの内容は消去されます。

消去後の処理

[消去後の処理] ウィンドウでは、データ消去対象として選択されたパーティションに対して実行する処理を選択できます。選択できるオプションは次の 3 つです。

- **[何もしない]**: 以下で選択されているアルゴリズムを使用してデータの消去のみを行います。
- **[パーティションを削除する]**: データを消去して、パーティションを削除します。
- **[フォーマットする]**: データを消去して、パーティションをフォーマットします(デフォルト)。



Acronis DriveCleanser では、ダイナミック ディスクのパーティションを削除することはできません。したがって、ダイナミック ディスクのみの消去を選択した場合は、[パーティションを削除する] オプションが選択不可能になります。ベーシックとダイナミックの両方のディスクのパーティションを選択した場合は、消去の完了後にダイナミック ディスクに対して何の処理も行われません。

ディスクの消去の概要

概要ウィンドウには、実行される処理の一覧が表示されます。

[実行] ボタンをクリックした後は、選択したパーティションは完全に消去され、元には戻せないことに注意してください。そのため、このボタンは **[選択されているパーティションを完全に消去する]** チェックボックスをオンにしなければクリックできないようになっています。

[実行] ボタンをクリックすると、表示されている処理が開始します。

[オプション] ボタンをクリックすると、オプションのステップを実行できます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、処理は実行されず、ウィザードが終了します。

ディスク エディタ(読み取り専用モード)

Acronis DriveCleanser のもう 1 つの便利な機能として、ハードディスクまたはパーティションにデータ消去方法を適用した結果の表示があります。データが消去されたディスクまたはパーティションの状態を見るには、ツールバーの [ツールとユーティリティ] をクリックします。そして、[ディスクの現在の状態を表示] リンクをクリックして、どのパーティションのデータ消去の結果を表示するかを選択します。DriveCleanser に統合されている Acronis ディスク エディタが、読み取り専用モードで開きます。

アルゴリズムによって、機密データを消去するレベルが異なります。このため、表示される消去結果も、データ消去方法によって異なります。実際に表示されるのは、0 またはランダムな記号で埋められたディスクのセクタになります。



ハードディスクの内容の検索

[検索] メニューを使用すると、ハードディスクの特定のデータを検索することや、絶対オフセットを基に特定のディスク セクタに移動することができます。

同じメニューの **[検索]** 項目を選択すると、編集中のディスク内のデータを検索することができます。Ctrl + F キーを押すという方法でも、同じ操作を実行できます。検索パラメータの設定は、**[検索]** ダイアログ ウィンドウで行います。

検索を開始する手順は、次のとおりです。

- 検索するデータは、文字([**文字列**] フィールド)として設定することも、数値([**16 進**] フィールド)として設定することもできます。[**文字列**] フィールドにテキストを入力すると、自動的に 16 進数値に変換されて [**16 進**] フィールドに表示されます。逆の場合も同様です。
- [**大文字と小文字を区別する**] パラメータをオンにすると、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字を区別しないで検索することを選択した場合は、アルファベットの**大文字と小文字**が区別されないだけでなく、アルファベット文字の上の記号も無視されます。
- [**次のセクタのオフセットを検索する**] パラメータをオンにすると、セクタ内の指定したオフセットのデータを検索できます。
- [**OK**] をクリックすると、検索が開始します。検索が完了すると、データが見つかった場合はそのデータの位置が**現在位置**となり、見つからない場合は**元の位置**が**現在位置**になります。現

在位置から次のデータの検索を開始するには、**[検索]** メニューの **[再検索]** 項目を選択するか、**F3** キーを押します。

セクタの移動

[検索] メニューの **[移動...]** を選択するか **Alt+P** キーを押すと、絶対オフセットで指定した目的のセクタに移動できます。このメニュー項目を選択すると、**[移動...]** ダイアログ ウィンドウが開きます。

セクタの絶対オフセット、またはシリンダ、ヘッド、およびセクタ番号を入力すると、移動が実行されます。一覧のパラメータには、次の式による制限があります。

(CYL x HDS + HD) x SPT + SEC - 1

CYL、HD、SEC は、CHS 座標(シリンダ、ヘッド、およびセクタ)で表されるシリンダ、ヘッド、およびセクタ番号です。HDS はディスクあたりのヘッド数で、SPT はトラックあたりのセクタ数です。

移動先のセクタから元のセクタへ戻るには、**[検索]** メニューの **[戻る]** の項目を選択するか、**Ctrl+Backspace** キーを押します。

6.6.2 ファイル シュレッダー

ファイル シュレッダー により、選択したファイルとフォルダをすばやく完全に消去できます。

ファイルとフォルダを完全に消去する手順は、次のとおりです。

- メイン メニューの **[ツールとユーティリティ]** をクリックし、次に **[ツールとユーティリティ]** 画面の **[ファイル シュレッダー]** をクリックします。
- ファイル シュレッダー ウィザードのステップを順に実行します。

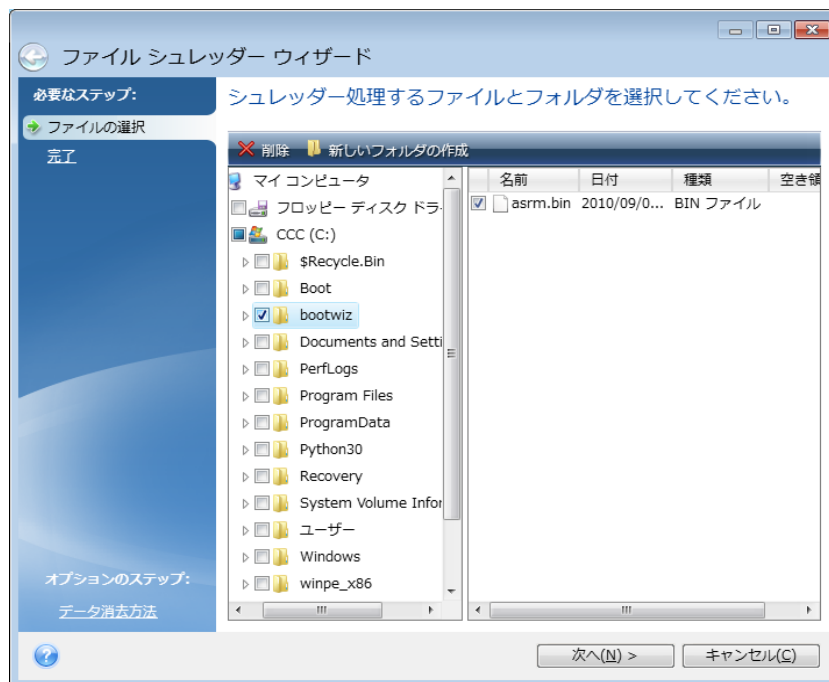
ファイル/フォルダの選択

シュレッダー処理するファイルやフォルダを選択します。

ファイルやフォルダを選択する手順は、次のとおりです。

- ドライブのツリーを展開して、シュレッダー処理する必要があるファイルやフォルダを選択します。ファイル、フォルダ、ディスクを任意の組み合わせで選択できます。必要なデータまで消去してしまわないように、シュレッダー処理対象の選択には十分に注意してください。

- シュレッダー処理の対象を選択したら、[次へ] をクリックして先に進みます。



データ消去方法の選択

ファイル シュレッダーでは、広く使用されているさまざまなデータ消去方法を使用できます。ここでは使用するデータ消去方法を選択する必要があります。

データ消去方法については、このガイドの「ハードディスクの消去方法 (186 ページ参照)」で詳しく説明されています。

使用する方法を選択してから [実行] をクリックすると、処理が開始されます ([実行] ボタンを選択できない場合は、サイドバーで [完了] をクリックして [選択されているファイルとフォルダを完全に消去する] チェックボックスをオンにし、[実行] ボタンを有効にします)。

シュレッダーの概要

最後の概要ウィンドウには、消去対象として選択されたファイルやフォルダの一覧と、使用されるデータ消去方法が表示されます。

[実行] ボタンをクリックした後は、選択したファイルとフォルダは完全に消去され、元には戻せないことに注意してください。そのため、このボタンは [選択されているファイルとフォルダを完全に消去する] チェックボックスをオンにしなければクリックできないようになっています。

[実行] をクリックすると、選択されているファイルおよびフォルダが完全に消去されます。

[オプション] ボタンをクリックすると、オプションのステップを実行できます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、処理は実行されず、ウィザードが終了します。

シュレッダー処理の進行状況

処理のステータス ウィンドウでは、現在の処理の状態についての情報が表示されます。

進行状況バーは、選択した処理の完了レベルを示しています。

場合によっては、処理が完了するまでに時間がかかることがあります。このような場合に **[終了後コンピュータをシャットダウンする]** チェックボックスをオンにすると、処理が完了したときに Acronis True Image Home 2011 によってコンピュータがシャットダウンされます。

6.6.3 システムのクリーンアップ

システム クリーンアップ ウィザードを使用して、Windows に保存されている PC の操作に関するすべての履歴を安全に削除することができます。

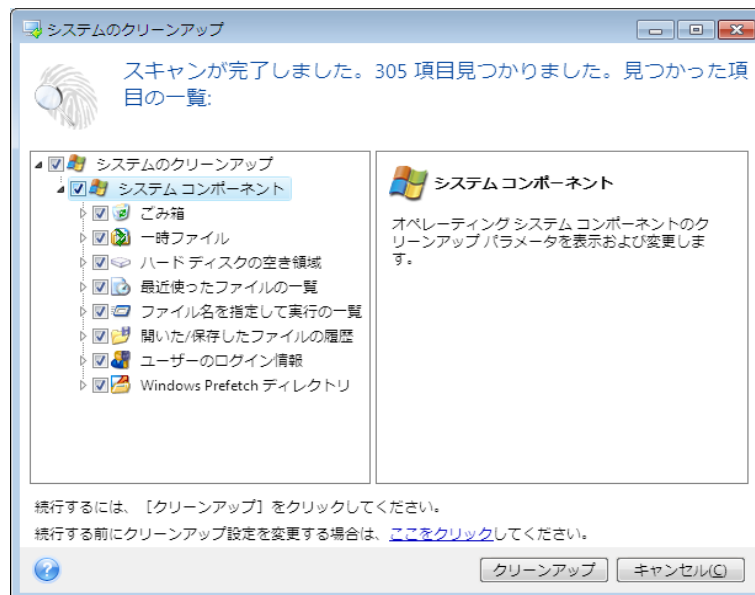
以下の処理を実行することができます。

- **Windows のごみ箱**のデータを安全に消去します。
- **一時ファイル**を、該当する Windows フォルダから削除します。
- **ハードディスクの空き領域**に以前保存されていた情報の痕跡をクリーンアップします。
- 接続されているディスクやローカル エリア ネットワーク内のコンピュータに対する**ファイルとコンピュータ検索**の履歴を削除します。
- **最近使ったドキュメント**の一覧を消去します。
- 「**ファイル名を指定して実行**」の一覧を消去します。
- **開いた/保存したファイル**の履歴を消去します。
- **ネットワーク認証情報**を使用してユーザーが接続したネットワーク プレースの一覧を消去します。
- Windows によって保存されている、最近実行したプログラムに関する情報を **Windows Prefetch ディレクトリ** から消去します。

Windows Vista と Windows 7 では、ファイルやコンピュータの検索に関する情報は保存されません。また、開いたファイルや保存したファイルの情報は別の方法でレジストリに保存されますので、ウィザードでは異なる方法でその情報が表示されます。

Windows はセッション終了までパスワードを保存するため、ネットワーク ユーザーの認証情報の一覧を消去しても、ログアウトまたはコンピュータの再起動によって現在の Windows セッションを終了するまでは処理は有効になりません。

メイン プログラム メニューで [ツールとユーティリティ] → [システム クリーンアップ] を選択してウィザードを実行すると、Windows に保存されているユーザーの操作履歴が検索されます。検索が終了すると、ウィザード ウィンドウの上部に結果が表示されます。



検索結果を表示して、削除する項目を手動で選択することができます。

システム クリーンアップのデフォルトの設定を変更するには、システム クリーンアップ ウィザードの最初に表示されるウィンドウで、対応するリンクをクリックします。

[クリーンアップ] をクリックすると、検出された項目が削除されます。

クリーンアップの設定

クリーンアップの設定ウィンドウで、すべてのシステム コンポーネントのクリーンアップの設定を変更できます。設定の中には、すべてのコンポーネントに適用されるものもあります。

コンポーネントに対するクリーンアップの設定を変更する手順は、次のとおりです。

- ツリーの [システム コンポーネント] 項目を展開し、変更が必要なコンポーネントのクリーンアップ設定を選択します。クリーンアップ ウィザードでコンポーネントのスキャンを有効または無効にできます。この設定を行うには、[有効] チェックボックスをオンまたはオフにします。
必要に応じて、コンポーネントを展開してさらにカスタマイズすることもできます。カスタマイズできる項目には、データ消去方法、消去するファイル、ローカル ネットワーク内のコンピュータの検索に使用されたレジストリ検索文字列をクリーンアップするか否かなどがあります。カスタマイズするには、コンポーネントの近くにある三角形をクリックし、一覧からオプションを選択して設定を指定します。
- 目的のコンポーネントのプロパティを設定し、[OK] をクリックして設定を保存します。これらの設定は、次回クリーンアップ ウィザードを起動したときにデフォルトとして使用されます。

変更したクリーンアップ設定はいつでもプログラムのデフォルト設定に戻すことができます。戻すには、[デフォルトに戻す] ボタンをクリックしてください。

システム コンポーネントの内容は次のとおりです。

- ごみ箱

- 一時ファイル
- ハードディスクの空き領域
- 検索したコンピュータの一覧
- 検索したファイルの一覧
- 最近使用したドキュメントの一覧
- ファイル名を指定して実行の一覧
- 開いた/保存したファイルの履歴
- ユーザーのログイン情報
- Windows Prefetch ディレクトリ

デフォルトのクリーンアップ オプション

クリーンアップのデフォルトのオプションは、[データ消去方法] オプションのページの [クリックするとこの設定を変更できます] リンクをクリックして変更できます。

デフォルトのクリーンアップ オプションを変更する手順は、次のとおりです。

- 変更が必要なコンポーネントのクリーンアップ設定をツリーから選択します。
- オプションを変更したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

変更したクリーンアップ設定はいつでもプログラムのデフォルト設定に戻すことができます。戻すには、[デフォルトに戻す] ボタンをクリックしてください。

全般

デフォルトでは、各クリーンアップ手順が終了するたびに [概要] ダイアログ ウィンドウが表示されます ([概要の表示] チェックボックスがオンになっている場合)。このウィンドウを表示する必要がない場合は、チェックボックスをオフにしてください。

クリーンアップ オプション

システム クリーンアップには、よく知られているさまざまなデータ消去方法が使用されます。ここでは、他のすべてのコンポーネントでデフォルトで使用される共通のデータ消去方法を選択できます。

データ消去方法については、このガイドの「ハードディスクの消去方法 (186 ページ参照)」で詳しく説明されています。

特定のクリーンアップ オプション

次のクリーンアップ オプションをカスタマイズできます。

- データ消去方法
- デフォルト オプション
- ファイル
- ドライブ空き領域
- コンピュータ
- コマンド
- ネットワーク プレースのフィルタ

データ消去方法

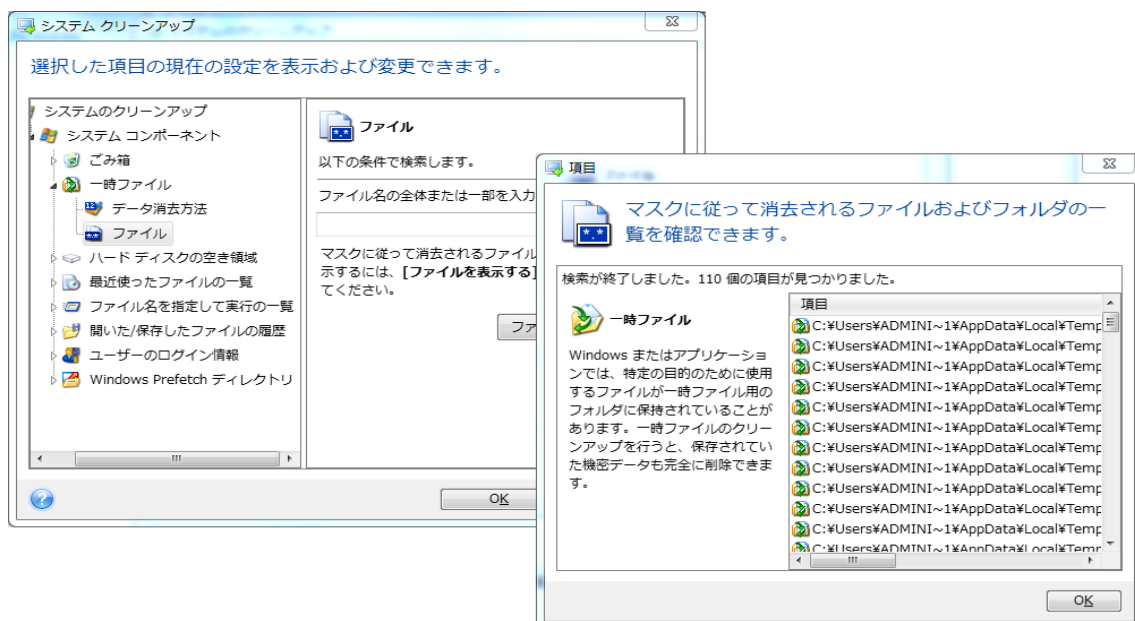
システム クリーンアップには、よく知られているさまざまなデータ消去方法が使用されます。ここでは使用するデータ消去方法を選択する必要があります。

- **[共通の方法を使用する]** - このパラメータがオンの場合は、デフォルトの方法が使用されます（初期設定は「高速」方式です）。
別の消去方法をデフォルトとして設定するには、該当するリンクをクリックします。
- **[このコンポーネントにユーザー定義の方法を使用する]** - このパラメータを選択すると、あらかじめ設定されているデータ消去方法をドロップダウン リストから選択できます。

データ消去方法については、このガイドの「ハードディスクの消去方法 (186 ページ参照)」で詳しく説明されています。

ファイル

[ファイル] の設定では、システム クリーンアップ ウィザードによってクリーンアップするファイルを指定します。検索文字列を指定することもできます。



Windows オペレーティング システムでは、ファイル名の全体または一部を検索文字列で表現することができます。検索文字列には、任意の英数字と、カンマなどの記号およびワイルドカードを使用できます。値の例を次に示します。

- *.* - ファイル名や拡張子にかかわらず、すべてのファイルが削除されます。
- *.doc - 指定された拡張子ファイル(この例では Microsoft Word の文書ファイル)が削除されます。
- read*.* - ファイル名が「read」で始まるファイルが拡張子に関係なくすべて削除されます。
- read?.* - 「read」で始まる 5 文字のファイル名を持つファイルが(5 文字目は任意の文字)、拡張子に関係なくすべて削除されます。

たとえば上記の最後の検索文字列では、read1.txt および ready.doc ファイルは削除されますが、readiness.txt は、ファイル名が 5 文字より長いいため削除されません(拡張子はファイル名の文字数に含まれません)。

検索文字列を複数入力するには、次の例のようにセミコロンで区切ります。

.bak;.tmp;*.~ (検索文字列の間にスペースは不要)

検索文字列の 1 つ以上に名前が一致するファイルが、すべて削除されます。

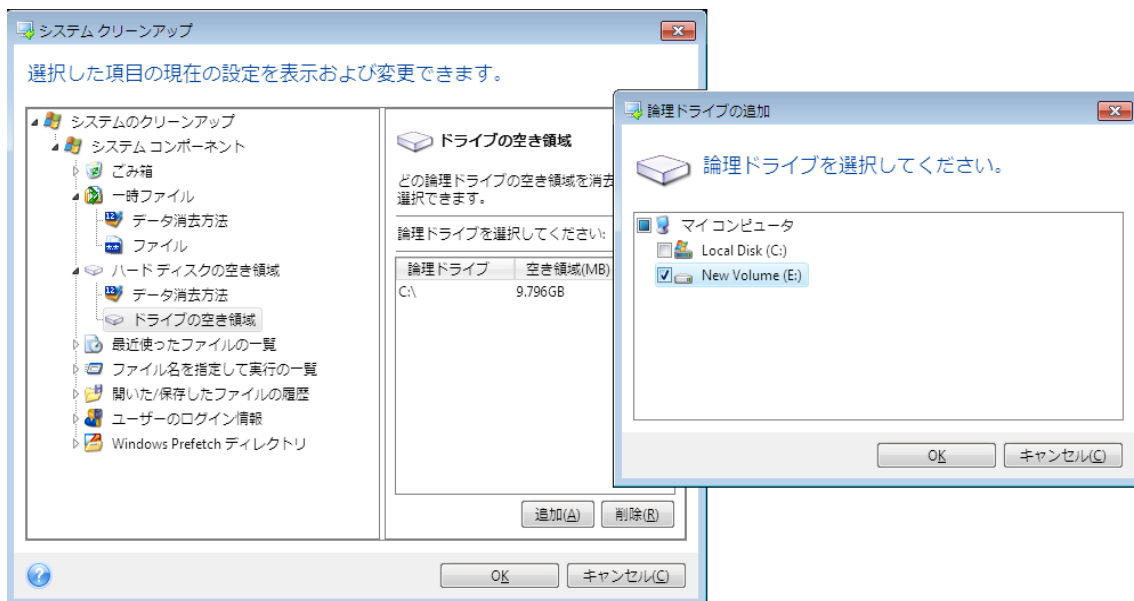
[ファイル] の設定値を入力した後で、検索文字列と一致するファイルの一覧を表示することができます。表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。見つかったファイルの名前がウィンドウに表示されます。これらのファイルがクリーンアップの対象となります。

ドライブ空き領域

ここでは、空き領域をクリーンアップするドライブを手動で指定できます。デフォルトでは、使用可能なすべてのドライブの空き領域がシステム クリーンアップでクリーンアップされます。

このパラメータの設定を変更する場合は、[削除] ボタンを使用すると、空き領域をクリーンアップしないドライブを一覧から削除することができます。

そのドライブを再び一覧に追加するには、[追加] ボタンをクリックします。



コンピュータ

[コンピュータ] 設定は、ローカル ネットワーク内のコンピュータの検索に使用したレジストリ検索文字列のクリーンアップに使用されます。この検索文字列に保持される情報は、ネットワーク内でユーザーが何を探していたかを表します。機密性を維持するには、このような項目も削除する必要があります。

[コンピュータ] 設定は、[ファイル] 設定と似ています。この文字列には、コンピュータ名の全体または一部をセミコロンで区切って入力します。指定できる数の制限はありません。コンピュータの検索文字列の削除は、Windows の規則に従い、[コンピュータ] 設定値との比較に基づいて行われます。

ローカル ネットワーク コンピュータ検索文字列をすべて削除したい場合は、この設定をデフォルト値のままにしてください。デフォルト設定を復元する手順は、次のとおりです。

- **[検索したコンピュータの一覧]** コンポーネントを選択します。
- **[有効]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- **[コンピュータ]** 設定を選択し、そのテキスト ボックスの内容が消去されていることを確認します。

こうすると、すべてのコンピュータ検索文字列がレジストリから削除されます。

[コンピュータ] の設定値を入力した後に、システム クリーンアップ ウィザードによってレジストリ内で検出された検索文字列を一覧表示することができます。表示するには、**[コンピュータの表示]** をクリックします。ネットワーク上で検索されたコンピュータ名(完全なコンピュータ名またはその一部)がウィンドウに表示されます。これらの項目が削除されます。

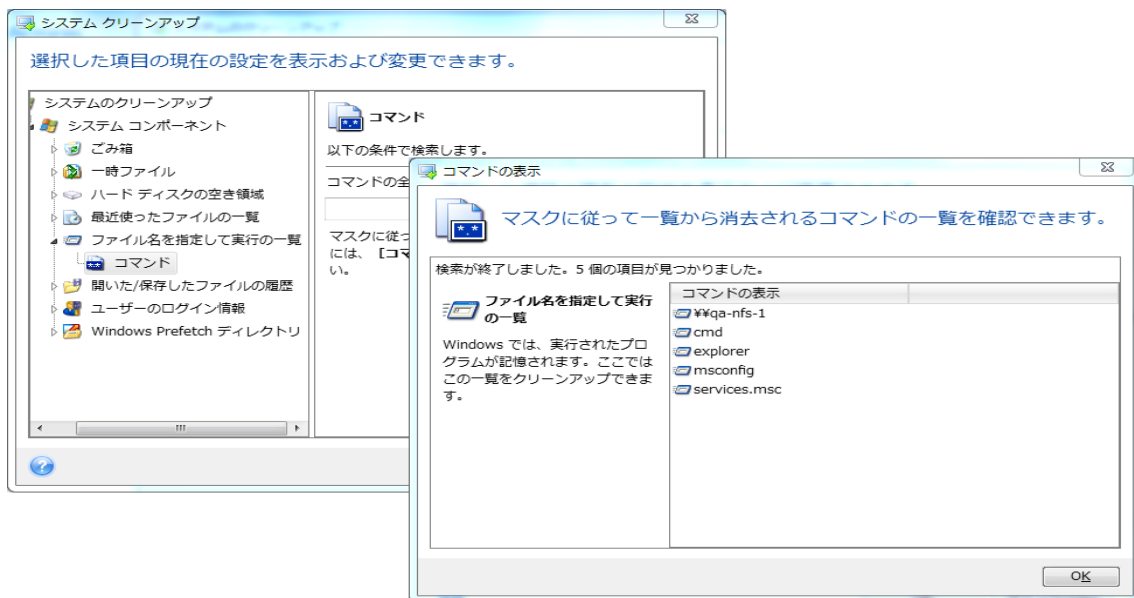
[コマンド] の設定

ここでは、**[ファイル名を指定して実行の一覧]** のクリーンアップ時に削除されるコマンドを選択できます。

このテンプレートには、任意のコマンド名またはその一部を、セミコロンで区切って指定します。

例: *help; cmd; reg*

こうすると、入力した文字列またはその一部に対応するコマンド、または入力した文字列またはその一部を含むコマンドがクリーンアップされます。



ネットワーク プレースのフィルタ

ここでは、過去に認証情報(ユーザー名およびパスワード)を入力して接続したネットワーク プレース、サーバー、FTP サーバー、ネットワーク共有デバイスなどのホスト名または IP アドレスを入力できます(セミコロンで区切って入力)。ホスト名や IP アドレスを入力するときは、* および ? のワイルドカードを使用できます。

[ネットワーク プレースを表示する] をクリックすると、削除しようとしている認証情報を使用して過去にアクセスしたネットワーク プレースの一覧が表示されます。

プレビュー

スキャンが終了すると、その結果がウィザード ウィンドウの上の部分に表示されます。デフォルトでは、クリーンアップ用にすべてのシステム コンポーネントがスキャンされます。どのコンポーネントをスキャンし、どのコンポーネントをスキャン対象から除外するかをカスタマイズするには、クリーンアップのデフォルト設定を変更します。

検索結果を表示して、クリーンアップする項目の選択と残す項目の選択解除を手動で行うことができます。正しく選択できるように、どのコンポーネントにも簡単な説明が付いています。コンポーネントの名前をクリックすると、その説明がウィンドウの右側に表示されます。

コンポーネントを選択/選択解除する手順は、次のとおりです。

- システム クリーンアップ ツリーの [システム コンポーネント] 項目を展開し、クリーンアップするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。コンポーネントをクリーンアップしない場合は、そのコンポーネントのチェックボックスをオフにします。
- 必要に応じて、コンポーネントを展開し、さらに下位の内容をオンまたはオフにすることもできます。

クリーンアップするコンポーネントを指定したら、[クリーンアップ] をクリックして先に進みます。

Windows Vista と Windows 7 では、ファイルやコンピュータの検索に関する情報は保存されません。また、開いた/保存したファイルの情報をレジストリに保存する方法も異なるため、ウィザードでのこの情報の表示方法も異なります。

クリーンアップの進行状況

処理のステータス ウィンドウでは、現在の処理の状態についての情報が表示されます。

進行状況バーは、選択した処理の完了レベルを示しています。

場合によっては、処理が完了するまでに時間がかかることがあります。このような場合に **[終了後コンピュータをシャットダウンする]** チェックボックスをオンにすると、処理が完了したときに Acronis True Image Home 2011 によってコンピュータがシャットダウンされます。

6.6.4 ハードディスクの消去方法

情報をハードディスクから削除するときに、安全ではない手段(たとえば Windows での単純な削除)を使用すると、その情報は簡単にリカバリできてしまいます。特殊な機器を使用すれば、繰り返し上書きされた情報でもリカバリできます。したがって、確実なデータ消去の重要性は、これまでになく強まっています。

磁気メディア(ハードディスク ドライブなど)の**情報の確実な消去**とは、専門家が既知のあらゆるツールとリカバリ方法を使用してもデータをリカバリできないようにすることです。

このことをもう少し具体的に説明しましょう。ハードディスクに格納されるデータは、1 と 0 の 2 進数のシーケンスとなっており、このことはディスクの部分ごとに磁化を変化させるという方法で表現されます。

一般的に言って、ハードディスクに書き込まれた 1 はハードディスク コントローラによって 1 として読み取られ、0 は 0 として読み取られます。ただし、0 に 1 を上書きすると、ある条件の下ではその結果は 0.95 となり、1 を 1 に上書きすると結果は 1.05 となります。このような違いは、

コントローラにとっては無関係です。しかし、特殊な機器を使用すれば、「下に隠れている」0 と 1 のシーケンスを簡単に読み取ることができます。

このような方法で「削除された」データを読み取るのに必要なものは、専用のソフトウェアと、それほど高価ではないハードウェアだけであり、その方法としては、ハードディスクのセクタの磁化やトラックの縁に残留している磁化を分析する、あるいは最新の磁気顕微鏡を使用するなどが使用されます。

磁気メディアに書き込んだときの目に見えない効果を要約すると、「ディスクの各トラックに格納されているものは、それまでに書き込まれたすべてのレコードのイメージであるが、そのレコード(磁気層)の効果は、時間がたつにつれて次第に認識しにくくなる」となります。

情報の抹消方法の動作原理

ハードディスクから情報を物理的に完全に抹消するには、記録媒体のすべての磁気領域 1 つ 1 つに対して、特別に選ばれた論理的な 1 と 0 の並び(サンプル データ)を書き込み、磁気の状態をできるだけ多くの回数切り替えます。

一般的なハードディスクの論理データ エンコーディング方法を利用すれば、セクタに書き込まれる記号(または最小単位のデータ ビット)の並びのサンプルを選択して、**継続的かつ効果的に機密データを抹消することができます。**

国家規格で提唱された方法では、ランダムな記号をディスク セクタに対して(1 回または 3 回)記録します。これは**単純で確実性に欠ける方法**ですが、それほど重大ではない状況では効果的です。最も有効な情報抹消方法は、あらゆる種類のハードディスクに記録されたデータの、微細な特徴の詳細な分析に基づくものです。このような理由により、情報の抹消を**保証**するには、複数の工程で処理する複雑な方法が必要となります。

情報の抹消を保証する技術に関する具体的な理論は、Peter Gutmann 氏による論文で紹介されています。次の論文を参照してください。

『Secure Deletion of Data from Magnetic and Solid-State Memory』

アクロニス製品で使用できる情報消去方法

次の表では、アクロニス製品で使用できる情報抹消方法について簡単に説明しています。それぞれ、ハードディスク セクタの工程数と、各セクタにバイト単位で書き込まれる数値を表します。

情報抹消方法に関する説明

No.	アルゴリズム(書き込み方法)	工程数	記録
1.	米国国防省準拠 DoD 5220.22-M 方式	4	第 1 工程 - 各セクタの各バイトにランダムに選択した記号。第 2 工程 - 第 1 工程で書き込まれた値の補数。第 3 工程 - 再度、ランダムな記号。第 4 工程 - 書き込み結果の検証。
2.	米国海軍準拠 NAVSO P-5239-26-RLL 方式	4	第 1 工程 - 全セクタに 0x01。第 2 工程 - 0x27FFFFFF。第 3 工程 - ランダムな記号のシーケンス。第 4 工程 - 検証。
3.	米国海軍準拠 NAVSO P-5239-26-MFM 方式	4	第 1 工程 - 全セクタに 0x01。第 2 工程 - 0x7FFFFFFF。第 3 工程 - ランダムな記号のシーケンス。第 4 工程 - 検証。
4.	ドイツ VSITR 方式	7	第 1~第 6 工程 - 0x00 と 0xFF を交互に。第 7 工程 - 0xAA。つまり、順番に 0x00、0xFF、0x00、0xFF、0x00、0xFF、0xAA となる。

No.	アルゴリズム(書き込み方法)	工程数	記録
5.	ロシア GOST P50739-95 方式	1	セキュリティ レベルが 6~4 のシステムの場合、各セクタの各バイトに論理値ゼロ(数値 0x00)。 セキュリティ レベルが 3~1 のシステムの場合、各セクタの各バイトにランダムに選択された記号(数値)。
6.	グートマン(Peter Gutmann)方式	35	非常に高度な方式。この方式は、ハードディスクの情報抹消についての Peter Gutmann 氏の理論に基づいている(『Secure Deletion of Data from Magnetic and Solid-State Memory』を参照)。
7.	Bruce Schneier 方式	7	Bruce Schneier が著書『暗号技術大全 (Applied Cryptography)』で提唱している 7 回の工程で上書きする方法。1 工程目で 0xFF を、2 工程目で 0x00 を書き込み、その後、暗号的にセキュリティの高い擬似ランダムシーケンスで 5 工程の書き込みを行う。
8.	高速	1	全セクタに対して論理値ゼロ(数値 0x00)で抹消。

6.7 イメージのマウント

Acronis True Image Home 2011 には、イメージのマウント機能に加えて、イメージとファイル レベルバックアップの参照機能があります。

イメージとファイル レベル バックアップの参照では、内容の表示、選択したファイルのハードディスクへのコピーを行うことができます。Windows エクスプローラでバックアップを参照するには、対応する tib ファイルをダブルクリックします。また、ファイルを右クリックし、ショートカット メニューの **[参照]** を選択することもできます。

参照しているバックアップからファイルをコピーすると、コピーされたファイルから「圧縮」および「暗号化」属性が失われます。これらの属性を維持したい場合は、バックアップをリカバリすることをお勧めします。

イメージを仮想ドライブとしてマウントすると、物理ドライブであるかのようにアクセスすることができます。これにより、次のことが可能になります。

- 固有のドライブ文字を持つ新しいディスクがドライブ一覧に表示される
- Windows エクスプローラやその他のファイル マネージャを使用して、物理ディスクまたはパーティションに保存されているかのように、イメージの内容を参照できる
- 実在するディスクと同じように仮想ディスクを使用(ファイルやフォルダを開く、保存、コピー、移動、作成、削除)することができる 必要に応じて、読み取り専用モードでイメージをマウントすることもできます。

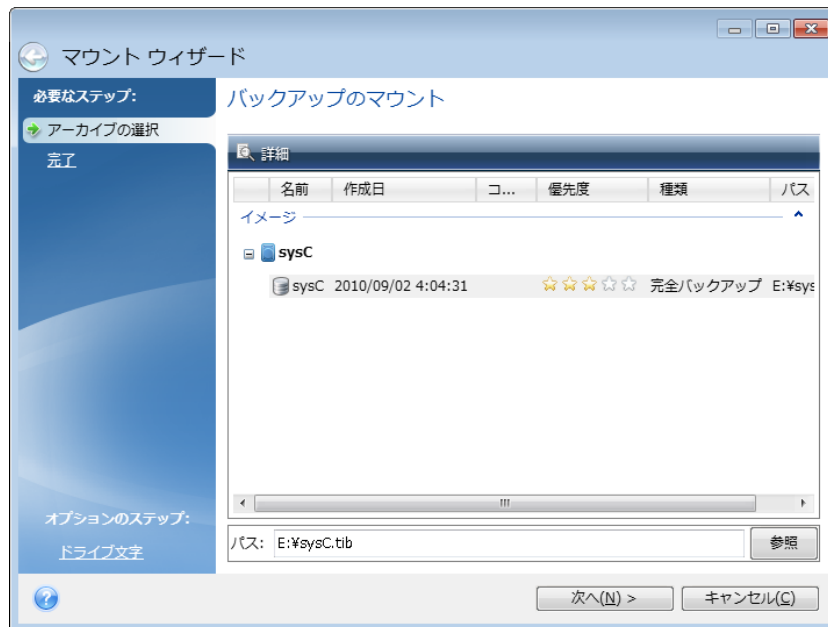
このセクションで説明した処理は、FAT および NTFS でファイル システムでのみサポートされます。

ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージには、どちらもデフォルトで「.tib」拡張子が付いていますが、マウントできるのはイメージのみであることにご注意ください。ファイル バックアップの内容を表示するには、参照処理を使用してください。

イメージのマウント方法

1. **[ツールとユーティリティ]** 画面で **[イメージのマウント]** をクリックして、マウント ウィザードを開始します。

2. マウントするバックアップを選択します。

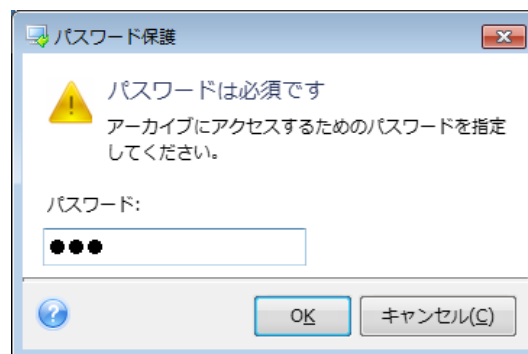


増分イメージが格納されているバックアップを選択した場合は、作成日時に基づいて、連続する増分イメージ(バックアップ バージョン)の 1 つを選択できます。これにより、特定時点のデータの状態を参照できます。

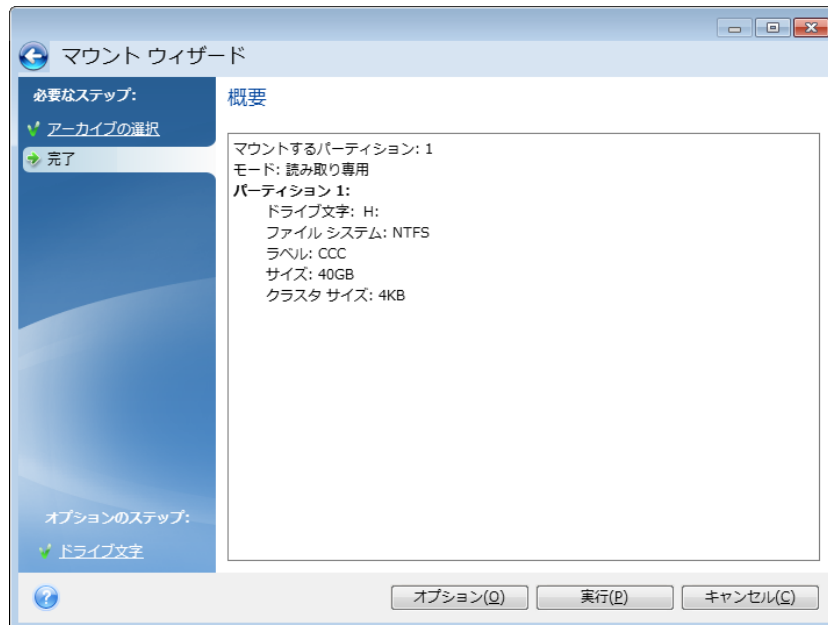
増分イメージをマウントするには、以前に作成したすべてのバックアップ バージョンと最初の完全バックアップが必要です。連続するバックアップのいずれかが欠けていると、マウントはできません。

差分イメージをマウントするには、最初の完全イメージも必要となります。

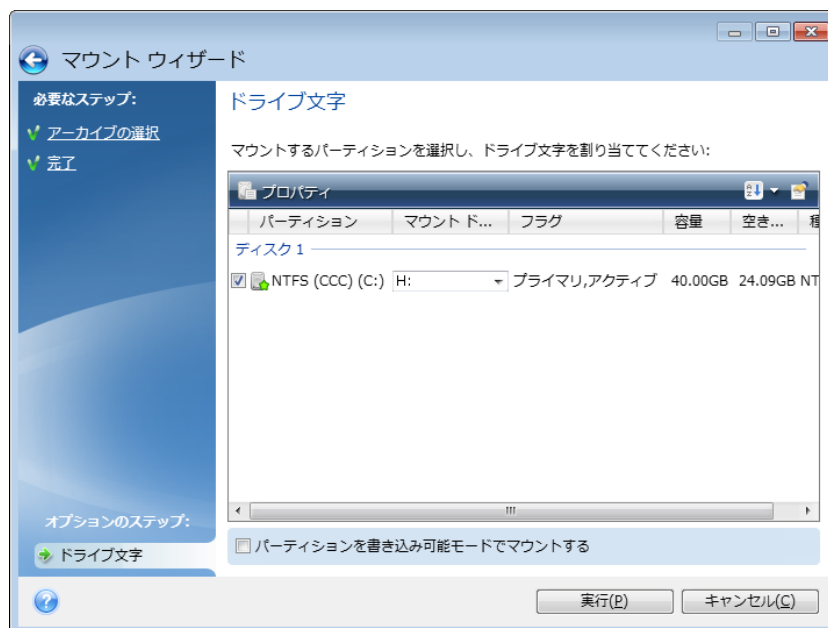
バックアップがパスワードで保護されている場合は、Acronis True Image Home 2011 によりパスワードの入力を求めるダイアログ ボックスが表示されます。正しいパスワードが入力されるまで、パーティション レイアウトは表示されず、[次へ] ボタンも有効になりません。



3. 仮想ディスクとしてマウントするパーティションを選択します。(ディスクが 1 つのパーティションで構成されている場合を除き、ディスク全体のイメージをマウントすることはできません)。イメージに複数のパーティションが含まれている場合、デフォルトでは、すべてのパーティションがマウント対象として選択され、ドライブ文字が自動で割り当てられています。マウントするパーティションに異なるドライブ文字を割り当てる場合は、[オプション] をクリックします。



仮想ディスクに割り当てるドライブ文字を、[マウント ドライブ文字] ドロップダウン リストから選択することもできます。パーティションをマウントしない場合は、ドロップダウン リストから [マウントしない] を選択するか、該当するパーティションのチェックボックスをオフにします。



4. [パーティションを書き込み可能モードでマウントする] チェックボックスをオンにした場合は、プログラムはマウントされたイメージが変更されるものとみなし、変更内容を取り込む増分バックアップ ファイルを作成します。予定される変更内容をファイルの [コメント] フィールドに記述して

おくことをお勧めします。コメントを作成できるよう、オプションの [コメント] ステップがウィザードに表示されます。

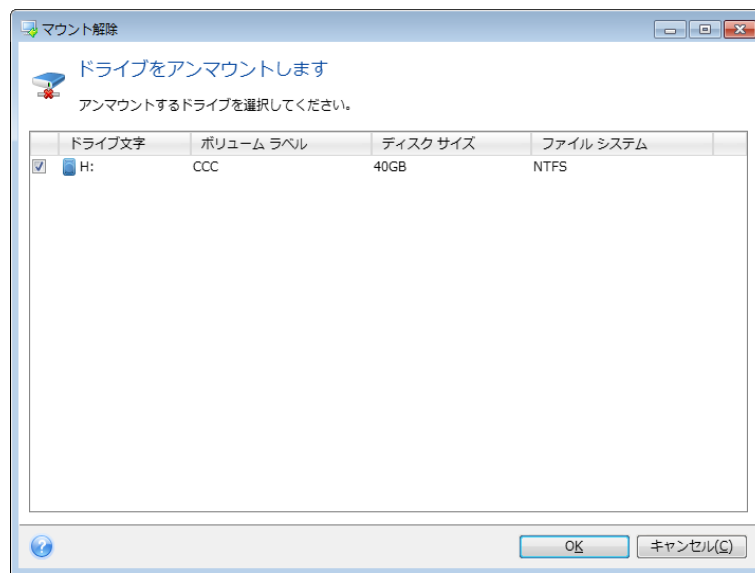
5. 設定が完了したら [実行] をクリックし、選択したパーティション イメージを仮想ディスクとして接続します。
6. イメージが接続されると、Windows エクスプローラが起動し、仮想ディスクの内容が表示されます。これで、ファイルまたはフォルダが実際のディスク上にあるかのように作業することができます。

6.8 イメージのアンマウント

仮想ディスクの維持にはかなりのシステム リソースが消費されるため、必要な操作がすべて終了したら、仮想ディスクをマウント解除することをお勧めします。ディスクのアンマウントを行わない場合、このディスクはコンピュータの電源をオフにすると消滅します。

仮想ディスクの接続を切断するには、[ツールとユーティリティ] 画面で [イメージのアンマウント] をクリックし、アンマウントするディスクを選択してから [OK] をクリックします。

複数のパーティションがマウントされている場合は、デフォルトですべてのパーティションがアンマウントの対象に選択されます。マウントされているドライブの接続をすべて切断することも、マウントしておく必要がなくなったドライブだけ切断することもできます。



Windows エクスプローラでディスク アイコンを右クリックし、[アンマウント] を選択して、この操作を行うこともできます。

6.9 vhd ファイルの使用方法

セクションの内容

tib イメージと vhd 仮想ディスクの相互変換	192
Windows バックアップにより作成された vhd ファイルを使用したリカバリ.....	194
Windows 7 システム パーティションの TIB イメージからコンピュータを起動する.....	195
Acronis ブート シーケンス マネージャ	196

6.9.1 tib イメージと vhd 仮想ディスクの相互変換

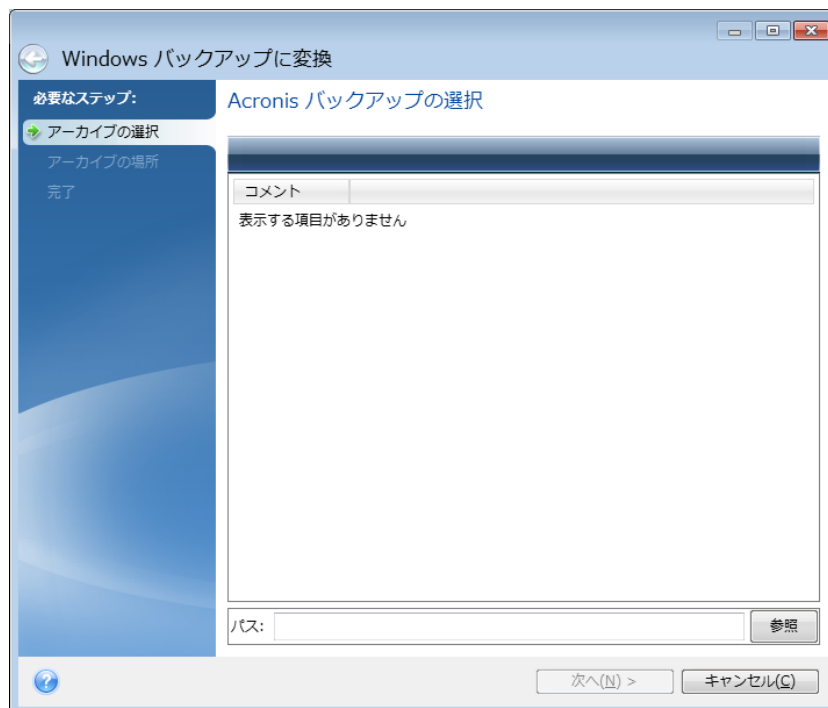
レスキュー メディアからの起動時に開始されるスタンドアロン バージョンの Acronis True Image Home 2011 では、変換処理はサポートされていません。

Acronis バックアップの変換

Windows 7 の Enterprise エディションまたは Ultimate エディションを使用している場合は、システム パーティションの TIB イメージを VHD 形式に変換しておく、変換後の VHD ファイルを使用してオペレーティング システムを起動できるようになります。また、Acronis True Image Home 2011 を使用しなくてもイメージをマウントできるようになります。

アクロニスのディスク イメージ(TIB ファイル)を VHD 仮想ディスクに変換する手順は、次のとおりです。

1. [ツールとユーティリティ] 画面で [Acronis バックアップを Windows バックアップに変換する] をクリックします。



2. 変換するディスク イメージを選択します。
バックアップがパスワードで保護されている場合は、パスワードを入力する必要があります。作成された VHD ファイルはパスワードで保護されないことに注意してください。
増分バックアップを変換するには、それ以前のすべての増分バックアップと、元の完全バックアップが必要です。差分バックアップを変換するには、元の完全バックアップが必要です。変換の結果は必ず、完全バックアップになります。
3. 作成するファイルのパスを指定します。
変換後のファイルはデフォルトの場所に保存されますが、別の場所を選択するには [参照] をクリックしてください。ファイルを作成する場所は、Acronis True Image Home 2011 によってサポートされるローカル ストレージであればどれでもかまいません (Acronis セキュア ゾーンと CD/DVD を除く)。さらに、SMB 共有に格納することもできます。
4. 概要ウィンドウの [実行] をクリックします。

変換対象として選択した TIB イメージに含まれるパーティションが、たとえば 2 つの物理ハードディスクドライブからのものである場合は、物理ドライブに合わせて 2 つの VHD ファイルが作成されます。

TIB ファイルに含まれるイメージが、スパンまたはストライプのダイナミック ボリュームの場合は、TIB ファイルを変換することはできません。

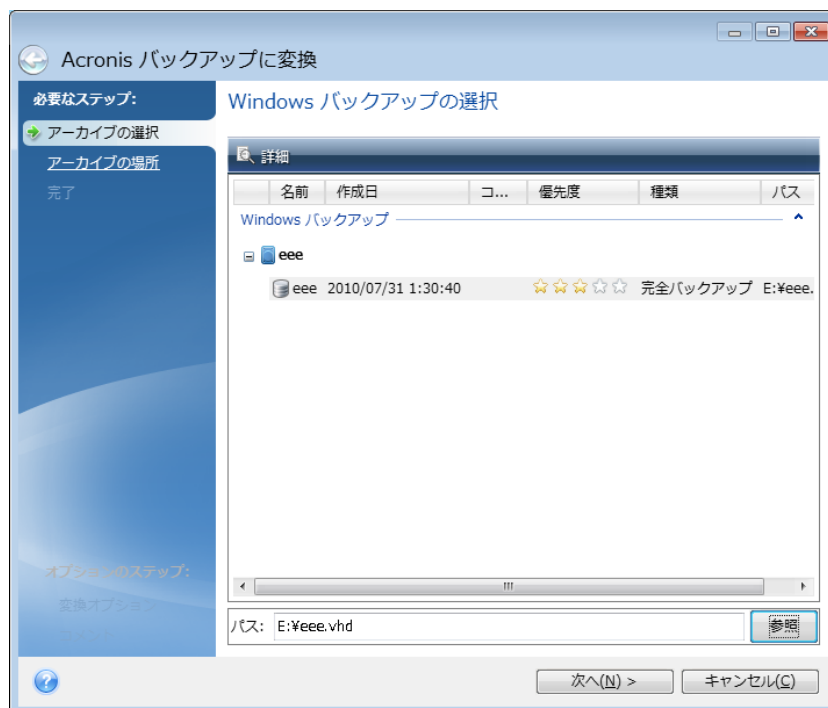
Windows バックアップの変換

Windows Vista または Windows 7 の Windows バックアップで作成された VHD ファイルを、Acronis バックアップに変換することができます。この処理は、たとえば、以前作成した Windows バックアップのファイルを残しておきたいけれども、保存のための領域を節約したい場合などに必要になります。変換後の TIB ファイルは圧縮されるため、対応する VHD ファイルよりもサイズが小さくなります。

Windows バックアップによって VHD ファイルが保存されるフォルダ（デフォルトのフォルダ名は「WindowsImageBackup」）から、VHD ファイルを移動しないでください。移動すると、変換済み TIB ファイルからシステム パーティションをリカバリした後で、オペレーティング システムが起動不能になる可能性があります。

仮想から物理に変換する手順は、次のとおりです。

1. [ツールとユーティリティ] 画面で [Windows バックアップを Acronis バックアップに変換する] をクリックします。



2. 変換する VHD ファイルを選択します。
3. 作成する TIB ファイルのパスを指定します。

デフォルトでは、変換後のファイルは変換前のファイルと同じ場所に作成されます。別の場所を選択するには [参照] をクリックします。ファイルを作成する場所は、Acronis True Image Home 2011 によってサポートされるストレージであればどれもかまいません (Acronis セキュア ゾーンを除く)。

4. 次の手順では、作成する TIB バックアップのオプションを設定します。パスワードと暗号化でバックアップを保護するかどうかの指定、圧縮レベルの選択、およびバックアップの分割(たとえば、後で DVD に書き込む場合)が可能です。
5. 必要に応じて、バックアップにコメントを追加します。
6. 概要ウィンドウの **[実行]** をクリックします。

VHD ファイルに複数のダイナミック ボリュームが含まれており、それぞれが別のディスク ドライブに存在していた場合は(複数のディスク ドライブへのストライプまたはスパン)、VHD ファイルを変換することはできません。

6.9.2 Windows バックアップにより作成された vhd ファイルを使用したリカバリ

システムのハード ドライブをバックアップするために、Windows Vista および Windows 7 に組み込まれている Windows バックアップ ユーティリティを使用した場合、vhd ファイルが作成される場合があります。

Windows Vista または Windows 7 のバックアップ ユーティリティを使用した後に、Acronis True Image Home 2011 を購入した場合、Acronis True Image Home 2011 を使用して、それらのバックアップ ユーティリティの vhd ファイルからシステムのハード ドライブをリカバリできます。

vhd バックアップ ファイルを使用してシステムをリカバリする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. BIOS で起動順序を設定して、レスキュー メディア デバイス(CD、DVD、または USB スティック)を最初のブート デバイスにします。「BIOS での起動順の並び替え (100 ページ)」を参照してください。
2. レスキュー メディアから起動して、[Acronis True Image Home 2011 (完全版)]を選択します。
3. Acronis True Image Home 2011 の起動後、[ようこそ] 画面で **[リカバリする]** の下にある **[マイディスク]** リンクをクリックします。
4. リカバリに使用する vhd バックアップ ファイルを作成日に基づいて選択します。必要な vhd ファイルが表示されていない場合は、**[参照]** をクリックして [ファイルの種類] フィールドで Windows バックアップ アーカイブ(*.vhd)を選択してリカバリするバックアップを検索します。

必要な vhd バックアップが画面に表示されている場合でも、バックアップの選択後に Acronis True Image Home 2011 が「Acronis True Image Home 2011 は "Backup_Name" アーカイブのボリューム 1 を検出できません」というメッセージを表示する場合があります。Backup_Name は、選択したバックアップの名前です。これは、スタンドアロン版の Acronis True Image Home 2011 におけるドライブ文字が Windows におけるドライブ文字と異なるためであり、メタデータ情報に保存されているこのバックアップへのパスは間違った場所を示します。この場合、**[参照]** をクリックして [ファイルの種類] フィールドで Windows バックアップ アーカイブ(*.vhd)を選択してリカバリするバックアップを検索します。

5. 次の手順で **[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択し(選択されていない場合)、**[次へ]** をクリックします。
6. **[リカバリ元]** でシステム パーティションを選択します。通常、MBR をリカバリする必要はありません。
7. その後、選択したシステム パーティションの場所、種類(プライマリ、アクティブ)、およびサイズの設定を指定します。パーティションを元の場所にリカバリする場合は、設定を変更する必要はありません。
8. リカバリ処理の概要を確認して **[実行]** をクリックします。

Windows での作業を継続しながら vhd ファイルからパーティションとディスクをリカバリすることもできます。これは、データ パーティションとディスクのリカバリ時に適しています。

6.9.3 Windows 7 システム パーティションの TIB イメージからコンピュータを起動する

既に説明したとおり、Windows 7 の Enterprise エディションおよび Ultimate エディションでは、Windows 7 システム パーティションの TIB イメージからシステムを起動することができます。その結果、バックアップしたシステムが起動可能かどうかを、実際にリカバリしなくてもテストすることができます。起動できるのは、Windows の動作中に Acronis True Image Home 2011 を実行している場合のみです。

Windows 7 Enterprise または Ultimate を使用していて、作成済みの Windows 7 システム パーティション バックアップからリカバリされたオペレーティング システムが起動可能かどうかをテストするには、次の手順に従います。

1. [ツールとユーティリティ] 画面の [ブート シーケンス マネージャ] をクリックして、Acronis ブート シーケンス マネージャを開きます。
2. Acronis ブート シーケンス マネージャのツールバーの [追加] をクリックし、テストする TIB ファイルを選択して [OK] をクリックします。
3. 実際のシステム起動は VHD から行われるので、選択された TIB ファイルの変換が必要です。そのためのダイアログが表示されます。
4. [OK] をクリックすると、変換後ファイルはデフォルトの場所に同じ名前で保存されますが、別の場所を指定することもできます。別の場所に保存する場合は、VHD ファイルの名前を変更することができます。

選択した場所に、変換後ファイルを保存するのに十分な空き領域がない場合は、そのことを通知するメッセージが表示されます。不要なファイルを削除して [再試行] をクリックするか、変換をキャンセルして変換後ファイルの場所を選択しなおしてください。

5. 変換処理が終了すると、この VHD ファイル名の行が Acronis ブート シーケンス マネージャに追加されます。

VHD を使用してシステムを起動するには、変換後の VHD ファイルが存在するパーティションに十分な空き領域があることが必要です。TIB ファイルは動的 VHD に変換されますが、その最大サイズは、TIB ファイルにバックアップされたパーティションのサイズに等しくなります。動的 vhd ファイルから起動すると、VHD は自動的に最大サイズにまで展開されます。vhd ファイルの物理ホスト パーティションに、ダイナミック VHD の最大サイズに対応した十分なディスク空き領域がない場合、起動処理は失敗します。さらに、ページング ファイル (Pagefile.sys) 用の追加領域も必要です。ページング ファイルは仮想パーティション以外のホスト パーティション上に作成されるからです。Microsoft では、vhd ファイルの最大サイズに加えて約 5 GB の空き領域が必要になると見積もるように推奨しています。つまり、必要な空き領域はシステム パーティションのサイズに 5 GB を足した大きさになります。以上のことから、vhd ファイルがシステム パーティション上にある場合には、vhd ファイルから起動することはできません。

6. コンピュータを再起動し、作成された VHD ファイルを Acronis ブート シーケンス マネージャの一覧から選択して [OK] をクリックします。Windows が通常どおり起動した場合は、将来そのバックアップからリカバリしたときに Windows 7 オペレーティング システムが起動可能になる確率はかなり高いといえます。
7. TIB イメージが起動可能であることを確認した後は、Acronis ブート シーケンス マネージャの一覧から削除してもかまいません。削除するには、その項目を選択してツールバーの [削除] をクリックします。削除してもよいかどうかをたずねる画面が表示されます。また、起動に使用

した VHD ファイルも削除してかまいません。削除する場合は、Windows エクスプローラで削除してください。

6.9.4 Acronis ブート シーケンス マネージャ

Acronis ブート シーケンス マネージャでは、Windows 7 システム パーティションのイメージをブート リストに追加して、このリストを管理することができます。

このリストには、VHD と TIB のどちらの形式のバックアップ イメージも追加できます。TIB イメージを追加するには、VHD 形式に変換する必要があります。TIB イメージからの起動の詳細については、前の項を参照してください。

実際の起動は、Windows ブート ローダを使用して実行されます。Acronis ブート シーケンス マネージャの機能は、Windows ブート ローダが保持している、Windows 7 の起動時に選択可能なディスクのリストに仮想ディスク(VHD ファイル)を追加することだけです。

どの VHD から起動するかをユーザーが選択しなかった場合は、[ブート タイムアウト] フィールドで指定した時間の経過後に、デフォルトではブート リストの最初のエントリからコンピュータが起動されます。デフォルトの起動ディスク(物理か仮想かを問わず)を変更するには、ツールバーのボタンを使用して、リストのエントリを上または下に移動します。

[名前の変更] ボタンをクリックすると、リストのエントリに任意の名前を指定することができます。

リスト内のエントリが不要になった場合に削除するには、ツールバーの **[削除]** をクリックします。

[すべて削除] ボタンを使用すると、仮想ディスクに関連するすべての項目を削除して元のブート構成を復元することができます。

6.10 バックアップ設定のインポートとエクスポート

Acronis True Image Home 2011 を使用して、バックアップ設定をインポートおよびエクスポートすることができます。この機能は、新しいコンピュータに Acronis True Image Home 2011 をインストールした後に、設定を転送する必要がある場合に便利です。また、設定を保存することで、次のバージョンの Acronis True Image Home 2011 へのアップグレードも簡単に行えるようになります。

設定を転送することにより、新しいコンピュータでのバックアップの設定が大幅に簡単になります。設定をエクスポートして、それを別のコンピュータにインポートするだけです。設定は、スクリプト ファイルの形式でエクスポートされます。

設定の内容は、バックアップの種類に応じて異なります。「クラシック」ディスクのバックアップとファイルのバックアップの場合、設定は次の項目で構成されます。

- バックアップの項目一覧
- バックアップ オプション
- バックアップの保存先
- スケジュール
- バックアップ スキーム
- 自動クリーンアップのルール
- バックアップ バージョンの命名規則

ノンストップ バックアップの設定は次のとおりです。

- ノンストップ プロテクションの項目一覧
- ノンストップ バックアップ データの保存場所(保存場所が複数存在する場合は、保存場所の一覧)

既存のバックアップの設定をエクスポートするには、メニュー バーの [ツールとユーティリティ] をクリックし、[バックアップ設定をエクスポートする] をクリックして、設定が含まれたスクリプト ファイルの保存場所を指定します。

設定をインポートするには、インポート先のコンピュータで Acronis True Image Home 2011 を起動して、メニュー バーの [ツールとユーティリティ] をクリックし、[バックアップ設定をインポートする] をクリックして、設定が含まれたスクリプト ファイルのパスを指定します。

設定をインポートした後に、新しい環境に合わせて一部の設定を変更しなければならないことがあります。たとえば、バックアップの項目一覧やバックアップの保存先などを変更しなければならないなどです。

別のコンピュータにバックアップをコピーする場合は、それらのバックアップの設定もエクスポートすることをお勧めします。これにより、コピーしたバックアップの機能を維持することができます。

7 トラブルシューティング

セクションの内容

一般的な推奨事項	198
Acronis システム レポート	199
Acronis スマート エラー レポート	199
カスタム レスキュー CD の作成	201
ログの表示	202
Acronis カスタム エクスペリエンス プログラム	203

7.1 一般的な推奨事項

以降の内容は、Acronis True Image Home 2011 のインストールおよび使用中に発生した問題のトラブルシューティングに役立ちます。

問題の原因は単純なことである場合がよくあります。たとえば、外付けハードディスクの接続の緩みなどです。この章で説明している他の解決策を試す前に、問題が次のいずれかの原因により発生していないかどうかを確認してください。

- 外付けドライブへの接続の緩み
- 低品質な接続ケーブル

外付け USB ハード ドライブを使用している場合は、次の点についても確認してください。

- ハブを経由してドライブに接続している場合は、PC の背面のコネクタに直接接続する
- PC に接続されている他の USB デバイスとの競合を避けるために、すべての USB デバイスの接続を外す(マウスとキーボードを除く)

アクロニス サポート ナレッジ ベース(KB)で、問題の解決策を検索することができます。サポート KB にアクセスするには、<http://kb.acronis.com/> をクリックしてください。アクセスしたら、検索機能を使用します。問題に関連するキー ワードを適切なフィールドに入力し、[検索] をクリックします。特定の問題に関して推奨される解決策が見つかる場合があります。アクロニスのサポートセンターは随時新しい資料を KB に追加しています。問題の解決策が KB で見つからなかったり、推奨された解決策が役に立たなかったりした場合は、アクロニス サポート センター (<http://www.acronis.co.jp/support/>) までお気軽にお問い合わせください。

緊急の、または一刻を争う問題に関してアクロニスのサポート担当者にお問い合わせを行う場合、チャット サービスを利用することをお勧めします。チャット サービスにアクセスするには、次の URL にアクセスして、一連のウィザードを使用してください。

<http://www.acronis.co.jp/support/> --> [お問い合わせ] --> [ウィザードの開始]

問題が Acronis True Image Home 2011 の使用中に発生したエラーである場合、エラー メッセージ ボックスの中に、[ナレッジ ベース] ボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、エラーの原因となった問題の解決策を提案するサポート KB の記事が表示されます。エラー メッセージ ボックスには、アクロニスのサポート KB へのリンクも表示されます。このリンクは、KB で適切な記事が見つからなかった場合に便利です。リンクをクリックすると、ウェブ フォームが表示されるので、エラー ボックスのイベント コードを入力し、KB 全体で解決策を検索できます。詳細については、「Acronis スマート エラー レポート (199 ページ)」を参照してください。

システム レポート

アクロニスのサポート担当者は、お客様にシステム レポートの提供を求めることがあります。レポートを作成するには、[ヘルプ] メニューで [システム レポートの生成] を選択してから、レポートを保存し、アクロニス サポート センター に送信します。詳細については、「Acronis システム レポート (199 ページ)」を参照してください。

7.2 Acronis システム レポート

アクロニス サポート センターへのお問い合わせの際には、通常、問題を解決するためにご使用のシステムに関する情報が必要になります。この情報を取得する処理は、簡単に実行できない場合や時間がかかる場合があります。システム レポートの生成ツールを利用すれば、この手順を簡素化できます。ツールを使うと必要なすべての技術情報を含むシステム レポートが生成されます。この情報をファイルに保存し、必要に応じて、作成したファイルを問題の報告に添付してアクロニス サポート センターに送信することができます。このようにツールを使えば、問題解決の手順を簡素化し、解決に要する時間を短縮することができます。

システム レポートを生成するには、次のいずれかの操作を行います。

- メイン プログラム ウィンドウで [ヘルプ] をクリックして [システム レポートの生成] を選択します。
- **Ctrl+F7** キーを押します。このキーの組み合わせは、Acronis True Image Home 2011 が他の処理を実行中であっても、使用できます。

レポート生成後に、次の操作を行います。

- 生成されたシステム レポートをファイルに保存するには、[保存] をクリックし、表示されたウィンドウで、作成されるファイルを保存する場所を指定します。
- レポートをファイルに保存して、アクロニス サポート センターに電子メールで送信するには、[保存して送信] をクリックします。
- レポートを保存せずにメイン プログラム ウィンドウを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

コンピュータが起動しないときにシステム レポートを生成するための個別のコンポーネントとして、このツールをブータブル レスキュー メディアに含めることができます。そのメディアから起動すると、Acronis True Image Home 2011 を実行しなくてもシステム レポートを生成できます。この場合、[Acronis システム レポート] アイコンをクリックする前に、USB フラッシュ ドライブを接続する必要があります。生成されたレポートは USB フラッシュ ドライブに保存されます。

Acronis システム レポート ツールをブータブル レスキュー メディアに含める手順は、次のとおりです。

- Acronis メディア ビルダ ウィザードの [レスキュー メディアに追加するコンポーネントの選択] ページで、[Acronis システム レポート] チェックボックスをオンにします。
- 続行するには、[次へ] をクリックしてください。

7.3 Acronis スマート エラー レポート

ユーザーがトラブルシューティングを行えるように、アクロニス製品の新しいリリースでは、Acronis スマート エラー レポート機能が採用されています。プログラム処理に関するエラーの問題が発生すると、Acronis True Image Home 2011 では、対応するエラー メッセージが表示されます。このエ

エラー メッセージには、イベント コードと、エラーの簡単な説明(場合によっては、考えられる解決方法)が含まれています。たとえば、次のようなメッセージです。

「Check the disk and file system for errors and try to repeat the operation

Event Code: 0x000101F6」(ディスクとファイル システムのエラーを確認し、操作を繰り返してください。イベント コード: 0x000101F6)

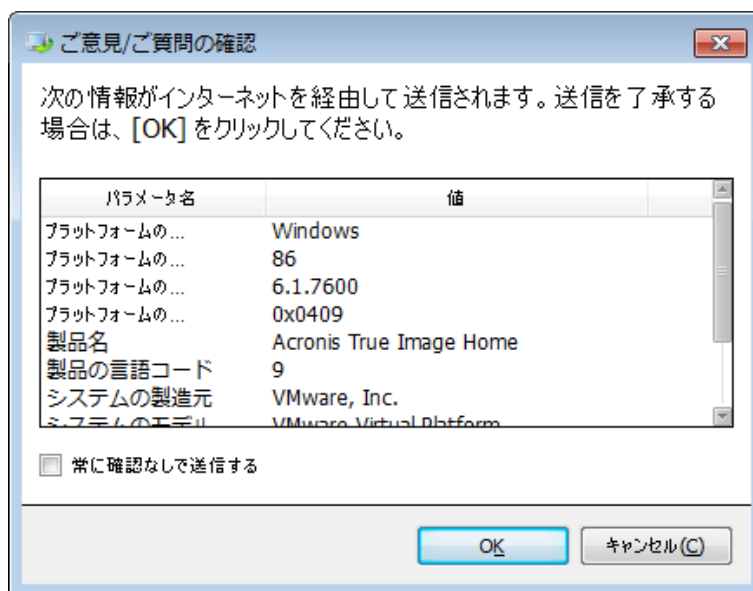
エラー メッセージには、エラーが発生したプログラム モジュールと、そのモジュールのエラー メッセージも含まれている場合があります。

エラーに関する詳細を表示するには、メッセージ ボックスで **[詳細]** リンクをクリックします。詳細の表示は次のスクリーンショットのようになります。



エラーを修正するための解決策が掲載されているアクロニス ナレッジ ベースを表示するには、**[ナレッジ ベース]** ボタンをクリックします。

確認ウィンドウが開きます。このウィンドウには、インターネットを介してアクロニスのナレッジ ベースに送信される情報が一覧表示されます。**[OK]** をクリックして、情報の送信を許可します。



以降は確認なしで情報を送信したい場合、**[常に確認なしで送信する]** チェックボックスをオンにします。

エラー メッセージが表示されたときにインターネットにアクセスできなかった場合(たとえば、レスキュー メディアから起動した場合などに起こる可能性があります)、イベント コードをメモしておいてください。インターネット接続が確立された際や、インターネット接続が可能な別のコンピュータを使

用できる場合には、次の URL から、アクロニスのウェブサイトにあるエラー レポート フォームにアクセスしてください。<http://kb.acronis.com/errorcode/>

使用しているアクロニス製品のバージョンを選択し、手動でイベント コードを適切なフィールドに入力します。次に、[検索] ボタンをクリックして、発生した問題の解決策が示されている可能性がある記事を探します。

場合によっては、下位レベルのプログラム モジュールで発生したエラーが上位レベルのモジュールに影響した結果、生じているエラーもあります。これはいわゆる複合エラーです。この場合、上位レベルのすべてのモジュールで、独自のエラー(イベント)コードが生成されます。たとえば、次のようなエラー メッセージが生成されます。

「Try & Decide を開始できませんでした。

このエラーの詳細と適切な解決策が、オンラインの アクロニス ナレッジ ベースに掲載されている場合があります。

オンライン リソースに手動でアクセスするには、<http://kb.acronis.com/errorcode/> でイベントコードを入力してください。

イベント コード: 0x00970007+0x00970016+0x00970002」

異なるモジュールのイベント コードは、「+」記号で結合されています。各モジュールのイベント コードを手動で適切なフィールドに入力してナレッジ ベースで検索する場合、「+」の前後にスペースを入れずにイベント コードの組み合わせを入力してください。

入力したイベント コードがナレッジ ベースで認識されない場合は、ナレッジ ベースには、その問題の解決策を含む記事が掲載されていません。そのようなときは、アクロニス サポート センター でトラブル チケットをオープンしてください。

7.4 カスタム レスキュー CD の作成

リカバリ環境で一部のハードディスク ドライブやネットワーク アダプタが検出されない場合、通常はドライバに問題があります。アクロニスのレスキュー CD には、市販されているすべてのハードウェアのドライバが収録されているわけではありません。このため、使用しているハードウェア ドライブのいくつかが標準的なレスキュー CD に含まれていない場合は、カスタム レスキュー メディアを作成する必要があります。

アクロニス製品で使用される Linux ベースのリカバリ環境では、新しいドライバを追加できません。このため、必要なすべてのドライバを含むカスタム レスキュー CD を作成するには、アクロニスのカスタマー サービス部門に依頼する必要があります。

依頼する前に、システムに関する情報を収集します。[ヘルプ] メニューで **[システム レポートの生成]** を選択します。Acronis True Image Home 2011 によって必要な情報が自動的に収集され、収集された内容のリストがレポートに表示されます。レポートの作成プロセスでは、必要な情報の収集に使用される一部のコンポーネントがプログラムによってインストールされることがあります。レポートの作成が完了したら、**[名前を付けて保存]** をクリックし、希望するフォルダを選択するか、またはデフォルトの **[マイ ドキュメント]** フォルダに保存します。レポートは ZIP ファイルにアーカイブされます。このファイルをアクロニスのカスタマー サービス部門に送信します。カスタマー サービス部門は、コンピュータのハードウェアと互換性があるカスタム レスキュー メディアの ISO イメージを作成し、ISO ファイルをお客様に送信します。Nero など、ISO ファイルを処理できるプログラ

ムを使用して、このファイルを CD や DVD に書き込みます。また、このレポートは問題の解決をアクロニスのカスタマー サービス部門に問い合わせるときにも役立つことがあります。

カスタム レスキュー CD を作成したら、ハードディスク ドライブやネットワーク アダプタがリカバリ環境で検出されるかどうかをテストします。

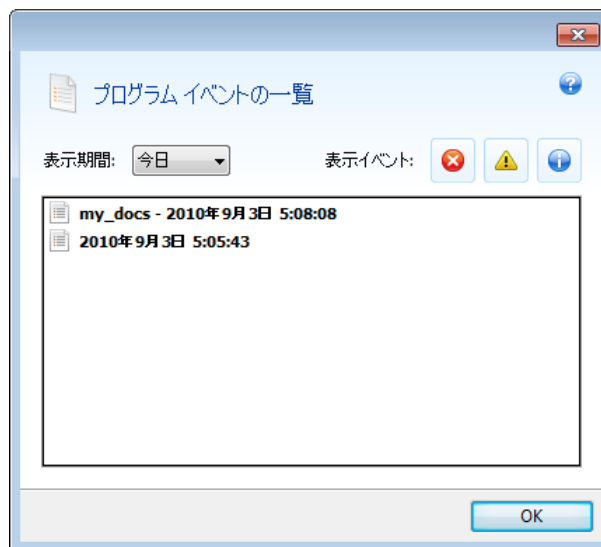
7.5 ログの表示

ログには、たとえばスケジュールされたバックアップの結果(失敗した場合はその理由も含む)についての情報が表示されます。

Acronis True Image Home 2011 のほとんどの処理では独自のエントリがログに記述されますが、Try&Decide の処理、イメージのマウント/アンマウント、Acronis スタートアップ リカバリ マネージャのアクティブ化/無効化、およびブータブル メディアの作成ではログは提供されません。

また、Acronis ノンストップ バックアップの処理については一部の情報のみがログに含まれます。この機能の処理についてのその他の情報は、独自のログに記述されます。このログはアクロニスのサポート スタッフが、この機能の問題をトラブルシューティングするのに役立てることを目的としているため、ユーザーは使用できません。ログは、Acronis システム レポートに含まれています。

Acronis True Image Home 2011 処理のログを表示する場合、メイン ウィンドウの右上にある [ヘルプ] → [ログの表示] をクリックします。



特定の期間のログを表示するには、ドロップダウン リストからその期間を選択します。選択できるのは、[今日]、[週]、および [月] です。すべてのログを表示するには、[すべて] を選択します。

ログ エントリを削除するには、そのログ エントリを選択し、右クリックして、ショートカット メニューで [削除] を選択します。すべてのログ エントリを削除するには、[すべて削除] を削除します。また、[保存] を選択してログ エントリをファイルに保存することもできます。すべてのログをファイルに保存するには、[すべて保存] を選択します。

右側の 3 つのボタンはイベントのフィルタ処理を制御します。赤い円内に白い「x」のマークはエラー イベント、黄色の三角に感嘆符のマークは警告、青い丸に「i」のマークは情報メッセージ イベントをそれぞれフィルタします。

7.6 Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム

Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP) は、アクロニスのお客様が アクロニス製品の機能、設計、および開発に貢献できる新しい手段です。このプログラムにより、お客様は、ホストコンピュータや仮想マシンのハードウェア構成、使用頻度が最も多い(および少ない)機能、発生する問題の性質に関する情報など、さまざまな情報を提供できます。この情報を利用することで、アクロニス製品およびお客様が最もよく使用する機能を改善できます。

このプログラムへの参加を選択された場合、技術的な情報が 90 日ごとに自動的に収集されます。氏名、住所、電話番号、キーボード入力などの個人データは収集されません。 CEP への参加は任意ですが、お客様のニーズをいっそう満たすために、ソフトウェアの改善と拡張された機能を提供することを最終的な目的としています。

プログラムへの参加はいつでもやめることができます。

参加の条件については、[\[詳細\]](#) をクリックしてください。

いずれかを選択してください。

- プログラムに参加する場合は、[\[プログラムに参加する\]](#) を選択してください。
プログラムに参加しない場合は、[\[参加しない\]](#) を選択してください。

8 用語集

A

Acronis Secure Zone

セキュリティで保護されている、ハードディスク上のバックアップ保存用のパーティションです。利点:

- 同じディスクに保存したバックアップからディスクを復元することができる。
- ソフトウェアの誤動作、ウィルス攻撃、オペレータによるエラーからデータ保護するためのコスト効率のよい便利な方法を提供する。
- データをバックアップまたは復元するための別のメディアやネットワーク接続が不要になる。

制限事項:

1) Acronis Secure Zone は、ダイナミック ディスク上または GPT パーティション スタイルを使用するディスク上に作成することはできません。

2) Acronis スタートアップ リカバリ マネージャまたは Bart PE を使用してブータブル レスキュー メディアから Acronis True Image Home を開始する場合、リカバリ環境内で Acronis Secure Zone をバックアップの場所として使用することはできません。

Acronis リカバリ マネージャ

起動時に F11 キーを押すと Acronis True Image Home のスタンドアロン バージョンを起動できる保護ツールです。Acronis リカバリ マネージャを使用すると、レスキュー メディアが不要になります。

Acronis リカバリ マネージャは、モバイル ユーザーにとって特に役に立ちます。障害や災害が発生した場合、ユーザーはコンピュータを再起動し、[Press F11 for Acronis Startup Recovery Manager...] というプロンプトに対して F11 キーを押して、通常のブータブル メ

ディアと同じ方法でデータのリカバリを実行します。

制限事項: ダイナミック ディスク上に作成することはできません。LILO や GRUB などのブート ローダの手動設定が必要です。サードパーティのローダを再起動する必要があります。

イメージ

ディスク バックアップと同じです。

オンライン バックアップ

オンライン バックアップ: Acronis オンライン バックアップを使用して作成されるバックアップです。オンライン バックアップはオンライン ストレージと呼ばれる特別なストレージに保存され、インターネット経由でアクセスできます。オンライン バックアップの主な利点は、すべてのバックアップがリモートの場所に保存されることです。これにより、ユーザーのローカルなストレージとは関係なく、すべてのバックアップ データの安全が保証されます。オンライン ストレージの使用を開始するには、サービスを申し込む必要があります。**オンライン バックアップは日本では提供されておりませんのでご了承ください。**

ディスク バックアップ(イメージ)

ディスクまたはパーティションのセクタ ベースのコピーをパッケージした形式のバックアップです。通常は、データを含むセクタのみがコピーされます。Acronis True Image Home では、すべてのディスク セクタをそのままコピーするオプションが用意されています。これにより、サポートされていないファイル システムのイメージ作成が可能になります。

ノンストップ バックアップ

ノンストップ バックアップとは実際には、Acronis ノンストップ バックアップ機能を使用して作成されたディスク/パーティションまたは

ファイル バックアップです。これは、1 つの完全バックアップと、短い間隔で作成された一連の増分バックアップのセットです。ほぼ連続したデータの保護を実現し、必要に応じて任意のリカバリ ポイントにおける以前のデータの状態にリカバリできます。ノンストップ バックアップ データは、ノンストップ バックアップ ストレージと呼ばれる特別なストレージに保存されます。

ノンストップ プロテクション

ノンストップ プロテクション - ノンストップ バックアップ機能が有効になっているときに実行される処理です。

バックアップ

8. バックアップ処理と同じです。
9. バックアップ設定を使用して作成、管理するバックアップ バージョンのセットです。バックアップには、完全バックアップと増分バックアップの両方の方法で作成された複数のバックアップ バージョンが含まれる場合があります。同じバックアップに属するバックアップ バージョンは、通常同じ場所に保存されます。

バックアップ バージョン

単一のバックアップ処理の結果。物理的には、特定の日にバックアップされたデータのコピーを含む単独または一連のファイルです。Acronis True Image Home によって作成されたバックアップ バージョン ファイルの拡張子は TIB です。バックアップ バージョンの統合による TIB ファイルもバックアップ バージョンと呼ばれます。

バックアップ バージョン チェーン

最初の完全バックアップ バージョンと、後続の 1 つまたは複数の増分または差分バックアップ バージョンから構成される、最低 2 つのバックアップ バージョンからなる一連のバックアップ バージョンです。バックアップ バージョン チェーンは、次の完全バックアップ バージョン(存在する場合)まで続きます。

バックアップ設定

新しいバックアップの作成時にユーザーが設定するルールのセットです。このルールによって、バックアップ処理を制御します。後でバックアップ設定を編集し、バックアップ処理を変更または最適化することができます。

バックアップ操作

特定の日時のデータを復元するために、コンピュータのハードディスク上に存在するデータのコピーを作成する処理。

ブータブル メディア

Acronis True Image Home のスタンドアロンバージョンを含む物理的なメディア (CD、DVD、USB フラッシュ ドライブ、またはコンピュータの BIOS によってブート デバイスとしてサポートされるその他のメディア)。

ブータブル メディアは次の状況で最も多く使用されます。

- 起動できないオペレーティング システムの復元
- 破損したシステム内に残存するデータへのアクセスとバックアップ
- ベア メタル状態のディスクへのオペレーティング システムの配置
- ベア メタル状態のディスクへのベーシック ボリュームまたはダイナミック ボリュームの作成
- サポートされていないファイル システムを使用しているディスクのセクタ単位のバックアップ

ベリファイ

特定のバックアップ バージョンからデータをリカバリできるかどうかを確認する処理です。

何をベリファイするかにより、次のようになります。

- 完全バックアップ バージョン - 完全バックアップ バージョンのみがベリファイされます。

- 差分バックアップ バージョン - 最初の完全バックアップ バージョンと選択された差分バックアップ バージョンがベリファイされます。
- 増分バックアップ バージョン - 最初の完全バックアップ バージョン、選択された増分バックアップ バージョン、および選択された増分バックアップ バージョンまでのバックアップ バージョンのチェーン全体(ある場合)がベリファイされます。このチェーンに差分バックアップ バージョンが1 つでも含まれている場合、(最初の完全バックアップ バージョンおよび選択した増分バックアップ バージョンに加えて)チェーン内の最新の差分バックアップ バージョンのみがベリファイされ、その差分バックアップ バージョンと選択した増分バックアップ バージョンの間に作成された増分バックアップ バージョンがあればそれらもすべてベリファイされます。

リカバリ

リカバリとは、壊れたデータをバックアップに保存されている以前の正常な状態に戻す処理のことです。

漢字

完全バックアップ

10. バックアップ対象として選択されたすべてのデータを保存するために使用されるバックアップ方法。
11. 完全バックアップ バージョンを作成するバックアップ処理。

完全バックアップ バージョン

バックアップ対象として選択されたすべてのデータを含む、それ自体で完結するバックアップ バージョン。完全バックアップ バージョンからデータをリカバリする場合は、他のバックアップ バージョンにアクセスする必要はありません。

差分バックアップ

12. バックアップ内で直近の完全バックアップ バージョンが作成されてから変更された

データの保存に使用されるバックアップ方法。

13. 差分バックアップ バージョンを作成するバックアップ処理。

差分バックアップ バージョン

差分バックアップ バージョンには、前回の完全バックアップ バージョンに対するデータの変更点が保存されます。差分バックアップ バージョンからデータをリカバリするには、対応する完全バックアップ バージョンにアクセスする必要があります。

増分バックアップ

14. バックアップ内で直近のバックアップ バージョン(すべての種類)が作成されてから変更されたデータを保存するために使用されるバックアップ方法。
15. 増分バックアップ バージョンを作成するバックアップ処理。

増分バックアップ バージョン

前回のバックアップ バージョンに対するデータの変更点が保存されるバックアップ バージョン。増分バックアップ バージョンからデータをリカバリするには、同じバックアップから他のバックアップ バージョンにアクセスする必要があります。

統合

同じバックアップ (205 ページ参照)に属する2 つ以上の連続したバックアップ バージョン (205 ページ参照)を結合して単一のバックアップ バージョンにします。

統合を行うと、不要なバックアップ バージョンを、任意のバックアップ チェーンから削除できます。その際、チェーンのバックアップの一貫性は維持されます。統合するチェーンは、完全バックアップ、および、1 つまたは複数の増分バックアップという構成になります。統合では、選択されたバックアップが保持され、選択されなかったバックアップは削除されます。統合処理には時間がかかり、システムリソース(ディスク領域など)が大量に必要となる場合があります。

Acronis ノンストップ バックアップでは、異なる統合メカニズムが使用されています。この場合、バックアップ データの管理用に使用されているメタデータ情報が統合されます。これは、メタデータの情報量が、バックアップ データの量よりもはるかに少ないからです。その結果、統合に必要な時間およびシステム リソースが大幅に減少します。